令　和　２　年　度　授　業　計　画

―食物栄養学科―

岡山学院大学

人間生活学部食物栄養学科の教育方針

教育理念

岡山学院大学の建学の精神「教育三綱領」は、

自律創生：道徳心を備えた実践的な行動力を修得する。

信念貫徹：目標を達成する継続的な学びと努力を実践する。

共存共栄：社会人の基礎力を修得し進んで世界の平和に貢献する。

であり、教育理念は、21世紀の我が国の少子高齢化の時代において、15歳から65歳までの生産年齢人口の縮小を抑止するために、国民一人一人の健康維持及び増進をはかり、我が国の労働生産力の向上に寄与する Society 5.0 時代の人材を本学の「人間教育」と免許・資格を取得する「技術・技能教育」をもって育成することである。そしてそのために、本学はアセスメント・ポリシーに基づく高等教育の質保証を図り、管理栄養士養成の教育目標を達成することを使命とする。

教育目標

人間生活学部食物栄養学科では、高度な専門知識や技能を修得し、QOL 向上のための栄養の指導を行う専門家を育成する。

4年間じっくり学ぶことで、栄養士免許を取得するとともに、管理栄養士の国家試験受験資格を得る。管理栄養士とは、「人」の健康の維持増進をはかるための栄養の指導に携わる専門家である。高齢化が進むこれからの社会にあってはチーム医療のスタッフとして大いに期待され、また、食品技術系の企業においても、管理栄養士に人材ニーズが高まっている。食物栄養学科では将来、こうした管理栄養士に成長できる実力を育てるために次の教育目標を掲げている。

① 生活習慣病の予防と改善に貢献する管理栄養士の養成

② 疾病の予防や治療において栄養評価・判定に基づく高度な専門知識・技能による栄養指導及び栄養管理等に携わることのできる管理栄養士の養成

③ 豊かな人間性に富み、カウンセリングや福祉・介護分野の知識を修得した管理栄養士の養成

④ 人材ニーズが高まっている食品技術系の企業で活躍する管理栄養士の育成

学生の学習成果

本学で学ぶ学生の卒業時の学習成果は、建学の精神「教育三綱領」の基、自律した信念のある社会人となることである。

Ⅰ．専門的学習成果

学科の専門学習では、Society 5.0 時代の現場に即応する管理栄養士になるため、学科の教育課程の学習をとおして、①多様な専門領域に関する基本となる専門的知識、②チーム医療の重要性を理解し、他職種や患者とのコミュニケーションを円滑に進める能力、③公衆衛生を理解し、栄養・給食関連サービスのマネジメントを行う能力、④健康の保持増進、疾病の一次、二次、三次予防のための栄養指導を行う能力を獲得する。

Ⅱ. 汎用的学習成果

また、学習支援を行う教員とのコミュニケーションをとおして、①栄養学分野の基本的な知識を体系的に理解でき、その知識体系の意味と自己の存在を現代の諸問題と関連づけて理解できる力、②職業生活や社会生活に必要な数量的スキルや情報リテラシー、③職業生活や社会生活でも必要なチームワーク、リーダーシップ、コミュニケーションの能力として自己表現力、論理的思考力、問題解決力、他者理解力、④社会人としての態度、信念、意見および責任を果たすために必要な倫理観、自己管理力を獲得する。

卒業認定・学位授与の方針

学位：学士（栄養学）

Society 5.0 時代の現場に即応できる管理栄養士になるため、基礎教養科目および管理栄養士課程の専門教育科目の単位を修得し、学則に規定する卒業に必要な単位を修得した者に学位を授与する。

卒業を認める卒業生の学習成果は次のとおりである。

1. 学位授与に必要な単位を修得している。
2. 卒業後社会人として求められるコミュニケーション能力、態度（心構え）や職業に対する知識、理解、価値、意見を獲得している。

教育課程編成・実施の方針

コアカリキュラムとサブカリキュラムを編成実施する。

管理栄養士課程として、栄養士の免許および管理栄養士の国家試験受験資格を得るための科目をコアカリキュラムに編成する。

また、同時に「食品衛生資格履修コース」をコアカリキュラムの中に科目指定する。

特に授業においては、科目の専門的学習成果のみではなく汎用的学習成果も獲得できるように実施する。

更に、希望者に対して、栄養教諭一種免許状、フードスペシャリスト資格認定証、図書館司書、社会教育主事任用資格などが取得できるサブカリキュラムも編成し、実施する。

また、汎用的学習成果の獲得を支援する基礎教養科目も編成し、実施する。

履修にあたって

シラバスは学生の皆さんに対して、各授業科目の担当教員がその科目の教育目標、授業内容のアウトラインなどの情報を明記したものです。よく読んで、各授業の進行状況の把握、予習や自分の学習成果を測るなど、有効に活用して下さい。

◆　履修にあたって

必 修 科 目……各学科の教育目標を達成する為に必ず履修しなければなりません。1科目でも不認定になると卒業できませんので、授業の教育目標と学生の学習成果・教育方法・学習評価の方法をよく読んで、授業のアウトラインをつかんで履修して下さい。

選択必修科目……一定の授業科目群のなかから自分で履修する授業科目を選択することができますが、その授業科目群に定められた必修単位数は必ず修得しなければなりません。

選 択 科 目……自分の目的にあわせて選択履修することができます。授業の内容をみて興味のある授業科目や、自分の希望する職業また取得したい資格に必要な知識、技術と照らし合わせながら選択して下さい。

本　書　の　見　方

カリキュラム表及び担当教員掲載頁一覧								
注1)　学部共通基礎教養科目								
科目群	授業科目	必修	選択	計	担当教員名	職名	掲載頁	備考
		注2)	注3)		注4)	注5)	注4)	

注1)　学部共通基礎教養科目は全学科共通です。具体的に自分の所属学科・学年でどの授業科目がいつ開講されているかは「学生便覧」４．授業科目時間配当表を参照して下さい。

注2)　単位数が記載される科目は必修科目です。１単位でも落とすと卒業できません。又、2 つ以上の授業科目にわたって単位数が記載されている場合は、選択必修科目でその科目群（区分）の選択科目のなかから、定められた必修単位数を修得しなければなりません。

注3)　注 2）に単位数の記載がない授業科目で、ここに単位数が記載されている科目は選択科目です。各資格取得に必要な科目もありますので、詳しくは「学生便覧」を参照して下さい。

注4)　各授業科目の担当教員とその授業科目のシラバス掲載頁を明記しています。一つの授業科目を複数の教員が担当している場合もありますので、必ず時間割で自分のクラスの担当教員名を確認して下さい。

注5)　非常勤の先生は職名の後に(兼)と記載してあります。

カリキュラム表及び担当教員掲載頁一覧(1)

基礎教養科目

科目群	授業科目	必修	選択	計	担当教員	職名	掲載頁	備考
人間基礎科目群	人間の発達	8	2	2	影山世都子	講師(兼)	Ⅰ－ 1	
	日本国憲法		2	2	近 勝彦	教授(兼)	Ⅰ－ 5	
	生涯学習概論		2	2	福野裕美	准教授	Ⅰ－ 8	
	正しい日本語		2	2	浦上博文	教授(兼)	Ⅰ－ 11	
	近代日本文学		2	2	浦上博文	教授(兼)	Ⅰ－ 14	
	基礎数学Ⅰ		2	2	竹原良記	教授	Ⅰ－ 17	
	基礎数学Ⅱ		2	2	竹原良記	教授	Ⅰ－ 20	
	基礎化学		2	2	宮﨑正博	教授	Ⅰ－ 23	
	基礎生物学		2	2	清水憲二	教授	Ⅰ－ 26	
	小計	8	18	18				
人間生活科目群	情報リテラシーⅠ	8	2	2	原田博史	教授	Ⅰ－ 29	
	情報リテラシーⅡ		2	2	原田博史	教授	Ⅰ－ 35	
	教養演習Ⅰ		1	1	竹原良記 原田博史 宮﨑正博 藤坂圭子 尾崎 聡 福野裕美 中原眞由美		Ⅰ－ 38	
	教養演習Ⅱ		1	1	竹原良記 宮﨑正博 内田雅子 高槻悦子 平野 聡 次田隆志 佐藤幸枝 清水憲二 中原眞由美		Ⅰ－ 41	
	英語Ⅰ		2	2	濱田佐保子	教授(兼)	Ⅰ－ 44	
	英語Ⅱ		2	2	濱田佐保子	教授(兼)	Ⅰ－ 47	
	体育理論		1	1	吉田 升	助教(兼)	Ⅰ－ 50	
	体育実技		1	1	吉田 升	助教(兼)	Ⅰ－ 53	
	キャリアガイダンス		2	2	平野 聡 竹原良記 福野裕美		Ⅰ－ 56	
	社会との接続Ⅰ		2	2	竹原良記 高槻悦子 内田雅子		Ⅰ－ 59	
	社会との接続Ⅱ		2	2	平野 聡 佐藤幸枝 中原眞由美		Ⅰ－ 62	
	クラブ活動の活性化		2	2	全教員			未掲載
	経営・マネジメント		2	2	原田俊孝	講師(兼)	Ⅰ－ 64	
	小計	8	22	22				

人間福祉科目群	少子高齢化と諸問題	6	2	2	坂元　晶	講　師(兼)	Ｉ－ 68	
	児童福祉概論		2	2	松尾　冀	教　授(兼)	Ｉ－ 71	
	ボランティア理論		2	2	坂元　晶	講　師(兼)	Ｉ－ 74	
	ボランティア活動		2	2	坂元　晶	講　師(兼)	Ｉ－ 77	
	社会心理学		2	2	鈴木久子	教　授(兼)	Ｉ－ 80	
	臨床心理学		2	2	影山世都子	講　師(兼)	Ｉ－ 84	
	小　　計	6	12	12				
	合　　計	22	52	52				

カリキュラム表及び担当教員掲載頁一覧(2)

食物栄養学科専門科目

区分	授業科目	必修	選択	計	担当教員	職　名	掲載頁	備考
現代生活基礎科目	インターネットと法	6	2	2	近　勝彦	教　授(兼)	Ⅱ－　1	
	食物基礎科学		2	2	中原眞由美 宮崎正弘 清水憲二		Ⅱ－　4	
	プレゼンテーション		2	2	竹原良記 佐藤幸枝 狩山玲子		Ⅱ－　6	
	生活史		2	2	尾崎　聡	教　授(兼)	Ⅱ－　8	
	食文化論		2	2	次田隆志	教　授	Ⅱ－ 12	
	フードコーディネート		2	2	次田隆志 中原眞由美		Ⅱ－ 14	
	食料経済		2	2	次田隆志	教　授	Ⅱ－ 16	
	小計	6	14	14				

栄養士法 管理栄養士 指定教育分野		講義又は演習必修単位	実験又は実習必修単位	授業科目	必修	選択	計	担当教員	職　名	掲載頁	備考
専門基礎分野	社会・環境と健康	6	10	公衆衛生学Ⅰ	2	2	2	久保真利子	教　授(兼)	Ⅱ－ 18	
				公衆衛生学Ⅱ		2	2	保田立二	教　授	Ⅱ－ 21	
				公衆衛生学Ⅲ		2	2	久保真利子	教　授(兼)	Ⅱ－ 24	
				健康管理論	2		2	保田立二	教　授	Ⅱ－ 27	
				社会福祉概論	2		2	松尾　冀	教　授(兼)	Ⅱ－ 30	
				小計	6	6	10				
	人体の構造と機能 疾病の成り立ち	14		解剖生理学Ⅰ	7	2	2	清水憲二	教　授	Ⅱ－ 33	
				解剖生理学Ⅱ		2	2	熊谷智代	教　授	Ⅱ－ 36	
				解剖生理学実験Ⅰ		1	1	清水憲二	教　授	Ⅱ－ 39	
				解剖生理学実験Ⅱ		1	1	清水憲二	教　授	Ⅱ－ 42	
				運動生理学		2	2	清水憲二	教　授	Ⅱ－ 44	
				生化学Ⅰ	3	2	2	宮崎正博	教　授	Ⅱ－ 47	
				生化学Ⅱ		2	2	宮崎正博	教　授	Ⅱ－ 50	
				生化学実験		1	1	宮崎正博	教　授	Ⅱ－ 53	
				病理学	2		2	熊谷智代	教　授	Ⅱ－ 56	
				微生物学	2		2	狩山玲子	教　授	Ⅱ－ 59	
				小計	14	13	17				
	食べ物と健康	8		食品学総論Ⅰ	3	2	2	次田隆志	教　授	Ⅱ－ 62	
				食品学総論Ⅱ		2	2	次田隆志	教　授	Ⅱ－ 64	
				食品学総論実験		1	1	次田隆志	教　授	Ⅱ－ 66	
				食品学各論		2	2	津村哲司	准教授	Ⅱ－ 68	
				食品学各論実験Ⅰ		1	1	津村哲司	准教授	Ⅱ－ 70	
				食品学各論実験Ⅱ		1	1	津村哲司	准教授	Ⅱ－ 72	

専門基礎分野	食べ物と健康			食品加工学Ⅰ		2	2	津村哲司	准教授	Ⅱ－ 74	
				食品加工学Ⅱ		2	2	津村哲司	准教授	Ⅱ－ 76	
				食品加工学実習		1	1	津村哲司	准教授	Ⅱ－ 78	
				食品品質管理論		2	2	次田隆志 狩山玲子 津村哲司		Ⅱ－ 80	
				食品分析学		2	2	津村哲司	准教授	Ⅱ－ 82	
				調理学Ⅰ	3	2	2	中原眞由美	准教授	Ⅱ－ 84	
				調理学Ⅱ		2	2	中原眞由美	准教授	Ⅱ－ 87	
				調理学実習Ⅰ		1	1	中原眞由美	准教授	Ⅱ－ 90	
				調理学実習Ⅱ		1	1	中原眞由美	准教授	Ⅱ－ 93	
				調理学実習Ⅲ		1	1	小野明子	講 師(兼)	Ⅱ－ 96	
				食品衛生学Ⅰ	2	2	2	狩山玲子	教 授	Ⅱ－ 99	
				食品衛生学Ⅱ		2	2	狩山玲子	教 授	Ⅱ－ 102	
				食品衛生学実験		1	1	狩山玲子	教 授	Ⅱ－ 105	
				小計	8	30	30				
専門分野	基礎栄養学	2	8	基礎栄養学	6	2	2	竹原良記	教 授	Ⅱ－ 108	
				基礎栄養学実験		1	1	竹原良記	教 授	Ⅱ－ 110	
	応用栄養学	6		運動栄養学		2	2	清水憲二	教 授	Ⅱ－ 112	
				応用栄養学		2	2	竹原良記	教 授	Ⅱ－ 115	
				栄養アセスメント		2	2	竹原良記	教 授	Ⅱ－ 117	
				応用栄養学実習		1	1	竹原良記	教 授	Ⅱ－ 120	
				小計	6	10	10				
	栄養教育論	6		栄養教育論Ⅰ	6	2	2	内田雅子	講 師	Ⅱ－ 123	
				栄養教育論Ⅱ		2	2	内田雅子	講 師	Ⅱ－ 126	
				栄養教育管理		2	2	内田雅子	講 師	Ⅱ－ 129	
				栄養教育論実習Ⅰ		1	1	内田雅子	講 師	Ⅱ－ 132	
				栄養教育論実習Ⅱ		1	1	内田雅子	講 師	Ⅱ－ 135	
				小計	6	8	8				
	臨床栄養学	8		臨床栄養学Ⅰ	10	2	2	保田立二	教 授	Ⅱ－ 138	
				臨床栄養学Ⅱ		2	2	平野 聡	助 教	Ⅱ－ 141	
				臨床栄養学Ⅲ		2	2	平野 聡	助 教	Ⅱ－ 144	
				臨床栄養学実習		1	1	平野 聡	助 教	Ⅱ－ 147	
				臨床栄養学演習		2	2	平野 聡	助 教	Ⅱ－ 150	
	公衆栄養学	4		公衆栄養学Ⅰ		2	2	高槻悦子	講 師	Ⅱ－ 153	
				公衆栄養学Ⅱ		2	2	高槻悦子	講 師	Ⅱ－ 156	
				公衆栄養学実習		1	1	高槻悦子	講 師	Ⅱ－ 159	
				小計	10	14	14				
	給食経営管理論	4		給食経営管理論Ⅰ	6	2	2	佐藤幸枝	講 師	Ⅱ－ 162	
				給食経営管理論Ⅱ		2	2	佐藤幸枝	講 師	Ⅱ－ 165	
				給食経営管理実習Ⅰ		1	1	佐藤幸枝	講 師	Ⅱ－ 168	
				給食経営管理実習Ⅱ		1	1	佐藤幸枝	講 師	Ⅱ－ 171	
	総合演習	2		総合演習		2	2	竹原良記 高槻悦子		Ⅱ－ 174	

専門分野								佐藤幸枝 内田雅子 平野　聡			
				給食経営管理実習事前事後		1	1	佐藤幸枝	講　師	Ⅱ－177	
				小計	6	9	9				
	臨地実習		4	給食経営管理臨地実習Ⅰ		1	1	佐藤幸枝	講　師	Ⅱ－180	
				給食経営管理臨地実習Ⅱ		1	1	佐藤幸枝	講　師	Ⅱ－182	
				公衆栄養臨地実習		1	1	高槻悦子	講　師	Ⅱ－184	
				臨床栄養臨地実習		2	2	平野　聡	助　教	Ⅱ－186	
				小計	0	5	5				
	単位数	60	22								
	自由科目			卒業研究Ⅰ		2	2	未掲載			
				卒業研究Ⅱ		2	2	未掲載			
				小計	0	4	4				
				合計	62	113	121				
栄養教諭に関する科目	栄養に係る教育に関する科目			学校栄養指導論Ⅰ		2	2	井上恵子	講　師	Ⅱ－189	
				学校栄養指導論Ⅱ		2	2	井上恵子	講　師	Ⅱ－192	
				小計	0	4	4				
	栄・教育の基礎的理解に関する科目等			教育原理		2	2	福野裕美	准教授	Ⅱ－195	
				教師論		2	2	福野裕美	准教授	Ⅱ－200	
				教育制度論		1	1	福野裕美	准教授	Ⅱ－206	
				教育心理学		2	2	大賀恵子	教　授(兼)	Ⅱ－209	
				特別支援の方法と理解		1	1	大賀恵子	教　授(兼)	Ⅱ－213	
				教育課程論		1	1	福野裕美	准教授	Ⅱ－218	
				道徳・特別活動・総合的な学習の時間		2	2	尾崎　聡 都田修兵		Ⅱ－221	
				教育の方法及び技術		2	2	原田博史 都田修兵 原田俊孝 井上恵子		Ⅱ－227	
				生徒指導論		2	2	浦上博文	教　授(兼)	Ⅱ－234	
				教育相談		2	2	中西美恵子	教　授(兼)	Ⅱ－240	
				事前・事後指導		1	1	井上恵子	講　師	Ⅱ－244	
				栄養教育実習		1	1	井上恵子	講　師	Ⅱ－248	
				教職実践演習（栄養教諭）		2	2	井上恵子 福野裕美 中原眞由美		Ⅱ－250	
				小計	0	21	21				

注1）表中の選択は、選択必修である。

注2）栄養士免許の取得及び管理栄養士国家試験の受験資格を得るためには、表中の栄養士法管理栄養士指定教育分野の専門基礎分野及び専門分野のそれぞれの区分に記載する講義又は演習必修単位及び実験又は実習必修単位の単位数を充足するよう授業科目の単位を修得すると共に、表中の必修及び選択必修の単位を含めて学則に規定する卒業に要する単位を修得しなければならない。

令　和　２　年　度　教　育　計　画							
科目名	人間の発達	授業回数	15	単位数	2	担当教員	影山　世都子
質問受付の方法（e-mail,オフィスアワー等）：					e-mail:		

教育目標と学生の学習成果

教育目標

人は生涯にわたって発達・成長する。本授業では、乳幼児期から思春期および青年期以降の発達を中心に、人の生涯発達に関する基礎的知識を身につけながら、自分自身のこれからの発達を考え、活かすことへの一助とする。具体的には、受講学生は以下の諸点に関する基礎的な研究知見および能力を習得することである。

①人間の生涯発達について基礎的知識を身につける。具体的には、エリクソン、ピアジェ、フロイトの発達理論を紹介し、各発達段階の特徴について学ぶ。

②思春期および青年期以降の発達的特徴について理解する。具体的には、様々な対人関係の特徴、ストレスマネンジメントなどを学ぶ。

③社会人として求められる他者理解力を養うために大前提となる自己理解を深める。具体的には、自分自身についての理解、特に、自分の考え方、感情の扱い方、対人関係の取り方についての理解を深める。この理解は社会人として求められる他者理解力を養うために大前提であるが、社会人に限らず、青年期における大学生が他者と円滑な対人関係を築くためにも重要である。

学生の学習成果

専門的学習成果として、教育目標に掲げる①、②の項目に関する研究知見を習得する。また、汎用的学習成果として、教育目標に掲げる③の項目に関する能力を身につける。

教育方法

授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） 主として講義形式によって行うが、受講者の理解を促進するために、自己理解のための演習を実施する。また、授業内容の理解度確認のために、授業中に論述課題を実施する。
予習・復習	各回の授業では予習復習が大切。予習に関しては、各回の授業で予習内容のポイントを示す場合がある。復習に関しては、基本的には板書内容・授業で使用した資料・プリントの見直しや整理、また、各回の授業で復習内容のポイントを示す場合がある。
テキスト	市販のテキストは使用しないが、適宜資料・プリントを配布する。

学習評価の方法	評価配分に関して 専門的学習成果と汎用的学習成果について、それぞれの学習成果の習得度合いを量的（数値的）に変換し、合計 100 点を満点として評価を行う。それぞれの学習成果の量的（数値的）評価配分および評価比重は以下の通りである。 ・専門的学習成果 専門的学習成果の評価配分は 80 点である。評価配分 80 点の中で、以下に示した、それぞれの専門的学習成果には、おおよそ同等の比重をかける。 ①人間の生涯発達について基礎的知識を身につける。 ②思春期および青年期以降の発達的特徴について理解する。 ・汎用的学習成果 汎用的学習成果の評価配分は 10 点である。 以上の通り、専門的学習成果の評価配分は 80 点、汎用的学習成果の評価配分は 10 点で、合計 90 点である。なお、これらの評価配分に加え、専門的学習成果に関して、授業で学んだ知識の理解度を図るために、理解度合いの量的（数値的）評価を行う。この評価配分は 10 点である。総じて、専門的学習成果 80 点、汎用的学習成果 10 点、理解度確認 10 点で、合計 100 点満点で最終評価を行う。 評価ツールに関して ・専門的学習成果 専門的学習成果の評価配分の合計 80 点は学期末に行う定期試験で測る。 ・汎用的学習成果 汎用的学習成果の評価配分 10 点は課題で測る。具体的には、自己理解のための簡易的な課題を課す。 ・授業内容の理解度 理解度確認の評価配分 10 点は授業中に行う論述課題で測る。課題は前回の授業に応じた内容とし、授業終了時に提出する。実施した授業時間以外の提出は認めない。
注意事項	参考図書 無藤隆・岡本祐子・大坪治彦編『よくわかる発達心理学第 2 版』ミネルヴァ書房、2009 年。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	＜オリエンテーション＞ ・本授業の内容・進め方・成績評価の方法に関する説明 ＜人間の発達＞ ・授業内容：人間の発達とは何か、自分の見解を述べる。
2 回	＜生涯発達を考える①＞ ・授業内容：発達に関する原理・特徴について学び、理解する。 ・予習事項：エリクソンの発達段階について調べておく。 ・復習事項：講義内容を見直し、次回の論述課題に備えてキーワードを確認しておく。
3 回	＜練習課題①＞ ・2 回目の授業内容に関する課題を仕上げる。 ＜生涯発達を考える②＞ ・授業内容：エリクソンの発達理論について学び、生涯発達について理解する―その① ・予習事項：フロイトの発達段階について調べておく。 ・復習事項：講義内容を見直し、次回の論述課題に備えてキーワードを確認しておく。
4 回	＜練習課題②＞ ・3 回目の授業内容に関する課題を仕上げる。 ＜生涯発達を考える③＞ ・授業内容フロイトの発達理論について学び、生涯発達について理解する―その② ・予習事項：ピアジェの発達段階について調べておく ・復習事項：講義内容を見直し、次回の論述課題に備えてキーワードを確認しておく。
5 回	＜練習課題③＞ ・4 回目の授業内容に関する課題を仕上げる。 ＜生涯発達を考える④＞ ・授業内容：ピアジェの発達理論について学び、生涯発達について理解する。 ・予習事項：配布資料を熟読しておく。 ・復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問できるようにしておく。
6 回	＜練習課題④＞ ・5 回目の授業内容に関する課題を仕上げる。 ＜生涯発達を考える⑤＞ ・授業内容：発達理論・姿勢反射・運動発達について学び、生涯発達について理解する。 ・予習事項：配布資料を熟読しておく。 ・復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問できるようにしておく。
7 回	＜ADL・感覚・知覚・認知・社会性の発達＞ ・授業内容：ADL の発達について学び、大人と児との関係のあり方について理解する。 ・予習事項：ADL とは何か、感覚システムの順序について確認しておく。 ・復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問できるようにしておく。
8 回	＜思春期青年期の発達的特徴①＞ ・授業内容：思春期青年期の発達課題と精神的健康について理解する。 ・予習事項：青年期の対人関係に関する課題を仕上げておく。 ・復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問できるようにしておく。

9 回	＜思春期青年期の発達的特徴②＞ ・授業内容：青年期の対人関係―友人関係、家族関係、異性・恋愛関係について学ぶ。 ・予習事項：自分の友人関係の特徴を振り返っておく。 ・復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問できるようにしておく。
10 回	＜練習課題⑤＞ ・6～9 回目の授業内容に関する課題を仕上げる。 ＜成人期の発達的特徴①＞ ・授業内容：成人期の特徴、職業人、そして仕事と家庭の両立について学び、成人期の発達的特徴を理解する。 ・予習事項：自分の理想とする人間像を考えておく。 ・復習事項：講義内容を見直し、次回の論述課題に備えてキーワードを確認しておく。
11 回	＜練習課題⑥＞ ・10 回目の授業内容に関する課題を仕上げる。 ＜成人期の発達的特徴②＞ ・授業内容：成人期のストレスマネジメント(1)　ストレスとの対処法や心身への影響について学び、ストレスと上手く付き合う方法について理解する。 ・予習事項：ストレスとは何かを調べておく。 ・復習事項：講義内容を見直し、次回の論述課題に備えてキーワードを確認しておく。
12 回	＜練習課題⑦＞ ・11 回目の授業内容に関する課題を仕上げる ＜成人期の発達的特徴③＞ ・授業内容：成人期のストレスマネジメント(2)　ストレスへの一般的な対処法を学ぶ。 ・予習事項：ストレスの対処法を調べておく。 ・復習事項：講義内容を見直し、次回の論述課題に備えてキーワードを確認しておく。
13 回	＜練習課題⑧＞ ・12 回目の授業内容に関する課題を仕上げる。 ＜老年期の発達的特徴＞ ・授業内容：高齢者のライフイベント、時間的展望について理解する。 ・予習事項：ライフイベントについて調べておく。 ・復習事項：講義内容を見直し、次回の論述課題に備えてキーワードを確認しておく。
14 回	＜練習課題⑨＞ ・13 回目の授業内容に関する課題を仕上げる。 ＜過去、今、未来の自分について＞ ・授業内容：自分の人生をテーマにしたワークを実施する。 ・予習事項：特になし ・復習事項：講義内容を見直し、次回の論述課題に備えてキーワードを確認しておく。
15 回	＜練習課題⑩＞ ・14 回の授業内容に関する課題を仕上げる。 ＜まとめ＞ ・これまでの授業内容を振り返り、不足のある部分について補足する。 ・定期試験についての説明 ・予習事項：特になし ・復習事項：提出課題の内容を見直しておく。

令　和　２　年　度　教　育　計　画							
科目名	日本国憲法	授業回数	15	単位数	2	担当教員	近　勝彦
質問受付：毎月曜日午後４時１０分―午後５時						e-mail： dark-blue@star.nifty.jp	

教育目標と学生の学習成果		教育目標：憲法は、「最高法規である（98 条）」であり、最高法規である。この観念は、近代市民革命の頃から現れたことからしても、国民の基本的な人権を擁護し、国家の統治権力に制限を課したものである。この見方は、日本国憲法の構成にもみてとれる。すなわち、きわめて大きく内容を分けると、国民の「基本的人権の保障」と「統治機構とその権能」について書かれているのである。そこでまずは、憲法の基本的概念とその意義および基礎理論を理解する必要があろう。 学生の学習成果：栄養士は、日本国民の健康で安全な食生活の維持や公衆衛生にかかわっている（25 条）。その活動には、様々な法律が関わっている。そこで、まずは基礎的な法概念や法知識を学ぶことが必要であろう。そのうえで、個別事件の判例の理解や法律解釈がおこなえる応用力の獲得を成果と考える。
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） 日本国憲法の基本的な考え方や内容を知る必要がある。そのためには、憲法の主要な条文をやはり読む必要があろう。しかし、法学部の学生ではないので、精緻な条文の解釈というよりは、現代に起きている法律問題の解決のために、憲法がどのように機能しているのかという視点で講義を進める。そこで、最低限度の条文の解釈を試みた後に、主要な憲法事件（判例）を取り上げて、じっくりと講義していくことにする。また、公務員試験や民間会社の社会科学系の一般知識試験としてもよく出題されるので、内容を網羅するように授業を進めたい。講義の終了時に「シャトルカード」に授業内容についての質問や感想を求める。次回の講義時に、質問等の回答を記入して返却する。これによって、各々の学習進行状況を確認しながら講義を進める。
	予習・復習	毎回講義した条文を筆記するとともに、予習としては、次回の章を読んでくる。「シャトルカード」により効果的な復習を促進する。
	テキスト	『日本国憲法講義ノート』（小野高速印刷）
学習評価の方法		憲法の基本的な理解の習得を目指す。さらには、主要な条文の概念や法用語を習得する。なお、講義の期間中に、憲法全文を読んでいく（上記テキストの中にも出ている）。なお、評価方法としては、期末試験(75%)、レポート(25%)。
注意事項		

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	オリエンテーション：憲法を学ぶ意義と基本的な考え方 法となにかを考える 人のリーガルマインドと感覚の差の意味
2 回	・講義内容：憲法の歴史と各国の憲法の歴史について 基本的人権獲得の歴史 ・予習内容：次回の箇所を読んでおく ・復習事項および課題：「日本国憲法はいかなる淵源をもっているか」
3 回	・講義内容：人権とは 人権の主体とその制限 ・予習内容：次回の箇所を読む ・復習事項および課題：「マクリーン事件」
4 回	・講義内容：法の下の平等について 実質的平等とは何かを学ぶ ・予習内容：次回の箇所を読む ・復習事項および課題：「尊属殺重刑違憲判決」
5 回	・講義内容：思想・良心の自由について 精神的自由の内容とその制約 ・予習内容：次回の箇所を読む ・復習事項および課題：「三菱樹脂事件」
6 回	・講義内容：宗教の自由について 宗教活動の意義と課題 ・予習内容：次回の箇所を読む ・復習事項および課題：「政教分離の意義と課題」
7 回	・講義内容：表現の自由について 権利の侵害と自由 ・予習内容：時間の箇所を読む ・復習事項および課題：「名誉毀損と表現の自由」
8 回	・講義内容：社会権について 生存権の本質と現代的意義 ・予習内容：次回の箇所を読む ・復習事項および課題：「社会保障と労働者の権利」

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
9 回	・講義内容：経済的自由について 二重の基準の理論 ・予習内容：次回の箇所を読む ・復習事項および課題：「所得格差と公平性」
10 回	・講義内容：平和憲法と国際社会について 国際社会の危機と国家の安全 ・予習内容：次回の箇所を読む ・復習事項および課題：「平和主義と現実国際社会の課題」
11 回	・講義内容：国会について 国権の最高機関性と権能 ・予習内容：次回の箇所を読む ・復習事項および課題：「法律を作る過程」
12 回	・講義内容：裁判所について 違憲立法審査権 ・予習内容：次回の箇所を読む ・復習事項および課題：「訴訟とそのプロセス」
13 回	・講義内容：内閣について ・予習内容：次回の箇所を読む ・復習事項および課題：「内閣制度と大統領制」
14 回	・講義内容：地方自治体について ・予習内容：次回の箇所を読む ・復習事項および課題：「自治体の意義と道州制」
15 回	講義内容：憲法改正と総まとめ ・予習内容：次回の箇所を読む ・復習事項および課題：「憲法改正の諸課題」

令　和　2　年　度　教　育　計　画							
科目名	生涯学習概論	授業回数	15	単位数	2	担当教員	福野　裕美

質問受付の方法（e-mail,オフィスアワー等）：
yfukuno@owc.ac.jp、OH：木曜日 12:20～13:00、その他在室時は何時でも可（M 棟 410）

教育目標と学生の学習成果

教育目標：
本講義では、生涯学習に関する以下の項目について基本的知識を修得し、生涯学習社会を実現するための理論的・実践的諸課題について考える。
・生涯学習の理念と歴史
・生涯学習社会における発達課題
・生涯学習社会における様々な学習機会・施設の意義と役割
・わが国における生涯学習の現状と課題

学生の学習成果：
専門的学習成果：上記の基礎的知識を修得する。
汎用的学習成果：専門的知識を用いて論理的に思考する力、自分の考えを適切な表現で的確に伝えると同時に他者の考えを理解するコミュニケーション能力、一社会人として教育や地域づくりについて真摯に考える態度・姿勢を涵養する。

教育方法

授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） 1．講義、個人発表、および質疑応答を授業の主要な構成要素とする。 2．各受講生が担当する箇所を決め、当該箇所について、受講生が作成したレジュメをもとに発表を行う。 3．発表をもとに、質疑応答を行う。また、以上の内容を補う講義をする。 4．授業後にシャトルカードに記入してもらい、双方向的な授業を展開する。
予習・復習	予習事項：各回の授業で学習する内容についてテキストを読み、疑問点を明確にする。 復習事項：テキストおよび授業で配付されたレジュメを読む。各回の復習キーワードを中心に、授業で出てきた用語の意味を説明できるようにする。
テキスト	関口礼子・西岡正子・鈴木志元・堀薫夫・神部純一・柳田雅明著『新しい時代の生涯学習〔第 3 版〕』有斐閣、2018 年。

学習評価の方法

学習成果：以下の６つの項目について、おおよそ同等の比重をかけて評価する。
①生涯学習の概念について理解している。
②わが国における生涯学習政策および法令について理解している。
③生涯学習社会における発達課題について理解している。
④地域に根ざした生涯学習施設や学校開放の在り方について考えることができる。
⑤生涯学習の現状と課題を認識し、自らの考えを論理的に展開することができる。
⑥テキストの担当箇所について、ポイントを的確にとらえたレジュメを作成し発表することができる。

学習評価は、試験（60%）、レジュメ作成・発表（20%）、小テスト・課題（20%）で行う。課題は授業中に提示する。

注意事項

参考図書等
授業中に適宜紹介する。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	オリエンテーション ・授業概要と評価方法、本講義のルールを説明する。 復習：授業で配付されたレジュメを参照し、本日の授業の要点をまとめる。
2 回	生涯学習とは何かを学ぶ。 第 1 章　今なぜ生涯学習がクローズアップされるのか ・「生涯学習」の定着過程　　・学習とは何か、教育とは何か ・生涯学習のクローズアップ 予習：1-17 頁　　復習：【キーワード】生涯学習、生涯学習社会
3 回	ハヴィガーストやエリクソンらの発達課題論・発達段階論をもとに、人生の発達段階に応じた学習について考える。 第 2 章　人は発達段階に応じて何を学ぶか ・発達段階と発達課題　　・エリクソンの心理－社会的発達段階論 ・レヴィンソンの成人発達論　　・第 1 の発達から第 2 の発達へ ・高齢期における発達課題とは 予習：19-33 頁　　復習：【キーワード】発達課題、レヴィンソンの成人発達論
4 回	生涯にわたる職業的発達を考える。 第 3 章　就職すると人はどのような学習をするのか ・生涯にわたる職業的発達　　・学社融合と生き方支援 ・成人に対するキャリア教育　　・働くことと生涯学習 予習：35-52 頁　　復習：【キーワード】職業的発達、キャリア教育、職業教育・職業訓練
5 回	図書館について学ぶ。 第 4 章　情報からの学習 ・図書館とは何か　　・図書館サービス　　・学校図書館と大学図書館 ・生涯学習と図書館 予習：53-68 頁　　復習：【キーワード】レファレンス、司書教諭、学校司書
6 回	博物館について学ぶ。 第 5 章　「もの」からの学習 ・博物館の種類と実態　　・博物館の現代的使命 ・博物館と地域社会　　・博物館と生涯学習 予習：69-85 頁　　復習：【キーワード】資料収集、整理保管、調査研究、教育普及
7 回	公民館について学ぶ。 第 6 章　地域の場からの学習 ・地域における生涯学習活動　　・地域における学習の場 ・公民館という社会教育施設　　・地域における生涯学習支援の課題 予習：87-107 頁　　復習：【キーワード】公民館、生涯学習支援
8 回	強力な学習作用を引き起こす宗教について考える。 第 8 章　教育によらない強力な学習 ・宗教と生活　　・宗教を構成するもの　　・強烈な学習作用を引き起こす宗教 ・日本人の宗教意識 予習：125-150 頁　　復習：【キーワード】教化、ラダーシステム

9 回	男女共同参画社会の学習課題を考える。 第 9 章　女性の生涯の変化は男女にどのような学習を求めるか ・女性の人権の確立　　・女性のライフサイクルの変化と生涯学習 ・男女共同参画社会と教育　　・男女共同参画社会づくりに向けて 予習：151-180 頁　　復習：【キーワード】男女共同参画社会、ジェンダー
10 回	高齢者の学習の特徴や高齢者への学習支援の在り方について考える。 第 10 章　人口の高齢化は学習をどう変えるか ・人口の高齢化をめぐる問題　　・高齢者とエイジングをみる視点 ・高齢者の学習のとらえ方　　・高齢者の学習支援の特徴 ・高齢者への学習支援の課題と展望 予習：181-196 頁　　復習：【キーワード】人口の高齢化、エイジング
11 回	学習におけるコンピュータの役割について考える。 第 11 章　情報技術は学習をどう変えるか ・学習とコンピュータ　　・データベースと XML　　・セマンティック・ウェブ 予習：197-212 頁　　復習：【キーワード】協調学習、データベース
12 回	グローバル化時代の学習課題を考える。 第 12 章　グローバル化は学びをどう変えているのか ・グローバル化をとらえる　　・グローバル化とグローバリズム ・教育そして学習におけるグローバル化　　・主体性をもって生涯学んでいくために 予習：213-228 頁　　復習：【キーワード】グローバル化、グローカル化
13 回	大学開放について学ぶ。 第 13 章　学校を開くことと生涯学習 ・学校を開くとは、どういうことなのか　　・学校を開くことを支える「社会教育法」 ・学校はどのように開かれるのか　　・大学は開いているのか ・学校を開いていく際の留意点 予習：229-242 頁　　復習：【キーワード】学社融合、公開講座
14 回	成人を対象とする生涯学習の方法について学ぶ。 第 14 章　生涯学習の方法 ・生涯学習の方法の重要性　　・アンドラゴジーとペダゴジー ・生涯学習の方法のタイポロジー（類型）　　・新しいタイプの学びの形態 ・生涯学習の方法をめぐる展望 予習：243-259 頁　　復習：【キーワード】アンドラゴジー、ワークショップ
15 回	まとめ：これまでの学習内容の総復習 予習：これまでの授業の中で理解が不十分な箇所をまとめ、質問できるようにしておく。 復習：授業で配付されたすべてのレジュメおよび資料を見直す。

令　和　２　年　度　教　育　計　画							
科目名	正しい日本語	授業回数	15	単位数	2	担当教員	浦上　博文
質問受付：授業終了後Ｂ棟４０４						e-mail：urakami@owc.ac.jp	

教育目標と学生の学習成果		教育目標： 　本授業は、受講生が社会生活を送る上で身に付けておくべき文章表現に関する基本的な知識と技能を修得させることを目指し、具体的には次の３点を目標とする。 ①国語基礎力（敬語・文法・語彙・言葉の意味・表記）を充実させる。 ②描写の文章・説明の文章・論説の文章について表現の特色を理解し、それぞれの文章を作る力を身に付ける。 ③漢字力を向上させる。 学生の学習成果： 　教育目標に掲げる３点に関する知識・技能を修得する。また、汎用的学習成果として、態度（社会人としてのマナー・学習態度など）を涵養する。
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） 目標①：テキストに即した講義と問題演習を行う（第８回まで）。 目標②：配付資料に即した講義と演習を行う（第９回以降）。 目標③：授業はじめに漢字の学習（漢検レベルに挑戦！シリーズ）を行う。また、復習テストを行う。
	予習復習	・毎授業回前に、「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。 ・毎授業回後に復習を求める。（提出課題）
	テキスト	・須永哲矢他：2016,『日本語検定公式テキスト・例題集「日本語」中級　増補改訂版』,東京書籍（第８回まで） ・第９回以降は、配付資料により行う。
成績評価の方法		以下の４点についてその獲得度合を量的に評価する。 ①　国語基礎力について理解しているか。（期末試験、54点） ②　授業において扱った漢字を修得しているか。（小テスト1回合格1点×7回＝7点） ③　描写の文章・説明の文章・論説の文章について表現の特色を理解しているか。（課題、④と合わせて24点） ④　描写の文章・説明の文章・論説の文章を自力で選び、作ることができたか。（課題、③と合わせて 24 点） ⑤　授業内容について予習・復習を行っているか。（シャトルカードに教員の指示に沿った記述をしている場合、1 回 1 点×15 回＝15 点） 　なお、態度（社会人としてのマナー・学習態度など）についての評価は全授業を通して行う。担当教員の指導に従わず改善されない場合、評価点より減ずる（1 件 2 点）。
注意事項		参考図書等 ・選んだ文章・作った文章・シャトルカードの提出を忘れないように注意していただきたい。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	○　オリエンテーション ○　漢字の学習「漢検レベルに挑戦！シリーズ（1）」 復習：授業内容を振り返りシャトルカードに記入する。
2 回	○　漢字の学習「漢検レベルに挑戦！シリーズ（2）」 ○　テキスト「敬語」（p8～42）の前半を学び演習問題に取り組み、敬語の正しい使い方ができるようになる。 予習：テキストの該当箇所を通読する。 復習：授業内容を振り返りシャトルカードに記入する。漢字、「敬語（前半）」演習問題の復習を行う。
3 回	○　第１回漢字復習テストを行う。 ○　漢字の学習「漢検レベルに挑戦！シリーズ（3）」 ○　テキスト「敬語」（p8～42）の後半を学び演習問題に取り組み、敬語の正しい使い方ができるようになる。 予習：テキストの該当箇所を通読する。漢字復習テストに向けた学習を行う。 復習：授業内容を振り返りシャトルカードに記入する。漢字、「敬語（後半）」演習問題の復習を行う。
4 回	○　漢字の学習「漢検レベルに挑戦！シリーズ（4）」を行う。 ○　テキスト「文法」（p44～74）を学び演習問題に取り組み、文法に従った正しい表現ができるようになる。 予習：テキストの該当箇所を通読する。 復習：授業内容を振り返りシャトルカードに記入する。漢字、「文法」演習問題の復習を行う。
5 回	○　第２回漢字復習テストを行う。 ○　漢字の学習「漢検レベルに挑戦！シリーズ（5）」を行う。 ○　テキスト「語彙」（p76～99）を学び演習問題に取り組み、豊かな語彙を身につける。 予習：テキストの該当箇所を通読する。漢字復習テストに向けた学習を行う。 復習：授業内容を振り返りシャトルカードに記入する。漢字、「語彙」演習問題の復習を行う。
6 回	○　漢字の学習「漢検レベルに挑戦！シリーズ（6）」を行う。 ○　テキスト「言葉の意味」（p102～125）を学び演習問題に取り組み、正しい言葉の意味を身につける。 予習：テキストの該当箇所を通読する。 復習：授業内容を振り返りシャトルカードに記入する。漢字、「言葉の意味」演習問題の復習を行う。
7 回	○　第３回漢字復習テストを行う。 ○　漢字の学習「漢検レベルに挑戦！シリーズ（7）」を行う。 ○　テキスト「表記」（p128～136）を学び演習問題に取り組み。正しい表記の仕方ができるようになる。 予習：テキストの該当箇所を通読する。漢字復習テストに向けた学習を行う。 復習：授業内容を振り返りシャトルカードに記入する。漢字、「表記」演習問題の復習を行う。
8 回	○　漢字の学習「漢検レベルに挑戦！シリーズ（8）」を行う。 ○　テキスト「漢字」（p138～169）を学び、演習問題に取り組む。 予習：テキストの該当箇所を通読する。 復習：授業内容を振り返りシャトルカードに記入する。漢字、「表記」演習問題の復習を行う。

9 回	○　第４回漢字復習テストを行う。 ○　漢字の学習「漢検レベルに挑戦！シリーズ（９)」を行う。 ○　描写の文章の特色を学び、自力で描写の文章を選べるようになる。 予習：配付資料を通読する。漢字復習テストに向けた学習を行う。 復習：授業内容を振り返りシャトルカードに記入する。
10 回	○　漢字の学習「漢検レベルに挑戦！シリーズ（10)」 ○　自力で描写の文章を作れるようになる。 予習：配付資料を通読する。 復習：授業内容を振り返りシャトルカードに記入する。漢字の復習を行う。
11 回	○　第５回漢字復習テストを行う。 ○　漢字の学習「漢検レベルに挑戦！シリーズ（11)」 ○　説明の文章の特色を学び、自力で説明の文章を選べるようになる。 予習：配付資料を通読する。漢字復習テストに向けた学習を行う。 復習：授業内容を振り返りシャトルカードに記入する。
12 回	○　漢字の学習「漢検レベルに挑戦！シリーズ（12)」 ○　自力で説明の文章を作れるようになる。 予習：配付資料を通読する。 復習：授業内容を振り返りシャトルカードに記入する。漢字の復習を行う。
13 回	○　第６回漢字復習テストを行う。 ○　漢字の学習「漢検レベルに挑戦！シリーズ（13)」 ○　論説の文章の特色を学び、自力で説明の文章を選べるようになる。 予習：配付資料を通読する。漢字復習テストに向けた学習を行う。 復習：授業内容を振り返りシャトルカードに記入する。
14 回	○　漢字の学習「漢検レベルに挑戦！シリーズ（14)」 ○　自力で論説の文章を作れるようになる。 予習：配付資料を通読する。 復習：授業内容を振り返りシャトルカードに記入する。漢字の復習を行う。
15 回	○　第７回漢字復習テストを行う。 ○定期試験について 予習：全授業内容を振り返る。漢字復習テストに向けた学習を行う。 復習：シャトルカードに記入する。

令　和　２　年　度　教　育　計　画							
科目名	近代日本文学	授業回数	15	単位数	2	担当教員	浦上　博文
質問受付：授業終了後Ｂ棟４０４						e-mail：urakami@owc.ac.jp	

教育目標と学生の学習成果		教育目標：ここに言う「近代」とは、明治元年から昭和20年までである。この時期は、日本のいわゆる「近代化」が急速に推し進められてゆく過程である。その中には、成功と同時に多くのひずみや矛盾があるが、この「近代」に連続して私たちの時代「現代」があるのである。したがって、「現代」に生き「現代」を知ろうとする私たちは、必然的に「近代」を学ばなければならない。その有効な材料のひとつが「近代日本文学」である。本授業は、社会生活を送る上で身に付けておくべき近代日本文学に関する基本的な知識を修得させることを目指し、具体的には次の２点を目標とする。 ①近代日本文学の変遷に関する基本的な事柄を、時代思潮と関連させて理解する。 ②近代日本文学（小説）を代表する10人の作家（二葉亭四迷・徳冨蘆花・田山花袋・森鷗外・夏目漱石・志賀直哉・有島武郎・芥川龍之介・小林多喜二・太宰治）について、それぞれの「人」と「作品」を知る。 学生の学習成果：教育目標に掲げる①及び②の基本的知識を修得する。また、汎用的学習成果として、態度（社会人としてのマナー・学習態度など）を涵養する。
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） ①近代日本文学史を概説する。（テキスト・ビデオ使用、レジュメ配付） ②10人の作家について、それぞれ「人」と「作品」について概説する。（レジュメ配付、ビデオ・朗読ＣＤ使用） ③それぞれの作家について一つの作品（あるいはその一部と粗筋）をプリントにして配付する。その作品を受講生が通読する。 ④受講生が各作家およびその作品についての感想をシャトルカードに記入する（提出課題）。
	予習・復習	・毎授業回前に、「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。 ・毎授業回後に復習を求める。
	テキスト	・毎時間、担当教員が作成した教材（プリント）を使用する。
成績評価の方法		以下の４点についてその獲得度合を量的に評価する。 ①近代日本文学の変遷について、特徴的なことを理解しているか。（期末試験、50点） ②10人の作家の「人」と「作品」について、特徴的なことを理解しているか。（期末試験、20点） ③授業内容について予習・復習を行っているか。（シャトルカード、30点） なお、態度（社会人としてのマナー・学習態度など）についての評価は全授業を通して行う。担当教員の指導に従わず改善されない場合、評価点より減ずる（１件２点）。
注意事項		参考図書等 ・シャトルカードの提出を忘れないように注意していただきたい。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1回	オリエンテーション 予習：シラバスを通読する。 復習：シャトルカードに記入する。
2回	近代日本文学史概説（１）①～④について概要を理解する。 ①幕末から明治へ……移行期の文学（明治10年代まで） ②近代文学の出発……近代化への懐疑（明治20年代） ③近代文学の混迷……近代化と社会（日清～日露） ④近代文学の成立……自然主義文学（明治文学の成熟） 予習：テキストの該当箇所を通読する。復習：シャトルカードに記入する。
3回	近代日本文学史概説（２）①～④について概要を理解する。 ①近代文学の成立……漱石と鷗外（明治から大正へ Ⅰ） ②近代文学の成立……耽美派の文学（明治から大正へ Ⅱ） ③近代文学の展開……白樺派の文学（大正期の文学 Ⅰ） ④近代文学の展開……新思潮（大正期の文学 Ⅱ） 予習：テキストの該当箇所を通読する。復習：シャトルカードに記入する。
4回	近代日本文学史概説（３）①～⑤について概要を理解する。 ①大衆文学の動向（大正期の文学 Ⅲ） ②近代文学の転換……プロレタリア文学（大正から昭和へ Ⅰ） ③近代文学の転換……新感覚派（大正から昭和へ Ⅱ） ④近代文学の転換……芸術派（昭和初年代） ⑤近代文学の谷間（昭和10年代） 予習：テキストの該当箇所を通読する。復習：シャトルカードに記入する。
5回	○近代日本文学を代表する作家とその作品（１）二葉亭四迷「浮雲」などを読み、内容と特色を理解する。 予習：テキストの該当箇所を通読する。 復習：シャトルカードに記入する。
6回	○近代日本文学を代表する作家とその作品（２）森鷗外「舞姫」などを読み、内容と特色を理解する。 予習：テキストの該当箇所を通読する。 復習：シャトルカードに記入する。
7回	○近代日本文学を代表する作家とその作品（３）徳冨蘆花「不如帰」などを読み、内容と特色を理解する。 予習：テキストの該当箇所を通読する。 復習：シャトルカードに記入する。
8回	○近代日本文学を代表する作家とその作品（４）田山花袋「蒲団」などを読み、内容と特色を理解する。 予習：テキストの該当箇所を通読する。 復習：シャトルカードに記入する。

9 回	○近代日本文学を代表する作家とその作品（５）夏目漱石「坊っちゃん」などを読み、内容と特色を理解する。 予習：テキストの該当箇所を通読する。 復習：シャトルカードに記入する。
10 回	○近代日本文学を代表する作家とその作品（６）志賀直哉「小僧の神様」などを読み、内容と特色を理解する。 予習：テキストの該当箇所を通読する。 復習：シャトルカードに記入する。
11 回	○近代日本文学を代表する作家とその作品（７）有島武郎「或る女」などを読み、内容と特色を理解する。 予習：テキストの該当箇所を通読する。 復習：シャトルカードに記入する。
12 回	○近代日本文学を代表する作家とその作品（８）芥川龍之介「蜘蛛の糸」などを読み、内容と特色を理解する。 予習：テキストの該当箇所を通読する。 復習：シャトルカードに記入する。
13 回	○近代日本文学を代表する作家とその作品（９）小林多喜二「蟹工船」などを読み、内容と特色を理解する。 予習：テキストの該当箇所を通読する。 復習：シャトルカードに記入する。
14 回	○近代日本文学を代表する作家とその作品（10）太宰治「斜陽」などを読み、内容と特色を理解する。 予習：テキストの該当箇所を通読する。 復習：シャトルカードに記入する。
15 回	○本授業で取り扱った全ての作家と作品を振り返り、印象的な点をまとめる。 ○期末試験について 予習：テキスト・配付資料を通読する。 復習：シャトルカードに記入する。

令　和　２　年　度　教　育　計　画							
科目名	基礎数学Ⅰ	授業回数	15	単位数	2	担当教員	竹原良記
質問受付の方法（e-mail,オフィスアワー等）：授業終了後　　e_mail ： takehara@owc.ac.jp							

教育目標と学生の学習成果		教育目標： 大学での様々な授業科目の学習において、数学的な論理的思考力や計算能力は欠くことができない。本講義では、栄養士として必要最低限の数学の知識と応用能力の習得を目標とする。 学生の学習成果：汎用的学習成果 実務的な演習事例を活用して、専門職としての職業生活や一般の社会生活においても必要な技能として、数量的スキルや論理的思考力、問題解決力を修得する。簡単なメニューの栄養計算ができる。
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） 栄養数学Ⅰでは、多項式の四則演算、関数、方程式などについて講義と問題演習を行う。例題を用いて講述し理解を促す。適宜、演習問題を実施して理解を確認する。問題演習は解答後、解き方のポイントを解説する。問題には実務課題を考慮して身体計測データ分析、栄養計算を行い、就活SPIテストの非言語問題に準じるものも入れる。授業終了時に「シャトルカード」に、授業内容についての質問、感想などの記述を求める。次回の授業の時に質問に対する答え、またはコメントを記入して返却する。「シャトルカード」により学習進行状況を確認しながら授業を進める。
	予習・復習	予習事項：各回の授業では予習復習が必要です。配布プリントに目を通し、学習内容を把握しておく。 復習事項：毎回の授業でその内容のポイントを示すので、配布プリント、ノート、演習課題の見直しや整理をする。「シャトルカード」により効果的な復習を促進する。
	テキスト	特に指定せず、適宜プリントを用いる
学習評価の方法		到達基準： 数の性質、数と式の計算、方程式、数学公式等ルールを理解し、問題を解き、栄養に関わる基本的な計算ができる 評価方法： 期末試験 70点、演習問題を含む毎回の課題演習等のアクティビティ30点で評価する。
注意事項		【参考図書】飯島 徹穂、岩本 悌治、佐々木 隆幸： 2004、『Ability　大学生の数学リテラシー』、共立出版 小池拓也：2018,『高校の数学Ⅰ・Aが１冊でしっかり分かる本』かんき出版 授業回数別教育内容に高校数学の範囲を示しているので、高校の時の教科書を参考にできる

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	オリエンテーション ・シラバス解説 教育目標、学習成果、授業の進め方、到達基準と評価方法等について説明し、数学学習の意義、学習方法を示す ・序章　数の種類・性質（ゼロ、正の数と負の数、小数、分数）等から数学へ馴染んでいく
2 回	講義内容：第１章　数と式の計算（１） ・　足し算と引き算、かけ算（累乗、指数法則）と割り算、四則計算 予習事項：配布プリントを予習し、次回の学習内容を把握する 復習事項：講義内容・演習課題を復習、見直し、確かなものにする
3 回	講義内容：第１章　数と式の計算（２） ・　文字式（分配法則、乗法公式）、式の展開・因数分解 予習事項：配布プリントを予習し、次回の学習内容を把握する 復習事項：講義内容・演習課題を復習、見直し、確かなものにする
4 回	講義内容：第１章　数と式の計算（３） ・割合（歩合、パーセント）、平方根、単位（体重、食品、栄養素、エネルギー） 予習事項：配布プリントを予習し、次回の学習内容を把握する 復習事項：講義内容・演習課題を復習、見直し、確かなものにする
5 回	講義内容：第１章　数と式の計算（４） ・　不等式、関数とグラフ（1次関数、2次関数、ｎ次関数）、 予習事項：配布プリントを予習し、次回の学習内容を把握する 復習事項：講義内容・演習課題を復習、見直し、確かなものにする
6 回	講義内容：第１章　数と式の計算（５） ・　一次方程式、二次方程式 予習事項：テキストを予習し、次回の学習内容を把握する 復習事項：講義内容・演習課題を復習、見直し、確かなものにする
7 回	講義内容：第２章　栄養価の計算（１） ・　健康を管理する数値の性格、有効数字、代表値 ・　食品成分表を利用して食品の栄養計算をしよう 予習事項：配布プリントを予習し、次回の学習内容を把握する 復習事項：講義内容・演習課題を復習、見直し、確かなものにする
8 回	講義内容：第２章　栄養価の計算（２） ・　調理による変化を考慮して１食分の栄養計算をしよう 予習事項：配布プリントを予習し、次回の学習内容を把握する 復習事項：講義内容・演習課題を復習、見直し、確かなものにする

9 回	講義内容：第２章　集合と命題 ・　集合（和集合、和集合、空集合、補集合）、命題（真・偽）、逆、裏、対偶。 予習事項：配布プリントを予習し、次回の学習内容を把握する 復習事項：講義内容・演習課題を復習、見直し、確かなものにする
10 回	講義内容：第６章　場合の数と確率（１） ・　樹形図、階乗、順列、組合せ 予習事項：配布プリントを予習し、次回の学習内容を把握する 復習事項：講義内容・演習課題を復習、見直し、確かなものにする
11 回	講義内容：第６章　場合の数と確率（２） ・　確率の性質、いろいろな確率（独立な試行の確率、反復試行の確率、条件付き確率） 予習事項：配布プリントを予習し、次回の学習内容を把握する 復習事項：講義内容・演習課題を復習、見直し、確かなものにする
12 回	講義内容：第６章　整数その他 ・　約数と倍数、n 進法、期待値、オッズ 予習事項：配布プリントを予習し、次回の学習内容を把握する 復習事項：講義内容・演習課題を復習、見直し、確かなものにする
13 回	講義内容：第７章　方程式（１） ・　SPI問題（非言語問題）を使い、方程式の立て方、解き方を学び、問題解決力を修得する 予習事項：配布プリントを予習し、次回の学習内容を把握する 復習事項：講義内容・演習課題を復習、見直し、確かなものにする
14 回	講義内容：第７章　方程式（２） ・　SPI問題を使い、方程式の立て方、解き方を学び、問題解決力を修得する 予習事項：配布プリントを予習し、次回の学習内容を把握する 復習事項：講義内容・演習課題を復習、見直し、確かなものにする
15 回	講義内容：管理栄養士にとって必要な数学の今後 ・　まとめ

<table>
<tr><td colspan="8">令　和　2　年　度　教　育　計　画</td></tr>
<tr><td>科目名</td><td>基礎数学Ⅱ</td><td>授業回数</td><td>15</td><td>単位数</td><td>2</td><td>担当教員</td><td>竹原良記</td></tr>
<tr><td colspan="8">質問受付の方法（e-mail,オフィスアワー等）：授業終了後　　e_mail：takehara@owc.ac.jp</td></tr>
<tr><td>教育目標と学生の学習成果</td><td colspan="7">教育目標：
　大学の専門科目においては、観察、実験、調査、その他のいろいろな方法によって得られたデータを整理し、分析する能力が要求される。それゆえ、本講義では栄養科学の幅広い領域で遭遇する統計的な用語や考え方について、基礎的な知識を提供することを目的とする。そのため、本講義では、個々のデータの性質や、集団から得られたデータの整理方法について学び、その後に、得られたデータから一般的な法則を見出すために使われるさまざまな手法や考え方を学ぶ。
学生の学習成果：汎用的学習成果
　実務的な演習事例を活用して、専門職としての職業生活や一般の社会生活においても必要な技能として、数量的スキルや論理的思考力、問題解決力、資料分析力を修得する。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">教育方法</td><td>授業の進め方</td><td colspan="6">（講義・演習・実験・実習・実技）
　テキストに沿って講述し、学習内容の把握を促す。演習形式を多用し、論理的に思考し、自力で問題を解く訓練を行う。適宜、練習問題を実施して理解を確実なものにする。
　授業終了時に「シャトルカード」に授業内容についての質問、感想などの記述を求める。次回の授業の時に質問に対する答え、またはコメントを記入して返却する。「シャトルカード」により学習理解状況を確認しながら授業を進める。</td></tr>
<tr><td>予習・復習</td><td colspan="6">予習事項：各回の授業では予習復習が必要です。授業前にテキストに目を通し、学習内容を把握しておく。
復習事項：毎回の授業でその内容のポイントを示すので、テキストやプリント、ノート、演習課題の見直しや整理をする。「シャトルカード」により効果的な復習を促進する。</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="6">武藤志真子 他：2012、『統計処理入門』建帛社
及びプリント</td></tr>
<tr><td>学習評価の方法</td><td colspan="7">到達基準：
　栄養科学で使われる用語や統計学を理解し、問題を思考し解決できる。

評価方法：
　定期試験 70点、課題演習を含む授業中のアクティビティ 30点を評価する。</td></tr>
<tr><td>注意事項</td><td colspan="7">定期試験では、授業での演習問題に準じた問題を出題するので、日々の勉強を怠らないこと</td></tr>
</table>

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1回	オリエンテーション ・シラバス解説：教育目標、学習成果、授業の進め方、到達基準と評価方法等について説明し、数学学習の意義、学習方法を示す。 ０．データ取り扱いガイド（データの種類と測定尺度） Ⅰデータの整理 第１章　データの特徴をみる（代表値の計算と結果の解釈） 　平均値、中央値、最頻値、レンジ、分散と標準偏差、変動係数、比率
2回	第２章　データの本質を見抜く（データの集計と図による表現） 　円グラフ、棒グラフ、帯グラフ、度数分布とヒストグラム、単純集計、クロス集計、折れ線グラフ、散布図、レーダーチャート 予習事項：テキストを予習し、次回の学習内容を把握する 復習事項：講義内容を復習、見直し、確かなものにする
3回	Ⅱデータの分布と偏差 第３章　食事摂取基準の確率の考え方（分布とデータの位置） 　正規分布と食事摂取基準、２つの正規分布 予習事項：テキストを予習し、次回の学習内容を把握する 復習事項：講義内容を復習、見直し、確かなものにする
4回	第４章　推測統計学（母集団と標本） 　標本の無作為抽出、大数の法則、中心極限定理、分散の分布スチューデントのt分布 予習事項：テキストを予習し、次回の学習内容を把握する 復習事項：講義内容を復習、見直し、確かなものにする
5回	Ⅲ1変量の統計的推定と検定 第５章　おいしさの判定（２項分布による識別法、判定法） 　2項分布、官能検査、味覚能力判定、おいしさの判定 予習事項：テキストを予習し、次回の学習内容を把握する 復習事項：講義内容を復習、見直し、確かなものにする
6回	第６章　食事摂取基準を用いて評価する（１標本の推定と検定） 　母平均の推定、母比率の推定、母平均の検定、母比率の検定 予習事項：テキストを予習し、次回の学習内容を把握する 復習事項：講義内容を復習、見直し、確かなものにする
7回	第７章　男女差の有無を評定する（対応のない独立２標本の検定） 　平均値の差の検定、等分散の検定、２標本 t 検定、ウェルチの検定、ノンパラメトリック検定 予習事項：テキストを予習し、次回の学習内容を把握する 復習事項：講義内容・演習課題を復習、見直し、確かなものにする

8 回	第８章　栄養指導前後の変化（対応のある独立２標本の検定） 　　対応のある t 検定、ノンパラメトリック検定、 予習事項：テキストを予習し、次回の学習内容を把握する 復習事項：講義内容・演習課題を復習、見直し、確かなものにする
9 回	第９章　BMI 区分による差の判定（対応のない独立多標本の検定） 　　一元配置、クラスカル・ワリスの検定 　予習事項：テキストを予習し、次回の学習内容を把握する 　復習事項：講義内容を復習、見直し、確かなものにする
10 回	第１０章　血糖値には食事条件や計測条件が関係するのか（関連のある多標本の検定） 　　繰り返しのない二元配置分散分析、フリードマン検定、繰り返しのある二元配置分散分析 　予習事項：テキストを予習し、次回の学習内容を把握する 　復習事項：講義内容を復習、見直し、確かなものにする
11 回	Ⅳ．多変数の統計的処理 第１１章　エネルギー摂取量とたんぱく質摂取量の関係をみる（相関と回帰） 　　相関係数、無相関の検定、相対係数の差の検定、回帰直線、回帰係数の検定、回帰直線の信頼区間、回帰係数の差の検定、多変量解析、重回帰分析 　予習事項：テキストを予習し、次回の学習内容を把握する 　復習事項：講義内容を復習、見直し、確かなものにする
12 回	Ⅴ．計数データの統計処理 第１２章　調査の結果を比較する（１要因計量データの検定） 　　比率の検定、カイ２乗適合度の判定 　予習事項：テキストを予習し、次回の学習内容を把握する 　復習事項：講義内容を復習、見直し、確かなものにする
13 回	第１３章　質的な２要因間データを比較する（２要因計量データの検定） 　　独立性の検定（カイ２乗検定）、フィッシャーの直接確率検定、比率の差の検定 　予習事項：テキストを予習し、次回の学習内容を把握する 　復習事項：講義内容を復習、見直し、確かなものにする
14 回	第１４章　質的な２要因間データの関連の強さを調べる（連関係数） 　連関係数 　予習事項・復習事項：講義内容、演習問題全般を見返し、復習する
15 回	講義内容の全範囲について総合的に見直す。演習問題で理解不足なところを見直し学習するとともに、ノートやテキストを改めて整理する。

令　和　2　年　度　教　育　計　画							
科目名	基礎化学	授業回数	15	単位数	2	担当教員	宮﨑正博
質問受付の方法（e-mail,オフィスアワー等）：随時、C 棟 101 研究室で受け付ける							

教育目標と学生の学習成果		教育目標：人間生活学部食物栄養学科では、高度な専門知識や技能を修得した栄養のスペシャリストである管理栄養士を育成することを目標とする。化学は栄養学分野の基礎であり、管理栄養士の育成に不可欠である。したがって、本講は管理栄養士に求められる化学の基礎力を涵養することを目的とする。 学生の学習成果： 専門的学習成果：①物質の成り立ち（原子の構造、電子配置、周期律と周期表、原子の安定化と化学結合、イオンとイオン結合、分子と共有結合、配位結合、分子の極性と電気陰性度、水素結合）、②物質の変化（原子量、分子量、式量、物質量モル、中和反応、酸化還元反応、反応熱と熱化学方程式、反応速度、可逆反応と化学平衡）、③物質の状態と性質（物質の三態、溶質と溶媒、溶解度、溶液の濃度、電解質と非電解質、浸透圧、酸・塩基と pH、中和滴定と酸・塩基濃度、緩衝液と緩衝作用、コロイド溶液）、④身近な有機化合物（官能基、炭素の価標と結合の種類、炭化水素の性質と反応、アルコールの性質と反応、有機酸の性質と反応、エステル、アミンの性質と反応、アミドとペプチド、異性体）、⑤食品中の生体物質の性質（糖質、脂質、たんぱく質・アミノ酸、酵素、ヌクレオチドと核酸、ビタミン、ミネラル）を理解し、管理栄養士の果たすべき専門領域に関する基本となる能力を獲得する。 汎用的学習成果：本科目の学習により、職業生活や社会生活でも必要な数量的スキルを獲得する。
教育方法	授業の進め方	（ 講義・演習・実験・実習・実技 ） ・授業は、テキスト、プリントなどを利用して進める。 ・各単元終了時に「小テスト」を行う。 ・毎回の授業終了時に、「シャトルカード」に授業内容についての質問、感想など自由記述形式での記入を求める。その記載内容に対する回答、コメント等を記載して次回の授業で返却する。 ・「小テスト」および「シャトルカード」により、学習進行状況を逐次確認し、改善しながら進める。
	予習・復習	予習事項：毎授業前に、授業回数別教育内容に記載されたテキストの範囲を音読する。 復習事項：毎授業後に、授業回数別教育内容に記載されたテキストの範囲を再音読し、また、ノートおよび配布プリントを整理して授業内容を理解する。
	テキスト	食を中心とした化学　第 4 版 北原重登、塚本貞次、野中靖臣、水﨑幸一　著 東京教学社　定価 2000 円（税別）2017 年
学習評価の方法		以下に示す学習成果について、その獲得度合を量的に評価する。①物質の成り立ち、②物質の変化、③物質の状態と性質、④身近な有機化合物、⑤食品中の生体物質の性質を理解している。 学習評価は、定期試験および小テストの結果を総合して行う。評価の割合は、定期試験 80 点、小テスト 20 点とする。
注意事項		【参考図書】 特に、指定しない。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	物質の成り立ち 1 講義内容：(a)原子の構造；(b)電子配置；(c)周期律と周期表 予習・復習事項：テキスト第 1 章（pp. 1-8）
2 回	物質の成り立ち 2 講義内容：(a)原子の安定化と化学結合；(b)イオンとイオン結合；(c)分子と共有結合；(d)配位結合 予習・復習事項：テキスト第 1 章（pp. 9-13）
3 回	物質の成り立ち 3 講義内容：(a)分子の極性と電気陰性度；(b)水素結合 予習・復習事項：テキスト第 1 章（pp. 14-17）
4 回	物質の変化 1 講義内容：(a)化学量（原子量、分子量、式量）；(b)物質量（モル） 予習・復習事項：テキスト第 2 章（pp. 19-24）
5 回	物質の変化 2 講義内容：(a)中和反応；(b)酸化還元反応 予習・復習事項：テキスト第 2 章（pp. 25-30）
6 回	物質の変化 3 講義内容：(a)反応熱と熱化学方程式；(b)反応速度；(c)可逆反応と化学平衡 予習・復習事項：テキスト第 2 章（pp. 31-44）
7 回	物質の状態と性質 1 講義内容：(a)物質の三態；(b)溶質と溶媒；(c)溶解度；(d)溶液の濃度 予習・復習事項：テキスト第 3 章（pp. 45-57）
8 回	物質の状態と性質 2 講義内容：(a)電解質と非電解質；(b)浸透圧；(c)酸・塩基と pH 予習・復習事項：テキスト第 3 章（pp. 58-70）

9 回	物質の状態と性質 3 講義内容：(a)中和滴定と酸・塩基濃度；(b)緩衝液と緩衝作用；(c)コロイド溶液 予習・復習事項：テキスト第 3 章（pp. 70-84）
10 回	身近な有機化合物 1 講義内容：(a)官能基；(b)炭素の価標と結合の種類；(c)炭化水素の性質と反応 予習・復習事項：テキスト第 4 章（pp. 85-100）
11 回	身近な有機化合物 2 講義内容：(a)アルコールの性質と反応；(b)有機酸の性質と反応；(c)エステル 予習・復習事項：テキスト第 4 章（pp. 101-114）
12 回	身近な有機化合物 3 講義内容：(a)アミンの性質と反応；(b)アミドとペプチド；(c)異性体 予習・復習事項：テキスト第 4 章（pp. 115-128）
13 回	食品に見る生体物質 1 講義内容：(a)糖質；(b)脂質 予習・復習事項：テキスト第 5 章（pp. 129-141）
14 回	食品に見る生体物質 2 講義内容：(a)タンパク質・アミノ酸；(b)酵素 予習・復習事項：テキスト第 5 章（pp. 142-152）
15 回	食品に見る生体物質 3 講義内容：(a)ヌクレオチドと核酸；(b)ビタミン；(c)ミネラル 予習・復習事項：テキスト第 5 章（pp. 153-164）

令　和　2　年　度　教　育　計　画							
科目名	基礎生物学	授業回数	15	単位数	2	担当教員	清水　憲二

質問受付の方法（質問票、e-mail,オフィスアワー等）：シャトルカード、shimizu@owc.ac.jp　、オフィスアワー：在室時はいつでも対応するが、特に月曜日午前10時～12時が望ましい。

教育目標と学生の学習成果

教育目標：

最初にヒトの設計図である遺伝子と、身体の構成単位である細胞の構造および機能を理解する。それを基礎にして，組織、器官の成り立ちと働き、栄養素の代謝、ホメオスタシス機構、遺伝の機構、等を学ぶことにより，生命現象を学ぶ楽しさを知り，栄養科学の基本となる医学生物学的な知識と考え方を習得する。必要に応じて、疾患についても触れる。

学生の学習成果：

管理栄養士となるために必要な教科を学ぶ上で基本となる生命科学を理解した上で，それらの機構を具体的に説明できる。いくつかの代表的な生命現象を例にとり，機能発現のために，様々な遺伝子、細胞、組織、器官が連携して働いていることが理解できる。

教育方法

授業の進め方

（講義・演習・実験・実習・実技）

勉学の基本はノート作りである。最初にノートの作り方を指導した後，講義はテキストを中心に、プリントを併用して進める。高等学校で生物を履修していない学生にも十分理解できるように，時には中学レベルまでさかのぼって，複雑な生命現象の理解を助ける。　講義に際しては、シャトルカードで毎回質問を提出してもらい、翌週にそれらの回答プリントを配布して、個人毎の疑問に答える。定期試験以外にも予習、復習についての小テストを適宜行ない、知識の自己点検と予習、復習の評価を行なう。

予習・復習

予習：シラバスまたは講義の進捗状況に従って，テキストの予定講義範囲を読んでおき、予習復習の小テストに備えるほか、シャトルカードに記入する質問を自力で発見して記録しておく。

講義中：自らの手を動かし，ノートを作成するのが受講の基本である。予習および講義中に疑問点を発見したら、必ずシャトルカードに質問として提出する！

復習：講義があった日は，必ず教科書の該当部分を読み直して，予習復習の小テストに備える。また、シャトルカードの質問箱回答プリントを熟読し、他の学生の質問とその回答も含めて、ノートを完全にしておく。

テキスト

○木下、小林、浅賀　編（2010）「ZEROからの生命科学」第４版、南山堂、2,400円＋税

この教科書が前期で終了しなかった場合は、後期の解剖生理学Ⅰでもテキストの一つとして使用する。

学習評価の方法

学期中に行なう小テストは自己評価を主な目的とするが、毎日の予習復習を正確に反映するので、成績評価にも10%程度勘案する。

試験期間中に期末試験を行う（80～85点満点）

注意事項

参考図書：

○坂井建雄，岡田隆夫　監訳（2005）「ヒューマンバイオロジー」医学書院

（わかりやすい画像が多数あり，理解する上に役立つ。図書館に準備する。）

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1回	オリエンテーション：シラバスの説明。特に注意すること；(真の学問とは：問いを発見することの重要性）初講試験（学力確認）生命科学における基本的な化学と生物学の復習。 生命の根本原理： 遺伝子を中心としたセントラル・ドグマが生命の基本原理であることを理解する。 細胞の働きと多様性： ヒトの体は多種類の細胞で構成され，それにより生命活動を維持している。多種類の細胞の存在理由を理解し，生命活動を維持する分子・細胞・組織・器官・器官系のアウトラインを知る。また、生命界でのエネルギー、物質、情報の流れを把握する。
2回	初講試験の解説と補足講義 細胞の基本構造とその機能： 原核細胞と真核細胞の違い、細胞膜、核、細胞内小器官の構造と機能を理解する。 細胞、とりわけ細胞内小器官の構造と機能は国家試験でも重要な単元である。 特に、元来は別の生命であったミトコンドリアや葉緑体の役割を確認する。
3回	細胞骨格と細胞運動： 細胞の移動，細胞内の輸送，細胞の形態維持と形態変化、細胞間相互作用等を担う細胞骨格およびモータータンパク質の構造と機能を理解する。
4回	細胞周期と細胞分裂： 細胞の一生（細胞分裂で生じた娘細胞が再び母細胞となって細胞分裂を行い，新しい娘細胞を作るまでの過程)、特に染色体を均等に分配する有糸分裂の機構を理解し，併せて，成人の体内の至る所に幹細胞が存在することを知る。
5回	多細胞生命体と器官系： 細胞が集まってできる４種の組織、上皮組織，支持組織，筋組織と神経組織を構成する細胞と細胞間物質の構造および機能を理解し，これら 4 種類の組織が連合して様々な器官が形成されていることを知る。さらに、脳、心臓、血液、肝臓、腎臓、皮膚などの代表的器官について、その構造と機能の概要を学ぶ。
6回	細胞の分化、器官の形成、生命の老化： 配偶子形成から個体の発生機構、細胞間相互作用、幹細胞など、器官系の形成機構を理解する。
7回	生命体を構成する物質： 水とミネラル、タンパク質、糖質、脂質、核酸などの種類、構造、機能の基本を理解する。
8回	消化と吸収 消化器系を例にとり，一つの器官系を構成する多数の器官がそれぞれ独自の働きをして，器官系の共通の目的のために働いていることを知る。あわせて，消化器系の各器官と門脈の機能を理解する。

9 回	生体における物質代謝（1）: 酵素とビタミン、糖質代謝、アミノ酸とタンパク質の代謝を理解する。
10 回	生体における物質代謝（2）: 脂質代謝、ヌクレオチド代謝を理解する。
11 回	遺伝子の複製と発現（1）: メンデル遺伝、遺伝子の実体、DNA の複製、テロメア伸長などの機構を理解する。
12 回	遺伝子の複製と発現（2）: 遺伝情報の転写、翻訳、発現調節、遺伝子の修復、変異、発癌等の機構を理解する。
13 回	ホメオスタシス（内分泌系）: ホルモンの種類と産生細胞および標的細胞との関連を知る。次いで，膵臓と肝臓、腎臓との連係プレーを例にとり，血中の糖濃度や血圧の制御のメカニズムを理解する。更に、最近注目されている消化管ホルモンについて学ぶ。ここで中間試験を行なう。
14 回	ホメオスタシス（神経による調節）: 内分泌と連動した神経系による恒常性の維持機構を学ぶ。また、糖尿病や神経疾患、体温調節機構や消化器調節機構についても理解を深める。
15 回	生体防御・免疫系： 外敵から身を守る免疫機構とその反作用としてのアレルギーについて、分子機構や臨床応用、さらに自己免疫疾患について学ぶ。

<table>
<tr><td colspan="8">令　和　２　年　度　教　育　計　画</td></tr>
<tr><td>科目名</td><td>情報リテラシーⅠ</td><td>授業回数</td><td>15</td><td>単位数</td><td>２</td><td>担当教員</td><td>原田博史</td></tr>
<tr><td colspan="8">質問受付の方法：M棟１階事務室で「随時」受け付ける</td></tr>
<tr><td>教育目標と学生の学習成果</td><td colspan="7">教育目標：
AI に代表される技術革新の進歩や IoT の広がり、世界のグローバル化や流動化など、日本社会や世界の状況に対応できる管理栄養士を養成するために、①コンピュータの基礎、②情報の形態と収集の方法、③インターネットの仕組と Web システム、④情報の伝達、⑤セキュリティーと法令遵守及び⑥ICT 活用の問題解決について学ぶ。

学生の学習成果：
教育目標に記載した①～⑥の専門的学習成果と情報リテラシー・数量的スキルを授業をとおして獲得する。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">教育方法</td><td>授業の進め方</td><td colspan="6">（講義・演習・実験・実習・実技）
テキストの第１章から第４章、第９章、第 10 章を 15 回の講義と演習をする。</td></tr>
<tr><td>予習・復習</td><td colspan="6">テキストにより授業内容を復習し、次回のシラバスの授業計画をテキストで予習すること。</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="6">改訂新版　よくわかる情報リテラシー　岡本敏雄監修　技術評論社</td></tr>
<tr><td>学習評価の方法</td><td colspan="7">課題 50 点、定期試験 50 点の 100 点満点で評価する。
ただし、授業回毎に、授業態度により 1 点から 3 点の間で減点をする。
1 点減点の場合：私語の注意をしても私語を止めない場合。
2 点減点の場合：睡眠の注意をしても睡眠を止めない場合。
3 点減点の場合：受講態度の注意をしても受講態度を正さない場合。</td></tr>
<tr><td>注意事項</td><td colspan="7">参考図書:
学生のための思考力・判断力・表現力が身に付く情報リテラシー　FOM 出版</td></tr>
</table>

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	オリエンテーション：シラバスの説明 〇現在の情報リテラシー能力の調査用紙の記入 第1章　コンピュータの基礎 ハードェアとソフトウェア 　コンピュータの仕組み 　　1. 身の回りのコンピュータ　2. コンピュータの機能と仕組み　3. コンピュータでの情報の表し方 周辺機器とインターフェイス 　　1. コンピュータとインターフェイス　2. いろいろな周辺機器
2 回	第1章　コンピュータの基礎 ソフトウェア 　オペレーティング・システムの機能と仕組み 　　1. OSの働き　2. パーソナルコンピュータ以外のOS 　アプリケーションソフトの機能と仕組み 1.Web ブラウザ　2.電子メール　3.オフィス・スイート　4.リアルタイムコミュニケーションソフト　5.メディア・プレーヤ 情報システム 　情報システムの種類と機能 　　1. 勘定系システム　2. POS システム　3. 住民基本台帳ネットワーク　4. 地理情報システム　5. 図書館システム　6. e ラーニングシステム
3 回	ネットワークの機能と仕組み 1. ネットワークとは　2. ネットワークの機能　3. ネットワークの構成　4. ネットワークを構成する機器　5. ネットワークでのコンピュータの接続方法　6. ネットワークで情報を通信する際の約束事：プロトコル情報の形態
4 回	第 2 章　情報の形態と収集の方法 　文書情報 　　1. 文字コード　2. 文書の構造とコンピュータ 　音声情報 　　1. 音声情報のデジタル化　2. 音声のデジタル化の例　3. 音声データの圧縮 　画像情報 　　1. 静止画　2. 動画 情報蓄積の形態 　コンピュータと OS 　インターネットとプロトコル 　クラウドと仮想化 クラウド環境の情報 　クラウド環境の仕組みとメリット 　クラウド環境のデメリットと問題点

5 回	検索エンジン 　ディレクトリ型 　ロボット型 情報収集の技術 　文書情報の検索技術 　　1.文書の要約技術　2.文書間の依存関係表示 　音声情報と画像情報の検索技術 　　1.音声認識技術　2.画像認識技術 情報収集の応用 　面情報収集の効用 　情報収集の問題点 　　1.情報収集の三つの問題点　2.情報を収集するときのポイント
6 回	第3章　インターネットの仕組みとWebシステム インターネットの概要 　インターネットとは 　インターネットの性質 通信機能の階層化 　階層化のイメージ 　インターネットにおける通信機能の階層化 IPアドレスの仕組み 　IPアドレス(IPv4)の構造 　IPアドレスとネットワーク 　グローバルIPアドレスとプライベートIPアドレス 　IPアドレスを自動的に割り当てる仕組み
7 回	パケット通信の仕組み 　パケットとは 　パケット通信の利点 　パケットのカプセル化 通信の経路を選ぶ仕組み 　経路制御とルータ 　経路制御の例 　ルーティングテーブル データを確実に送り届ける仕組みと素早く送り届ける仕組み 　データを確実に送り届けるTCP 　高速な通信を行うUDP 　ポート番号 アプリケーション層のプロトコル 　アプリケーション層のプロトコルの具体例 　名前解決(DNS)の仕組み

8 回	直接接続する機器の通信 　プロトコル層の最下位の部分 イーサネット 無線 LAN Web アプリケーションの仕組み 　Web アプリケーションの基本的な仕組み 　ユーザ ID とパスワードを共通化する仕組み 　外部のサイトの機能を組み合わせる仕組み 　　1.Web API　2.マッシュアップ クラウドコンピューティング 　クラウドコンピューティングによるサービス 　クラウドコンピューティングの利点と課題 小テスト
9 回	第 4 章　情報の伝達 ソーシャルネットワーキングサービス 　ソーシャルネットワーキングサービスとは 　ソーシャルネットワーキングサービスの仕組み 　ソーシャルネットワーキングサービスの利用 　　1.Facebook　Facebook へのアクセスと登録　Facebook の利用 　　2.TwitterTwitter へのアクセスと登録　つぶやぎの投稿　他のユーザをフォロー ブログ 　ブログとは 　ブログの仕組み 　プログの利用　プロクへのアクセスと登録　プログの利用 電子掲示板 　電子掲示板とは 　電子掲示板の仕組み 　電子掲示板の利用　電子掲示板へのアクセスと利用　電子掲示板への投稿
10 回	電子メール 　電子メールの仕組み 　　1 電子メールとメールサーバ　2 メールアドレス　3 メールの構成　4 メーラ 　電子メールの利用　Gmall 使用のための Google アカウントの取得　メールの作成と送信 　メールの受信 ソーシャルメディア 　ソーシャルメディアとは 　さまざまなソーシャルメディア 　レコメンドシステム 　インターネットサービスの発展とソーシャルメディア 電子書籍 　電子書籍とは 　電子書籍の仕組みと利用

11 回	第 9 章　セキュリティと法令順守 情報セキュリティ 　情報セキュリティとは 　情報漏えいの落とし穴 　　1. 情報漏えいの原因　2. 漏えいされている個人情報　3. 情報漏えい対策における 10 の落とし穴 情報漏えい対策法 　ウイルス/スパイウェアの侵入とその経路 　　1. どこから侵入してくるか?　2. どういう悪さをするか?　3. どんな環境が侵入されやすいか? 　クライアント/サーバ/ネットワーク対策 　不正侵入に対する対策法 　　1. ポート・スキャンによるシステム調査　2. アクセス権を取得　3. システムの変更
12 回	インターネット社会の特性 　インターネット社会 　架空請求 　ネットいじめ 　スパムメール 　商品やサービス販売を装った詐欺 情報社会の法令 　情報モラルとは 　個人情報 　知的財産権 　　1. 産業財産権　2. 著作権　3. その他 デジタルコミュ=ケーション 　ネットワーク上のモラルとマナー 　情報の信頼性や信憑性 　情報発信者の責任と相手への配慮
13 回	第 10 章　ICT 活用の問題解決 問題解決の基本的手順と ICT の役割 　問題解決とは何か 　問題解決の基本的な手順 　問題解決におけるコンピュータの役割 　問題解決と情報通信ネットワークの役割 情報を客観的にとらえる 　数値データを視覚化する 　統計的手段を利用して評価する 　2 つの要素の間の関連性を評価する

14 回	インターネットを利用した情報発信 　インターネットには国境がない 　個人による情報発信 　ナレッジ・コミュニティの利用 　ソーシャルメディアの活用 問題解決におけるシミュレーションの利用 　シミュレーションとコンピュータ 　携帯電話の料金を安く上げる 　肥満度(BMI)をチェックして適正体重を見つける 　旅行計画の予算を検討する
15 回	まとめ

<table>
<tr><td colspan="8">令　和　２年　度　教　育　計　画</td></tr>
<tr><td>科目名</td><td>情報リテラシーⅡ</td><td>授業回数</td><td>15</td><td>単位数</td><td>1</td><td>担当教員</td><td>原田博史</td></tr>
<tr><td colspan="8">質問受付の方法：M棟１階事務室で「随時」受け付ける</td></tr>
<tr><td>教育目標と学生の学習成果</td><td colspan="7">教育目標：
AI に代表される技術革新の進歩や IoT の広がり、世界のグローバル化や流動化など、日本社会や世界の状況に対応できる管理栄養士を養成するために、①レポートの作成と編集、②情報の活用及び③プレゼンテーションの方法について学び、思考力、判断力、表現力を身に付ける情報リテラシーを演習する。

学生の学習成果：
教育目標に記載した①～③の専門的学習成果と自己表現力・論理的思考力・情報リテラシー・数量的スキルを授業とおして獲得する。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">教育方法</td><td>授業の進め方</td><td colspan="6">（講義・演習・実験・実習・実技）
テキストを 15 回で演習する。</td></tr>
<tr><td>予習・復習</td><td colspan="6">テキストにより授業内容を復習し、次回のシラバスの授業計画をテキストで予習すること。</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="6">学生のための思考力・判断力・表現力が身に付く情報リテラシー　FOM 出版</td></tr>
<tr><td>学習評価の方法</td><td colspan="7">課題 50 点、定期試験 50 点の合計 100 点満点で評価する。
ただし、授業回毎に、授業態度により 1 点から 3 点の間で減点をする。
1 点減点の場合：私語の注意をしても私語を止めない場合。
2 点減点の場合：睡眠の注意をしても睡眠を止めない場合。
3 点減点の場合：受講態度の注意をしても受講態度を正さない場合。</td></tr>
<tr><td>注意事項</td><td colspan="7">参考図書:
情報リテラシーⅠのテキスト「改訂新版　よくわかる情報リテラシー　岡本敏雄監修　技術評論社」第５章、第６章、第９章、第８章</td></tr>
</table>

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	オリエンテーション レポートの作成と編集 レポートの型について理解し、その違いを説明できる。 感想文の特性を理解し、レポートとの違いを説明できる。 論文の特性を理解し、レポートとの違いを説明できる。
2 回	レポートの作成と編集 レポート作成の基本的な流れを理解し、手順を説明できる。 情報収集の必要性を理解し、説明できる。 情報収集の具体的な方法を理解し、説明できる。
3 回	レポートの作成と編集 収集した情報を引用する際の記載方法を理解し、説明できる。 文献リストの記載方法を理解し、説明できる。
4 回	レポートの作成と編集 レポートを構成する基本要素を理解し、章立てを考えることができる。 レポートの文体のルールを理解し、説明できる。 わかりやすい文章を書くためのポイントを理解し、説明できる。
5 回	レポートの作成と編集 メリハリのある構成にするためのポイントを理解し、説明できる。 提出するために必要なレポートの体裁を理解し、説明できる。 レポート作成に便利な Word の機能について理解し、実際に操作できる。
6 回	情報の活用 データとは何かについて理解し、説明できる。 定量データと定性データの違いを理解し、説明できる。 データ活用の流れを理解し、説明できる。
7 回	情報の活用 並べ替えやグループ化の特徴を理解し、説明できる。 計算の種類や特徴を理解し、説明できる。 集計の種類や特徴を理解し、説明できる。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
8 回	情報の活用 グラフを使って、データを視覚化する利点を理解し、説明できる。 数値を比較するのに適したグラフの種類を理解し、説明できる。
9 回	情報の活用 推移を見るのに適したグラフの種類を理解し、説明できる。 比率を見るのに適したグラフの種類を理解し、説明できる。 分布を見るのに適したグラフの種類を理解し、説明できる。
10 回	情報の活用 バランスを見るのに適したグラフの種類を理解し、説明できる。 グラフの効果的な表現方法を理解し、説明できる。 データ活用に便利な ExceL の機能について理解し、実際に操作できる。
11 回	プレゼンテーションの方法 プレゼンテーションとは何かについて理解し、説明できる。 プレゼンテーションの実施形式を理解し、説明できる。 プレゼンテーションの基本的な流れを理解し、説明できる。
12 回	プレゼンテーションの方法 プレゼンテーションのストーリーの組み立て方のポイントを理解し、説明できる。 プレゼンテーション資料を作成する際のポイントを理解し、説明できる。
13 回	プレゼンテーションの方法 箇条書きによる表現方法を理解し、発表資料の訴求力を高める工夫ができる。 表よる表現方法を理解し、発表資料の訴求力を高める工夫ができる。 グラフよる表現方法を理解し、発表資料の訴求力を高める工夫ができる。
14 回	プレゼンテーションの方法 画像による表現方法を理解し、発表資料の訴求力を高める工夫ができる。 図解よる表現方法を理解し、発表資料の訴求力を高める工夫ができる。 色による表現方法を理解し、発表資料の訴求力を高める工夫ができる。
15 回	プレゼンテーションの方法 リハーサルの必要性やリハーサルの手順を理解し、説明できる。 発表の流れを理解し、説明できる。 配布資料を作成する際の注意点を理解し、説明できる。 資料作成に便利な PowerPoint の機能について理解し、実際に操作できる。

令　和　2　年　度　教　育　計　画							
科目名	教養演習Ⅰ	授業回数	15	単位数	2	担当教員	竹原良記、原田博史、宮崎正博、藤坂圭子、尾崎　聡、福野裕美、中原眞由美
質問受付の方法(e-mail、オフィスアワー等):随時、研究室で受け付ける							

教育目標と学生の学習成果		教育目標: 大学生活に適応し、学習意欲を向上させ、主体的に学ぶための基礎的なスキルを修得し、社会人・管理栄養士となるために必要な基盤を形成することを目標とする。具体的には、①大学生活に適応する能力を育む、②大学生として望まれる学習方法、学習姿勢を涵養する、③論理的思考力・表現力の育成のため、大学で学習する上で必要な計算能力、文章作成能力および献立作成能力を養う。 学生の学習成果: 汎用的学習成果:本授業の学習により、学生としての態度、信念、意見および責任を果たすために必要な倫理観、自己管理能力を獲得する。
教育方法	授業の進め方	(　講義・演習・実験・実習・実技　) ・学科の専任教員または兼任教員によるオムニバス授業として進める。 ・授業は教員よる講義と演習を組み合わせて進めるが、特に演習時間を多く設ける。 ・授業終了後に、教員はレポート提出を課する場合がある。 ・授業終了時に「シャトルカード」に授業内容についての質問、感想等の記入を求める。その質問に答え、また、コメントを記載して次回の授業で返却する。 ・「シャトルカード」により、学習進行状況を逐次確認し、改善しながら進める。
	予習・復習	予習事項:授業前に、授業回数別教育内容に記載された学習をする。 復習事項:毎授業後に、ノートおよび配布プリントを整理して授業内容を理解する。
	テキスト	・使用しない。適宜資料を配布する。
学習評価の方法		以下に示す学習成果について、その獲得度合を量的に評価する。 ①望ましい学生生活の在り方を理解している。 ②大学生として必要な学習方法、学習姿勢を理解している。 ③大学で学習する上で必要な計算能力や文章作成能力を発揮でき、献立作成に慣れている。 学習評価は、受講態度およびレポートの結果を総合して行う。評価の割合は、受講態度 40 点、レポートまたは小テスト 60 点とする。
注意事項		【参考図書】 特に、指定しない。

火曜日　3 限目　A203

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回 4/14 (火)	・オリエンテーション。シラバスに記載された内容を理解する。(担当:竹原・原田) 【大学生活への適応】 「学長の話」(学生便覧持参) 復習:授業内容を振り返る。
2 回 4/21 (火)	【学習方法、学習姿勢の育成】(担当:宮崎) (1) 教員の講義により、「大学の授業は？」「授業タイプ別のノートの取り方」「ノートの取り方対策」の3点について理解する。 (2) 講義による学習成果等について記述する(課題提出)。 復習:授業内容を振り返り、ノートを作る。
3 回 4/28 (火)	【大学生活への適応】(担当:藤坂) 教員の講義により、「望ましい学生生活の在り方」を理解する。 「心の健康」をテーマとする。 復習:授業内容を振り返る。
4 回 4/30 (木) 1 限 目	【大学生活への適応】(担当:尾崎) 教員の講義により、「望ましい学生生活の在り方」を理解する。 「学生の社会モラル」をテーマとする。 復習:授業内容を振り返る。
5 回 5/12 (火)	【大学生活への適応】(担当:竹原) 情報サイトの利用について(1) 情報社会の問題点:情報格差と情報テロ 復習:授業内容を振り返る。
6回 5/19 (火)	【大学生活への適応】(担当:竹原) 情報サイトの利用について(2) 就活サイトを利用した性格診断 復習:授業内容を振り返りる。
7 回 5/26 (火)	【論理的思考力・表現力の育成】(担当:福野) 文章作成能力の育成(1) 文章を作成したり、理解したりする上で必要な「3つの力」を理解しグループワークを行う。 復習:授業内容を振り返り、ノートを作る。
8 回 6/2 (火)	【論理的思考力・表現力の育成】(担当:福野) 文章作成能力の育成(2) 文章を作成する上で必要な抽象化と具体化の概念を理解し、グループワークを行う。 予習:配付資料を読む。 復習:授業内容を振り返り、ノートを作る。

9回 6/9 (火)	【論理的思考力・表現力の育成】(担当:福野) 文章作成能力の育成(3) 前回と前々回の授業で身につけた力を使って、練習問題に取り組む(試験実施)。 予習:配付資料を読む。 復習:授業内容を振り返り、ノートを作る。
10 回 6/16 (火)	【献立作成能力の育成】(担当:中原) 献立作成が得意になる方法に関する授業―1　食材別料理集・電卓持参 復習:授業内容を振り返り、ノートを作る。
11 回 6/23 (火)	【献立作成能力の育成】(担当:中原) 献立作成が得意になる方法に関する授業―2　食材別料理集・電卓持参 復習:授業内容を振り返り、ノートを作る。
12 回 7/7 (火)	【論理的思考力・表現力の育成】(担当:竹原) 文章作成能力の育成(4) 仮想実験データについてのレポートを作る－1 復習:授業内容を振り返り、ノートを作る。
13 回 7/14 (火)	【論理的思考力・表現力の育成】(担当:竹原) 文章作成能力の育成(5) 仮想実験データについてのレポートを作る－2 予習:レポートを作る 復習:授業内容を振り返り、ノートを作る。
14 回 7/21 (火)	【論理的思考力・表現力の育成】(担当:竹原) 文章作成能力の育成(6) 仮想実験データについてのレポートを作る・課題提出－3 予習:レポートの書式をそろえる 復習:授業内容を振り返り、ノートを作る。
15 回 7/28 (火)	・教養演習Ｉで学んだことについてまとめる。(担当:竹原)

<table>
<tr><td colspan="8">令　和　２年　　度　　教　　育　　計　　画</td></tr>
<tr><td>科目名</td><td>教養演習Ⅱ</td><td>授業回数</td><td>15</td><td>単位数</td><td>2</td><td>担当教員</td><td>竹原良記、宮﨑正博、内田雅子、高槻悦子、平野　聡、次田隆志、佐藤幸枝、清水憲二、中原眞由美</td></tr>
<tr><td colspan="8">質問受付の方法（e-mail、オフィスアワー等）：随時、研究室で受け付ける</td></tr>
<tr><td>教育目標と学生の学習成果</td><td colspan="7">教育目標：
管理栄養士の道への導入教育として、①栄養専門職としての管理栄養士のあるべきすがた、②栄養学・栄養士発展の歴史、③地球レベルでの栄養の課題と取り組み、④現代医学と生活習慣病の概要、⑤生命の尊厳と生命倫理観を理解する。また、第一線で活躍する管理栄養士の講演、管理栄養士の職場訪問を通して、近い将来の管理栄養士をめざす学生が、管理栄養士に求められる役割「ヒトの健康の維持・増進および生活の質の向上への貢献」を理解し、その高い使命感を培うことを目的とする。
学生の学習成果：
専門的学習成果：教育目標に掲げる5点に関する知識、態度、能力を獲得する。
汎用的学習成果：本科目の学習により、社会人・管理栄養士としての態度、信念、意見および責任を果たすために必要な倫理観、自己管理能力を獲得する。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">教育方法</td><td>授業の進め方</td><td colspan="6">（ 講義・演習・実験・実習・実技 ）
・学科の専任教員によるオムニバス授業として進める。
・授業は教員および外部講師による講義と演習、また、管理栄養士の職場訪問を組み合わせて進めるが、特に演習時間を多く設けている。
・授業終了時に「シャトルカード」に授業内容についての質問、感想等の記入を求める。その質問に答え、また、コメントを記載して次回の授業で返却する。
・「シャトルカード」により、学習進行状況を逐次確認し、改善しながら進める。
・小テストおよび学習成果を記述したレポートの提出を求めることがある。</td></tr>
<tr><td>予習・復習</td><td colspan="6">予習事項：授業前に、授業回数別教育内容に記載された学習内容について予習をする。テキストは必ず音読すること。
復習事項：毎授業後に、ノートおよび配布プリントを整理して授業内容を理解する。</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="6">・管理栄養士養成課程におけるモデルコアカリキュラム準拠
導入教育-信頼される専門職となるために-
特定非営利活動法人日本栄養改善学会　監修
医歯薬出版株式会社　　定価 2000 円（税別）　2015 年</td></tr>
<tr><td>学習評価の方法</td><td colspan="7">学習成果：以下の項目について、その獲得度合を量的に評価する。
①栄養専門職としての管理栄養士のあるべきすがた、②栄養学・栄養士発展の歴史、③地球レベルでの栄養の課題と取り組み、④現代医学と生活習慣病の概要、⑤生命の尊厳と生命倫理観について理解している。また、⑥管理栄養士に求められる役割「ヒトの健康の維持・増進および生活の質の向上への貢献」を理解し、その高い使命感を獲得しているかを評価する。
学習評価は、小テストおよびレポートの結果を総合して行う。評価の割合は、小テスト 80 点、レポート 20 点とする。</td></tr>
</table>

注意事項	【参考図書】 特に、指定しない。

授業回数別教育内容	
1回	オリエンテーション:授業の進め方(担当:竹原) 「栄養専門職としての管理栄養士のすがた」 ・栄養学・栄養士発展の歴史 テキスト「導入教育」第 2 章(pp.29-51) 復習:授業内容を振り返る。
2回	「栄養専門職としての管理栄養士のすがた」(担当:宮﨑) ・食べ物・食生活・健康を考える 予習:テキスト「導入教育」第 1 章(pp.3-9) 復習:授業内容を振り返る。
3回	「栄養専門職としての管理栄養士のすがた」(担当:内田) ・法令に定められた管理栄養士の役割と業務 ・管理栄養士の使命と役割・関連職種との関わり 予習:テキスト「導入教育」第 1 章(pp.9-28) 復習:授業内容を振り返る。
4回	「栄養専門職としての管理栄養士のすがた」(担当:高槻) ・地球レベルでの栄養の課題と取り組み 予習:テキスト「導入教育」第 3 章(pp.53-66) 復習:授業内容を振り返る。
5回	「現代医学と生活習慣病」(担当:平野) ・現代医学がめざしている方向と現状 予習:テキスト「導入教育」第 4 章(pp.67-71) 復習:授業内容を振り返る。
6回	「現代医学と生活習慣病」その2(担当:平野) ・現代医学における健康の維持・増進、病気の予防・治療 予習:テキスト「導入教育」第 4 章(pp.71-89)を音読する。 復習:授業内容を振り返る。
7回	「生命の尊厳と生命倫理観」(担当:次田) ・生命の倫理 予習:テキスト「導入教育」第 5 章(pp.93-103)を音読する。 復習:授業内容を振り返る。
8回	「福祉施設における管理栄養士の役割」(担当:高槻) ・福祉施設の管理栄養士による話(外部講師1) 予習:配布資料を読んでおく。 復習:授業内容を振り返る。

9 ・ 10 回	「福祉施設における管理栄養士の役割」(担当:中原、宮崎、竹原、佐藤、内田) ・福祉施設の見学 ・管理栄養士の職場見学と管理栄養士による現場の話のまとめ討論 予習:配布資料を読んでおく。 復習:授業内容を振り返る。
11 回	「生命の尊厳と生命倫理観」と「福祉施設における管理栄養士の役割」(担当:清水) ・職業倫理と研究倫理 予習:テキスト「導入教育」第 5 章(pp.103-124)を音読する。 復習:授業内容を振り返る。
12 回	臨地実習に向けての話(その1)(担当:平野) ・病院管理栄養士の役割(外部講師2) 復習:授業内容を振り返る。
13 回	臨地実習に向けての話(その2)(担当:佐藤・高槻) 給食経営管理臨地実習 公衆栄養学臨地実習 復習:授業内容を振り返る。
14 回	臨地実習に向けての話(その3)(担当:平野) 臨床栄養学臨地実習 復習:授業内容を振り返る。
15 回	教養演習Ⅱまとめ(担当:竹原) まとめと討論 ・小テスト

令　和　２　年　　度　　教　　育　　計　　画							
科目名	英語Ⅰ	授業回数	15	単位数	2	担当教員	濵田 佐保子
質問受付：オフィスアワー:月曜日１限、　研究室: M509,　e-mail: sahoko@owc.ac.jp							

教育目標と学生の学習成果		教育目標：読むことを基盤として英語の総合力を向上させ、異文化に親しむことを目標とする。そのために、語彙、基本的な文法、構文把握を強化する。またペアやグループ活動を通して、英語で意思疎通を行う力を養う。さらに、食物栄養関連の英語にも親しむ。 学生の学習成果： 専門的学習成果：大学初級レベルの英文の文法、基本構造を正しく理解でき、的確な内容把握ができる。異文化への理解を深めることができる。また、簡単な内容について、英語で意思疎通ができる。さらに食物栄養関連の英語に親しむことができる。 汎用的学習成果：自己管理力と人間関係力（自己表現、他者理解、問題解決）を涵養する。
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） 1 Read: 英文を発音し、ポイントとなる文法事項、構文に留意して、和訳を発表してもらう。→解説する。 2 Find the Words, Comprehension: 本文についての語彙と内容理解の問題を行う。 3 Incomplete Sentences ： 文法問題を行う。 （1～3 までの予習を前提として授業を行う） 4 語彙のまとめを行う。 5 ペアやグループでコミュニケーション活動を行う。食物栄養に関する内容も入れる。
	予習・復習	毎回の授業に対して、予習・復習が義務付けられる。 英語学習では、予習として自ら和訳を試み、練習問題を解いてみることが力となり、復習として反復練習が欠かせない。
	テキスト	・Terry O’Brien 他、2010、*The UK and the USA: Compare and Contrast*、南雲堂、 ・　プリント教材
成績評価の方法		1. 復習テスト：40 点(100 点満点×0.4) 2. 定期テスト：40 点（100 点満点×0.4) 3. 予習・授業での取り組みなど（提出物を含む）： 10 点 4.　ペア・ グループ活動：10 点 ・忘れ物は、1 回につき 0.5 点減点 ・受講態度などに問題がある学生には注意指導を行うが、改善が見られない場合は倫理観が十分でないとして、1 件につき 1 点減点する。
注意事項		参考図書 「基礎からよくわかる英文法」綿貫陽、旺文社、２００２年、

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	オリエンテーション ・授業の目標、進め方、単位認定方法 ・英語の学習方法 ・英語での自己紹介
2 回	Unit 1　British History イギリスの歴史についての英文を題材として英語力を養う。 コミュニケーション活動 予習：辞書を使用してわからない単語を調べ、本文を和訳する。どの部分が理解できないかを明らかにしておく。練習問題を解いておく。 復習：和訳、練習問題において間違えた部分を中心に復習する。語彙を暗記する。
3 回	Unit 2　British History イギリスの歴史についての英文を題材として英語力を養う。 コミュニケーション活動 予習：辞書を使用してわからない単語を調べ、本文を和訳する。どの部分が理解できないかを明らかにしておく。練習問題を解いておく。 復習：和訳、練習問題において間違えた部分を中心に復習する。語彙を暗記する。
4 回	Unit 4　The Elephant and the Mouse アメリカとイギリスの地理の違いを題材として英語力を養う。 コミュニケーション活動 予習：辞書を使用してわからない単語を調べ、本文を和訳する。どの部分が理解できないかを明らかにしておく。練習問題を解いておく。 復習：和訳、練習問題において間違えた部分を中心に復習する。語彙を暗記する。
5 回	Unit 4　The Elephant and the Mouse　アメリカとイギリスの地理の違いを題材として英語力を養う。 コミュニケーション活動 予習：辞書を使用してわからない単語を調べ、本文を和訳する。どの部分が理解できないかを明らかにしておく。練習問題を解いておく。 復習：和訳、練習問題において間違えた部分を中心に復習する。語彙を暗記する。
6 回	Unit 7　Rain in the UK　雨の多いイギリスの天気を題材として英語力を養う。 復習テストの範囲の語彙の確認 予習：辞書を使用してわからない単語を調べ、本文を和訳する。どの部分が理解できないかを明らかにしておく。練習問題を解いておく。 復習：和訳、練習問題において間違えた部分を中心に復習する。語彙を暗記する。
7 回	Unit 7　Rain in the UK　雨の多いイギリスの天気を題材として英語力を養う。 復習テストの範囲の語彙の確認 復習：第 7 回目までに学習したこと（プリント、説明したポイントも含めて)、特に間違えた問題を重点的に見直す。語彙を強化する。
8 回	第 7 回目までに学習したことの総まとめを行い、確認する。 復習テスト ノート提出 予習：辞書を使用してわからない単語を調べ、本文を和訳する。どの部分が理解できないかを明らかにしておく。練習問題を解いておく。

9 回	Unit 8　Sport　イギリスのスポーツを題材として英語力を養う。 コミュニケーション活動 予習：辞書を使用してわからない単語を調べ、本文を和訳する。どの部分が理解できないかを明らかにしておく。練習問題を解いておく。 復習：和訳、練習問題において間違えた部分を中心に復習する。語彙を暗記する。
10 回	Unit 8　Sport　イギリスのスポーツを題材として英語力を養う。 コミュニケーション活動 予習：辞書を使用してわからない単語を調べ、本文を和訳する。どの部分が理解できないかを明らかにしておく。練習問題を解いておく。 復習：和訳、練習問題において間違えた部分を中心に復習する。語彙を暗記する。
11 回	Unit 9　Universities in the UK　時代と共に変わるイギリスの大学を題材として英語力を養う。 コミュニケーション活動 予習：辞書を使用してわからない単語を調べ、本文を和訳する。どの部分が理解できないかを明らかにしておく。練習問題を解いておく。 復習：和訳、練習問題において間違えた部分を中心に復習する。語彙を暗記する。
12 回	Unit 9　Universities in the UK　時代と共に変わるイギリスの大学を題材として英語力を養う。 コミュニケーション活動 予習：辞書を使用してわからない単語を調べ、本文を和訳する。どの部分が理解できないかを明らかにしておく。練習問題を解いておく。 復習：和訳、練習問題において間違えた部分を中心に復習する。語彙を暗記する。
13 回	Unit 10　Glamour and Glitz　きらびやかな世界を題材として英語力を養う。 コミュニケーション活動 予習：辞書を使用してわからない単語を調べ、本文を和訳する。どの部分が理解できないかを明らかにしておく。練習問題を解いておく。 復習：和訳、練習問題において間違えた部分を中心に復習する。語彙を暗記する。
14 回	Unit 10　Glamour and Glitz　きらびやかな世界を題材として英語力を養う。 試験範囲の語彙の復習 予習：辞書を使用してわからない単語を調べ、本文を和訳する。どの部分が理解できないかを明らかにしておく。練習問題を解いておく。 復習：和訳、練習問題において間違えた部分を中心に復習する。語彙を暗記する。
15 回	Unit 11　Baths　お風呂を題材として英語力を養う。 試験範囲の語彙の復習 定期試験の範囲:第 9 回目から第 15 回目までに学習したこと。 学習のポイント：間違えた個所、語彙の強化を中心に十分に学習する。

令　和　２　年　　度　　教　　育　　計　　画							
科目名	英語Ⅱ	授業回数	15	単位数	2	担当教員	濵田 佐保子
質問受付の方法：オフィスアワー：月曜日１限、　研究室：M509,　e-mail：sahoko@owc.ac.jp							

教育目標と学生の学習成果		教育目標：読むことを基盤として英語の総合力を向上させ、異文化に親しむことを目標とする。そのために、語彙、基本的な文法、構文把握を強化する。またペアやグループ活動を通して、英語で意思疎通を行う力を養う。さらに、食物栄養関連の英語にも親しむ。 学生の学習成果： 専門的学習成果：大学初級レベルの英文の文法、基本構造を正しく理解でき、的確な内容把握ができる。異文化への理解を深めることができる。また、簡単な内容について、英語で意思疎通ができる。さらに食物栄養関連の英語に親しむことができる。 汎用的学習成果：自己管理力と人間関係力（自己表現、他者理解、問題解決）を涵養する。
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） 1 Read: 英文を発音し、ポイントとなる文法事項、構文に留意して、和訳を発表してもらう。→解説する。 2 Match the Words, True or False, Words and Usage: 本文についての語彙と内容理解の問題を行う。 3 Incomplete Sentences, Composition: 文章完成問題を行う。 （1～３までの予習を前提として授業を行う） 4 語彙のまとめを行う。 5 ペアやグループでコミュニケーション活動を行う。食物栄養に関する内容も入れる。
	予習・復習	・毎回の授業に対して、予習・復習が義務付けられる。 ・英語学習では、予習として自ら和訳を試み、練習問題を解いてみることが力となり、復習として反復練習が欠かせない。
	テキスト	・Terry O’Brien 他、2010、*The UK and the USA: Compare and Contrast*、南雲堂 ・　プリント教材
成績評価の方法		1. 復習テスト：40 点(100 点満点×0.4) 2. 定期テスト：40 点（100 点満点×0.4） 3. 予習・授業での取り組みなど（提出物を含む）：10 点 4. ペア・グループ活動：10 点 ・忘れ物は、1 回につき 0.5 点減点 ・受講態度などに問題がある学生には注意指導を行うが、改善が見られない場合は倫理観が十分でないとして、１件につき１点減点する。
注意事項		参考図書 「基礎からよくわかる英文法」綿貫陽、旺文社、２００２年、

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	オリエンテーション ・授業の目標、進め方、単位認定方法 ・英語の学習方法 ・コミュニケーション活動
2 回	Unit 14　Old Houses　イギリスの家を題材として英語力を養う。 コミュニケーション活動 予習：辞書を使用してわからない単語を調べ、本文を和訳する。どの部分が理解できないかを明らかにしておく。練習問題を解いておく。 復習：和訳、練習問題において間違えた部分を中心に復習する。語彙を暗記する。
3 回	Unit 14　Old Houses　イギリスの家を題材として英語力を養う。 コミュニケーション活動 予習：辞書を使用してわからない単語を調べ、本文を和訳する。どの部分が理解できないかを明らかにしておく。練習問題を解いておく。 復習：和訳、練習問題において間違えた部分を中心に復習する。語彙を暗記する。
4 回	Unit 15　Why?　アメリカに対する疑問を題材として英語力を養う。 コミュニケーション活動 予習：辞書を使用してわからない単語を調べ、本文を和訳する。どの部分が理解できないかを明らかにしておく。練習問題を解いておく。 復習：和訳、練習問題において間違えた部分を中心に復習する。語彙を暗記する。
5 回	Unit 15　Why?　アメリカに対する疑問を題材にして英語力を養う。 コミュニケーション活動 予習：辞書を使用してわからない単語を調べ、本文を和訳する。どの部分が理解できないかを明らかにしておく。練習問題を解いておく。 復習：和訳、練習問題において間違えた部分を中心に復習する。語彙を暗記する。
6 回	Unit 16　Disappearing Icons　消えゆくアメリカのシンボルを題材にして英語力を養う。 復習テストの範囲の語彙の確認 予習：辞書を使用してわからない単語を調べ、本文を和訳する。どの部分が理解できないかを明らかにしておく。練習問題を解いておく。 復習：和訳、練習問題において間違えた部分を中心に復習する。語彙を暗記する。
7 回	Unit 16　Disappearing Icons 消えゆくアメリカのシンボルを題材にして英語力を養う。 復習テストの範囲の語彙の確認 復習：第7回目までに学習したこと（プリント、説明したポイントを含む）を、間違えた個所を中心に復習する。語彙を強化する。
8 回	第7回目までに学習したことの総まとめを行い、確認する。 復習テスト ノート提出 予習：辞書を使用してわからない単語を調べ、本文を和訳する。どの部分が理解できないかを明らかにしておく。練習問題を解いておく。

9 回	Unit 21　Animals Are Forever　日米英の動物に関する意外な共通点を題材にして英語力を養う。 コミュニケーション活動 予習：辞書を使用してわからない単語を調べ、本文を和訳する。どの部分が理解できないかを明らかにしておく。練習問題を解いておく。 復習：和訳、練習問題において間違えた部分を中心に復習する。語彙を暗記する。
10 回	Unit 21　Animals Are Forever　日米英の動物に関する意外な共通点を題材にして英語力を養う。 コミュニケーション活動 予習：辞書を使用してわからない単語を調べ、本文を和訳する。どの部分が理解できないかを明らかにしておく。練習問題を解いておく。 復習：和訳、練習問題において間違えた部分を中心に復習する。語彙を暗記する。
11 回	Unit 22　Privacy　プライバシーを題材として英語力を養う。 コミュニケーション活動 予習：辞書を使用してわからない単語を調べ、本文を和訳する。どの部分が理解できないかを明らかにしておく。練習問題を解いておく。 復習：和訳、練習問題において間違えた部分を中心に復習する。語彙を暗記する。
12 回	Unit 22　Privacy　プライバシーを題材として英語力を養う。 コミュニケーション活動 予習：辞書を使用してわからない単語を調べ、本文を和訳する。どの部分が理解できないかを明らかにしておく。練習問題を解いておく。 復習：和訳、練習問題において間違えた部分を中心に復習する。語彙を暗記する。
13 回	Unit 23　Youth　若者に対する感情を題材として英語力を養う。 コミュニケーション活動 予習：辞書を使用してわからない単語を調べ、本文を和訳する。どの部分が理解できないかを明らかにしておく。練習問題を解いておく。 復習：和訳、練習問題において間違えた部分を中心に復習する。語彙を暗記する。
14 回	Unit 23　Youth　若者に対する感情を題材として英語力を養う。 試験範囲の語彙の復習 予習：辞書を使用してわからない単語を調べ、本文を和訳する。どの部分が理解できないかを明らかにしておく。練習問題を解いておく。 復習：和訳、練習問題において間違えた部分を中心に復習する。語彙を暗記する。
15 回	Unit 24　You　本テキストの内容について、読者への問いかけを題材として英語力を養う。 試験範囲の語彙の復習 定期試験の範囲：第 9 回目から第 15 回目までに学習したこと。 学習のポイント：間違えた個所、語彙の強化を中心に十分に学習する。

令　和　２　年　度　教　育　計　画							
科目名	体育理論	授業回数	８	単位数	１	担当教員	吉田　升
質問受付の方法：体育館にて　～１５：００　　シャトルカード							

教育目標と学生の学習成果		教育目標： １．健康の保持増進に係る科学的な運動処方及び生涯体育の必要性に対する理解 ２．現代社会における心身の健康を取り巻く諸問題に対する理解 ３．健康生活の構築を図るための有効なアプローチに対する理解 学生の学習成果： ・専門的学習成果として、上記３項目の教育目標を達成する。 ・汎用的学習成果として、積極的に健康の保持増進を図るための「価値・意見」を形成すると共に、「論理的思考力」を身につける。
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） 上述の教育目標及び学習成果を達成するために、シラバスに示すテーマ以外にも、健康を脅かす喫緊の課題が有れば、その内容を盛り込んで講義を展開する。 また、講義内容にかかわらず、以下の項目を重視して授業を進める。 １．取り扱う全テーマについて、自らの問題として関心を持って捉える姿勢を育む。 ２．毎回の講義内容についてコメントシートの提出を求め、記述内容を講義に反映させる。 ３．講義内容について、質疑応答等を通して理解度を測る。 ４．講義後、小テストを実施する。
	予習・復習	予習：次回講義における主要な内容について予習を課す。 復習：講義内容における重要な項目について復習を課す。
	テキスト	１．テキストは使用せず、講義内容に即した参考資料を使用して講義を進める。 ２．補助教材として、VTR や DVD 等を適宜使用する。
学習評価の方法		専門的学習成果 筆記試験　６０点 汎用的学習成果 課題評価　１０点　　小テスト評価　２０点　　レポート評価　１０点 提出状況と内容で評価を測る。 学習評価より、遅刻は１回につき２点減点とする。さらに、受講中の私語や非協力的態度等の問題行動については、社会人としての倫理観が十分でないとして評価から減点する。
注意事項		参考図書 加藤秀夫・中坊幸弘／編「スポーツ・運動栄養学」講談社サイエンティフィク、２００７年 春日規克・竹倉宏明／編著「改訂版・運動生理学の基礎と発展」星雲社、２００６年

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	オリエンテーション ・講義内容、授業の進め方、学習評価の方法について説明する。 　健康を保持増進するために、自らの健康観にもとづき、一人ひとりが健康実現のための実践力を養うことを学習する。 学習成果 　授業の進め方、学習評価の方法を理解する。 　積極的に健康の保持増進を図るための、論理的思考力を身に付ける。
2 回	健康って？ ・健康：身体も心もバランスよく毎日が元気よく過ごせること ・生体リズム（日内リズム　週内リズム　月周リズム　季節リズム　90 分リズム） 　生体リズムの特徴を把握し、毎日が元気よく過ごすために、自らの生体リズムを見直す。 　健康に関することをクイズ形式で理解する（DVD 視聴） 学習成果 　健康に関心を持ち、規則正しい生活をする。 予習：生体リズムについて
3 回	健康になる！ ・健康的な生活習慣の基本となるのが、食事、運動、休養（睡眠）である。 　運動不足、肥満、ストレス、乱れた食生活からくる生活習慣病について学習する。 学習成果 　食事、運動、休養（睡眠）、身体と心のバランスを理解する。 予習：健康３原則について
4 回	歩行運動 ・歩行運動の効果 　肥満の解消、脳を鍛える、骨の強化、ストレス解消について学習する。 　歩数の増加は、生活習慣病予防、健康寿命の延伸に繋がることを学習する。 　健康づくりのための身体活動量（運動・生活活動）を学習する。 学習成果 　健康寿命の延伸を理解する。 予習：１万歩を歩くことの効果について 　　歩数計測①日常生活の歩数を計測する。（5 日間）体組成計測
5 ・ 6 回	歩行運動と筋力運動の実践 　姿勢よく歩くことにより、インナーマッスルが鍛えられることを理解する。 　体幹を鍛える筋力運動の実践を行い、日常生活に取り入れられる運動を習得する。 　歩数計測①と②を比較、検証をする。 学習成果 　体力の保持増進について理解する。 予習：歩数計測②身体活動量（運動・生活活動）の歩数を計測する。（5 日間）体組成計測

7 回	高齢者の健康と運動 ・高齢者の日常における活動量、身体機能、身体能力などの特徴を学習する。 ・生活習慣病予防には、ストレッチングや筋力トレーニング、ウオーキング、バランスを鍛えるためのトレーニングが重要であることを学習する。 ・骨粗鬆症予防は、筋力トレーニングやジャンプ動作のようなトレーニングが重要であることを学習する。閉経と骨粗鬆症について学習する。 学習成果 生活習慣病、骨粗鬆症を予防するトレーニング方法を理解する。 予習：生活習慣病と骨粗鬆症について
8 回	女性の一生と女性ホルモンの変化 女性のからだの仕組みを、コントロールするのはエストロゲン（卵胞ホルモン）とプロゲステロン（黄体ホルモン）と呼ばれるホルモンである。初経、妊娠、出産、閉経に至るまでの女性ホルモン、心身の変化について学習する。 学習成果 女性の一生と女性ホルモンの特徴を理解する。 予習：エストロゲン（卵胞ホルモン）とプロゲステロン（黄体ホルモン）について

令　和　２　年　度　教　育　計　画							
科目名	体育実技	授業回数	15	単位数	1	担当教員	吉田　升
質問受付の方法：体育館にて　　～１５：００　シャトルカード							

教育目標と学生の学習成果		教育目標： 　体育実技を通して、体力や技能の向上を図り、仲間と体を動かす楽しさを味わうことでコミュニケーション能力を身につける。また、生涯にわたってスポーツを行う生活習慣を身につける。 学生の学習成果 ・専門的学習成果：１　基礎技能の向上及び試合ができる技能・能力が身に付く。 　　２　日常生活に必要な体力を養う。 ・汎用的学習成果：スポーツ活動に積極的に参加し、実践する態度が身につく。コミュニケーション能力や自己管理能力が身に付く。
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） ・７種目のスポーツを実践する。 ・体力維持の為、筋力トレーニングを行う。 ・それぞれの球技のルールを説明し、基礎技能の練習や試合を行う。 ・グループ編成で授業を進めていく。 ・用具の管理を当番制で行う。
	予習・復習	予習：球技種目のルールの把握を行う。 復習：シャトルカードにて授業の振り返りを行う。
	テキスト	特に設けない。
学習評価の方法		専門的学習成果 バドミントン 15 点　　卓球 15 点　　硬式テニス 15 点 バスケットボール（またはバレーボール）15 点 技能、ルール理解の評価を行う。 汎用的学習成果 課題レポートの提出とその内容　15 点 スポーツ活動に参加する態度　15 点 グループ活動での参加態度　10 点 学習評価より、遅刻・早退１回につき２点減点、体操着を忘れた場合は３点減点、見学１回につき２点減点する。 また、受講態度に問題があった場合は、社会人としての倫理観が十分でないとして評価から減点する。
注意事項		遅刻について：準備運動終了後入室した場合、怪我などの心配があるので、指導者の指示に従って授業に参加すること。 見学者について：授業内容を見学用紙に記入すること。 トイレ等で退室する場合、入室時に帰ってきたことを伝えること。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	オリエンテーション 　授業の進め方、安全に対する留意点、学習評価の方法、施設、用具の使い方について説明する。 基礎運動 　ストレッチ、ランニング、腹筋、背筋などの実技を行う。 学習評価 　授業の進め方及び学習評価の方法を理解する。毎回の授業において基礎運動を行うことにより体力が身に付くことを理解する。
2 回	ソフトバレーボール ・基礎技能の習得：アンダーパス　オーバーパスの技能習得をする。 ・ルールの説明：２ゲーム先取で行う。１ゲーム１５点、１対１の場合は３ゲーム目を行う。ただし３ゲーム目は５点で勝敗を決める。 ・試合：チームごと対戦相手を決め交流を図る。 学習評価 　基礎技能の向上及びルールを理解することにより試合を円滑に進めることが出来る。 　対戦相手と交流を図ることでコミュニケーション能力が身に付く。
3 ・ 4 ・ 5 ・ 6 回	硬式テニス ・基礎技能の習得：ストローク、ボレー、サーブ、レシーブの技能習得をする。 ・２人組、４人組で打ち合いを行う。 学習成果 　基礎技能の向上及び試合ができる能力が身に付く。
7 回	バドミントン ・基礎技能の習得：ストローク、ハイクリヤー、スマッシュ、ドロップ、サーブの技能習得をする。 　ルールの説明：実践を交えながらルールの理解を行う。 学習成果 　基礎技能の向上及び試合ができる技能・能力が身に付く。 予習事項：ダブルスのルールを調べてノートに記す。
8 ・ 9 回	バドミントン ・試合（ダブルス）：リーグ戦を行う（グループごと）。 学習成果 　試合戦術が向上する 　積極的に実践する態度が身に付く。
10 回	バドミントン ・試合（ダブルス） 　リーグ戦を行う（グループごと） 卓球 ・基礎技能の習得 　サーブ　ストロークの技能習得をする。 ・ルール説明：実践を交えながらルールの理解を行う 予習事項：ダブルスのルールを調べてノートに記す ・2種目のローテーションで授業を進める 学習成果 　バドミントン：試合戦術が向上する。他グループと交流することでコミュニケーション能力が身に付く。 　卓球：基礎技能の向上及び試合ができる技能・能力が身に付く。

11 回	バドミントン　　卓球 ・実技評価　　・試合（ダブルス）：リーグ戦を行う。 戦術、基礎技能の向上などを評価する。 ・2 種目のローテーションで授業を進める 学習成果 バドミントン：練習してきた成果を発揮できる能力が身に付く（自己実現） 卓球：試合に積極的に参加し、実践する態度を身に付ける。他学生との交流を図り、体を動かす楽しさを味わうことやコミュニケーション能力が身に付く。
12 回	バドミントン　　卓球 ・試合（ダブルス）リーグ戦を行う。　　・実技評価 サーブと 10 回以上のラリーの実技評価をする。 ・2 種目のローテーションで授業を進める。 学習成果 バドミントン：戦術を考えることで、協力し合う態度が身に付く。 卓球：練習してきた成果が発揮できる能力が身に付く（自己実現）
13 ・ 14 回	バスケットボール ・基礎技能の習得：チェストパス　バウンズパス、ドリブルシュートの技能習得をする。 ・ルールの説明：実践を交えながらルールを理解する。 ・試合：グループ編制を行い、交流戦を行う。 学習成果 基礎技能の向上及び試合ができる技能・能力が身に付く。戦術を考えることで、協力し合う態度、価値観、意見などの自己表現力が身に付く。 予習事項：ルールを調べノートに記す。
	バレーボール ・基礎技能の習得：サーブ、レシーブ、オーバーパス　アンダーパスを習得する。 ・ルールの説明：実践を交えながらルールの理解をする。 ・試合：グループ編制を行い、交流戦を行う。 学習成果 基礎技能の向上および試合ができる技能・能力が身に付く。戦術を考えることで、協力し合う態度、価値観、意見などの自己表現力が身に付く。
	実技評価 ・バレーボール：レシーブの実技評価を行う。 ・バスケットボール：ドリブルシュートの実技評価を行う。 どちらかを選択し、実技評価を受ける。 学習成果 練習してきた成果を発揮できる能力が身に付く（自己実現）。
15 回	縄跳び 短なわ、長なわでいろいろな跳び方を実践する。 ダブルタッチ（2 本の縄を使って跳ぶ） 縄を回す、跳ぶ（中に入って跳び、外に出る）などの運動技能を習得する。 学習成果 持久力、リズム感、集中力、バランスなどが身に付く。

<table>
<tr><td colspan="8">令　和　2　年　度　教　育　計　画</td></tr>
<tr><td>科目名</td><td>キャリアガイダンス</td><td>授業回数</td><td>15</td><td>単位数</td><td>2</td><td>担当教員</td><td>平野 聡 竹原 良記
福野 裕美</td></tr>
<tr><td colspan="8">質問受付の方法（e-mail,オフィスアワー等）：A 棟 206 研究室　水曜日 13 時から 14 時 30 分</td></tr>
<tr><td>教育目標と学生の学習成果</td><td colspan="7"><教育目標>
学校から社会・職業への移行を円滑におこなうことは充実した社会生活を送るために必須の能力である。各々の希望やライフステージに応じて、職業に必要な知識・技能を身に付け、職業生活の中で存分に力を発揮していかなければならない。
本科目では、社会的・職業的自立に向け、学生生活での学習成果やこれまでの経験を分析し、今後の自分にとって必要な資質や能力はなにかを考えるための導入教育をおこなう。講義内容に基づく演習を通して、主体的に自分の将来設計に必要な知識や手法の修得を図ることを目標とする。
<学生の学習成果>
専門的学習成果：社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力を身につける。自分自身のキャリアプランニングをおこなうことが出来る。
汎用的学習成果：社会的・職業的自立に向け、「論理的思考力」、「問題解決力」、「自己管理能力」、「チームワーク」を身につける。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">教育方法</td><td>授業の進め方</td><td colspan="6">（講義・演習・実験・実習・実技）
・授業回数別授業内容に沿った講義後、演習をおこなう。
・演習は個人又は集団で実施する。</td></tr>
<tr><td>予習・復習</td><td colspan="6">予習
・事前に課題を提示した際は、課題を提出する。
・教育計画で提示する参考図書を予め読む。
復習
・授業後に講義内容を復習し、講義内容を中心に応用力をつける。</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="6">配布資料（レジメ・ワークシート）
・授業開始時に配布する。</td></tr>
<tr><td>学習評価の方法</td><td colspan="7">自分自身のキャリアプランニングをおこない、将来の就職に関連することに積極的に取り組んでいるかに重点をおき、学習評価を行う。
専門的学習成果は、毎回の授業における個人又は集団での演習に関する質的評価 60 点として評価する。
汎用的学習成果は、演習においての論理的思考力」、「問題解決力」、「自己管理能力」、「チームワーク」を 40 点として評価する。</td></tr>
<tr><td>注意事項</td><td colspan="7">参考図書：
中央教育審議会：今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について</td></tr>
</table>

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	授業の進め方についての説明 ・キャリアガイダンスの授業計画を解説する。 ・職業選択における業種・職種・賃金 ・将来設計におけるライフイベントと必要な資金 成果：授業回数別教育内容に関して理解する。　（担当者：竹原・平野）
2 回	社会におけるチームワーク① ○就職に関するマナー講座 ・企業への電話でのマナーを学ぶ。 ・企業への書類作成のマナーを学ぶ。 成果：就職活動に必要なマナーが身につく。　（担当者：外部講師・竹原）
3 回	社会におけるチームワーク② ○就職に関するマナー講座 ・面接における入退室のマナーを学ぶ。 ・話し方、聞き方を学ぶ。 成果：就職活動に必要なマナーが身につく。　（担当者：外部講師・竹原）
4 回	社会における自己理解・自己管理能力① ○自己分析 ・キャンパス・ハイパフォーマンスシートを作成する。 ・これまでの学校生活で得た知識・技能を書き出しまとめる。 成果：自分の個性を理解し、これまでの経験を具体化する。　（担当者：平野）
5 回	社会における自己理解・自己管理能力② ○自己分析 ・キャンパス・ハイパフォーマンスシートを発表する。 ・他者の発表内容を聞き、学生が総評する。 成果：他者の個性を知り、自分の PR ポイントを知る。　（担当者：平野）
6 回	就職試験対策① ○履歴書の作成 ・自分が働きたい業種を考え、自己分析を基に履歴書を作成する。 ・志望動機及び自己ＰＲを作成する。 成果：履歴書が完成する。　（担当者：竹原・福野・平野）
7 回	就職試験対策② ○履歴書の作成 ・自分が働きたい業種を考え、自己分析を基に履歴書を作成する。 ・志望動機及び自己ＰＲを作成する。 成果：履歴書が完成する。　（担当者：竹原・福野・平野）

８ 回	就職試験対策③ ○ＳＰＩ試験の演習 ・ＳＰＩ試験の概要説明 ・ＳＰＩ試験を解く。 成果：ＳＰＩ試験の概要を理解する。　（担当者：竹原）
９ 回	就職試験対策④ ○個人面接の演習 ・志望する業種ごとに、個人面接の演習をおこなう。 ・個人面接は試験官役を教員２名が担当し、総評をおこなう。 ・待ち時間に履歴書の修正をおこなう。 成果：個人面接を経験し、志望動機・自己ＰＲの内容を深める。 （担当者：竹原・福野・平野）
１０ 回	社会における自己理解・自己管理能力③ ○ストレスマネジメントとアンガーマネジメント ・ストレスとの付き合い方を知る。 ・怒りとの付き合い方を知る。 成果：自分の感情を管理する。　（担当者：外部講師・竹原）
１１ 回	就職試験対策⑤ ○集団面接の演習：基本的事項 ・志望する業種ごとにグループを作り、集団面接の演習をおこなう。 ・集団面接は試験官役を教員２名が担当し、総評をおこなう。 成果：集団面接を経験し、志望動機・自己ＰＲの内容を深める。 （担当者：竹原・福野・平野）
１２ 回	就職試験対策⑥ ○集団面接の演習：応用的事項 ・志望する業種ごとにグループを作り、集団面接の演習をおこなう。 ・集団面接は試験官役を教員２名が担当し、総評をおこなう。 成果：集団面接での志望動機・自己ＰＲを伝える力を養う。（担当者：竹原・福野・平野）
１３ 回	就職試験対策⑦ ○グループディスカッションの演習：１回目 ・志望する業種ごとにグループを作り、グループディスカッションの演習をおこなう。 ・グループディスカッションは試験官役を教員２名が担当し、総評をおこなう。 成果：他者とのディスカッション能力を養う。　（担当者：竹原・福野・平野）
１４ 回	就職試験対策⑧ ○グループディスカッションの演習：２回目 ・志望する業種ごとにグループを作り、グループディスカッションの演習をおこなう。 ・グループディスカッションは試験官役を教員２名が担当し、総評をおこなう。 成果：他者とのディスカッション能力を養う。　（担当者：竹原・福野・平野）
１５ 回	キャリアプランニングとライフプランニング ○自分の将来設計を考える ・自分が望む仕事・生活を書き出す。 ・パソコンより専用フォームへ入力し、生涯に必要な資金を算出する。 成果：必要なお金を知ることで就業意欲を高める。　（担当者：平野）

<table>
<tr><td colspan="8">令　和　2　　年　　度　　教　　育　　計　　画</td></tr>
<tr><td>科目名</td><td>社会との接続Ⅰ</td><td>授業回数</td><td>15</td><td>単位数</td><td>2</td><td>担当教員</td><td>竹原　良記
高槻　悦子
内田　雅子</td></tr>
<tr><td colspan="8">質問受付の方法（e-mail,OH 等）：e-mail：takehara @owc.ac.jp、授業後に受け付ける</td></tr>
<tr><td>教育目標と学生の学習成果</td><td colspan="7">教育目標：本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である
大学で習得した学習成果を認識し、卒業後のキャリアで自信をもって能力発揮ができる道筋を学ぶ。社会人･管理栄養士としての信念、意見および責任を果たすことができる能力を、栄養マネジメントの演習活動を通して涵養する。
学生の学習成果：　本演習では、2 年生を対象とし、栄養マネジメントの演習活動栄養長寿教室および地域訪問栄養長寿教室（栄養長寿教室等と略）に参加することにより、次の汎用的学習成果獲得を目指す。身体計測機器および SAT の機器が全て操作できるようになる。現場に即応できる管理栄養士にとって必要な対人コミュニケーション能力、チーム管理能力、データ収集能力、理論的思考力を意識し、これらの能力習得のために活動していることを理解する。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">教育方法</td><td>授業の進め方</td><td colspan="6">（講義・演習・実験・実習・実技）
1．開始から 5 回目までの授業は全員出席して測定器具の練習を行う。
2．『栄養長寿教室等』は、今年度中に 4 回開催されるので、学生はこのうちいずれかの 2 回に参加する。参加する回ごとに、参加前日の 2 回の授業で会場準備をして身体計測または SAT の予行演習を行う。参加当日はスムーズに作業を行い、最後に当日の反省をして測定器具の仕舞いをする。
3．この演習を通して、対象者とのコミュニケーションができ、身体計測機器および SAT の機器が全て操作できるようにする。
4．最後の授業において総合討論およびまとめのレポート提出を課する。</td></tr>
<tr><td>予習・復習</td><td colspan="6">1．予習として栄養長寿教室等において事前に習得すべき内容を理解し、授業に出席すること。
2．復習として毎回、栄養長寿教室等または自己について課題を発見し、考察した成果をまとめて、最後の授業においてレポート作成の資料とすること。</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="6">栄養長寿教室等の内容を記載した冊子・講義資料を配布する。</td></tr>
<tr><td>学習評価の方法</td><td colspan="7">栄養長寿教室等の事前準備時および参加活動時において以下の①～④の観点から 4 段階の積み上げ式(ルーブリック)で、管理栄養士を目指した対人コミュニケーション能力･栄養マネジメント(身体計測･SAT)を、評価する(1 回あたり4点満点×4つの観点)。
身体計測・SAT の観点：
①対象者とのコミュニケーション能力、②チーム員として働く能力、③機器による測定能力、④論理的思考能力。
最終的に参加毎の評価を合計(16 点満点×参加回数)し、および最後のレポート評価を合計し、100 点法にて評価する。</td></tr>
<tr><td>注意事項</td><td colspan="7">・ 開催される栄養長寿教室等ごとに授業を開講しているが、学生はそのうち 2 回分に参加するので、学生の受講すべき授業の開講時期は、参加する時期により異なる。予め自分の担当時期を周知して授業に参加すること。
・ 授業に欠席をする場合は、必ず事前に担当教員に知らせておくこと。
・ 学習目標の達成と学習成果には、毎回の授業における予習、復習は欠かせない。</td></tr>
</table>

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1回	オリエンテーション：全員参加（担当：竹原、高槻、内田） ・栄養長寿教室等の説明、目標達成の為の行動について理解する。 ・評価方法についての説明。 身体計測機器の測定理論とデータの見方 身長・体重、体成分分析、血圧・加速度脈波、骨密度、SAT
2回	・栄養長寿教室等の事前準備を行う。（1）全員参加（担当：竹原、高槻、内田） ・身体計測機器の測定理論と操作習得 身長・体重、体成分分析、血圧・加速度脈波、骨密度、SAT
3回	・栄養長寿教室等の事前準備を行う。（2）全員参加（担当：竹原、高槻、内田） ・身体計測機器の測定理論と操作習得 身長・体重、体成分分析、血圧・加速度脈波、骨密度、SAT
4回	・栄養長寿教室等の事前準備を行う。（3）全員参加（担当：竹原、高槻、内田） ・身体計測機器の測定理論と操作習得 身長・体重、体成分分析、血圧・加速度脈波、骨密度、SAT
5回	・栄養長寿教室等の事前準備を行う。（4）全員参加（担当：竹原、高槻、内田） ・身体計測機器の測定理論と操作習得 身長・体重、体成分分析、血圧・加速度脈波、骨密度、SAT
6・7回	・栄養長寿教室等開催前日の参加準備。【1】担当参加（担当：竹原、高槻、内田） ・身体計測機器の準備と指導内容の確認　　・4年生との合同練習 身長・体重、体成分分析、血圧・加速度脈波、骨密度、ヘモグロビン測定、SAT
8・9回	・栄養長寿教室等に参加し、対象者とのコミュニケーションおよび身体計測等を行う。【1】担当参加（担当：竹原、高槻、内田） ・反省会を行う。
10回	・栄養長寿教室等の事前準備を行う。（後期開始時）全員参加（担当：竹原、高槻、内田） ・身体計測機器の測定理論と操作の確認テスト 身長・体重、体成分分析、血圧・加速度脈波、骨密度、SAT
11・12回	・栄養長寿教室等に参加準備を行う。【2】担当参加（担当：竹原、高槻、内田） ・身体計測機器の測定理論と操作習得　　・4年生との合同練習 身長・体重、体成分分析、血圧・加速度脈波、骨密度、ヘモグロビン測定、SAT
12・14回	・栄養長寿教室等に参加し、対象者とのコミュニケーションおよび身体計測等を行う。【2】担当参加（担当：竹原、高槻、内田） ・反省会を行う。
15回	総括のグループ討論とレポート作成全員参加（担当：竹原、高槻、内田） ・本講座から何を学び、何を発見したか。知識、技能等のレビュー。 ・今後の栄養長寿教室等に何を学び、何を期待するか

令　和　2　年　度　教　育　計　画							
科目名	社会との接続Ⅱ	授業回数	15	単位数	2	担当教員	平野　聡 佐藤　幸枝 中原　眞由美
質問受付の方法（e-mail,オフィスアワー等）水曜日 13：00～14：30 e-mail：hirano@owc.ac.jp							

教育目標と学生の学習成果		＜教育目標＞本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である 管理栄養士の職場において患者・高齢者への適切な栄養教育を行うためには、高度な最新の専門知識のみではなく、対象者および多職種間とのコミュニケーション能力や業務処理能力などが強く求められており、これらの汎用的学習成果を重視しなければならない。本演習は、学生が主導で「栄養長寿教室」を継続して運営実施し、地域高齢者との交流経験を積むことにより、専門的学習成果の涵養と汎用的学習成果の向上を図り、現場に即応する管理栄養士になることを目標とする。 ＜学生の学習成果＞ 栄養マネジメントの演習活動『栄養長寿教室等』を担当することにより、大学で修得した学習成果を認識し、管理栄養士として対象者およびチーム内で充分にコミュニケーションがとれ、栄養マネジメント業務や給食管理業務をスムーズに運営することができる。このことにより卒業後のキャリアで自信をもって栄養管理能力が発揮できる。
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） 1.『栄養長寿教室等』は、栄養長寿教室および地域訪問栄養長寿教室より成り、3年生後期から4年生前期終了まで4回開催される。この中で、学生は栄養長寿教室の「対象者とのコミュニケーションおよび栄養マネジメント」を1回、同じく「対象者とのコミュニケーションおよび食事提供」を1回および地域訪問栄養長寿教室の「対象者とのコミュニケーションおよび栄養マネジメント」を2回、参加担当する。 2.『栄養長寿教室等』の当日の参加に関しては、事前に配布される役割分担表に沿って参加する。
	予習・復習	1．予習として、栄養長寿教室等において事前に習得すべき内容を理解し、授業に出席する。 2．復習として、栄養長寿教室等または自己についての課題を発見し、考察した成果をまとめて、栄養長寿教室等毎に行う反省会で発表する。
	テキスト	栄養長寿教室等の内容を記載した冊子・講義資料（2年生前期に配布済み）を用いる。
学習評価の方法		1．栄養長寿教室等の参加を行うまでに小テストを実施する。合格に至らなかった者は補習への参加をおこなう。 2．「栄養長寿教室等」に向けた事前準備および授業時に、4段階の積み上げ式(ルーブリック)で、評価をおこなう。(4点満点×4つの観点)。最終的に各担当での評価点を合計し、100点法にて評価する。 ◎栄養長寿教室等の「対象者とのコミュニケーションおよび栄養マネジメント」の観点 汎用的学習成果：①対象者への会話能力、②業務遂行能力 専門的学習成果：③栄養ケア・マネジメント能力、④総合的マネジメント能力。 ◎栄養長寿教室の「対象者とのコミュニケーションおよび食事提供」の観点 汎用的学習成果：①対象者へのコミュニケーション能力、②チームでのコミュニケーション能力。 専門的学習成果：③対象者への総合的マネジメント能力、④チームとしての総合的マネジメント能力。
注意事項		・地域高齢者と合同での演習であるため、出席を重要視する。 ・授業に欠席する場合は、必ず事前に担当教員に連絡する。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1回	栄養長寿教室の概要説明 ・「対象者とのコミュニケーションおよび栄養マネジメント」および 「対象者とのコミュニケーションおよび食事提供」の評価についての説明 ・役割分担の説明 ・高齢者の身体的特徴と栄養指導の要点 ・高齢者への食事提供の要点　（平野・佐藤）
2回	高齢者を対象とした栄養指導の演習 ・対象者の事例検討 ・タブレットを使用した栄養指導演習 ・小テストの実施 （平野）
3回	高齢者を対象とした給食提供の準備 ・献立表の作成 ・栄養基準量の確認 （佐藤）
4・5・6回	地域訪問栄養長寿教室 「対象者とのコミュニケーションおよび栄養ケア・マネジメント」 〇事前準備と実践(1) ・地域訪問栄養長寿教室の事前準備を行う。 ・当日地域訪問栄養長寿教室に参加し、栄養ケア・マネジメントを行う ・反省会を行う。 （平野・佐藤・中原）
7・8・9回	栄養長寿教室 「対象者とのコミュニケーションおよび栄養ケア・マネジメント」 〇事前準備と実践（2） ・栄養長寿教室の事前に準備を行う。 ・当栄養長寿教室に参加し、栄養ケア・マネジメントを行う。 ・反省会を行う。 （平野・佐藤・中原）
10・11・12回	栄養長寿教室 「対象者とのコミュニケーションおよび食事提供」 〇事前準備と実践(1) ・栄養長寿教室の事前に準備を行う。 ・栄養長寿教室に参加し、食事提供を行う。 ・反省会を行う。 （平野・佐藤・中原）
13・14・15回	地域訪問栄養長寿教室 「対象者とのコミュニケーションおよび栄養ケア・マネジメント」 〇事前準備と実践(3) ・地域訪問栄養長寿教室の事前準備を行う。 ・当日地域訪問栄養長寿教室に参加し、栄養ケア・マネジメントを行う ・反省会を行う。 （平野・佐藤・中原）

令　和　　2　　年　　度　　教　　育　　計　　画							
科目名	経営・マネジメント	授業回数	15	単位数	2	担当教員	原田　俊孝
質問受付の方法：e-mail：gakuzuki@owc.ac.jp、オフィスアワー：M 棟事務室月曜～金曜(17 時まで)							

教育目標と学生の学習成果		【教育目標】 2040 年頃の社会は「全ての人が平和と豊かさを享受できる社会」とされており、これからの社会で必要とされる人材像は、予測不可能な時代を生きる人材、特に、ソサエティ 5.0 に対応する人材が求められている。ソサエティ 5.0 とは、サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会のことをいう。 本授業の目標は、予測不可能な時代を生きるために必要な力を身に付けることである。目標を達成するために、日常生活から経営の基礎を学び、事例からマネジメントする手法を身に付け、これからのソサエティ 5.0 に対応する力を身に付ける。 【学生の学習成果】 汎用的学習成果：経営資源を理解し、予測不可能な時代から、課題を自ら発見し解決する力を身に付ける。
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） ● テキストの内容を中心にすすめる ● 重要箇所は補足資料を用意して説明する
	予習・復習	授業の冒頭、課題の状態を確認しながら、授業をすすめていく。
	テキスト	ど素人でもわかる経営学の本　翔泳社
学習評価の方法		基本的に①小課題（20 点）、②レポート（30 点）、③定期試験（50 点）で評価を行う。 ・小課題 授業理解の深化のために、小課題を設ける。課題の詳細は各授業内容を確認する。 ・レポート（テーマ「ソサエティ 5.0 に対応する会社」） 履修者が興味のある「ソサエティ 5.0 に対応する会社」をひとつ取り上げ、「①取り上げた会社、②なぜ取り上げたのか、③会社の調査（ヒト・モノ・カネ・情報・AI・IoT・ビックデータ・データサイエンスなど）、④会社がソサエティ 5.0 に対応した（これから対応する）情報とその内容、⑤問題の発見、創造と把握、⑦問題に対応するための方策、⑧ソサエティ 5.0 に対応する人材になるため」をレポートでまとめる。 ・定期試験 管理栄養士の業務に関係する「経営・マネジメントの基礎」について（40 点分）出題する。また、応用問題として、経営・マネジメントの授業内容に関係する新聞記事もしくは雑誌記事を出題するので、自分の意見を記述する（10 点分） なお、受講態度に問題があったものは、社会人としての使命感や倫理観が十分ではないとして注意する。注意しても直らない場合は、減点し強制退出してもらう。ただし、授業への貢献度や自主的な学習などを勘案し加点する機会も設ける。 ※小課題は次回の授業前に提出すること（事前に提出する時間をとります）
注意事項		

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1回	「経営・マネジメント」の目的、学生の学習成果、学習評価の方法 【オリエンテーションと序章】 経営・マネジメントの教育目標と学生の学習成果、学習評価の方法 これからの社会（企業が求める“データサイエンス人材”とは） 序章　経営をめぐる21世紀の変化 「AI」「VUCA」「働き方改革」「共感の力」 【演習】 最新技術を利用している（利用しているであろう）モノ・コトを一緒に考えてみよう。 【課題①】 検索エンジンで「AI」と「○○（履修生が興味のあるキーワード)」を検索ワードとして気になるニュースを調べ評価した結果をA4でまとめよう。 （ヘッダーに学籍番号と名前を記入。文字数と行数は40×40に設定。A4サイズ最大2枚でまとめること）
2回	【第1章　そもそも経営学って何？①】 「経営学の基本概念」「経営学の歴史」「会社の役割」 【演習】 良い会社とは何かを一緒に考えてみよう。
3回	【第1章　そもそも経営学って何？②】 「CSRとCSV」「組織の三要素」「PM理論」「リーダーシップ論」 【演習】 良い経営者とはどのような人かを一緒に考えてみよう。 【課題②　「第1章の復習」】 気になる会社を一つ取り上げて、「会社の概要」「その会社の特色」「どうしてその会社を選んだのか」「第1章で学んだこと」をA4サイズ最大2枚でまとめよう。 （ヘッダーに学籍番号と名前を記入。文字数と行数は40×40に設定。A4サイズ最大2枚でまとめること）
4回	【第2章　新しい事業を創造する「イノベーション論」①】 「イノベーション」「共感力」「デザイン思考」「プロトタイピング」 【演習】 今存在するモノの中で良いモノは何かを一緒に考えてみよう。
5回	【第2章　新しい事業を創造する「イノベーション論」②】 「掛け算思考」「ブルー・オーシャン戦略」「オープン・イノベーション」「PEST戦略」 【演習】 これから存在するモノは何かを一緒に考えてみよう。 【課題③　「第2章の復習」】 気になる商品を一つ取り上げて、「商品の概要」「その商品の強み」「その商品の弱み」「改善する方法」「第2章で学んだこと」をA4サイズ最大2枚でまとめよう。 （ヘッダーに学籍番号と名前を記入。文字数と行数は40×40に設定。A4サイズ最大2枚でまとめること）
6回	【第3章　売れる仕組みをつくる「マーケティング論」①】 「生産者志向と顧客志向」「STP」「市場分析」「マーケティングの4P」 【演習】 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科を事例として、これまでの組織のマーケティング戦略がどうだったかを一緒に考えてみよう。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
7回	【第3章　売れる仕組みをつくる「マーケティング論」②】 「価格の心理学」「取引数単純化の原理」「マーケティングと営業」「補完財」「エシカル消費」 【演習】 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科を事例として、これからのマーケティング戦略を一緒に考えてみよう。 【課題④　「第3章の復習」】 気になる会社のマーケティングを一つ取り上げて、「会社の概要」「その会社のマーケティング」「どうしてその会社を選んだのか」「第3章で学んだこと」をA4サイズ最大2枚でまとめよう。 （ヘッダーに学籍番号と名前を記入。文字数と行数は40×40に設定。A4サイズ最大2枚でまとめること）
8回	【第4章　事業の形をつくる「事業システム論」】 「ビジネスモデルキャンパス」「フリーミアム」「プラットフォーム戦略」「アウトソーシング」「パートナーシップ戦略」「トヨタ生産方式」「損益分岐点」 【演習】 地元の商店街がどうすれば復活するのかを一緒に考えてみよう。 【課題⑤　「第4章の復習」】 気になる会社の事業を取り上げて、「会社の概要」「その会社の事業」「どうしてその会社を選んだのか」「第4章で学んだこと」をA4サイズ最大2枚でまとめよう。 （ヘッダーに学籍番号と名前を記入。文字数と行数は40×40に設定。A4サイズ最大2枚でまとめること）
9回	【第5章　会社の方針を描いて決める「経営戦略論」】 「経営戦略」「SWOT分析」「ポーターの5要因分析」「リソース・ベースト・ビュー」「ゲーム理論ベースの経営戦略論」「WIN-WIN」「国際戦略」「センスメーキング」 【演習】 岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科を事例として、経営戦略を一緒に考えてみよう。 【課題⑥　「第5章の復習」】 熱意のある経営者をひとり取り上げて、「経営者の経営している会社の概要」「経営者について」「どうして経営者を選んだのか」「第5章で学んだこと」をA4サイズ最大2枚でまとめよう。 （ヘッダーに学籍番号と名前を記入。文字数と行数は40×40に設定。A4サイズ最大2枚でまとめること）
10回	【第6章　自分の働き方を考える「組織行動論」】 「組織行動論」「マズローの欲求5段階説」「キャリアアンカー」「PDCA」「3種の資本」「サイモンの意思決定論」「組織均衡」「グループシンク」 【演習】 働きやすい組織とは何かを一緒に考えてみよう。（働き方編） 【課題⑦　「第6章の復習」】 組織運営に定評のある会社を取り上げて、「会社の概要」「その会社の組織運営について」「どうしてその会社を選んだのか」「第6章で学んだこと」をA4サイズ最大2枚でまとめよう。 （ヘッダーに学籍番号と名前を記入。文字数と行数は40×40に設定。A4サイズ最大2枚でまとめること）

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
11回	【第7章　会社を動かす仕組みを知る「経営組織論」】 「分業と調整」「機能別組織と事業部別組織」「官僚制」「有機的組織」「マネジメント・コントロール」「評価制度」「ポートフォリオ管理」「系列」「制度派組織論」 【演習】 働きやすい組織とは何かを一緒に考えてみよう。(組織編) 【課題⑧　「第7章の復習」】 働きたい会社を取り上げて、「会社の概要」「その会社の組織について」「どうしてその会社を選んだのか」「第7章で学んだこと」A4サイズ最大2枚でまとめよう。 （ヘッダーに学籍番号と名前を記入。文字数と行数は40×40に設定。A4サイズ最大2枚でまとめること）
12回	【その他の経営・マネジメントとレポートの説明】 「経営資源（ヒト・モノ・カネ・情報)」 「人的資源管理」「生産管理」「財務諸表（貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書)」 「問題解決論」 【演習】 配布資料の問題をやってみよう
13回	【ソサエティ5.0理解①】 「AI」「ロボット」「IoT」「VR」「仮想通貨」「ビッグデータ」「ドローン」「ウェアラブル」など 【演習】 上記の用語を一緒に調べてみよう
14回	【ソサエティ5.0理解②と管理栄養士】 「次世代ヘルスケア」「健康経営」「マイナンバーカード」など 【演習】 健康経営アワードの中で気になる企業を選び、管理栄養士として今後どのような経験が必要になるか一緒に考えてみよう。
15回	【まとめ】 第14回までを振り返り、重要なところをまとめて説明する。 ※レポート提出期限は、「経営・マネジメント」の定期試験の実施日の17時までとする。

令　和　２　年　度　教　育　計　画							
科目名	少子高齢化と諸問題	授業回数	15	単位数	2	担当教員	坂元　晶
質問受付の方法　e-mail：okashakai@hotmail.com、OH：授業の前後に非常勤講師室（A202）にて							

教育目標と学生の学習成果		教育目標：　自律した信念のある社会人として必要な、現代社会に関する知識を習得する。 学生の学習成果 専門的学習成果：現代社会において、社会的・文化的につくられた性別「ジェンダー」が、個人の生き方や社会のあり方に与えている影響について知り、それが少子化や高齢化にまつわる問題とつながりのあることを理解する。 汎用的学習成果：社会人として自らの生き方を考えることができるようになる。
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） １．配布するプリント資料に基づき、パワーポイントを使用した口頭による講義形式を基本とします。 ２．下に挙げた以外にも、授業の進度に応じて参考文献を紹介します。 また、必要に応じて新聞・雑誌等のニュース記事などを使用します。 ３．毎回授業の終わりには「シャトルカード」で授業内容に即した小題に取り組んでもらい、理解の定着を図ります。 ４．単位認定の参考として、課題の提出を求めることがあります。
	予習・復習	予習事項＆復習事項：授業では時事的な話題に触れることが多いです。理解のため、また予習・復習を兼ねて、意識的に新聞やＴＶのニュース番組を閲読・視聴し（1 日に最低でも 15 分）、その中で、授業に関することなどに触れられていれば、授業で取り上げたことと関連付けながら考える、という作業をするようにしてください。
	テキスト	テキストは指定しませんが、プリント資料を配布して授業を行います。 理解を助けるために、下記に挙げた参考図書を読むことを推奨します。
成績評価の方法		「ジェンダー」が個人の生き方や社会のありかた、そして少子高齢化にどのような影響を与えているかについて一定の理解に達し、なおかつ自分自身にかかわる問題として考えることができているかについて評価します。 ①　課題（小レポート・シャトルカード課題への取り組み）の内容（１０％） ②　期末試験の成績（９０％） 以上２点から評価します。①②合計６０％以上の獲得で合格とします。
注意事項		【参考図書】 １．目黒依子編：『ジェンダーの社会学』、放送大学教材、1994 年 ２．江原由美子・山田昌弘：『ジェンダーの社会学　入門』、岩波書店、2008 年 ＊授業の進度に応じて、さらに参考文献を紹介します。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	【オリエンテーション】 ・シラバスの解説、授業の進め方、注意点などについて。
2 回	【「少子高齢化」―何が問題か？】 目標：他人事ではなく、自分自身にかかわる問題として「少子高齢化」について考えることができるようになる 内容：・「少子高齢化」という言葉の意味を把握した上で、そのメリットとデメリット、及び原因とされている事柄についての知識を得る ・「少子高齢化」にともなう諸問題には「ジェンダー」に基づく「性別役割分業」が根底にあることを理解する
3 回	【「ジェンダー」とは？】 目標：自分自身や周囲の状況について日頃の思い込みとは別の角度から視点をあて、考えることができるようになる 内容：・「ジェンダー」と、「ジェンダー」に基づく「性別役割分業」についての基礎知識を習得する ・「ジェンダー」が人々の生き方や社会に大きな影響を与えていることを理解する
4 回	【ジェンダーの「社会化」①　教育】 目標：「ジェンダー」が与える子どもの進路への影響は、大人になってからの就業分野や収入、年金の差と無関係ではないことを自分自身の問題として考えることができるようになる 内容：・「社会化」「性別社会化」の定義を知る ・「ジェンダー」を子どもが内面化していく際に「性別社会化」の場としての「家庭」と「学校」が大きな影響を与えていることを理解する。
5 回	【ジェンダーの「社会化」②　マスメディア】 目標：社会人として必要な「メディア・リテラシー」の能力を使って、マスメディアのもたらす情報に対して批判的に接することができるようになる 内容：・「性別社会化」にはマスメディアのもたらす膨大な情報も大きな影響を与えていることを理解する ・情報に惑わされないためにも「メディア・リテラシー」の能力が重要であることを知り、その基本的概念を習得する
6 回	【「少子化」の背景―ライフスタイルの変化―①　就業】 目標：社会人として、自分にとってより有益な職業との関り方について考えることができるようになる 内容：・「ジェンダー」に規定されて職業への関り方（雇用期間、雇用形態、就業分野、職種など）が男女で異なることについて理解する ・「ジェンダー」に規定されて職業への関り方が男女で異なるために、職業活動から得られる報酬に男女全体でみると大きな差（男＞女）が出ている現状について理解する
7 回	【「少子化」の背景―ライフスタイルの変化―②　結婚―専業主婦】 目標：自分自身と社会とを結びつけて「結婚」について考えることができるようになる 内容：・「性別役割分業」は近代社会になって出現した分業形態で、その役割の一端を担う「専業主婦」は歴史的にみれば特異な存在であるとともに、社会階層としてみても特徴的な面を持つ存在であることを理解する。

8 回	【「少子化」の背景―ライフスタイルの変化―③　結婚―魅力のミスマッチ】 目標：変化する社会状況の中で生きていくために必要な「戦略的思考」を用いて自分の将来について考えられるようになる 内容：・「少子化」の原因として挙げられることの多い「未婚化」「晩婚化」の社会的背景についての知識を習得する ・恋愛感情の根本となる相手に感じる「魅力」が、自身の属する社会の「ジェンダー」観に大きく影響されていることを理解する
9 回	【「少子化」の背景―ライフスタイルの変化―④　生殖補助医療とジェンダー】 目標：周囲の意見に流されるのではなく、究極のプライヴェート問題として自分自身の意思で生殖について決断できるようになる 内容：・新しい生殖技術に法など社会の対応が追い付いていない現状について知識を得る ・新しい生殖技術が女性の生き方や夫婦のあり方にも影響を与えていることを知る
10 回	【「少子化」の背景―ライフスタイルの変化―⑤　育児休業と保育】 目標：社会状況の変化の中で、収入を確保しながら子どもを育て、「よりよく生きる」ためにはどうすればよいか、自分の問題として考えることができるようになる 内容：・「育児休業法」や保育制度について、その現状と問題点についての知識を得る
11 回	【高齢期の問題①　高齢期に起こる問題とその男女差】 目標：自分が老後に困らないためには、若いうちからどのように生きればよいのか考えることができるようになる 内容：・高齢期に直面する種々の問題には男女差が存在しており、その差が生じる主な原因は「ジェンダー」に影響されて過ごしてきた現役時代の生き方にあることを理解する
12 回	【高齢期の問題②　介護と福祉活動の担い手】 目標：介護の問題を自分の問題として考えることができるようになる 内容：・介護と福祉が主に女性によって担われるようになった背景について知識を得る ・「少子高齢化」がすすむと、現状のしくみは維持困難であることを理解する
13 回	【高齢期の問題③　年金Ⅰ】 目標：20 歳になれば大学生でも加入の義務が生じる国民年金をはじめとして、年金について自分自身の問題として考えられるようになる 内容：・年金制度についての基本的なしくみと年金制度が抱える問題点について知識を得る
14 回	【高齢期の問題④　年金Ⅱ】 目標：自分が無年金障害者となるリスクを避けるため、国民年金の加入の義務が生じた際、どのように行動するべきか考えられるようになる 内容：・年金は障害年金や遺族年金など、老後に受け取るものだけではないことを知る ・生活防衛のため、年金保険料の納付が困難な場合に用意されている諸手続き（特に「学生納付特例制度」）についての知識を得る ・年金制度の改革案について主なものについて知識を習得する
15 回	【「ジェンダー」に起因する暴力　―特に DV について―】 目標：自分や自分の大切な人が生き延びるために、DV やデート DV の被害に遭ったり相談を受けたりした場合にどうすればよいか考えることができるようになる 内容：・セクハラや DV などの暴力には、「ジェンダー」に起因する社会的な権力構造が背景にあることを理解する ・DV・デート DV についての基本的知識を習得する

<table>
<tr><td colspan="8">令　和　２　年　度　教　育　計　画</td></tr>
<tr><td>科目名</td><td>児童福祉概論</td><td>授業回数</td><td>１５</td><td>単位数</td><td>２</td><td>担当教員</td><td>松尾　冀</td></tr>
<tr><td colspan="8">質問受付の方法（e-mail）授業終了時</td></tr>
<tr><td>教育目標と学生の学習成果</td><td colspan="7">教育目標
少子高齢化社会の今日、21 世紀を担う子ども達の健全育成を図る為に、子ども家庭福祉の基本理念三原則（尊厳性、無差別平等、自己実現）を踏まえ、積極的福祉としてのウェルビーイングの実現を目指すことを目標とする。

学生の学習成果
社会人、又は専門職（管理栄養士等）として、子どもの健全育成のために、現場で子どもの食育推進に努めると共に職業に対する意欲、知識価値を認識する。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">教育方法</td><td>授業の進め方</td><td colspan="6">（講義・演習・実験・実技）
基本的にはテキストを中心に進めていくが、社会的養護の場面はＤＶＤを鑑賞させて解説する。
１．子ども家庭福祉に関わる現状、背景、及び問題の要因や課題について講ずる。
２．２回位レポートの提出を行い、講義内容についての受講生の見解を問う。
３．シャトルカードを必ず見て、学生の質問に答える。
４．専門用語が多いので、用語説明書を講義３，４回に１枚配布する。</td></tr>
<tr><td>予習・復習</td><td colspan="6">１．上記内容により、必要に応じて課題を投げかけ、感想や意見等を求めてみる。
２．所定の様式により提出させチェックする。</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="6">子ども家庭福祉論；2018（赤木正典、流王治郎）建帛社</td></tr>
<tr><td>学習評価の方法</td><td colspan="7">１．講義内容の総合的な理解度を見る。
期末テストの成績（70%）（試験への持込みは全て不可）
レポートの提出（30%）
２．積極的な授業への参加、真摯な授業出席を望む。</td></tr>
<tr><td>注意事項</td><td colspan="7">参考図書
山縣文治編：2017　「よくわかる子ども家庭福祉」ミネルヴァ書房</td></tr>
</table>

	授　業　回　数　別　教　育　内　容
1 回	1．本講義の目的と進め方について （1）　現代の社会と子ども （2）　子どもを取り巻く社会と家庭状況
2 回	2．子ども家庭福祉の歴史的背景 （1）　欧米における社会事業と児童保護 （2）　わが国近代（明治、大正）の児童保護 （3）　戦後の子ども家庭福祉の成立
3 回	3. 子ども家庭福祉の基礎 （1）　子ども家庭福祉の理念と意義 （2）　子ども家庭福祉の権利保障
4 回	4．中世以降の子ども家庭福祉の歴史 （1）　欧米における子ども家庭福祉の歴史 （2）　わが国におけるこども家庭福祉の歴史
5 回	5. 子ども家庭福祉の法律と制度 （1）子ども家庭福祉の法律と実施体制 （2）子ども家庭福祉の行政機関 （3）児童福祉施設
6 回	6. 子ども家庭福祉従事者 （1）子ども家庭福祉の専門職 （2）子ども家庭福祉機関、施設職員の資格と職務
7 回	7．母子保健と福祉 （1）母子保健の概要 （2）母子保健の施策 （3）母子保健支援活動
8 回	8．管理栄養士と子どもの健康 （1）学童期の栄養管理 （2）栄養・食生活指導（偏食への工夫・欠食の問題）
9 回	9．子ども虐待と福祉 （1）子ども虐待とは何か　　（3）子ども虐待の事例 （2）子ども虐待問題の施策
１０ 回	１０．ひとり親家庭の福祉 （1）ひとり親家庭の現状 （2）母子・父子家庭の福祉施策 （3）母子生活支援施設での援助事例

１１ 回	１１．保育支援と福祉 （１）保育に欠ける子ども （２）保育施策の現状と課題 （３）障害児保育支援活動
１２ 回	１２．社会的養護の必要性 （１）子ども養護と福祉（ＤＶＤを鑑賞） （２）児童養護施設の援助事例 （３）情緒障害児の福祉
１３ 回	１３．社会的養護 （１）児童自立支援の福祉 （２）非行対策と処遇 （３）里親制度の福祉 （４）里子の事例
１４ 回	１４．障害児の福祉 （１）障害児福祉の概要 （２）在宅福祉サービスと施設福祉サービス （３）障害児福祉の事例
１５ 回	１５．子ども家庭福祉の動向と展望 （１）子ども問題連携のネットワーク （２）子育て支援活動 （３）まとめ

<table>
<tr><td colspan="8">令　和　２　年　度　教　育　計　画</td></tr>
<tr><td>科目名</td><td>ボランティア理論</td><td>授業回数</td><td>15</td><td>単位数</td><td>2</td><td>担当教員</td><td>坂元　晶</td></tr>
<tr><td colspan="8">質問受付の方法（e-mail）：okashakai@hotmail.com、OH：授業の前後に非常勤講師室 A202 にて</td></tr>
<tr><td>教育目標と学生の学習成果</td><td colspan="7">教育目標：　自律した信念のある社会人として行動できるよう、現代社会で存在感を増しているボランティアの理論に関する知識を習得する。

学生の学習成果
専門的学習成果：ボランティアとしてよりよく活動するために必要な理論的根拠となる知識を獲得する。
汎用的学習成果：獲得した知識を活かして、ボランティア活動実践の際に起こり得ると想定される問題へどのように対処するか考えることができるようになる。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">教育方法</td><td>授業の進め方</td><td colspan="6">（講義・演習・実験・実習・実技）
１．配布するプリント資料に基づき、パワーポイントを使用した口頭による講義形式を基本とします。
２．下に挙げた以外にも、授業の進度に応じて参考文献を紹介します。
また、必要に応じて新聞等のニュース記事などを使用します。
３．毎回授業の終わりには「シャトルカード」で授業内容に即した小題に取り組んでもらい、理解の定着を図ります。
４．単位認定の参考として、課題の提出を求めることがあります。</td></tr>
<tr><td>予習・復習</td><td colspan="6">予習事項＆復習事項：予習・復習を兼ねて、意識的に新聞やＴＶのニュース番組を閲読・視聴し（1 日に最低でも 15 分）、その中で、ボランティアに関することなどに触れられていれば、授業で取り上げたことと関連付けながら考える、という作業をするようにしてください。</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="6">特に指定はせず、プリント資料を使用して授業を行います。</td></tr>
<tr><td>成績評価の方法</td><td colspan="7">「ボランティア」の基本原則などの理論について一定の理解に達し、それをふまえた上で、自らがよりよく活動するためになすべきことを考えることができる。

①　課題（シャトルカードの記述など）（１０％）
②　期末試験の成績（９０％）
以上２点から評価します。①②合計６０％以上の獲得で合格とします。</td></tr>
<tr><td>注意事項</td><td colspan="7">【参考図書】
1. 松田次生『福祉ボランティアの今日的課題』学事出版、2010 年
2. 柴田健治等編『ボランティア論―「広がり」から「深まり」へ―』みらい、2010 年
3. 三本松正之・朝倉美江編『福祉ボランティア論』有斐閣アルマ、2007 年
＊他にも授業の中で、参考文献を紹介します。</td></tr>
</table>

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	【オリエンテーション】 ・シラバスの解説、授業の進め方、注意点などについて
2 回	【「ボランティア」の基本原則】 目標：ボランティア活動を実践する際の基本事項となる「ボランティア」とは何か、ということについて意識して考えることができるようになる 内容：・「ボランティア」という言葉の意味を知る ・「ボランティア」の基本原則と役割について理解する
3 回	【ボランティアの自発性】 目標：ボランティア活動を行う際に、自分や仲間が「自発性」に関する問題に直面した時に、解決に至る道筋を考えられるようになる 内容：・ボランティアの三大原則のひとつである「自発性」の基本的概念を理解する ・ボランティアが「自発性」に関して抱える問題について認識する
4 ・ 5 回	【ボランティアの無償性①②】 目標：ボランティア活動を行う際に、自分や仲間が「無償性」に関する問題に直面した時に、解決に至る道筋を考えられるようになる 内容：・ボランティアの三大原則のひとつである「無償性」の基本的概念を理解する ・入試での評価や「お礼」など「無償性」に関わるさまざまな問題について認識する
6 回	【ボランティアの公共性】 目標：ボランティア活動を行う際に、自分や仲間が「公共性」に関する問題に直面した時に、解決に至る道筋を考えられるようになる 内容・ボランティアの三大原則のひとつである「公共性」の基本的概念を理解する ・「公共性」に関わるさまざまな問題について認識する
7 回	【ボランティアの主体性と補完性・先駆性】 目標：ボランティア活動を行う際に、自分や仲間が「主体性」や「補完性」「先駆性」に関する問題に直面した時に、解決に至る道筋を考えられるようになる 内容：・ボランティアの原則のひとつである「主体性」及び「補完性」「先駆性」の基本的概念を理解する ・「主体性」「補完性」「先駆性」に関わるさまざまな問題について認識する
8 回	【ボランティアの対等性・共助性】 目標：ボランティア活動を行う際に、自分や仲間が「対等性」「共助性」に関する問題に直面した時に、解決に至る道筋を考えられるようになる 内容：・ボランティアの原則のひとつである「対等性」「共助性」の基本的概念を理解する ・「対等性」「共助性」に関わるさまざまな問題について認識する
9 回	【国際ボランティア】 目標：国際ボランティアの活動を行う際に、自分や仲間が問題に直面した時に、解決に至る道筋を考えられるようになる 内容：・国際ボランティア活動のジレンマや問題について認識する

10回	【災害ボランティア】 目標：災害ボランティアの活動を行う際に、自分や仲間が問題に直面した時に、解決に至る道筋を考えられるようになる 内容：・災害ボランティアの活動とボランティアセンターの重要性について認識する
11回	【福祉ボランティア】 目標：地域ボランティアの活動を行う際に、自分や仲間が問題に直面した時に、解決に至る道筋を考えられるようになる 内容：・地域福祉（特に高齢者福祉、障害者福祉、子ども福祉）とボランティアの活動について認識する
12回	【環境ボランティア】 目標：環境ボランティアの活動を行う際に、自分や仲間が問題に直面した時に、解決に至る道筋を考えられるようになる 内容：・環境ボランティアの活動について認識する
13回	【ＮＰＯとＮＧＯ】 目標：ボランティア活動を行う際に、NPO 法人資格を得ることのメリット・デメッリトをふまえて資格を得るか得ないかの選択をできるようになる 内容：・ＮＰＯ法とＮＰＯの活動について知識を得る ・ＮＧＯと代表的なＮＧＯ団体について知識を得る
14回	【ボランティアの組織化とマネジメント】 目標：自分がボランティア活動を行う際に、組織との関わり方を考えるとともに、組織の運営にあたる際にどうすればよいか考えることができるようになる 内容：・ボランティア組織のつくりかたと運営の仕方についての基本的知識を獲得する
15回	【ボランティアとジェンダー】 目標：少子高齢化がすすむなか、日本的「福祉国家」とどのように自分が向き合うか考えることができるようになる 内容：・ジェンダーに基づく性別役割分業意識がボランティア活動を行う女性が多い要因のひとつであることを理解する ・女性たちによって日本の「福祉国家」が支えられている現状とその問題点について認識する

<table>
<tr><td colspan="8">令　和　２　年　度　教　育　計　画</td></tr>
<tr><td>科目名</td><td>ボランティア活動</td><td>授業回数</td><td>15</td><td>単位数</td><td>２</td><td>担当教員</td><td>坂元　晶</td></tr>
<tr><td colspan="8">質問受付の方法（e-mail）：okashakai@hotmail.com、OH:授業の前後に非常勤講師室（A202）</td></tr>
<tr><td>教育目標と学生の学習成果</td><td colspan="7">教育目標：自律した信念のある社会人として行動できるよう、現代社会で存在感を増している「ボランティア活動」に関する知識を習得する。

学生の学習成果
専門的学習効果：「ボランティア」について、その基本原則や社会における役割について理解する。
汎用的学習効果：「ボランティア活動」を通して、社会にどのような貢献ができるか考えることができるようになる。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">教育方法</td><td>授業の進め方</td><td colspan="6">（講義・演習・実験・実習・実技）
１．講義期間の前半は、必要な基礎知識を身に付けるため、配布するプリント資料に基づき、パワーポイントを使用した口頭による講義形式で行います。
期間の後半は、学生のみなさんに課題を発表してもらう演習形式で行います。
２．下に挙げた以外にも、授業の進度に応じて参考文献を紹介します。
また、必要に応じて新聞等のニュース記事などを使用します。
３．毎回授業の終わりには「シャトルカード」で授業内容に即した小題に取り組んでもらい、理解の定着を図ります。</td></tr>
<tr><td>予習・復習</td><td colspan="6">予習事項＆復習事項：予習・復習を兼ねて、意識的に新聞やＴＶのニュース番組を閲読・視聴し（1 日に最低でも 15 分）、その中で、ボランティアに関することなどに触れられていれば、授業で取り上げたことと関連付けながら考える、という作業をするようにしてください。
また、発表の際にはそのための準備をしてください。</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="6">特に指定はしませんが、プリント資料を使用して授業を行います。
できれば下欄に挙げた参考文献に目を通しておくことをすすめます。</td></tr>
<tr><td>学習評価の方法</td><td colspan="7">「ボランティア」の基本原則について一定の理解に達し、授業で取り上げたさまざまな「ボランティア活動」について、説明することができる。

①　課題（発表の内容及びシャトルカードの記述）（３０％）
②　期末試験の成績（７０％）

以上２点から評価します。①と②の合計６０％の獲得で合格とします。</td></tr>
<tr><td>注意事項</td><td colspan="7">【参考図書】
松田次生『福祉ボランティアの今日的課題』学事出版、2010 年

＊他にも授業の中で、参考文献を紹介します。</td></tr>
</table>

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1回	【オリエンテーション】 ・シラバスの解説、授業の進め方、注意点などについて
2回	【ボランティアって何？】 目標：ボランティア活動を行う際の基本事項となる「ボランティア」とは何か、ということを意識して考えられるようになる 内容：・「ボランティア」という言葉の意味と定義について考える ・「ボランティア」の基本原則と役割について理解する
3回	【ボランティアの三大原則（条件）】 目標：ボランティア活動を行う際に、自分の行っていることが「ボランティア」の条件を満たしているか判断することができるようになる 内容：・ボランティアの三大原則である「自発性」「無償性」「公共性」について理解する
4回	【ボランティアと社会―災害ボランティアの場合】 目標：ボランティア活動を行う際に、その活動の社会での位置づけを考えられるようになる 内容：・現代社会におけるボランティアの役割・意義について理解する ・近年注目を集める災害ボランティアについて知識を得る
5回	【フェアトレード①】 目標：ボランティア活動としてだけでなく、将来、栄養士・管理栄養士として食育教育や、食材選定に携わる際に、自分がフェアトレード活動やフェアトレード商品（特に食品）とどのように関わるかを考えることができるようになる 内容：・フェアトレード活動が必要とされる社会背景を理解する ・フェアトレードのしくみと活動についての知識を得る
6回	【フェアトレード②　チョコレートと児童労働】 目標：ボランティア活動としてだけでなく、将来、栄養士・管理栄養士として食育教育や、食材選定に携わる際に、食品原料生産現場に蔓延する社会問題について知識をもって取り組むことができるようになる 内容：・チョコレートの原料であるカカオ豆の生産現場において、児童労働が問題となっている現状について理解する
7回	【フェアトレード③　「キリマンジャロ」コーヒーの場合】 目標：ボランティア活動としてだけでなく、将来、栄養士・管理栄養士として食育教育や、食材選定に携わる際に、「公正な」値段とは何か、を考えて行動できるようになる 内容：・コーヒー生産農家を悩ますコーヒー豆の価格が、先物取引などの生産者の力の及ばないところで決まっているしくみについて知識を得る
8回	【フェアトレード④　フェアトレードで起業】 目標：「一方的な施し」ではなく、お互いに利益を得あう関係の活動とは何かを考えることができるようになる 内容：・社会の課題を事業によって解決することを目指す「社会起業家」「社会的企業」について知識を得る

9 回	【フードバンク】 目標：将来、栄養士・管理栄養士としてフードバンク活動に協力を求められた際に、適切に行動できるようになる 内容：・フードバンクの仕組みと、「食品リサイクル法」に対してフードバンクが貢献できることについて知識を得る ・栄養士・管理栄養士が「食」の専門家としてフードバンク活動に重要な役割を担っていることを理解する
10 回	【プロボノと「子ども食堂」】 目標：将来、栄養士・管理栄養士としてのスキルや知識を生かして、社会に対して貢献するような活動ができるようになる 内容：・社会的・公共的な目的のために、自らの職業を通じて培ったスキルや知識を提供するボランティア活動である「プロボノ」について基本的知識を習得する ・栄養士・管理栄養士としてのスキルや知識を生かして「プロボノ」活動を行う例として「子ども食堂」活動について知識を得る
11 ｜ 14 回	【学生発表①～④】 目標：自分の興味を持ったボランティア活動について調べて発表を行うことによって、ボランティア活動に対する関心・理解を深める 内容：・学生発表①～④：自分の興味を持ったボランティア活動や活動を行う団体などについて調べて発表する
15 回	【「寄付」さまざまなボランティアの形】 目標：固定概念にとらわれず、さまざまな形でボランティア活動に参加できるようになる 内容：・ボランティア活動における「寄付」とは単に金銭の寄付のみを意味するのではなく、時間や知識・技能の「寄付」など広くとらえることができるものであることについて知識を習得する

令　和　２　年　度　教　育　計　画							
科目名	社会心理学	授業回数	15	単位数	2	担当教員	鈴木　久子
質問受付の方法　e-mail:hsuzuki@owc.ac.jp　ＯＨ：月曜日３限　Ｍ棟　４０９号室							

教育目標と学生の学習成果

教育目標

本科目では，社会的行動に関する基礎的な研究知見を学びながら，人の社会的行動について「あるある」「なるほど」と納得できる学びを目指す。具体的には，以下の諸点に関する基礎的な研究知見および能力を習得することである。

① 社会の中における個人の心理に関する基礎的な研究知見を習得する。
② 対人認知および対人行動に関する基礎的な研究知見を習得する。
③ 集団の中の人間の行動に関する基礎的な研究知見を習得する。
④ 自律した社会人として人との関わりに必要な論理的思考力を習得する。

学生の学習成果

＜専門的学習成果＞
教育目標に掲げる①，②，③の項目に関する研究知見を習得する。

＜汎用的学習成果＞
教育目標に掲げる④の項目に関する能力を身につける。

教育方法

授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） ・テキストに基づいて進め，集団心理をより理解するために，グループワークを実施する ・必要に応じて心理テストを行い，自己理解の一助とする。 ・毎回，授業後には振り返りタイムを設定する。
予習・復習	予習事項：毎授業回前に「授業回数別教育内容」に記された予習をして授業に臨むこと。 復習事項：基本的には授業で使用したテキスト内容の見直しをすること。また，参考図書等で確認すること。
テキスト	使用テキスト：堀洋道監修『新編社会心理学改訂版』福村出版，2018 年。 必要に応じてプリント資料を配布。 ＊授業用に冊子ノートを準備し，左右の見開きで１日分とし，毎回，まとめておくこと。適宜，求められた日に点検を受ける。

学習評価の方法	評価配分に関して 　専門的学習成果と汎用的学習成果について，合計 100 点を満点として評価を行う。それぞれの学習成果の評価配分および評価比重は以下の通りである。 ＜専門的学習成果＞ 　専門的学習成果の評価配分は 70 点である。評価配分 70 点の中で，以下に示した，それぞれの専門的学習成果の評価比重は，おおよそ「①：②：③＝15 点：15 点：40 点」である。 ①　社会の中における個人の心理に関する基礎的な研究知見を習得する。 ②　対人認知および対人行動に関する基礎的な研究知見を習得する。 ③　集団の中の人間の行動に関する基礎的な研究知見を習得する。 ＜汎用的学習成果＞ 汎用的学習成果の評価配分は 20 点である。 　専門的学習成果に関して，授業で学んだ知識の理解度を図るために，理解度確認テストを行う。この評価配分は 10 点である。総じて，専門的学習成果 70 点，汎用的学習成果 20 点，理解度確認 10 点とし，合計 100 点満点で最終評価を行う。 評価ツールに関して ＜専門的学習成果＞ 　専門的学習成果の評価配分の合計 70 点は学期末に行う定期試験で測る。 ＜汎用的学習成果＞ 　汎用的学習成果の評価配分 20 点のうち 10 点は授業中に行う課題で測る。具体的には，自立した社会人として人との関わりに必要な論理的思考力や批判的思考力を習得するために，授業内容に応じた課題を課す。残り 10 点はノート提出状況やその内容，授業中の態度で測る。 　毎回記入するシャトルカードを利用して授業の振り返りを行い、授業への貢献度や自己開発への意欲などを勘案し、加点の機会を設ける。 ＜授業内容の理解度＞ 理解度確認の評価配分 10 点は授業中に行う 2 回の小テストで測る。
注意事項	参考図書等 ・池上知子・遠藤由美共著『グラフィック社会心理学第 2 版』サイエンス社，2009 年。 ・山岸俊男編『社会心理学キーワード』有斐閣双書，2015 年

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	【オリエンテーション】 本科目の講義内容・進め方・成績評価の方法・受講ルールに関する説明を行う。 【はじめに】 ・社会心理学とは→人間の社会行動が社会的な多くの要因によってどのように起きているのかを明らかにする科学である。 予習事項：テキストの目次について目を通してくる。
2 回	【社会の中における個人の心理①】P65 ・自己概念（自己知識）→自分の理解の仕方や内容について学ぶことによって，自己理解をより深める一助とする（心理テスト・自己コントロール法）。 予習事項：見えていない自分についていろいろ考えてくること（ジョ・ハリの窓）。 復習事項：講義内容を見直し，キーワードは理解しておくこと。
3 回	【社会の中における個人の心理②】P75～ ・自己評価→自分自身に対する評価はどのくらいか。また，その評価に影響を与える要因について学ぶことによって，より適応的な自己評価のあり方を理解する。 予習事項：最近の自分を振り返り，自分を評価してくる。 復習事項：講義内容を見直し，キーワードは理解しておくこと。
4 回	【対人認知・対人行動①】P14～15, P18, P22～26, P35 ・対人認知→相手の理解の仕方やその理解が歪む時のメカニズムを学ぶことによって，他者をより正確に理解し，円滑な対人関係を築くための一助となる。 予習事項：授業で指示する。 復習事項：講義内容を見直し，キーワードは理解しておくこと。
5 回	【対人認知・対人行動②】P133～ ・対人魅力→人に魅力を感じる心のしくみについて学ぶことによって，日常の対人魅力の心理メカニズムを理解する。 予習事項：遠距離恋愛が上手くいか上手くいかないか。それぞれの原因を考えてくる。 復習事項：講義内容を見直し，キーワードは理解しておくこと。
6 回	【対人認知・対人行動③】P46～ ・原因帰属→自分や他者の行動を起こす原因がどのように規定されるのかを学ぶことによって，行動とその原因との関係を理解する。 予習事項：遅刻をした時の言い訳を考えてくる。 復習事項：講義内容を見直し，キーワードは理解しておくこと。
7 回	【第１回復習テスト】 第２回～第６回までの５回分の内容について復習テストを実施する。 【集団の中の人間①】P138, P149, P206～ ・人間関係の様相→人と人が関わるという基本的問題について学ぶことによって，人間という存在について理解するための一助とする。 予習事項：自分の友人関係の特徴を振り返ってくる。 復習事項：人が関係性の中で生きている意義を認識する。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
8 回	【集団の中の人間②】P206～209、P227 ・周りの他者によって影響する自分の行動（1）―集団のダイナミクス― →集団特徴（例，社会的規範，同調）について学ぶことによって，円滑な集団活動を行えるための一助とする。 予習事項：授業で指示する。 復習事項：講義内容を見直し，キーワードは理解しておくこと。
9 回	【集団の中の人間③】P209～ ・周りの他者によって影響する自分の行動（2）―他者存在の影響― →集団特徴（例，社会的促進・抑制，社会的手抜き）について学ぶことによって，円滑な集団活動を行えるための一助となる。 予習事項：何か作業する時，そばに誰かいるとどんな経験をしたか思い出してくる。 復習事項：講義内容を見直し，キーワードは理解しておくこと。
10 回	【集団の中の人間④】P214～220 ・集団意思決定→みんなで何かを決める時，何か問題を解決する時のリスクについて学ぶ。これによって，集団活動におけるリスク軽減策を理解する。 予習事項：何かを個人で決める時と集団で決める時で，どんな違いがあるのか考えてくる。 復習事項：講義内容を見直し，キーワードは理解しておくこと。
11 回	【集団の中の人間⑤】P220 ・リーダーシップ→効果的なリーダーシップについて学ぶことによって，指導者としてのあり方を理解する。 予習事項：自分が尊敬できる人物を１人挙げ，その選んだ理由を考えてくる。 復習事項：講義内容を見直し，キーワードは理解しておくこと。
12 回	【集団の中の人間関係①】P159 ・自己表現のワーク→自分の自己表現の特徴を知り，課題を発見する。 予習事項：授業で指示する 。 復習事項：講義内容を見直し、キーワードは理解しておくこと。
13 回	【集団の中の人間関係②】 ・アサーティブな自己表現ワーク→自分も他者も大切にできる自己表現について学ぶ。 予習事項：配付資料を熟読してくること。 復習事項：アサーティブな表現を考えてくる。
14 回	【第２回復習テスト】 第８回～第13回までの７回分の内容について復習テスト,課題テストを実施する。 【集団の中の人間関係③】 ・アサーティブな自己表現→ワークを体験して，自己課題を達成すべく努める。 予習事項：復習テストに備えて勉強しておく。 12 ・13回の復習をしておく。
15 回	【まとめ】 ・これまでの講義内容を振り返り，必要なら補足する。 ・定期試験の出題内容について知る。

令　和　２　年　度　教　育　計　画							
科目名	臨床心理学	授業回数	15	単位数	2	担当教員	影山世都子
質問受付の方法：授業終了時　　OH: 在室時							

教育目標と学生の学習成果		教育目標 　専門的社会活動として、さまざまな社会領域の援助専門職による協働においても、重要視されている臨床心理学について学び、日常生活のこころの悩みや問題を理解する方法、それらの解決方法について習得する。 学生の学習成果 専門的学習成果：①こころの悩みや問題に関する基礎的な研究知見を習得する。 ②心理療法に関する基礎的な研究知見を習得する。 ③職業生活や社会生活で必要な、自己表現力・他者理解力・問題解決力を獲得する。 汎用的学習成果：自他の悩みや問題に対応し、多様性を認め柔軟に対応する力を身につける。
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） 臨床心理学における基礎的な研究知見、知識の習得を図る内容は、講義形式で行う。また、職業生活や社会生活における実践的な思考力・対応力の習得を図るため、演習を行う。 受講者は、本授業用、ノートまたはファイルに、授業内容および予習・復習を記入したものを、適宜提出する。
	予習・復習	予習事項：各授業終了前に、次回授業内容についての予習事項を提示するので、必要カ所について熟読、検索しておく。 復習事項：授業内容に即した、ポイントとなる復習課題を提示するので、本授業用のノートまたはファイルにまとめる。
	テキスト	下山晴彦編：「よくわかる臨床心理学」2011 年　ミネルヴァ書房 必要に応じてプリント資料を配布
学習評価の方法		専門的学習成果である、①②③に関して、授業で学んだ知識の理解度を以下の評価ツールで学習評価を測る。 ・学期末試験およびミニレポートによる評価（７０点） ・演習時のアクティブラーニング（実践的な対応技能）、および自身作成ノートまたはファイル提出による評価（３０点） なお、汎用的学習成果としての、「自他の悩みや問題に対応し、多様性を認め柔軟に対応する力」を測るため、授業中の参加状況、演習での意欲・態度による評価を、採点に加味する。
注意事項		【参考図書】 石口彰 監修，池田まさみ 編：「臨床心理学用語辞典」2008 年　オーム社 小川俊樹・倉光修：「臨床心理学特論」2017 年　放送大学教育振興会

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1回	○オリエンテーション（教育目標・授業内容・進め方・学習評価方法・受講マナー 等） ○「臨床心理学」とは 心理学における実践活動を核とする臨床心理学について概説する。自分についてメタ認知の視点から検討する。 復習事項：授業内容を振り返り、重要ポイントをまとめる。
2回	○こころの悩みや問題① 「ストレスと心身症」 生活ストレス、ライフイベント（生活変化による）ストレスについて、事例や演習を通して検討する。心身症について理解する。 予習事項：自身の生活ストレスについてまとめる。 復習事項：授業内容を振り返り、ストレスと心身症についてまとめる。
3回	○こころの悩みや問題② 「ライフサイクルと心理的問題（乳幼児期・児童期）」 乳幼児期・児童期の発達と心理的問題について、愛着に焦点をあて学ぶ。 予習事項：愛着、コンプレックスの心理について調べる。 復習事項：授業内容を振り返り、乳幼児期・児童期の発達と心理的問題についてまとめる。
4回	○こころの悩みや問題③ 「ライフサイクルと心理的問題（思春期・青年期）」 思春期・青年期の発達と心理的問題について、第2次性徴による心身の変化、自分について内省する、こころの不安定さについて検討する。 予習事項：思春期ならではの精神的不調についてまとめる。 復習事項：授業内容を振り返り、思春期・青年期の発達と心理的問題についてまとめる。
5回	○こころの悩みや問題④ 「ライフサイクルと心理的問題（成人期以降・家族）」 成人期以降の、社会とのかかわりと家族とのかかわりにおける心理的問題について検討する。家族ライフサイクル6段階モデルから、家族病理と支援について学ぶ。 予習事項：家族ライフサイクル6段階モデル図（岡堂2008）を熟読する。 復習事項：授業内容を振り返り、成人期以降の発達と心理的問題についてまとめる。
6回	○心理的問題へのアプローチ① 「アンガーマネジメント」の観点から、演習により自己管理力について検討し、日常生活に必要な、自己表現力・他者理解力・問題解決力を習得する。 予習事項：アンガーマネジメントについて調べる。 復習事項：授業内容を振り返り、自分に合ったアンガーマネジメントについて検討し、まとめる。
7回	○心理的問題へのアプローチ② 「アサーション」の観点から、演習により受容的・主張的・攻撃的な態度について検討し、日常生活に必要な、自己表現力・他者理解力・問題解決力を習得する。 予習事項：アサーショントレーニングのページを熟読する。 復習事項：授業内容を振り返り、重要ポイントをまとめる。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
8回	○心理的問題へのアプローチ③ 「アサーション」の観点から、演習により、日常生活に必要な、アサーション的な断り方について検討し、自己表現力・他者理解力・問題解決力を習得する。 予習事項：前回の、振り返り重要ポイントを予習する。 復習事項：授業内容を振り返り、重要な対応方法をまとめる。
9回	○心理的問題へのアプローチ④ 「ＳＳＴ（ソーシャルスキルトレーニング)」の観点から、演習により、日常生活に必要な自己表現力・他者理解力・問題解決力を習得する。 予習事項：ＳＳＴについて調べる。 復習事項：授業内容を振り返り、重要な対応方法をまとめる。
10回	○理論モデルからの問題介入① 「来談者中心療法（クライエント中心療法)」の理論を学び、演習を通して、職業生活や社会生活で必要な、現実の多様性への対応を図る実践活動を検討する。 予習事項：来談者中心療法（クライエント中心療法）について調べる。 復習事項：授業内容を振り返り、重要ポイントをまとめる。
11回	○理論モデルからの問題介入② 「認知行動療法」について学び、演習を通して、職業生活や社会生活で必要な、現実の多様性への対応を図る実践活動を検討する。 予習事項：認知行動療法（ＣＢＴ）について調べる。 復習事項：授業内容を振り返り、重要ポイントをまとめる。
12回	○理論モデルからの問題介入③ 「遊戯療法」について学び、演習を通して、職業生活や社会生活で必要な、現実の多様性への対応を図る実践活動を検討する。 予習事項：遊戯療法について調べる。 復習事項：授業内容を振り返り、重要ポイントをまとめる。
13回	○理論モデルからの問題介入④ 「解決志向ブリーフセラピー」について学び、演習を通して、職業生活や社会生活で必要な、現実の多様性への対応を図る実践活動を検討する。 予習事項：解決志向ブリーフセラピーについて調べる。 復習事項：授業内容を振り返り、重要ポイントをまとめる。
14回	○アセスメントによる問題介入 心理アセスメントには、面接法・観察法・心理検査がある。近年、脳機能の検査によるアセスメントも開発されてきている。さまざまな心理アセスメントについて学び、ケースに合った介入について検討する。 予習事項：ケース・フォーミュレーションのプロセスについて調べる。 復習事項：授業内容を振り返り、心理アセスメントについてまとめる。
15回	○まとめ 「臨床心理学」の授業内容について振り返り、心理的援助についてまとめる。 ・自分自身のメンタルヘルスに有効な方法 ・身近な人の悩みや問題に対応する方法 ・本授業総復習 ※学期末テストの出題傾向

<table>
<tr><td colspan="8">令　和　２　年　度　教　育　計　画</td></tr>
<tr><td>科目名</td><td>インターネットと法</td><td>授業回数</td><td>15</td><td>単位数</td><td>2</td><td>担当教員</td><td>近　勝彦</td></tr>
<tr><td colspan="8">質問受付：毎月曜日午後４時１０分―午後５時　　e-mail：dark-blue@star.nifty.jp</td></tr>
<tr><td>教育目標と学生の学習成果</td><td colspan="7">教育目標：２１世紀初頭の情報化の中心は、インターネット関連であるといっても過言ではない。そのインターネットによって、我々は情報を入手・発信し、きわめて多くの利便性を得てきた半面、これまでの国家制度、社会制度、社会秩序、文化等に大きな変容が迫られている。ここでは、インターネットの法的課題を考察することを通じて、現代社会の諸問題を考察する。とくに、個人の視点にたって、自らが様々なインターネットからの被害に巻き込まれないように、知識的実践的な護身力をつけることを目指す。さらに、近年は、「IoT　ビッグデータ　AI」が大きく新技術としてクローズアップされているので、新しい話題にも触れる。
学生の学習成果：個人がインターネットを通じて取引する EC や自身が情報を発信することも増えていくことが予想されるので、法的なトラブルに巻き込まれない知識やリテラシーを身につける。さらには、１年前期の講義であるので、法の構造や法律の解釈の仕方の基本的考え方を身につけることを目指す。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">教育方法</td><td>授業の進め方</td><td colspan="6">（講義・演習・実験・実習・実技）
まず、現在起きている様々なインターネットと法との接点をｐｐｔやＨＰおよび教科書を使用して多角的に議論する。そのあとに、自らが考え、判断する力を養成するためには、応用的な事例を提示するので、みんなで討論をしてみたい。そのうえで、担当の課題を決めて、学生が発表する。
講義の終了時に「シャトルカード」に授業内容についての質問や感想を求める。次回の講義時に、質問等の回答を記入して返却する。これによって、各々の学習進行状況を確認しながら講義を進める。</td></tr>
<tr><td>予習・復習</td><td colspan="6">予習としては、テキストを読んでくる。復習としては、課題を考えて、発表してもらう。「シャトルカード」により効果的な復習を促進する。</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="6">近勝彦他著：『集客の方程式』、学術研究出版</td></tr>
<tr><td>学習評価の方法</td><td colspan="7">急速に進む IT 社会の中で、基礎的な法・社会現象の構造と問題点を理解し、それへの適切な対応が取れるような理解力を身につける。期末試験(70%)、レポート(30%)とする。</td></tr>
<tr><td>注意事項</td><td colspan="7">アクティブラーニングの観点も取り入れて、学生の主体的参加を活発化させるように講義を展開するので、学生の積極的に参加意識を期待する。</td></tr>
</table>

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	第一回目は、本講義のオリエンテーションをおこなう。 内容：なぜインターネットと法を考えるのかと AI のシミュレーション 検討課題：法の考え方と社会発展の調和および AI 社会の意義とその課題
2 回	タイトル：インターネットの基本的特徴と情報社会の進展 内容：なぜ新しい現代的課題が出現したか 　　インターネットの普及状況 　　情報社会の特徴とインターネットの特徴 検討内容：「インターネットの負の側面を考える」
3 回	タイトル：AI　ビッグデータ　IoT とインターネットビジネス 内容：企業活動の AI 化 　　我々はいかに情報を入手し、いかに発信するか 　　経営と情報はいかに結びついているのか 検討内容：「新しい経営手法としての情報経営とは」
4 回	タイトル：電子商取引と法 1-拡大する EC とその問題点 内容：企業間取引とその課題 　　企業対個人間取引 　　個人間取引 検討内容：「EC は商慣習や法律をいかに変えるか」
5 回	タイトル：電子商取引と法 2-個人情報保護 内容：個人情報をいかに守るか 　　情報保護法に原則 検討内容：「インターネットを使った取引で個人情報保護をいかに守るか」
6 回	タイトル：電子商取引と法 3-著作権保護 内容：いかにして著作権を保護するか 　　国内法と海外の法の違いと課題 検討内容：「越境ＥＣの発展と著作権の課題」
7 回	タイトル：経験経済と情報化１－経験と学習 内容：経験経済とは 　　なぜ経験か 　　情報化は経験を高めるか 検討内容：「経験の価値を理解する」
8 回	タイトル：経験経済と情報化２－ネットコミュニティ 内容：情報化による経験の事例研究 　　４つのＥ 検討内容：「Education Entertainment Esthetic Escape の価値と質」
9 回	タイトル：経験経済と情報化３－フロー理論による経験の質の向上 内容：自己成長と最適経験について 　　仕事と余暇のバランスと充実 検討内容：「モチベーションを高める働き方について」
10 回	タイトル：行動経済学と法　－規範と非合理的行動 内容：人の非合理性を考える 　　情報は人の判断を狂わせる 　　検討内容：「ヒューリスティックスと時間選好と他者性について」

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
11回	タイトル：インターネットと社会問題 1-迷惑メール 内容：メールの便利さと問題点 　　迷惑メールにいかに対処するか 検討内容：「スパムメールは法によって制限できるか」
12回	」タイトル：インターネットと社会問題 2-ウイルス 内容：ウイルスの実態とそれをどう防ぐか 検討内容：「ウイルスの危険性と対策」
13回	タイトル：インターネットビジネスその１ 内容：シェアリングエコノミー 検討内容：「シェアードなビジネス」
14回	タイトル：インターネットビジネスその２ 内容：ネットで名物を販売する 検討内容：「地域 EC と越境 EC」
15回	タイトル：総括 内容：AI 時代の社会経済の発展の図式 検討内容：個と全体をつなぐ

令　和　２年　度　教　育　計　画							
科目名	食物基礎科学	授業回数	15	単位数	2	担当教員	中原眞由美 宮﨑正博 清水憲二
質問受付の方法（e-mail,オフィスアワー等）：nakahara@owc.ac.jp、OH:在室時は何時でも可							

教育目標と学生の学習成果		教育目標： 高校の科学系の授業や実習等で学んだことを振り返り、「管理栄養士」になるために必要な自身の課題を自覚し、不足している知識・技能を補うことによって、大学での学習を円滑にスタートできる力を身につける。具体的には、管理栄養士になるために求められる①化学、②生物、③献立作成の基礎的知識を修得することを目標とする。 学生の学習成果： 専門的学習成果：上記の３つの事項について基礎的な知識や能力を修得し、管理栄養士の職に就く意識を高める。 汎用的学習成果：課題発見力、学習方法の確立、管理栄養士としてふさわしい基礎学力を身につける。
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） ・基礎教養教育に関する科目の担当者が連携し、オムニバス形式で進める。 ・管理栄養士として求められる３つの事項について、講義を主体として演習などを組み合わせて総合的に学ぶ。各担当教員がレポート、小テストなどの課題を与え、それを評価する。
	予習・復習	１回の授業に対して予習・復習が義務付けられる。その内容については、毎回の授業で提示する。
	テキスト	定めない。①化学は、入学前学習用プリントを再配布し、教材とする。 ②生物は、「基礎生物学」の教科書を使用することがある。 ③献立作成は、「献立作成マスターノート」を配布し、教材とする。
学習評価の方法		学習成果： 管理栄養士として求められる３つの事項、①化学②生物③献立作成の基礎的知識の修得度を評価する。 学習評価は、課題（レポート）・小テスト等（40%）、筆記試験（60%）により行う。
注意事項		参考図書等 適宜、授業内容に合わせて紹介・配付する。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	〈オリエンテーション〉（中原 1） 授業の進め方、学習評価方法の説明 食品成分表の理解（使い方） （食品成分表の項目）
2 回	栄養価計算の方法（中原 2） （単位（まるめ）・例（モデル）を提示）
3 回	栄養価計算の演習（課題①の作成）（中原 3） （1 食分の献立表から実際に計算したものを課題として提出）
4 回	栄養価計算の演習（課題②の作成）（中原 4） （1 食分の献立表から実際に計算したものを課題として提出）
5 回	献立作成の意義と具体的作成方法（中原 5） （献立作成のチェックポイントの説明）
6 回	化学（その１）（宮﨑 1） (1)物質の構成：(a)物質とその成分、(b)物質の分類 (2)物質の構成粒子：(a)原子と電子配置、(b)イオン、(c)元素の周期律、(d)分子の構造 予習・復習：配布プリント第 1 章、第 2 章（1～3 ページ）
7 回	生物の知識の習得度の確認と振り返り（1）（清水 1） ヒトはなぜ食べるのか？　なぜ酸素を吸入して二酸化炭素を排出するのか？ （栄養素、消化・吸収、代謝、エネルギー、細胞、組織、器官，成長、遺伝）
8 回	化学（その２）（宮﨑 2） (3)粒子の相対質量と物質量：(a)原子量・分子量・式量、(b)物質量、(c)溶液の濃度、(d)化学反応式、(e)化学の法則 予習・復習：配布テキスト第 3 章（3～5 ページ）
9 回	生物の知識の習得度の確認と振り返り（2）（人体の成り立ちの概説）（清水 2） （消化器、呼吸器、循環器、泌尿器、運動器，神経、内分泌、免疫、生殖）
10 回	化学（その３）（宮﨑 3） (4)酸と塩基：(a)酸・塩基の定義、(b)電離と電離度、(c)酸・塩基の強弱、(d)pH、(e)中和、(f)塩の液性 予習・復習：配布テキスト第 4 章（5～7 ページ）
11 回	授業（基礎生物学）の講義内容の再確認。（清水 3） （第８回の続き、および ATP の役割、 生命の基本原理（セントラル・ドグマ）と遺伝子の働きを理解する。）
12 回	化学（その４）（宮﨑 4） (5)酸化と還元：(a)酸化・還元の定義、(b)酸化数 予習復習：配布テキスト第 6 章（7～8 ページ）
13 回	授業（基礎生物学）の講義内容の再確認および基礎生物学の前期定期試験対策。（清水 4） （三大栄養素の消化・吸収と代謝、ミトコンドリア、血液、心臓、肝臓、腎臓、細胞分化と増殖、神経系、筋収縮、ホルモン、遺伝情報、免疫、がん）
14 回	化学（その５）（宮﨑 5） (6)有機化合物：(a)有機化合物の特徴、(b)官能基、(c)炭化水素、(d)アルコール、(e)カルボン酸、(f)アミノ酸・たんぱく質、(g)糖質、(h)脂質 予習復習：配布テキスト第 6 章（8～11 ページ）
15 回	第１３回授業の継続と人の病気の原因についての概要（清水 5）

<table>
<tr><td colspan="8">令　和　２　年　度　教　育　計　画</td></tr>
<tr><td>科目名</td><td>プレゼンテーション</td><td>授業回数</td><td>15</td><td>単位数</td><td>2</td><td>担当教員</td><td>竹原　良記
佐藤　幸枝
狩山　玲子</td></tr>
<tr><td colspan="8">質問受付の方法（e-mail,オフィスアワー等）：毎回授業終了後</td></tr>
<tr><td>教育目標と学生の学習成果</td><td colspan="7">教育目標：
管理栄養士等他者と確固たる信頼関係を保ち、食で健康をサポートする職場においては、他者とのコミュニケーションを円滑に図ることが重要である。本授業では、学生は管理栄養士としての専門知識や技術を学ぶ自己発達の過程で、自分を分析・把握し、自己理解を通じて将来のキャリア計画を立て、周りの相手に社会人に対しても理解をしてもらえるように自分をうまく表現できる能力を養う。

学生の学習成果：
専門的な学習成果：一般の方に対する健康維持・増進のために必要な栄養の知識を使って栄養教育の実践ができる。
汎用的な学習成果：社会人として求められるプレゼンテーション力と独創性、グループワークに必要なコミュニケーション力と協調性を磨く。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">教育方法</td><td>授業の進め方</td><td colspan="6">（講義・演習・実験・実習・実技）
まず、就活ツールを使った性格検査により自己分析を行う。自分に適した
プレゼンに必要な表現法を学び、「Ⅰ．栄養の問題を明らかにする」では、パワーポイントを活用してテーマを絞って討論する。そして、「Ⅱ．自己ＰＲ」では、パワーポイントを使って就活を想定した自己 PR を行う。学生の学習成果チェックのために、発表の自己評価のレポートを課す。</td></tr>
<tr><td>予習・復習</td><td colspan="6">授業で行なう内容については、必ず事前準備および復習を行なうことが良いプレゼンテーション評価につながる。</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="6">特別に定めないが、1 年生で履修した科目の教科書を参考にすることが望ましい。</td></tr>
<tr><td>成績評価の方法</td><td colspan="7">成績評価
学習成果が達成できているかについて、授業に関わった教員が授業中の態度や発表内容から総合的に判断して 100 点満点（「Ⅰ．栄養の問題を明らかにする」で４０点、「Ⅱ．自己ＰＲ」で４０点、レポート評価で 20 点）で採点する。
最終評価で授業に関わった全教員の評価を平均する。</td></tr>
<tr><td>注意事項</td><td colspan="7">参考図書等
1 年生で履修した科目の教科書の内容や、web 等での情報に注意を払う事。
発表・グループワークを円滑に進行するために、出席は重要であり、これが評価に影響する。</td></tr>
</table>

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1回	オリエンテーション（授業の進め方についてシラバスを用いて説明）　（竹原） プレゼンテーション能力の必要性を説明し、具体的な授業内容の解説 自己紹介文の作成、就活ナビサイトに登録
2回	Ⅰ．栄養の問題を明らかにする　1　パワーポイント指導　（竹原） パワーポイントによる効果的な資料作成・提示方法について学ぶ。
3回	Ⅰ．栄養の問題を明らかにする　2　プレゼン作成　（竹原） 食・栄養の問題からテーマを選び、個人で効果的なプレゼンを作成する。
4回	Ⅰ．栄養の問題を明らかにする　3　発表と評価　（竹原） 発表を行い、内容によりグループに分かれる。
5回	Ⅰ．栄養の問題を明らかにする　3　発表と評価　（竹原） 発表を行い、内容によりグループに分かれる。
6回	Ⅰ．栄養の問題を明らかにする　4　プレゼン改善　（竹原） グループ毎に個人の内容を検討して、問題点を１つに絞り、その改善案を考える。 改善案のメリット・デメリットを考える。
7回	Ⅰ．栄養の問題を明らかにする　5　発表と評価（1）　（竹原、佐藤、狩山） グループ別で発表を行い、それぞれについて質疑・応答・評価をする。
8回	Ⅰ．栄養の問題を明らかにする　5　発表と評価（2）　（竹原、佐藤、狩山） グループ別で発表を行い、それぞれについて質疑・応答・評価をする。
9回	Ⅱ．自己ＰＲ　1　性格検査：就活ナビサイトの活用　（竹原） 自己分析の重要性を理解して、ナビサイトの指導員の誘導により性格検査を行う
10回	Ⅱ．自己ＰＲ　2　自己分析　（竹原） 性格検査の結果から、自己分析を行い、将来のキャリア計画を立てる
11回	Ⅱ．自己ＰＲ　3　自己分析　（竹原） 就活をイメージし、希望企業の分析をして、最適なプレゼン内容を検討する
12回	Ⅱ．自己ＰＲ　4　自己分析　（竹原） 就活をイメージし、自己ＰＲのプレゼンを計画・作成する
13回	Ⅱ．自己ＰＲ　5　発表（1）　（竹原、佐藤、狩山） 就活先毎のグループに分かれて、自己ＰＲのプレゼンを発表する
14回	Ⅱ．自己ＰＲ　5　発表（2）　（竹原、佐藤、狩山） 就活先毎のグループに分かれて、自己ＰＲのプレゼンを発表する
15回	反省会、キャリア計画についてのレポート作成　（竹原）

<table>
<tr><td colspan="8">令　和　２　　年　　度　　教　　育　　計　　画</td></tr>
<tr><td>科目名</td><td>生活史</td><td>授業回数</td><td>15</td><td>単位数</td><td>２</td><td>担当教員</td><td>尾崎聡</td></tr>
<tr><td colspan="8">質問受付の方法：e-mail は osaki@owc.ac.jp、オフィスアワーは B308 土曜 0910～1040</td></tr>
<tr><td>教育目標と学生の学習成果</td><td colspan="7">【教育目標】
衣食住など日常生活の様々な局面を哲学、文化人類学、民俗学、考古学など人文諸科学の多様な観点からアプローチし、生活世界を立体的に俯瞰する。その結果、受講者各自が衣食住、特に食に関する哲学・歴史・文化的な見方に開眼していくことを目指す。
【学生の学習成果】
衣食住など生活世界について哲学・歴史・文化的な見方が出来るようになると新たな世界が開けるということに気付き、特に食に関しても哲学、文化人類学、民俗学、考古学など人文諸科学から幅広く柔軟にアプローチできるようになる（汎用的学習成果「知識・理解」）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">教育方法</td><td>授業の進め方</td><td colspan="6">（講義・演習・実験・実習・実技）
担当教員が準備し、進行させていく講義であるが、受講生の専門領域を配慮して「食」をキーワードに毎回の授業の題材を準備し、対話によって受講生の頭脳を活性化させながら進めていく。また毎回、積極的に画像・図像、映像を使って立体的に理解を補っていく。</td></tr>
<tr><td>予習・復習</td><td colspan="6">１回の授業に対して予習・復習が義務付けられる。予習・復習・課題の成果は授業内容・参考文献・参考映像などに関する感想をシャトルカードに記述することとする。予習と復習のウェイトは変化しても構わない。学問の性格上、簡単には正解にたどりつけない。省察をゆっくりと繰り返し積み重ねていくのが正しい学習の仕方だからである。</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="6">特にテキストは指定しないが、毎回参考資料をプリントで配布する。</td></tr>
<tr><td>学習評価の方法</td><td colspan="7">【達成基準】
衣食住など生活世界について哲学・歴史・文化的な見方が出来るようになると新たな世界が開けるということに気付き、特に食に関しても哲学、文化人類学、民俗学、考古学など人文諸科学から幅広く柔軟にアプローチできるようになったことを、試験における論述で証明すること。歴史的世界―日常生活―自己を結びつける適切な題材を自らの力で選び、テーマ設定できるようになっていること。論述は以下の観点から採点する
１．歴史性（個性、主体性、実存性）、すなわち人間の時間的営みという観点から論述されているか
題材の選び方・題材の切り口（５秀逸・４良し・３普通・２やや不満・１不満）。
記述内容（５秀逸・４良し・３普通・２やや不満・１不満）。
２．社会性（普遍性、客観性、共同性）、すなわち社会的な関心のもとに論述されているか
題材の選び方、題材の切り口（５秀逸・４良し・３普通・２やや不満・１不満）
記述内容（５秀逸・４良し・３普通・２やや不満・１不満）。
【評価方法】
・専門的学習成果
① 筆記試験。生活史に関する題材やテーマを自分で発見し、調べ物をして試験時間 60 分で簡単な報告する。1000 文字程度。序論・本論・結論を構成する。すなわち、この題材テーマに関心がある理由・調査の結果わかったこと・調査の結果、むしろ認識した課題を含む（80%）
② 中間提出物（ふりかえり作業シート）。試験前に受講者各自の生活史への興味関心理解の発達度を確認する（20%）。受講者数が少数の場合は対面指導とする。
・汎用的学習成果
授業態度を汎用的学習成果として評価する（10%）。</td></tr>
</table>

注意事項	参考図書は各回ごと指示する

授業回数別教育内容	
1回	■ガイダンス：教育目標、教育方法、成績評価、半期の講義計画について予告し、受講者と合意する。 ■学問における物の見方（歴史学・民俗学・文化人類学における食の見方）について知る 柳田國男の『食物と心臓』を参照し、餅や団子やおにぎりの形状の意味について考えてみる。 ■参考映像：『志呂神社の秋祭り』 お供えの餅の形は男女の形および大判・小判・丁銀である。なぜか？ ■予習・復習事項 あなたの地元の年祝い・結婚式・節句・お祭りの料理、春夏秋冬の日常食、葬の料理を見直し、調べて、ノートに記す
2回	■講義内容：シリーズ「環境と生活史と食文化」① 日本文化の基層「照葉樹林」について知る ■参考映像：映画『もののけ姫』（シシ神の森＝照葉樹の原生林） 映画『もののけ姫』は、その背景画の村落景観、樹木の一本一本まで、「照葉樹林文化論」「ブナ・ナラ樹林文化論」をもとに考証して綿密に描かれており、これらの取っ付きにくいテーマにアプローチする際の良い題材となる。 ■予習・復習事項：樹林文化は食材にも反映している。西南日本の照葉樹林の獣肉食として猪と鹿、樹林の恵みとしてはドングリ類があげられる。樹林の渓流魚としてはサケ・マスの陸封魚であるヤマメ・イワナがあげられる。図鑑などで調べノートに記す
3回	■講義内容：シリーズ「環境と生活史と食文化」② 日本文化の基層「ブナ・ナラ樹林」について知る ■参考映像：世界遺産『白神山地』 ■予習・復習事項：樹林文化は食材にも反映している。北東日本のブナ・ナラ樹林の獣肉食として熊とニホンカモシカがあげられる。樹林の恵みとしてはブナの実、トチの実などがあげられる。またサケ・マスの大量遡上があげられる。図鑑などで調べノートに記す
4回	■講義内容：シリーズ「環境と生活史と食文化」③ 稲作以前の話　雑穀栽培の文化について知る （稲作以前の文化的名残として全国各地に残る雑穀にまつわる儀礼習俗がある） ■参考文献：坪井洋文『稲を選んだ日本人』未来社 ■参考映像：ドキュメンタリー『九州山地椎葉村の焼畑の四季』 ■予習・復習事項：一口に五穀といっても北東日本と西南日本でも少し異なるようである。雑穀にはどのようなものがあるだろう。また現在ではどのように栽培・生産されているのだろうか。調べノートに記す
5回	■講義内容：シリーズ「環境と生活史と食文化」④ 稲作以前の話　根菜農耕文化について知る （稲作以前の文化的名残としてお月見や正月に団子や餅ではなくサトイモを供える芋名月と芋正月の習俗、河原や野原におけるレジャーとして各地に残る芋煮会などは大変重要な習俗である） ■参考文献：坪井洋文『稲を選んだ日本人』未来社 ■参考映像：『ダッシュ村の芋名月』 ■予習・復習事項：皆さんの家ではお月見をするだろうか、皆さんの友人は様々な地域の出身であるが、沖縄中北部では今でもイモを供える、愛媛や山形では芋煮会が盛んである。調べノートに記す

6回	■講義内容：シリーズ「環境と生活史と食文化」⑤ 環境保護と里山の発見（ナショナル・トラスト、企業の里山保存運動…燃料革命と台所の変貌）について知る ■参考映像：アニメ『となりのトトロ』宮崎駿 制作後 20 年を経ても映画『となりのトトロ』は子供達に大人気のアニメーションであるが、この舞台は昭和三十年代の東京近郊の農村と言われ、トトロは鎮守の杜（照葉樹林の残欠）のクスノキの精に他ならない。我々は近年まで「山」というものを「里山」と「原生林」に分けて考えることすらしなかったが、『となりのトトロ』は、この昨今話題になることの多い「里山」、「人間と自然が調和した小宇宙」にアプローチする際の良い題材となる。 ■予習・復習事項：岡山学院大学が立地する有城の丘の斜面にはすばらしい樹林が残されている。北斜面は雑木林、西斜面は松林、南斜面は竹林、東斜面は園芸種の林が特徴的である。調べノートに記す
7回	■講義内容：シリーズ「民具学」器について① 焼物と木地物について知る ■参考映像：NHK 大河『武蔵』 武蔵は木曽山中で木地屋の夫婦に出会い、ロクロで原木から木椀を削りだす体験をする。食器が瀬戸物化する以前、お椀はどうやってつくっていたのか、非常に珍しく貴重な映像。 ■実物を見る：木地椀の断面とプラスチック椀を比較する、土器・陶器・磁器を比較する ■予習・復習事項：実習で使う器、家にある器をよく観察し、調べノートに記す
8回	■講義内容：シリーズ「民具学」器について② 魯山人（書・画と器と料理の達人）の料理芸術論について知る ■参考映像：知ってるつもり『北大路魯山人』 ■参考文献：平野雅明『魯山人味道』『魯山人陶説』中公文庫 ■実物を見る：100 円ショップでも販売している織部”風”、黄瀬戸”風”、有田”風”の雑器に注目しよう。 ■予習・復習事項：グルメブームの火付け役となった漫画・アニメ・ドラマ『美味しんぼ』の海原雄山のモデルは北大路魯山人である。調べノートに記す
9回	■講義内容：シリーズ「民具学」刀子から包丁へ 調理専用刃物の起源・歴史と展開について知る ■参考映像：『白神を行く』（マタギの刃物を打つ野鍛冶）、ＮＨＫ大河『武蔵』（武蔵の宿敵宍戸梅軒は鍬・鎌を打つ野鍛冶）、新日本紀行『刃物の町　濃州　関』 ■実物を見る：和包丁と洋包丁の違い、両刃包丁と片刃包丁の違い、古式刃物などを見る ■予習・復習事項：実習で使う包丁、家にある包丁をよく観察し、調べノートに記す
10回	■講義内容：シリーズ　「生活文化研究の諸方法」 生活資料の宝庫「考古学」について知る① （考古学は物的証拠を次々と発見、我々に提示してくれることによって人間生活の歴史の解明に最も貢献している問のひとつである） ■参考映像：NHK『日本人はるかなる旅』（縄文式土器の発明：調理の革命：煮る、炊く） ■予習・復習事項：昔の人が四季それぞれどのようなものを食べていたのか考えることを「食性復元」と言うが更に詳しく調べノートに記す

11回	■講義内容： シリーズ「生活文化研究の諸方法」 生活資料の宝庫「考古学」について知る② （考古学は古代の食材に関しても注目すべき実態を明らかにしている。例えば獣肉、魚肉のような動物性蛋白以外にも植物性タンパク源として「ドングリ」が注目されること、歯槽膿漏の痕跡があるイノシシ様の獣骨からブタへの改良の努力を推測する「弥生ブタ」論争などである） ■参考映像：NHK『日本人はるかなる旅』クリの花粉の化石と＝クリ林を作る、三内丸山遺跡（人口 500 人） ■予習・復習事項：栗はもちろん栃や胡桃は現代においてもある程度馴染んだナッツ類の食習俗であるが、ドングリを食する習俗も忘れてはならない。日本各地に残るので調べノートに記す
12回	■講義内容：「住まい・建築の生活史」について 町、農村、漁村、山村の家などそれぞれの環境、生業に適した日本的民家の住み方について知る。 ■参考文献：今和次郎『民家論』 ■参考映像：ドキュメンタリー『白川郷の合掌造、結により大屋根を葺く』、ＮＨＫ大河ドラマ『利家とまつ』※注目点　地侍の館＝荒子城の庫裏、浪人時代＝掘建て小屋の囲炉裏、城下の役宅＝土間の竈、上がり框の大囲炉裏、奥の間の囲炉裏 ■予習・復習事項：古建築における炊爨施設には日本文化の系譜を反映しているものがある。部屋における囲炉裏と土間における竈、上から吊るす自在鉤と下から支える五徳など複数の注目すべき要素がある。それぞれどのような特質があるのか調べノートに記す
13回	■講義内容：シリーズ「岡山学」（岡山と食）① 日本の中の中国地方、中国地方の中の岡山について知る。食材としては、海の食材「日本海もの」と「瀬戸内もの」、その他に「北海もの」「三陸もの」「常陸・房総もの」「江戸前もの」「伊豆七島もの」「黒潮もの」「以西もの」について知る。 ■参考映像：鉄腕ダッシュ『岡山のサワラ、四ツ手網漁』 ■参考文献：成瀬宇平『食材図典』小学館 ■予習・復習事項： 魚の産地と消費地の組合せには様々なバリエーションがある。気をつけて調べ、ノートに記す
14回	■講義内容：シリーズ「岡山学」（岡山と食）② 中国 12 カ国の中の備前・備中・美作、中国 5 県の中の岡山について知る。食材としては「中国山地もの」「吉備高原もの」「岡山平野もの」「瀬戸内もの」について知る。 ■参考映像：『吉備津神社　春の七十五膳行事』この行事は備中各地から納められた食材を使う。中には吉備ダンゴの起源もある。 ■参考文献：鶴藤鹿忠、今田節子、太郎良裕子『聞き書　岡山の食事』農山漁村文化研究会 ■予習・復習事項：岡山県地図を見て吉備高原、南部平野、瀬戸内沿岸および島嶼部を地図帳などで確認し、特色を考察しノートに記す
15回	■講義内容：シリーズ「岡山学」（岡山と食）③ 岡山の四季の食材と調理法について知る ■参考文献：土井勝・正木信昭『岡山の旬のおかず』岡山県立農業試験場・水産試験場・山陽放送 ■参考映像：土井勝 NHK 総合テレビ「きょうの料理」『旬の素材を使ったチラシ寿司』 ■復習事項および課題： 同じ料理でも季節によって食材の構成要素が変わってくる。調べノートに記す

<table>
<tr><td colspan="8">令　和　２　年　　度　　教　　育　　計　　画</td></tr>
<tr><td>科目名</td><td>食文化論</td><td>授業回数</td><td>15</td><td>単位数</td><td>2</td><td>担当教員</td><td>次田隆志</td></tr>
<tr><td colspan="8">質問受付の方法（e-mail,オフィスアワー等）：授業終了後の休み時間に、教室にて質問受付</td></tr>
<tr><td>教育目標と学生の学習成果</td><td colspan="7">教育目標：
人における健康の維持増進、疾病の予防をはかるために、高度な専門知識･技能に基づいて、食生活の改善や栄養指導に携わることのできる管理栄養士育成を最終の教育目標とする。
一方、文化の形成は食にあるといわれており、食文化は人の生活形態にも大きな影響を及ぼしている。食文化論では、人類と食物、世界と日本の食、現代日本の食生活、食品産業の役割、食品の品質規格と表示、食情報と消費者保護など、食文化に関わるさまざまな知識について学習することにより、食の専門家として、より良き指導者となることを目標とする。
学生の学習成果：
専門的学習成果：食文化に関するさまざまな知識を習得し、フードスペシャリストの資格を取得することができる能力を獲得する。
汎用的学習成果：インターネット等を活用して最新の知識・情報を収集するとともに、与えられた課題に対し、授業で学んだ知識や各自が収集した知識・情報をもとにして、その内容を理解し、レポートの形でまとめることができる。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">教育方法</td><td>授業の進め方</td><td colspan="6">（講義・演習・実験・実習・実技）
･教科書に基づいて、講義形式で授業を進める。
･授業開始時にシャトルカードを配布し、授業終了時に授業内容についての質問、感想等を記入させ、回収する。これにコメントを記載して次回授業時に返却する。
･まとまった単元終了時に課題（宿題）を与え、それに対する解答をレポートの形で提出させる。その内容を評価したうえで、次回授業時に返却する。
･シャトルカードと課題により、学習進行状況を逐次確認･改善しながら授業を進める。</td></tr>
<tr><td>予習・復習</td><td colspan="6">・予習については、講義の最後に次回の講義範囲を学生に周知し、教科書の対応箇所を前もって読んでおき、講義に臨むよう指導する。
・復習については、その日の講義の中で重要であると説明したキーワードについて、再度、教科書などで確認するよう指導する。
・予習・復習を効果的に行っているかどうかについて、シャトルカードと課題提出により確認する。</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="6">四訂フードスペシャリスト論　第６版（日本フードスペシャリスト協会編）建帛社</td></tr>
<tr><td>学習評価の方法</td><td colspan="7">上記の専門的学習成果および汎用的学習成果がどれだけ達成できているかについて、定期試験、提出課題、および 15 回の授業終了後に提出させるノートの内容を総合して学習評価を行う。その割合は、定期試験 80 点満点、課題評価 10 点満点、ノート評価 10 点満点とする。</td></tr>
<tr><td>注意事項</td><td colspan="7">インターネット等を有効に活用して、食文化に関わる最新の知識・情報を積極的に得ること。また、15 回の授業のうち、３分の２以上出席しなければ定期試験の受験資格がなくなるので、遅刻や欠席がないように受講すること。</td></tr>
</table>

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	授業の進め方と食文化論の概要説明
2 回	人類の歩みと食物 　狩猟採取時代、農耕牧畜時代
3 回	食品加工・保存技術史 　伝統的食品加工・保存技術の発展
4 回	食品加工・保存技術史 　近代的食品加工・保存技術の発展、現代的加工食品の発展
5 回	世界の食 　食作法、食の禁忌と忌避、世界各地の食事情
6 回	現代日本の食生活① 　戦後の食生活の変化（第二次世界大戦後～現代）
7 回	現代日本の食生活② 　食生活の現状と消費生活
8 回	現代日本の食生活③ 　食生活の変化と食産業、食料の供給と食料自給率
9 回	現代日本の食生活④ 　地産地消、フードマイレージ、バーチャルウォーター、食品ロス、食品リサイクル
10 回	食品産業の役割① 　フードシステムと食品産業、食品製造業の規模と動向、食品製造業の目的と特徴
11 回	食品産業の役割② 　食品卸売業、食品小売業、外食産業
12 回	食品の品質規格と表示① 　食品の品質規格・表示に関わる法律、JAS 法による規格
13 回	食品の品質規格と表示② 　食品表示法による表示
14 回	食品の品質規格と表示③ 　健康や栄養に関する表示制度、その他の法律による表示
15 回	食情報と消費者保護 　食情報の発信と受容、食情報の濫用、食品の情報管理、食品の安全、消費者保護制度

令　和　２　年　　度　　教　　育　　計　　画							
科目名	フードコーディネート	授業回数	15	単位数	2	担当教員	次田隆志、 中原眞由美
質問受付の方法（e-mail,オフィスアワー等）：授業後の教室、研究室(次田:A207、中原:A107)、e-mail(tsugita@owc.ac.jp、nakahara@owc.ac.jp)にて質問を受け付ける							

教育目標と学生の学習成果		教育目標： 人における健康の維持増進、疾病の予防をはかるために、高度な専門知識・技能に基づいて食生活の改善や栄養指導に携わることのできる管理栄養士育成を最終教育目標とする。 一方、現代社会においては、食のコーディネートを総合的に行い、消費者の食教育のサービスを行う専門家としてのフードスペシャリストが期待されている。これらの目標達成のために、本授業においては、おいしさの本質、食事の文化、食卓のコーディネート、食卓のサービス・マナー、メニュープラニング、食空間のコーディネート、フードサービスマネージメント、食企画の実践コーディネート、食情報等、フードコーディネートに関わるさまざまな知識について学習することにより、食の専門家としてより良き指導者となることを目標とする。 学生の学習成果： 専門的学習成果：フードコーディネートに関するさまざまな知識を習得し、フードスペシャリストの資格を取得することができる能力を獲得する。 汎用的学習成果：インターネット等を活用して最新の知識・情報を収集するとともに、与えられた課題に対し、授業で学んだ知識や各自が収集した知識・情報をもとにして、その内容を理解し、レポートの形でまとめることができる。
教育方法	授業の進め方	(講義・演習・実験・実習・実技) ･教科書に基づいて、講義形式で授業を進め、必要に応じて補助教材としての資料を配付する。また、最新のフードコーディネート情報を盛り込んだビデオを視聴させ、その内容についてレポートにまとめて提出させる。 ･授業開始時にシャトルカードを配布し、授業終了時に授業内容についての質問、感想等を記入させ、回収する。これにコメントを記載して次回授業時に返却する。 ･シャトルカードと課題により学習進行状況を逐次確認･改善しながら授業を進める。
	予習・復習	予習事項：講義の最後に次回の講義範囲を学生に周知し、教科書の対応箇所を前もって目を通した上で講義に臨むよう指導する。 復習事項：その日の講義の中で重要であると説明したキーワードについて、再度、教科書などで確認するよう指導する。
	テキスト	三訂フードコーディネート論（日本フードスペシャリスト協会編）建帛社
学習評価の方法		上記の専門的学習成果および汎用的学習成果がどれだけ達成できているかについて、定期試験、ビデオ視聴のレポート、および 15 回の授業終了後に提出させるノートの内容を総合して学習評価を行う。その割合は、定期試験 80 点満点、ビデオ視聴のレポート 10 点満点、ノート評価 10 点満点とする。
注意事項		インターネット等を有効に活用して、フードコーディネートに関わる最新の知識・情報を積極的に得ること。また、15 回の授業のうち、３分の２以上出席しなければ定期試験の受験資格がなくなるので、遅刻や欠席がないように受講すること。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	授業の進め方とフードコーディネートの概要説明（担当：次田）
2 回	フードコーディネートの基本理念（担当：次田） 　おいしさの本質、おいしさとフードコーディネート
3 回	食事の文化①（担当：次田） 　日本の食事の歴史（縄文時代～古墳時代）
4 回	食事の文化②（担当：次田） 　日本の食事の歴史（飛鳥時代～安土･桃山時代）
5 回	食事の文化③（担当：次田） 　日本の食事の歴史（江戸時代～明治･大正時代）
6 回	食卓のコーディネート①（担当：中原） 　テーブルコーディネートの要点、日本料理の食卓のコーディネート
7 回	食卓のコーディネート②（担当：中原） 　中国料理の食卓のコーディネート、西洋料理の食卓のコーディネート
8 回	食卓のサービスとマナー①（担当：中原） 　サービス・マナーの基本、日本料理・中国料理のサービスとマナー
9 回	食卓のサービスとマナー②（担当：中原） 　パーティー、プロトコル
10 回	ビデオ視聴（テーブルコーディネート・食事のマナー・食器具など） 　レポート作成（担当：中原）
11 回	メニュープランニング（担当：中原） 　メニュープランニングの要件、料理様式とメニュー開発の基礎
12 回	食空間のコーディネート（担当：中原） 　食空間のコーディネートの基礎、食事空間のコーディネート、キッチンのコーディネート
13 回	フードサービスマネジメント①（担当：次田） 　フードサービスビジネスの動向と特性、マネジメントの基本
14 回	フードサービスマネジメント②（担当：次田） 　フードサービス（レストラン）の起業
15 回	フードサービスマネジメント③（担当：次田） 　投資計画の作成、収支計画の作成、損益分岐点

<table>
<tr><td colspan="8">令　和　２　年　　度　　教　　育　　計　　画</td></tr>
<tr><td>科目名</td><td>食料経済</td><td>授業回数</td><td>15</td><td>単位数</td><td>2</td><td>担当教員</td><td>次田隆志</td></tr>
<tr><td colspan="8">質問受付の方法（e-mail,オフィスアワー等）：授業終了後の休み時間に、教室にて質問受付</td></tr>
<tr><td>教育目標と学生の学習成果</td><td colspan="7">教育目標：
人における健康の維持増進、疾病の予防をはかるために、高度な専門知識・技能に基づいて、食生活の改善や栄養指導に携わることのできる管理栄養士育成を最終の教育目標とする。
一方、人間生活にとって必須である食品の流通・消費の仕組みについての知識を習得することは、食に関わる者にとって極めて重要である。食料経済では、食生活と食品消費の変化、フードマーケティングと食品流通、食品市場と食品流通、食品消費の課題など、食品の流通・消費に関わるさまざまな知識について学習することにより、食の専門家として、より良き指導者となることを目標とする。
専門的学習成果：食品の流通・消費に関するさまざまな知識を習得し、フードスペシャリストの資格を取得することができる能力を獲得する。
汎用的学習成果：インターネット等を活用して最新の知識・情報を収集するとともに、与えられた課題に対し、授業で学んだ知識や各自が収集した知識・情報をもとにして、その</td></tr>
<tr><td rowspan="3">教育方法</td><td>授業の進め方</td><td colspan="6">（講義・演習・実験・実習・実技）
・教科書に基づいて、講義形式で授業を進め、必要に応じて、補助教材としての資料を配付する。また、食品の消費・流通に関するビデオを視聴させ、その内容についてレポートにまとめて提出させる。
・授業開始時にシャトルカードを配布し、授業終了時に授業内容についての質問、感想等を記入させ、回収する。これにコメントを記載して次回授業時に返却する。
・シャトルカードと課題により、学習進行状況を逐次確認･改善しながら授業を進める。</td></tr>
<tr><td>予習・復習</td><td colspan="6">・予習については、講義の最後に次回の講義範囲を学生に周知し、教科書の対応箇所を前もって読んでおき、講義に臨むよう指導する。
・復習については、その日の講義の中で重要であると説明したキーワードについて、再度、教科書などで確認するよう指導する。
・予習・復習を効果的に行っているかどうかについて、シャトルカードと課題提出により確認する。</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="6">三訂 食品の消費と流通（日本フードスペシャリスト協会編）建帛社</td></tr>
<tr><td>学習評価の方法</td><td colspan="7">上記の専門的学習成果および汎用的学習成果がどれだけ達成できているかについて、定期試験、提出課題、および 15 回の授業終了後に提出させるノートの内容を総合して学習評価を行う。その割合は、定期試験 80 点満点、ビデオ視聴のレポート 10 点満点、ノート評価 10 点満点とする。</td></tr>
<tr><td>注意事項</td><td colspan="7">インターネット等を有効に活用して、食品の流通・消費に関わる最新の知識・情報を積極的に得ること。また、15 回の授業のうち、３分の２以上出席しなければ定期試験の受験資格がなくなるので、遅刻や欠席がないように受講すること。</td></tr>
</table>

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	授業の進め方と食料経済の概要説明
2 回	食市場の変化① 　食市場を支える食品産業、食生活形態の変化、食の外部化をもたらした要因、少子高齢化が変える食市場、食品産業の技術発展
3 回	食市場の変化② 　品目別食品消費の変化、食品の価格決定と所得弾力性・価格弾力性、栄養バランスからみた食品消費の変化、加工食品の増加
4 回	食市場の変化③ 　多様化をもたらす社会的要因、食における健康志向の高まり、食情報の多様化
5 回	食品の流通① 　食品流通の役割、卸売流通の役割、小売流通の役割
6 回	食品の流通② 　流通の社会的使命、生鮮食品の卸売市場流通
7 回	食品の流通③ 　加工食品の問屋(卸売業者)流通、食品の小売流通
8 回	外食・中食産業のマーチャンダイジング① 　外食産業の業態、外食産業の食材流通
9 回	外食・中食産業のマーチャンダイジング② 　中食産業の業態、中食産業の食材流通
10 回	日本の食品産業の実態① 　食品メーカー、食品流通・小売業
11 回	日本の食品産業の実態② 　ビデオ視聴(コンビニエンスストアについて)
12 回	主要食品の流通① 　商品の分類、温度帯別食品流通
13 回	主要食品の流通② 　米、小麦粉製品、野菜・果物、魚介類と魚介加工品
14 回	主要食品の流通③ 　食肉と食肉加工品、鶏卵、飲用乳・乳製品、清涼飲料
15 回	フードマーケティング 　フードビジネスの概要、農業の６次産業化、フードマーケティングの基礎理論

令　和 2 年　度　教　育　計　画							
科目名	公衆衛生学Ⅰ	授業回数	15	単位数	2	担当教員	久保真利子
質問受付の方法（e-mail、オフィスアワー等）：非常勤講師室（授業のある日）							

教育目標と学生の学習成果		教育目標： 疾病の予防、寿命の延長、生活の質の向上を目的として、公衆衛生･保健活動は展開される。こうした公衆衛生・保健活動に一定の科学的根拠を与える学問が疫学である。本授業では、公衆衛生活動に一定の科学的根拠を与える疫学的方法論について学ぶ。さまざまな健康問題を解決するために不可欠な公衆衛生学的・疫学的視点や知識、方法論を習得することを目標とする。 学生の学習成果 専門的学習成果：保健・医療に関する統計情報を理解することができる。 ：健康問題を解決するための疫学的方法論を習得することができる。 汎用的学習成果：数的処理能力、論理的思考力、問題解決力を養成する。
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） 授業はテキストを中心に進める。重要事項については板書し、解説を加え、理解し易いようにする。別途資料が必要な時はプリントし配布する。 授業終了時にシャトルカードで授業内容について質問、感想の記述を求める。次回の授業時、質問に対する答え、コメントを記して返却する。その内容の周知が全学生に必要であれば全員に説明する。シャトルカードで学生の理解度を確認・把握しながら授業を進める。
	予習・復習	予習事項：次回のテキストの範囲に目を通しておく。 復習事項：学習した内容をテキスト、資料を見ながら整理し、ノートにまとめる。これを毎回必ず実行する。不明な点があれば、「シャトルカード」で必ず質問する。
	テキスト	日本疫学会　監修 「はじめて学ぶやさしい疫学」南江堂 古野純典　他編集　　健康・栄養科学シリーズ「社会・環境と健康」改訂第５版　南江堂
学習評価の方法		本試験の成績、提出すべきレポート､授業中の態度を総合して評価する。評価の配分は本試験（80%）､レポート（20%）とする。授業中の私語、携帯電話、学ぼうとする姿勢が乏しい学生については減点の対象とする事もある。
注意事項		【参考図書】 国民衛生の動向　厚生労働統計協会

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	公衆衛生の定義と目標、歴史について解説する。 公衆衛生の定義と目標 健康の定義 予防の諸段階（1 次、2 次、3 次予防） プライマリヘルスケアとヘルスプロモーション 疾病生成論と健康生成論
2 回	疫学の考え方について解説する。 疫学の定義 疫学の対象と領域 疾病の疫学像 曝露因子と健康事象 先駆的事例の紹介
3 回	集団の罹患状況の記述に用いられる疫学指標について解説する。 有病割合（有病率） 罹患率と累積罹患割合（累積罹患率）
4 回	集団の死亡状況の記述に用いられる疫学指標について解説する。 死亡率 致命割合（致命率） 年齢調整死亡率（直接法と間接法）
5 回	罹患・死亡リスクの評価に用いられる疫学指標について解説する。 相対危険（レイト比、リスク比、死亡率比） オッズ比 寄与危険と寄与危険割合 人口寄与危険と人口寄与危険割合
6 回	観察研究の方法について解説する。 生態学的研究 記述疫学研究 横断研究
7 回	観察研究の方法について解説する。 コホート研究 症例対照研究

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
8 回	介入研究の方法について解説する。 　臨床試験・野外試験 　地域介入試験 　ランダム化比較試験
9 回	疫学研究の誤差とバイアスについて解説する 　偶然誤差 　選択バイアス 　情報バイアス 　交絡バイアス
10 回	スクリーニングについて解説する。 　スクリーニングの意義 　スクリーニングの評価 　スクリーニングにおけるバイアス
11 回	エビデンスに基づく医療（EBM）の考え方と実践方法について解説する。 　エビデンスのレベル 　叙述的レビューと系統的レビュー 　メタアナリシス
12 回	人口統計について解説する。 　人口静態統計 　人口動態統計 　平均余命と平均寿命 　健康寿命
13 回	主要な保健統計、疾病統計について解説する。 　患者調査 　食中毒統計調査 　感染症発生動向調査 　国民生活基礎調査 　国民・健康栄養調査
14 回	国民健康・栄養調査からみえるわが国の健康問題とその対策について解説する。 　喫煙、飲酒、食生活・栄養と健康 　身体活動・運動と健康 　睡眠・休養、ストレスと健康
15 回	これまでの講義内容のまとめ 重要項目の確認と補足説明

令　和　２年　度　教　育　計　画							
科目名	公衆衛生学Ⅱ	授業回数	15	単位数	2	担当教員	保田　立二

質問受付の方法（e-mail,オフィスアワー等）：　在室時はいつでも対応
email　tatsuji.yasuda@gmail.com

教育目標と学生の学習成果		教育目標：公衆衛生活動における根源的な保健対策に関する基礎知識の習得を目指す。特に本科目では、母子の健康増進に関わる母子保健、生活習慣病など各種疾患に対する施策、児童・生徒・学生の育成に関わる学校保健、労働環境のうち社会的側面から見た労働衛生対策等についての理解を図る。また、生活維持の行政的本幹を担っている医療保険制度・介護保険制度についても、理解を深める。 学生の学習成果：本科目の修得により、公衆衛生分野における種々の課題・問題点を、栄養学の知識と関連付け、体系的に理解する事ができる。
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） 授業はテキストを中心に進めるが、重要事項に関しては板書により理解力を深める。講義は、用語の理解とその応用を目指すもので、資料検索能力の向上なども目的としている。 授業終了時に「シャトルカード」に授業内容についての質問、感想などの記述を求める。次回の授業の時に質問に対する答え、またはコメントを記入して返却する。 「シャトルカード」により学習進行状況を確認しながら授業を進める。
	予習・復習	予習：テキストよく読んで難解な言葉を抽出しておく事。 復習：講義に出てきた用語の理解に努める。用語は、今後の学習でも度々出現するのでできるだけ整理した状態で理解し、混乱が起こらないように注意する。 「シャトルカード」により効果的な復習を促進する。
	テキスト	田中平三　他編（2017） 「社会・環境と健康　改訂第５版」（健康・栄養科学シリーズ）、 南江堂、3,456 円
学習評価の方法		学習評価は、小テスト及び必要用語の理解度（２０％）に本試験の成績（８０％）を加味して評価する。今後の授業でも必要となるので、必要用語の理解度は重要な評価ポイントとなる。 私語など授業の妨害行為について減点を科す場合がある。
注意事項		「シャトルカード」には必ず質問を記入すること。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1回	授業の進め方についてシラバスを用いた説明 生活習慣（ライフスタイル）の現状と対策（1） 　健康に関する行動と社会 　（健康と疾病の予防について説明できる）
2回	生活習慣（ライフスタイル）の現状と対策（2） 　食生活・食行動・食環境、身体活動・運動、喫煙・飲酒行動 　（食生活と疾病の係わりが説明できる）
3回	生活習慣（ライフスタイル）の現状と対策（3） 　睡眠・休養、ストレス、歯科保健 　（健康行政とその背景について理解できる）
4回	主要疾患の現状と対策（1） 　がん 　（がんの概念と疾病の現状と動向が説明できる）
5回	主要疾患の現状と対策（2） 　循環器疾患、代謝疾患 　（循環器疾患、代謝疾患に関する疫学と予防対策について説明できる）
6回	主要疾患の現状と対策（3） 　骨・関節疾患、歯科疾患 　（骨粗鬆症などの疾患についての疫学と予防対策について説明できる）
7回	主要疾患の現状と対策（4） 　感染症法、新興感染症と再興感染症、新しい感染症 　（感染症の疫学と傾向について説明ができる）
8回	主要疾患の現状と対策（5） 　精神疾患 　（精神疾患の疫学と予防対策について説明できる）

9 回	主要疾患の現状と対策（６） 　その他の疾患、外因（自殺、不慮の事故、虐待・暴力） 　（その他の疾患、外因について説明できる）
10 回	保健・医療・福祉の制度 　社会保障の概念、行政のしくみ、医療制度、福祉制度 　（国民の健康づくり対策について理解して説明できる）
11 回	母子保健 　　母子保健法、母子保健施策 成人保健 　　生活習慣病の予防と管理、特定健康診査・特定保健指導 　　（母子保健、成人保健について説明ができる）
12 回	高齢者保健・介護 　高齢者の健康の現状と対策、介護保険制度 　（高齢者の健康の現状と対策について説明ができる）
13 回	産業保健 　産業保健の制度、労働安全衛生対策 （労働者の健康の現状と問題ついて説明できる）
14 回	学校保健 　学校保健の目的と制度、現状と対策 （児童・生徒の健康の現状と問題について説明できる。）
15 回	国際保健 （国際保健の現状と関連機関・組織について説明ができる） まとめと補足説明

令　和 2 年　度　教　育　計　画							
科目名	公衆衛生学Ⅲ	授業回数	15	単位数	2	担当教員	久保真利子
質問受付の方法（e-mail、オフィスアワー等）：非常勤講師室　（授業のある日）							

教育目標と学生の学習成果		教育目標：労働環境の多様化等により生ずる種々の健康被害を紹介しながら、労働者の健康の保持増進を目的とした産業保健について学ぶ。大気の役割、水の重要性、廃棄物処理の問題、環境汚染と健康影響など人と環境の相互関係について環境と健康で学ぶ。地球の生態系の仕組みが種々の産業活動や人間の生活によって、どのように影響を受けてきているかを環境保全で学ぶ。 学生の汎用的学習成果：　産業保健の理解により職場での労働安全衛生、健康に対応する能力を身につけられる。環境汚染や廃棄物などの環境問題について知識を得ることにより、社会的責任を持つことができるようになる。 学生の専門的学習成果：管理栄養士として必要な知識・考え方などの総合的能力、公衆衛生の理解により栄養・給食関連サービスのマネジメント能力、健康増進、疾病予防のための
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） 授業はテキストを中心に進めるが、重要事項については板書し解説する。また、理解を深めるために必要時に資料を作成し、プリントして配布する。授業終了時にシャトルカードで授業内容についての質問、感想などの記述を求める。次回の授業の時に質問に対する答え、コメントを記入して返却する。その内容の周知が全学生に必要であれば全員に説明する。シャトルカードにより学生の疑問点・理解度を把握し、授業に反映させながら進める。
	予習・復習	予習事項：次回のテキストの範囲に目を通しておくこと。 復習事項：学習した内容をテキスト、資料を見ながら整理し、ノートにまとめる。これを毎授業後必ず実行する。不明な点があれば、「シャトルカード」で必ず質問する。
	テキスト	田中平三　他編（2014）「社会・環境と健康」（健康・栄養科学シリーズ）南江堂
学習評価の方法		本試験の成績、提出すべきレポート、授業中の態度を総合して評価する。評価の配分は本試験（80%）、レポート（20%）とする。授業中の私語、携帯電話、学ぼうとする姿勢が乏しい学生については減点対象とする事もある。
注意事項		【参考図書】 国民衛生の動向　厚生労働統計協会

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	オリエンテーション・公衆衛生の意義と目的 授業の目的・進め方についてシラバスを用いた説明をする。 公衆衛生を学ぶ大切さを理解する。 **「産業保健」** 産業保健の歩み、目的について説明する。
2 回	産業保健の制度 憲法に基づき制定された労働基準法、労働安全衛生法、労働者災害補償保険法などの法的枠組みについて説明する。労働衛生を担っている労働基準局、労働基準監督署などの行政組織と産業保健推進センターなどの関連組織について説明する。 産業保健の現状と対策 業務上の負傷・疾病の発生状況、業務上疾病の認定状況について説明する。
3 回	労働安全管理体制と産業保健従事者について説明する。 労働保健で特に重要な健康管理、作業環境管理、作業管理の 3 管理及び健康教育、総括管理についても説明する。 労働者の健康増進を図るＴＨＰ（トータルヘルスプロモーション）プランについて説明する。
4 回	職業と健康障害について説明する。 産業疲労は疲労の原因が労働であり、蓄積すると過労に至り重大事故の原因にもなる。 代表的な作業関連疾患として次のようなものがある。 不適切なコンピューター労働により VDT 障害を発生させている。 循環器疾患は過労死として社会的に注目されている。 メンタルヘルス不全対応として、厚生労働省はガイドラインを示している。
5 回	代表的な職業病について説明する。 じん肺には珪肺と石綿肺などがあり、アスベストは肺がん、中皮腫の発生が深刻である。 有機溶剤中毒：脂溶性、揮発性が富むため特に神経系に障害を生じやすい。 金属中毒：ヒ素、水銀などは特定化学物質障害予防規則で規制されている。
6 回	職業がんは職業が原因のもので、石綿、ベンゼン、ヒ素などが有名であり、健康管理手帳を交付して健康管理が行われている。 物理的要因によるものには温熱条件（熱中症）、気圧条件（潜函病）、電離放射線、非電離放射線、振動、有害騒音（騒音性難聴）などがある。
7 回	**「環境と健康」**　人間は自然の恩恵を受けて生活しているが、現代文明は、副産物として環境に様々な影響を与え、人々の健康にまで影響を及ぼすようになってきた。健康のためには、環境との係り方や環境因子がどのような健康影響を与えるかについて学ぶ。 ・人間と環境の相互作用 ・環境基本法・環境基本計画 ・環境アセスメント

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
8 回	人間活動の副生成物が環境汚染を生じ健康に影響を及ぼすことを学ぶ。 大気汚染：代表的な汚染物質について環境基準が設定されており、監視がなされている。 水質汚濁：利水目的により類型、水質基準が設定されており、監視がなされている。 土壌汚染、地下水汚染、ダイオキシン類による汚染についてもそれぞれ基準が設置されており、監視がなされている。
9 回	人為的活動により環境汚染が生じて人の健康に被害を及ぼすことを公害と言う。特に四大公害について説明する。 イタイイタイ病：カドミウムが原因 水俣病（熊本、新潟）：有機水銀が原因 四日市ぜんそく：大気汚染（二酸化硫黄） 島根、宮崎慢性ヒ素中毒
10 回	国境を越えた環境問題、地球環境問題が生じており、地球サミットが開かれ、リオ宣言が採択された。地球環境問題について説明する。 ・地球温暖化対策 ・オゾン層の保護 ・酸性雨対策 ・海洋汚染
11 回	人は大気中に生存しており大気の状態や、天気、気温などの影響を受けて生活している。これらが人に及ぼす影響について説明する。 ・気候、季節 ・空気、圧力 ・温熱、低温 ・高所環境、無重力環境
12 回	人の生活のライフラインである上水道、下水道について説明する。 上水道：種類、普及率、浄水処理方法、水質基準、問題点 下水道：種類、普及率、処理方法、水質基準、問題点 浄化槽：合併浄化槽
13 回	住まいは最も身近な環境である。人々は家屋などの閉鎖空間で過ごす時間が多く、住居等の環境を整えておくことが重要視されてきており、このことについて説明する。 ・住まいと健康 ・室内空気汚染物質 ・ビル管理法 ・シックハウス症候群 ・そ族、衛生害虫
14 回	廃棄物については循環型社会の形成が求められており、リデュース、リユース、リサイクルが提唱されている。生活に伴う一般廃棄物、事業に伴う産業廃棄物の現状・問題点について説明する。 身近な環境問題である騒音、振動の状況、健康影響について説明する。 紫外線などの非電離放射線や電離放射線の影響について説明する。
15 回	公衆衛生学Ⅲで学習した内容について総括する。

令　和　２　年　度　教　育　計　画							
科目名	健康管理論	授業回数	15	単位数	2	担当教員	保田　立二
質問受付の方法（e-mail,オフィスアワー等）：　在室時はいつでも対応 email　tatsuji.yasuda@gmail.com							

教育目標と学生の学習成果		教育目標：栄養学関連授業で学んだ栄養素の人体内での吸収と働きや、解剖・生理学及び生化学の基礎知識に基づいて、疾病時における人体の変化を理解してそれぞれの症状又は原因に対応した治療と食事療法の考え方を総論的に学ぶ。 学生の学習成果：本科目においては、管理栄養士業務において必要となる疾患や病態に関連した食事療法の総合的理解を図る。
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） 授業はテキストを中心に進めるが、理解力を確かめる小テストや医学用語の理解力を高めるレポートなどを科す予定である。講義終了時においては各疾患に対する栄養的アプローチの原理が理解できている事を学習成果として授業は進められる。 授業終了時に「シャトルカード」に授業内容についての質問、感想などの記述を求める。次回の授業の時に質問に対する答え、またはコメントを記入して返却する。 「シャトルカード」により学習進行状況を確認しながら授業を進める。
	予習・復習	予習：テキストの講義範囲に目を通しておく。 復習：講義に出てきた用語の理解に努める。用語は、今後の学習でも度々出現するのでできるだけ整理した状態で理解し、混乱が起こらないように注意する。 「シャトルカード」により効果的な復習を促進する。
	テキスト	朝山正巳　他著「イラスト健康管理概論」東京教学社<第５版> 2,000 円＋税
学習評価の方法		今後の授業でも必要となるので、必要用語の理解度は重要な評価ポイントとなる。 学習評価は、小テスト及び必要用語の理解度（２０％）に本試験の成績（８０％）を加味して１００点満点で評価する。 私語など授業の妨害行為について減点を科す場合がある。
注意事項		「シャトルカード」には必ず質問を記入すること。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1回	授業の進め方についてシラバスを用いた説明 健康の概念 　健康の定義、健康に及ぼす要因 　（健康の定義について説明できる。）
2回	健康の指標 　包括的健康指標、特殊健康指標、罹患率、有病率、受診率、国際的疾病障害死因統計分類 　（主な保健統計指標について説明できる。）
3回	疾病の予防 　一次予防、二次予防、三次予防、感染症予防 　（一次予防、二次予防、三次予防、感染症予防の違いについて説明できる。）
4回	健康の現状 生命と寿命 　死因、平均寿命、健康寿命、主な死因順位 　（人口動態統計などで使用される用語及び疫学と予防対策について説明できる。）
5回	傷病の現状 　国民生活基礎調査、患者調査、健康水準の国際比較 　（傷病統計による主要疾病の現状と動向が説明できる。）
6回	健康増進の施策（１） 　健康増進の考え方、健康増進の 3 要素、健康づくりの課題 　（国民の健康づくり、医療費の現状について説明できる。）
7回	健康づくり行政（２） 　健康づくり行政、健康づくり事業、その他の事業 　（健康増進施策について説明できる。）
8回	健康づくり施策（３） 　健康日本 21、健康づくりの課題（喫煙、飲酒など） 　（健康づくり施策について説明できる。）

9 回	健康づくりの実際 　運動、栄養、休養 　（食生活指針などの背景を理解して説明できる。）
10 回	健康管理について 　健康管理の目的、集団検診、特定健診、健康教育 　（特定健診・特定保険指導制度などの目的、内容について説明できる。）
11 回	職域の健康管理 　保健所、市町村保健センター、地方衛生研究所、健康管理行政 　（現在の健康管理行政と現状について説明できる。）
12 回	学校における健康管理 　保健管理、保健教育（保健学習、保健指導）、食育 　（学校保健対策について説明できる。）
13 回	職場における健康管理 　健康管理の現状・実際、産業保健組織 　（産業保健対策について説明ができる。）
14 回	職業病と作業関連疾患 　有害環境と健康障害、労働法規 　（職場における健康障害について説明できる。）
15 回	まとめと補足説明

<table>
<tr><td colspan="8">令　和　２　年　度　教　育　計　画</td></tr>
<tr><td>科目名</td><td>社会福祉概論</td><td>授業回数</td><td>15</td><td>単位数</td><td>２</td><td>担当教員</td><td>松尾　冀</td></tr>
<tr><td colspan="8">質問受付の方法（オフィスアワー等）授業中も随時。シャトルカードを必ず見る。</td></tr>
<tr><td>教育目標と学生の学習成果</td><td colspan="7">教育目標：管理栄養士として必要な社会福祉の知識をトータルに修得する。
１．現代社会における社会福祉の意義と役割を学ぶ。
２．社会福祉６法の理念と福祉サービスについて学ぶ。
３．社会福祉の制度、機関、従事者の専門性について学ぶ。

学生の学習成果
１．社会福祉の意義と役割を理解し、児童、障害者、高齢者、母子家庭など社会的弱者に対する理解を獲得する。
２．社会福祉を理解し、保健・医療・福祉の連携、関連サービスを理解する。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">教育方法</td><td>授業の進め方</td><td colspan="6">（講義・演習・実験・実習・実技）
１．法律、制度、政策、思想などが主要な内容となるので、できるだけ具体例をあげ、日常の中でどのようにして、その制度が利用され役立っているのか分かりやすく説明する。
２．　学生の理解度と関心を常に見ながら講義する。
３．専門職（管理栄養士）として、高齢者と障害者の健康と食生活を考える時間を設け、学生に考察させる。
４．専門用語の解説集を、授業３回に１，２枚渡す。</td></tr>
<tr><td>予習・復習</td><td colspan="6">次回授業するところを３頁位は、読書してくるように指示する。レポートは数回授業して、課題を出してみる。</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="6">赤木正典・平松正臣著：2018「福祉・栄養・看護のための社会福祉論」
建帛社</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">定期試験の結果（70%）とレポート（30%）でトータルに成績評価する。
学習のポイント、法律、制度、思想等が多いので馴染みにくいと思う。テストの前には具体的に出題傾向について話す。</td></tr>
<tr><td>注意事項</td><td colspan="7">参考図書
厚生統計協会：2018「国民の福祉の動向」
山縣文治著：2018「社会福祉用語辞典」ミネルヴァ書房</td></tr>
</table>

	授　業　回　数　別　教　育　内　容
1 回	1．現代と社会福祉 （1）　社会福祉の目的と必要性 （2）　現代社会の諸問題と人権思想 （3）　時代の変化と社会福祉の流れ
2 回	2．社会福祉の基礎理解 （1）　再度、社会福祉とは （2）　人権尊重と社会福祉教育の必要性 ・ホスピタリティの思想　　・ノーマライゼーションの思想 ・ソーシャルワークの価値と人権
3 回	3．社会福祉の歴史 （1）　西洋と欧米における社会福祉の歴史 （2）　外国、日本の先達者たち、 （3）　日本における社会福祉の歴史
4 回	4．社会福祉の法律と制度 （1）　社会福祉６法とその背景 （2）　社会福祉の機関・国の行政機関・都道府県、指定都市の行政機関
5 回	5．社会福祉の財政 （1）　国の財政と財源の仕組み （2）　民間社会福祉事業の財源 （3）　共同募金、社会福祉協議会等
6 回	6．社会福祉に携わる人々 （1）福祉機関、社会福祉施設従事者 （2）社会福祉従事者の専門性とは （3）ボランティアについて
7 回	7．貧困と社会福祉 （1）　公的扶助の歴史・公的扶助とは・社会保険は （2）　公的扶助対策（生活保護の原理・生活保護の原則）
8 回	（3）　生活保護の種類 （4）　生活保護の実施機関と生活保護基準 （5）　生活保護の動向と課題
9 回	8．子どもと家庭の福祉 （1）　現代社会と子ども家庭福祉 （2）　子ども家庭福祉対策（子ども家庭福祉の実施体制） （3）　児童福祉施設と専門職

１０ 回	９．高齢者の福祉 （１） 超高齢化社会の到来 （２） 高齢化福祉の制度 （３） 高齢者福祉の課題
１１ 回	１０．障害者の福祉 （１）障害者福祉とは （２）障害のある人の生活実態とニーズ （３）障害者福祉の施策
１２ 回	１１．ひとり親家庭の福祉・女性福祉 （１）ひとり親家庭とは （２）母子及び父子並びに寡婦福祉法 （３）その他の制度・施策
１３ 回	１２．社会福祉援助技術 （１）社会福祉援助技術を支える基本的な考え方 （２）コーディネート技術の重要性 （３）過程（プロセス）としての社会福祉援助技術 （４）利用者との直接的な関わりに用いられる技術
１４ 回	１３．地域福祉 （１）地域福祉の展開 （２）地域福祉の具体的な活動 （３）地域福祉計画の策定と住民参加
１５ 回	１４．前期定期試験を実施する。 １４回の授業を実施した中からテスト問題を提出する。１３回目の授業中に具体的な出題傾向について説明する。

令　和　２　年　度　教　育　計　画							
科目名	解剖生理学Ⅰ	授業回数	15	単位数	2	担当教員	清水　憲二

質問受付の方法（質問票、e-mail,オフィスアワー等）：シャトルカード、shimizu@owc.ac.jp　、オフィスアワー：在室時はいつでも対応するが、特に月曜日午前および午後が望ましい。

教育目標と学生の学習成果

教育目標：

健康維持のための栄養指導を行うには，ヒトの体の仕組みをしっかりと理解する必要がある。解剖生理学はこの目的のために，正常なヒトの構造と機能を理解し，今までは当然と思っていた様々な生命現象を医学・生物学的に説明できるようになる事を目的とする。また、疾患がどのような機構で発症するかという点も重要な単元である。本科目はその前半部を担当する。

学生の学習成果：

解剖生理学は，人体を“かたち”と“働き”という二つの面から眺めるという楽しい学問であることを知り，様々な生命現象について説明できる能力、特に各臓器の構造と機能を充分に理解し、栄養学の基礎となる能力を習得する。

教育方法

授業の進め方	(講義・演習・実験・実習・実技) 講義はテキストとプリントを併用して進める。また、講義に際しては、シャトルカードで毎回質問を提出してもらい、翌週にそれらの回答プリントを配布して、個人毎の疑問に答える。定期試験以外にも予習、復習についての小テストを適宜行ない、知識の自己点検と予習、復習の評価を行なう。
予習・復習	予習：シラバスまたは講義の進捗状況に従って，テキストの予定講義範囲を読んでおき、予習復習の小テストに備えるほか、シャトルカードに記入する質問を自力で発見して記録しておく。 講義中：自らの手を動かし，ノートを作成するのが受講の基本である。予習および講義中に疑問点を発見したら、必ずシャトルカードに質問として提出する！ 復習：講義があった日は，必ず教科書の該当部分を読み直して，予習復習の小テストに備える。また、シャトルカードの質問箱回答プリントを熟読し、他の学生の質問とその回答も含めて、ノートを完全にしておく
テキスト	志村、岡、山田　編（2014）「解剖生理学（人体の構造と機能）」改訂第２版 羊土社、2,900 円＋税 場合によっては、基礎生物学で使用した「ZERO からの生命科学」テキストを本科目前半でも使用する。

学習評価の方法

予習復習の小テストと中間テストを合わせて 20 点満点で評価し、試験期間中に期末試験を行ない（80 点）、合計 100 点満点中 60 点以上を合格とする。
授業が７～８割進行した段階で、中間テストを実施する。これは自己点検を主な目的とするが、予習／復習を正確に反映するので成績評価にも 10 点程度勘案する。

注意事項	参考図書： 坂井建雄，岡田隆夫　監訳（2005）「ヒューマンバイオロジー」医学書院 （わかりやすい画像が多数あり，理解する上に役立つ。図書館に準備する。）

授業回数別教育内容	
1回	導入：シラバスの説明。 解剖生理学概論（栄養学のための解剖生理学） 基礎生物学の復習（復習試験を行なう場合がある）
2回	細胞と組織 細胞、細胞内小器官、組織、器官、器官系 上皮組織と結合組織を構成する細胞と細胞間質の構造と機能 軟骨・骨と筋組織を構成する細胞と細胞間質の構造と機能
3回	消化器系-1 咀嚼，嚥下と食道の構造および機能、 胃と腸の構造と機能、消化管運動、消化と吸収、
4回	消化器系-2 消化管ホルモン、　肝臓や胆嚢の構造と機能、膵臓の構造と機能， および血糖値維持のメカニズム
5回	血液・造血器・リンパ系 血液・造血器・リンパ系の構成と機能 血球の種類と分化、機能、血漿タンパク質、血液凝固と線溶系
6回	循環器系 心臓の構造と機能、 血管とリンパ管の構造と機能，および組織液の働き、物質交換
7回	呼吸器系 気道の構造と機能，および嗅覚と発声、 呼気と吸気の仕組み，および肺でのガス交換

8 回	泌尿器系 泌尿器系の器官の構造と機能及び尿の生成、 体液のバランス調節と血圧制御
9 回	骨格系 骨の構造とリモデリング、骨代謝
10 回	筋肉系と運動機能 筋肉の種類と構造、筋収縮の機構、運動とエネルギー代謝系
11 回	内分泌系と生殖器系 ホルモンの働き、種類と作用機構、制御機構、生殖細胞の分化と発生機構、性周期
12 回	神経系 中枢神経、末梢神経、神経細胞の構造と機能、神経伝達機構、 自律神経と体性神経、反射、学習、記憶，認知症 中間テスト
13 回	感覚器系と皮膚組織 ５感の認識機構、伝達機構、受容体、皮膚の構造および体温調節と皮膚感覚
14 回	免疫系 生体防御、液性免疫、細胞性免疫、抗原と抗体、アレルギー、粘膜免疫、自己免疫疾患
15 回	総合演習 解剖生理学とヒトの疾患

令　和　2　年　度　教　育　計　画							
科目名	解剖生理学Ⅱ	授業回数	15	単位数	2	担当教員	熊谷 智代
質問受　付の方法（e-mail,オフィスアワー等）：メールアドレス tkumagai@owc.ac.jp　（随時） 講義後 20 分間：火曜日 14 時 30 分～50 分（講義室または研究室）							

教育目標と学生の学習成果		教育目標： 管理栄養士には人間の生存・活動を支える栄養についての高度な知識や技術が求められる。当科目では，人体を構成する組織や各器官の正常な構造や機能を学習することによって，栄養や疾病など臨床医学を学ぶために必要な基礎知識を修得することを目標とする。 学生の学習成果： 専門的学習成果： 解剖生理学Ⅰの知識をふまえて、解剖生理学Ⅱでは、管理栄養士として必要な臓器や組織について重点的に学習し、その構造および機能の理解を深める。さらに主な疾病の概要についても学習し理解する。 汎用的学習成果：職業上必要な知識を体系的に理解し説明する能力を修得する。
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） ・授業は，テキスト，プリントを利用して進める。 ・複雑な人体の構造，機能を理解しやすくするために，イラストなどを活用する。 ・健康や疾病についての話題を取り入れ、栄養学を学ぶ上で重要な解剖生理学に興味をもてるよう配慮する。 ・講義終了時には、シャトルカードを配布し、授業の感想等の記入を求める。次回講義時に必要に応じてコメントを記載して返却する。
	予習・復習	予習事項：授業前に，教科書を読み，不明な点があれば自分で調べて理解しておく。 復習事項：授業中に指示した重要項目を復習し，理解を深める。
	テキスト	福島光夫編　Visual 栄養学テキスト　人体の構造と機能および疾病の成り立ちⅠ　解剖生理学　中山書店　定価 2,700 円 加藤昌彦他　サクセス管理栄養士・栄養士養成講座　解剖生理学・病理学　第一出版　定価 2,900 円 ※サクセス管理栄養士講座は、当科目では疾患に関する参考書として使用し、後期の病理学で引き続き使用。
学習評価の方法		３項目の学習成果について，その修得度合を量的に評価し，おおよその配点を①：②：③＝10：80：10 とする。 ①解剖生理学Ⅰの知識を踏まえて，細胞，組織など人体の基本構造，構成を理解する。 ②管理栄養士に必要な各臓器の構造や機能を理解するとともに，主要な疾患の概要を理解する。 ③社会人としてあるいは職業上必要な知識を体系的に理解し説明する能力を修得する。 学習評価は，中間試験(40%程度)と期末試験(60%程度)の結果を総合して行なう。 なお，授業受講態度および学習意欲についても学習評価に加える場合もある(5%以内)。
注意事項		

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1回	オリエンテーション、授業の進め方についての説明 第１章：細胞，組織，皮膚　１.細胞
2回	第１章：細胞，組織，皮膚　2．組織 第２章：消化管　1．概要　2．口腔，咽頭
3回	第２章：消化管　3．食道　4．胃　5．小腸　6．大腸　（胃十二指腸潰瘍）
4回	第３章：肝・胆・膵　1．肝臓　2．胆嚢・胆道　３．膵臓
5回	第４章：心臓・血管系　1．心臓の形状・しくみとはたらき　2．血液の循環 （虚血性心疾患）
6回	第４章：心臓・血管系　3．血管の構造とはたらき　4．血圧　（高血圧）
7回	第５章：呼吸器　1．呼吸器の形状・しくみ
8回	第５章：呼吸器　2．呼吸器のはたらき　（慢性閉塞性肺疾患）
9回	消化管，肝・胆・膵，心臓・血管系，呼吸器のまとめと復習

10回	第 8 章：腎臓　　1．腎臓の形状・しくみ
11回	第 8 章：腎臓　　2．腎臓のはたらき
12回	第 9 章：血液　　1．血液の組成とはたらき，造血　　2．赤血球　（貧血）
13回	第 11 章：神経　1．神経系　　2．中枢神経系　　3．末梢神経系
14回	第 7 章：代謝　　1．代謝総論，糖代謝（栄養障害、糖尿病） 2．脂質代謝（肥満、メタボリックシンドローム）
15回	講義内容の復習・まとめ，重要項目の確認

令　和　２　年　度　教　育　計　画							
科目名	解剖生理学実験Ⅰ	授業回数	15	単位数	1	担当教員	清水　憲二

質問受付の方法：(質問票、e-mail,オフィスアワー等)：シャトルカード、shimizu@owc.ac.jp　、オフィスアワー：在室時はいつでも対応するが、特に月曜日午前および午後が望ましい。

教育目標と学生の学習成果	教育目標： 　基礎生物学と解剖生理学で学ぶ生理学の内容を、実験を通してより深く理解させ、生体内の各器官の解剖学的知識と生理学的知識を結びつけて総合的に身体機能を考える能力を養い、各班内での協力とコミュニケーションの大切さを実感させる。 学生の学習成果： 　身体機能のより深い理解と観察力を養う。また班で実験を行なうために、相互の助け合いがいかに大切であるかを体得する。これは特に最後の３コマの「問題発見・自己解決型グループ学習（チュートリアル）」において、重要なアクティブ・ラーニングの学習成果となる。	
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） １．実験講義で実験の目的と内容の説明を行ない、実験の内容を十分に理解させる。実験がスムースに進行するように、プリントを用いて計測器、記録器の使用方法の説明を行なう。 ２．実験の結果と講義内容が一致することを確認させる。 ３．実験の結果をレポートにまとめさせ提出させる。 ４．講義と実験結果との関連設問により理解の程度を確認する。 ５．最後の３コマは問題発見・自己解決型グループ学習（チュートリアル）を導入し、グループ毎に独自のテーマを設定して自由に情報検索し、まとめと成果発表を行なう。
	予習・復習	実験を開始する前に、実験内容のプリントについて予習をしているか確認する。 実験講義の内容を再度確認させる。 レポートの考察を書かせる事によって、実験内容の復習をさせる。
	テキスト	プリントを主な教材として用いる。 参考書：Ｎブックス実験シリーズ解剖生理学実験（建帛社）、
学習評価の方法	実験毎に個人レポートを提出させ、その実験と講義内容が一致し、理解ができているかどうかを確認する。また不明な点あるいは行なった実験の内容が参考書等にはどのように記述されているのか調べているかどうかについても評価の対象とする。 　提出された実験毎のレポートに対し、実験講義あるいは解剖生理学で学習した内容・設問に全て答えてあれば実験点として学生に 75 点（出席；15 点、レポート点；60 点）を与え、調べた内容により加点（25 点まで）あるいは不備のある場合は減点（15 点まで）を行ない、最低 60 点から最高 100 点までとする。総合的な学習成果は実験点 5 種目の平均点で評価する。レポートの提出が無い場合は、熱意の欠如とみなし、相当の減点を行なう。	
注意事項	参考図書等；実験の前にはプリント・解剖生理学実験をよく良く読んできておくこと. 　実験のレポートは期限内に必ず提出しなければならない、指定した期限に遅れた場合は減点の対象とする場合がある。 　実験を欠席した場合は空き時間を利用して必ず欠席をした日の実験を行ない、レポートを提出しなければならない。実験は講義と異なり、自習が不可能であることが特徴である。従って、毎回出席が最も重要である。	

授業回数別教育内容	
1回	導入講義：シラバスの説明。 解剖生理学の教科書を用いて、実験の単元に該当する章を前もって詳細に講義する。 この講義を第５回授業まで継続する。
4回	実験講義： 解剖生理学の教科書に基づいて、基本的な事項を復習する。
5回	実験講義： 人体解剖模型を用いて、ヒトの身体各部の解剖学的特徴や構造の詳細、機能との関連、などを講義する。
6回	実験講義： 本実験で行なう５種類の実験項目について、具体的な説明を詳細に行なう。 ７回から１１回の実験は、各班が異なるテーマの実験を同時並行して行なう。
7回	実　　験：人の脈波測定 加速度脈波測定装置を使用して、各個人の脈波を測定する。その際、安静時、運動直後、などの条件で脈波のパターンがどのように変動するかを観察する。
8回	実　　験：人の体温測定 口腔内、腋窩、膝窩、肘窩、手指先、足指先温の測定を行わせ、何故このように体温の分布に違いが起こるのかを考えさせ、レポートを提出させる。
9回	実　　験：人の血圧測定 安静時、深呼吸時、運動時（直後および５分後）並びに立位、仰臥位の血圧を測定し、人の血圧がどのような調節を受けているかを考察する。これらの情報を検索させ、レポートを提出させる。
10回	実　　験：皮膚感覚 身体各部位の単位面積当たりの触、痛、圧点の分布の割合、二点弁別，感覚の違いなどの結果をレポートで報告させると共に、感覚と神経伝達機構について考察させる。
11回	実　　験：視覚の実験（視神経乳頭の実測） 明視距離における盲点を観察し、盲点の大きさの実測から、実際の網膜における視神経乳頭の大きさを求める。また、単眼視、両眼視の双方において、盲点が意識されないのはなぜか？という問題について調査、考察し、それらの結果のレポートを提出させる。
12回	チュートリアル：　（問題発見・自己解決型グループ学習） 解剖生理学に関連する５０問の設問から、関連するテーマを各班で選び、分担を決めて情報検索を開始する。班長を決め、班員全員の討論で答えを出し、発表用の資料を作る。

13回	チュートリアル： 　上記を続行する。
14回	チュートリアル： 　各班の作成した資料をクラス全員で共有し、結果発表と討論を行なう。
15回	総合討論：レポートを返却し、実験の内容とその結果について解説を行ない，各自のレポートの点検を行わせる。以上の結果とチュートリアルの結果を基にして、総合的な討論を行なう。（注：レポートの評価、返却は年度末まで遅れる可能性もある）

令　和　２　年　度　教　育　計　画							
科目名	解剖生理学実験Ⅱ	授業回数	15	単位数	1	担当教員	清水　憲二
質問受付：　（質問票、e-mail,オフィスアワー等）：　シャトルカード、shimizu@owc.ac.jp　、オフィスアワー：在室時はいつでも対応するが、特に月曜日午前および午後が望ましい。							

教育目標		教育目標： 　解剖生理学で学習する内容と各組織の正常と病態（機能異常）との違いを、組織を観察することにより，具体的に実感させる。また、生体内の各器官の生理学的知識と解剖学的知識を結びつかせ、総合的に身体機能を考える能力を養う。さらに、グループでの実験は班内でのコミュニケーションと協力の大切さを実感させ、将来役立つ社会性を養う。 学生の学習成果： 　身体を構成している諸器官の機能のより深い理解と観察力が身についていること。また班で実験を行うために相互のコミュニケーションと助け合いがいかに大切であるかを体得する。最終的には、実験で得た知識についての質問に対して、具体的に説明ができること。
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） １．実験講義で観察する組織の内容を説明し，組織の内容を十分に理解させる。 　実験がスムースに進行するように、プリントを用いて計測器、記録器の使用方法の説明を行なう。 ２．実験の結果と講義内容が一致することを確認させる。 ３．実験の結果をレポートにまとめ、提出させる。 ４．講義と実験結果との関連設問により、理解の程度を確認する。 ５．組織観察のレポートは授業時間内に提出させる。
	テキスト	授業でのプリント，
	参考図書	日本生理学会 編・新生理学実習書，2001 年，南江堂； 岡田泰伸 編集・生理学展望，2002 年，丸善； 青峰正裕・藤田 守 編著 Ｎブックス実験シリーズ解剖生理学実験，2009 年，建帛社
学習評価の方法	到達基準	各器官の組織像（腺組織、結合組織、筋組織、上皮組織、神経組織、など）がおおよそ判別できること。正常と病的状態の組織像の区別ができる。 呼気中の二酸化炭素濃度等を指標にして、安静時エネルギー代謝や死腔量の測定ができる原理を理解する。データの処理ができる。
	認定方法	１．実験結果のレポート（A4 サイズ）を提出していること。 ２．実験中の態度・レポートを評価し，総合点が合格水準（60 点）以上であること。 レポートの提出が無い場合は、相当の減点を行なう。
注意事項		組織についての説明，実験関連以外の私語はしないこと。再三の注意を行っても止めない場合は 2 点の減点を行なう。実験は講義と異なり、自習が不可能であることが特徴である。従って、毎回出席が最も重要である。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1回	・オリエンテーション：シラバスの説明。 　データの処理及びレポートの記載方法についての説明。 人体解剖模型を用いて、ヒトの身体各部の解剖学的特徴や構造の詳細、機能との関連、などを講義する。
2回	組織観察とスケッチ法の説明 正常組織観察１ 細胞，上皮，唾液腺組織の観察
3回	正常組織観察２ 　脂肪，骨，血液，筋，神経組織の観察
4回	正常組織観察３ 　心筋線維，脈管，造血組織の観察
5回	正常組織観察４ 　胃，回腸，虫垂組織の観察
6回	病理組織の観察１ 　肝臓，胆嚢，膵臓，呼吸器系組織の観察
7回	病理組織の観察２ 　腎臓，尿管，生殖器，内分泌器官、動脈硬化，心筋梗塞の組織の観察
8回	病理組織の観察３ 　動脈瘤，肺塞栓症、消化器系癌、肝臓・炎症性腸疾患の組織観察
9回	病理組織の観察４ 　肺癌、乳癌、子宮癌などの組織像観察
10回	実験：加速度脈波の説明と実際の測定 　１．機器の操作法、運動の影響 　２．加速度脈波と血管年齢についての説明と討論
11回	実験：安静時代謝量、呼吸商の測定の説明 　１．マスクとフィルターの清掃と消毒 　２．安静時代謝量、呼吸商の求め方について説明 （実際の実験は、４種類の実験を各班別に同時並行して行なう）
12回	実験：安静時代謝量、呼吸商の測定 　１．マスクとフィルターの清掃と消毒 　２．安静時代謝量、呼吸商の実験結果の計算
13回	実験：死腔量の測定 　１．Bohr の式による安静時、死腔換気量の算出 　２．ダグラスバッグによる終末呼気中の酸素、二酸化炭素量測定
14回	実験：PROP テイスター（味覚）の実験に関する説明と実験 　１．試薬の秤量及び試料の調整 　２．visual analog scale による判定、全員のデータ共有による遺伝的分布の解析
15回	総合討論 　各班の結果を基に、実験の意義、データの意味、生理学的な原理、病態との関連、などについて、総合的に討論する。

令　和　２　年　度　教　育　計　画							
科目名	運動生理学	授業回数	15	単位数	2	担当教員	清水　憲二
質問受付の方法（質問票、e-mail,オフィスアワー等）：シャトルカード、shimizu@owc.ac.jp　、オフィスアワー：在室時はいつでも対応するが、特に月曜日午前および午後が望ましい。							

教育目標と学生の学習成果		教育目標： この科目では生理学を基本に，身体運動に関連する「からだのしくみ」を学ぶ。この目的のため，最初は運動に関与する細胞・組織レベルの知識習得から始め，次いで，運動と身体諸器官の関連について学習し，ヒトの健康を維持するための運動の役割を理解する。 学生の学習成果： 現在は飽食の時代であると言われるが，身体活動量が減少したため，生活習慣病が劇的に増加している。このため、管理栄養士にとっては食事や栄養に関する知識の他に，運動についての正しい知識と理解が求められている。本科目では、有病者、高齢者等を含めた広い対象者に健康づくりのための具体的運動指導ができる基礎知識を身につける。
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） 講義はテキストを中心にして進める。基礎生物学と解剖生理学で学んだ知識と生物・医学的な考え方を基に，運動による身体諸機能の生理反応を理解できるようにする。講義に際しては、シャトルカードで毎回質問を提出してもらい、翌週にそれらの回答プリントを配布して、個人毎の疑問に答える。定期試験以外にも予習、復習についての小テストを適宜行ない、知識の自己点検と予習、復習の評価を行なう。なお、本科目は３年生後期に設定されているが、この教科書が終了しなかった場合は、4 年生前期の「運動栄養学」で引き続き講義する予定である。
	予習・復習	予習：シラバスまたは講義の進捗状況に従って，テキストの予定講義範囲を読んでおき、予習復習の小テストに備えるほか、シャトルカードに記入する質問を自力で発見して記録しておく。 講義中：自らの手を動かし，ノートを作成するのが受講の基本である。予習および講義中に疑問点を発見したら、必ずシャトルカードに質問として提出する！ 復習：講義があった日は，必ず教科書の該当部分を読み直して，予習復習の小テストに備える。また、シャトルカードの質問箱回答プリントを熟読し、他の学生の質問とその回答も含めて、ノートを完全にしておく。
	テキスト	樋口、湊、寺田　著（2018）「栄養・スポーツ系の運動生理学」南江堂、 2,800 円＋税
学習評価の方法		予習復習の確認のための小テストと中間テストを合わせて 20 点満点で評価し、試験期間中に期末試験を行ない（80 点）、合計 100 点満点中 60 点以上の得点で合格とする。 授業が７～８割進行した段階で、中間テストを実施する。これは自己点検のためを主な目的とするが、予習／復習を正確に反映するので、成績評価にも 10 点程度勘案する。

注意事項	参考図書： 〇志村、岡、山田　編（2014）「解剖生理学（人体の構造と機能）」羊土社、2,900 円＋税 （解剖生理学 Ｉ で使用したテキスト） 〇坂井建雄，岡田隆夫　監訳（2005）「ヒューマンバイオロジー」医学書院 （わかりやすい画像が多数あり，理解する上に役立つ。図書館に準備する。）

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1回	オリエンテーション：シラバスの説明。 初講試験（２年次までの学習成果の確認、特に解剖生理学と生化学） 恒常性維持を図る人体と運動 運動生理学を学ぶ上で重要な解剖生理学とホメオスタシスの概念を復習する。
2回	初講試験の解説 運動生理学の化学的基礎： １）炭水化物、脂質、タンパク質の役割を完全に理解する。 ２）全ての細胞のエネルギー源となる ATP の産生機構を大局的に理解し，そのために酸素と栄養素の摂取が必要であることを再確認する。
3回	安静時と運動時のエネルギー代謝：基礎代謝量と活動時代謝量、測定法など。
4回	運動と身体組成：肥満とやせ、身体組成測定法、脂肪組織と体重コントロール
5回	運動と呼吸・循環器系の機能：呼吸・循環系の構造、呼吸の役割、ガス交換、換気量、心臓血管系の理解、酸素借と酸素負債
6回	運動と骨格筋・神経系の機能：運動を担う骨格筋の微細構造と機能、エネルギー供給系、遅筋と速筋の構造と機能の違い、骨格筋の収縮機構とそれを調節するニューロン（神経細胞）の構造と機能，及びシナプスでの興奮伝達のメカニズムや筋疲労の機構などを理解する。
7回	運動と中間代謝・内分泌の機能：糖質、脂質、たんぱく質の代謝とエネルギ−(ATP)産生、エネルギ−産生システムにおけるホルモンの役割、などを詳細に学ぶ。

8 回	環境と運動・栄養：運動とストレス、休養、運動と温度や気圧および無重力との関わり、 災害時の栄養、避難生活と運動
9 回	運動と栄養摂取−１：運動と糖質、脂質、たんぱく質、特にトレーニングとの関係
10 回	運動と栄養摂取−２：ビタミンとミネラル（特にカルシウムと鉄)、水分、サプリメント、 運動前、中、後の食事
11 回	体力・運動能力の性差：体格、組成、筋力、持久力、柔軟性などにおける性差、 成人女性のやせと健康、女性の運動における注意点
12 回	体力・運動能力の加齢変化：出生から成人まで、及び成人期以降の運動能力の加齢変化 中間テスト（小テスト）を実施する。
13 回	健康と運動能力に及ぼすトレーニングと遺伝の影響：トレーニングの効果、運動能力の遺伝率、運動能力と遺伝子多型、生活習慣病関連の遺伝子多型、 健康維持とスポーツトレーニングの実際を学ぶ。
14 回	身体活動・運動の指導法−１：健康作りと身体活動基準、メディカルチェック、有疾患者に対する運動指導の実際（生活習慣病患者を中心に）
15 回	身体活動・運動の指導法−２：高齢者への運動指導；フレイル、骨粗鬆症、認知症などを 予防するための運動

令　和　2　年　度　教　育　計　画							
科目名	生化学Ⅰ	授業回数	15	単位数	2	担当教員	宮﨑正博
質問受付の方法（e-mail,オフィスアワー等）：随時、C 棟 101 研究室で受け付ける							

教育目標と学生の学習成果		教育目標：人間生活学部食物栄養学科では、高度な専門知識や技能を修得した栄養のスペシャリストである管理栄養士を育成することを目標とする。生化学は生命現象を化学的に明らかにする学問であり、栄養学と表裏一体となって発展してきた。従って、管理栄養士を育成するために、生化学教育は不可欠である。本講は、栄養素の代謝とそのはたらきの入門編として、各種栄養素の構造とその性質について基礎的な知識を涵養することを目的とする。 学生の学習成果： 専門的学習成果：①代謝の場である細胞の構造と機能、②アミノ酸・たんぱく質の構造と機能、③酵素と補酵素、④糖質の構造と機能、⑤脂質の構造と機能、⑥ヌクレオチドと核酸について理解し、「管理栄養士が果たすべき多様な専門領域に関する基本となる能力」、「管理栄養士に必要とされる知識、技能、態度及び考え方の総合的能力」を獲得する。 汎用的学習成果：「栄養学分野の基本的な知識を体系的に理解する能力」を獲得する。
教育方法	授業の進め方	（ 講義・演習・実験・実習・実技 ） ・授業は、テキスト、プリントなどを利用して進める。 ・各単元終了時に「小テスト」を行う。 ・毎回の授業終了時に、「シャトルカード」に授業内容についての質問、感想など自由記述形式での記入を求める。その記載内容に対する回答、コメント等を記載して次回の授業で返却する。 ・「小テスト」および「シャトルカード」により、学習進行状況を逐次確認し、改善しながら進める。
	予習・復習	予習事項：毎授業前に、授業回数別教育内容に記載されたテキストの範囲を音読する。 復習事項：毎授業後に、授業回数別教育内容に記載されたテキストの範囲を再音読し、また、ノートおよび配布プリントを整理して授業内容を理解する。
	テキスト	新スタンダード栄養・食物シリーズ２　生化学（大塚　譲、脊山洋右、藤原葉子、本田善一郎編集） 東京化学同人　2500 円（税別）2017 年
学習評価の方法		以下に示す学習成果について、その獲得度合を量的に評価する。①細胞の構造、②アミノ酸・たんぱく質の構造と機能、③酵素と補酵素、④糖質の構造と機能、⑤脂質の構造と機能、⑥ヌクレオチドと核酸について理解している。 学習評価は、定期試験および小テストの結果を総合して行う。評価の割合は、定期試験 80 点、小テスト 20 点とする。
注意事項		【参考図書】 特に、指定しない。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	細胞の構造と機能 1 講義内容：(a)ヒト細胞の細胞膜；(b)ヒト細胞の核；(c)ヒト細胞の細胞小器官；(d)ヒト細胞の細胞骨格 予習・復習事項：テキスト第 2 章（pp. 6-10、pp. 70-76）
2 回	細胞の構造と機能 2 講義内容：(a)ヒト細胞の増殖と分化；(b)ヒトの減数分裂と体細胞分裂；(c)植物細胞 予習・復習事項：テキスト第 3 章（pp. 12-15）
3 回	アミノ酸・たんぱく質の構造と機能 1 講義内容：(a)アミノ酸；(b)アミノ酸の光学異性体；(c)体たんぱく質構成アミノ酸；(d)必須アミノ酸；(e)ペプチド 予習・復習事項：テキスト第 4 章（pp. 19-28）
4 回	アミノ酸・たんぱく質の構造と機能 2 講義内容：(a)たんぱく質の高次構造；(b)たんぱく質の分類と機能；(c)たんぱく質の性質；(d)たんぱく質の分析法 予習・復習事項：テキスト第 5 章（pp. 29-36）
5 回	酵素と補酵素 1 講義内容：(a)酵素の性質；(b)酵素の分類；(c)補酵素 予習・復習事項：テキスト第 6 章（pp. 37-40）
6 回	酵素と補酵素 2 講義内容：(a)酵素反応速度論；(b)酵素活性の調節 予習・復習事項：テキスト第 6 章（pp. 41-46）
7 回	糖質の構造と機能 1 講義内容：(a)単糖類；(b)光学異性体 予習・復習事項：テキスト第 7 章（pp. 47-49）
8 回	糖質の構造と機能 2 講義内容：(a)アノマー異性体；(b)誘導糖；(c)二糖類 予習・復習事項：テキスト第 7 章（pp. 49-53）
9 回	糖質の構造と機能 3 講義内容：(a)多糖類；(b)複合糖質 予習・復習事項：テキスト第 7 章（pp. 53-60）

10回	脂質の構造と機能 1 講義内容：(a)単純脂質（アシルグリセロール）；(b)複合脂質（リン脂質） 予習・復習事項：テキスト第 8 章（pp. 61-62、pp. 66、pp. 68-69）
11回	脂質の構造と機能 2 講義内容：(a)複合脂質（糖脂質）；(b)誘導脂質（脂肪酸、コレステロール） 予習・復習事項：テキスト第 8 章（pp. 63-65、pp. 69-70、pp. 67-68）
12回	脂質の構造と機能 3 講義内容：(a)リポたんぱく質；(b)エイコサノイド；(c)脂溶性ビタミン 予習・復習事項：テキスト第 7 章（pp. 64-65、pp. 121-123）
13回	ヌクレオチドと核酸 1 講義内容：(a)リボヌクレオチド；(b)デオキシリボヌクレオチド；(c)核酸 予習・復習事項：テキスト第 9 章（pp. 77-79）
14回	ヌクレオチドと核酸 2 講義内容：(a)DNA の二重らせん構造と相補的塩基対；(b)RNA の構造 予習・復習事項：テキスト第 9 章（pp. 79-81）
15回	ヌクレオチドと核酸 3 講義内容：(a)ヌクレオチドと生体エネルギー 予習・復習事項：テキスト第 9 章（pp. 81-82）

令　和　2　年　度　教　育　計　画							
科目名	生化学Ⅱ	授業回数	15	単位数	2	担当教員	宮﨑正博
質問受付の方法（e-mail,オフィスアワー等）：随時、C 棟 101 研究室で受け付ける							

教育目標と学生の学習成果		教育目標：人間生活学部食物栄養学科では、高度な専門知識や技能を修得した栄養のスペシャリストである管理栄養士を育成することを目標とする。生化学は生命現象を化学的に明らかにする学問であり、栄養学と表裏一体となって発展してきた。従って、管理栄養士を育成するために、生化学教育は不可欠である。本講は、生化学Ⅰで学習した各種栄養素について、その代謝とはたらき、また、遺伝子の発現と調節について分子レベルの知識を涵養することを目的とする。 学生の学習成果： 専門的学習成果：①糖質の代謝、②脂質の代謝、③たんぱく質・アミノ酸の代謝、④生体エネルギーと代謝、⑤ヌクレオチド代謝、遺伝子発現および遺伝子操作、⑥受容体と細胞内情報伝達を理解し、「管理栄養士が果たすべき多様な専門領域に関する基本となる能力」、「管理栄養士に必要とされる知識、技能、態度及び考え方の総合的能力」を獲得する。 汎用的学習成果：「栄養学分野の基本的な知識を体系的に理解する能力」を獲得する。
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） ・授業は、テキスト、プリントなどを利用して進める。 ・各単元終了時に「小テスト」を行う。 ・毎回の授業終了時に、「シャトルカード」に授業内容についての質問、感想など自由記述形式での記入を求める。その記載内容に対する回答、コメント等を記載して次回の授業で返却する。 ・「小テスト」および「シャトルカード」により、学習進行状況を逐次確認し、改善しながら進める。
	予習・復習	予習事項：授業前に、授業回数別教育内容に記載されたテキストの範囲を音読する。 復習事項：授業後に、授業回数別教育内容に記載されたテキストの範囲を再音読し、またノートおよび配布プリントを整理して授業内容を理解する。
	テキスト	新スタンダード栄養・食物シリーズ２　生化学（大塚　譲、脊山洋右、藤原葉子、本田善一郎編集） 東京化学同人　2500 円（税別）2017 年
学習評価の方法		以下に示す学習成果について、その獲得度合を量的に評価する。①糖質の代謝、②脂質の代謝、③たんぱく質・アミノ酸の代謝、④生体エネルギーと代謝、⑤ヌクレオチド代謝、遺伝子発現および遺伝子操作、⑥受容体と細胞内情報伝達について理解している。 学習評価は、定期試験および小テストの結果を総合して行う。評価の割合は、定期試験 80 点、小テスト 20 点とする。
注意事項		【参考図書】 特に、指定しない。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	糖質の代謝 1 講義内容：(a)解糖系：(b)糖新生；(c)ペントースリン酸回路 予習・復習事項：テキスト第 11 章（pp. 91-104）
2 回	糖質の代謝 2 講義内容：(a)クエン酸回路：(b)電子伝達系と酸化的リン酸化 予習・復習事項：テキスト第 11 章（pp. 105-114）
3 回	糖質の代謝 3 講義内容：(a)グリコーゲンの合成と分解；(b)ガラクトースおよびフルクトースの代謝 予習・復習事項：テキスト第 11 章（pp. 115-120）
4 回	脂質の代謝 1 講義内容：(a)脂質の吸収と体内動態；(b)脂肪酸の貯蔵と動員；(c)脂肪酸の分解（β酸化）；(d)ケトン体の生成 予習・復習事項：テキスト第 11 章（pp. 121-127）
5 回	脂質の代謝 2 講義内容：(a)脂肪酸の合成；(b)多価不飽和脂肪酸の代謝と機能；(c)トリアシルグリセロールと複合脂質の合成 予習・復習事項：テキスト第 12 章（pp. 127-132）
6 回	脂質の代謝 3 講義内容：(a)コレステロールの合成；(b)ステロイドの合成 予習・復習事項：テキスト第 12 章（pp. 132-135）
7 回	アミノ酸・たんぱく質の代謝 1 講義内容：(a)食物および体たんぱく質の分解；(b)アミノ基転移反応 予習・復習事項：テキスト第 13 章（pp. 136-138）
8 回	アミノ酸・たんぱく質の代謝 2 講義内容：(a)酸化的脱アミノ反応；(b)尿素回路；(c)アミノ酸炭素骨格の代謝 予習・復習事項：テキスト第 13 章（pp. 138-142）

9 回	アミノ酸・たんぱく質の代謝 3 講義内容：(a)非必須アミノ酸の合成；(b)アミノ酸由来の生理活性ペプチドと特殊生成物 予習・復習事項：テキスト第 13 章（pp.142-145）
10 回	生体エネルギーと代謝 講義内容：(a)生体エネルギー；(b)エネルギー産生と利用；(c)食後の代謝；(d)空腹時の代謝 予習・復習事項：テキスト第 13 章（pp.85-90）
11 回	ヌクレオチド代謝、遺伝子発現および遺伝子操作 1 講義内容：(a)プリンヌクレオチドの合成と分解；(b)ピリミジンヌクレオチドの合成と分解；(c)プリン塩基の再利用経路 予習・復習事項：テキスト第 14 章（pp.146-150）
12 回	ヌクレオチド代謝、遺伝子発現および遺伝子操作 2 講義内容：(a)染色体と遺伝情報；(b)DNA の複製；(c)テロメア；(d)DNA の修復と突然変異 予習・復習事項：テキスト第 16 章（pp.163-167）、テキスト第 17 章（pp.168-173）
13 回	ヌクレオチド代謝、遺伝子発現および遺伝子操作 3 講義内容：(a)転写；(b)翻訳；(c)たんぱく質の分泌と品質管理（ユビキチン・プロテアソーム系） 予習・復習事項：テキスト第 18 章（pp.174-181）
14 回	ヌクレオチド代謝、遺伝子発現および遺伝子操作 4 講義内容：(a)遺伝子発現の調節；(b)遺伝子組換え；(c)PCR 法；(d)RT-PCR 予習・復習事項：テキスト第 19 章（pp.182-186）、第 20 章（pp.187-197）
15 回	受容体と細胞内情報伝達 講義内容：(a)G たんぱく質共役型受容体と細胞内情報伝達；(b)核内受容体と遺伝子発現調節；(c)脂溶性ビタミン A および D による遺伝子発現調節 予習・復習事項：テキスト第 21 章（pp.201-212）

令　和　2　年　度　教　育　計　画							
科目名	生化学実験	授業回数	15	単位数	1	担当教員	宮﨑正博
質問受付の方法（e-mail,オフィスアワー等）：随時、C 棟 101 研究室で受け付ける							

教育目標と学生の学習成果		教育目標：人間生活学部食物栄養学科では、高度な専門知識や技能を修得した栄養のスペシャリストである管理栄養士を育成することを目標とする。生化学は生命現象を化学的に明らかにする学問であり、栄養学と表裏一体となって発展してきた。従って、管理栄養士を育成するために、生化学教育は不可欠である。この授業は生化学の講義を通して得た知識を実験で確かめるとともに、本授業が終了した時点で簡単な定量実験を自分で行うことができるようになることを目標とする。 学生の学習成果： 専門的学習成果：生体材料や食品中のたんぱく質、脂質、糖質、核酸、ビタミンなどを定量し、それらをまとめて論理的なレポート（目的、方法、結果、考察、結論を記載したもの）を作成するなど「管理栄養士が果たすべき多様な専門領域に関する基本となる能力」、「管理栄養士に必要とされる知識、技能、態度及び考え方の総合的能力」を獲得する。 汎用的学習成果:「栄養学分野の基本的な知識を体系的に理解する能力」、「チームワーク能力」、「コミュニケーション能力」、「論理的思考力」、「問題解決力」を獲得する。
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） ・毎回、実験前に、プリントを配布して実験の進め方と注意点について説明する。 ・少人数のグループに別れて実験を行う。 ・各グループの全員が正確に実験操作できるように指導する。 ・授業終了時に、「シャトルカード」に授業内容についての質問、感想など自由記述形式での記入を求める。その記載内容に対する回答、コメント等を記載して次回の授業で返却する。「シャトルカード」により、学習進行状況を逐次確認し、改善しながら進める。 ・実験終了後 1 週間以内に、必要事項を記入したプリント、目的・方法・結果・考察・結論を記載したレポートを提出する。
	予習・復習	
	テキスト	生化学実験（田代　操編著）化学同人　2000 円（税別）2018 年
学習評価の方法		学習評価は、授業への取り組み度およびレポートにより総合的に行う。評価の割合は、授業への取り組み度 40 点およびレポート 60 点とする。
注意事項		【参考図書】 特に、指定しない。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	生化学実験のガイダンス 1）実験の心得 2）実験の概要 について学習する。
2 回	水素イオン濃度と pH 1）強酸（塩酸）、強塩基（水酸化ナトリウム）の水溶液およびリン酸緩衝液の調製 2）強酸水溶液、強塩基水溶液の pH 測定および計算値との比較 3）リン酸緩衝液の pH 測定および緩衝液のはたらき について学習する。
3 回	容量分析 1）シュウ酸標準液および水酸化ナトリウム水溶液の調製 2）水酸化ナトリウム水溶液の濃度標定 3）中和滴定による食酢中の酢酸のモル濃度の測定および質量％濃度の計算 について学習する。
4 回	Lowry 法による食品たんぱく質の定量 1）測定試料（卵白、ゼラチン、豆乳、牛乳、脱脂粉乳）の調製 2）検量線の作成および食品たんぱく質の定量 について学習する。
5 回	ゲルろ過クロマトグラフィー 1）ゲルろ過クロマトグラフィーによるアルブミンと食用色素の分離 2）Lowry 法による分離・回収たんぱく質の定量と回収率の計算 3）分離・回収した食用色素の吸光度測定 について学習する。
6 回	2 回～5 回のまとめ
7 回	絶食時の体内代謝（1)肝グルコース-6-ホスファターゼ活性の測定 1）24 時間絶食ラットおよび対照ラットの肝臓の粗酵素液の調製 2）同上ラットの肝粗酵素液中のグルコース-6-ホスファターゼ活性の測定とその比較 について学習する。
8 回	絶食時の体内代謝（2)肝グリコーゲンの抽出と定量 1）24 時間絶食ラットおよび対照ラットの肝グリコーゲンの抽出 2）抽出した肝グリコーゲンの定量とその比較 について学習する。
9 回	絶食時の体内代謝（3)血糖値の測定 1）24 時間絶食ラットおよび対照ラットの血清の前処理 2）ソモギー・ネルソン法による同上ラットの血糖値の測定とその比較 について学習する。

10 回	絶食時の体内代謝（4)血中遊離脂肪酸の測定 1）24 時間絶食ラットおよび対照ラットの精巣周囲脂肪組織の分離、重量測定とその比較 2）同上ラットの血中遊離脂肪酸の測定とその比較 について学習する。
11 回	7 回～10 回のまとめ
12 回	核酸の分離・抽出と定量（１） 1）核酸の分離・抽出用の試薬の調製 2）ラット肝臓組織の核酸（DNA および RNA）の分離・抽出 について学習する。
13 回	核酸の分離・抽出と定量（２） 1）DNA および RNA 定量用の試薬の調製 2）ジフェニルアミン法による DNA 比色定量およびオルシノール法による RNA 比色定量 について学習する。
14 回	食品中のビタミン C（アスコルビン酸）の定量 1）アスコルビン酸の比色定量用試薬の調製 2）測定試料（レモン、みかん、リンゴ汁など）の作成 3）アスコルビン酸の検量線の作成および試料中のアスコルビン酸量の比色定量 について学習する。
15 回	12 回～14 回のまとめ

令　和　2　年　度　教　育　計　画							
科目名	病理学	授業回数	15	単位数	2	担当教員	熊谷 智代
質問受付の方法（e-mail,オフィスアワー等）：メールアドレス　tkumagai@owc.ac.jp（随時） 講義後 20 分間:火曜日 14 時 30 分～14 時 50 分(講義室または研究室)							

教育目標と学生の学習成果		教育目標： 健康の保持増進のため，あるいは傷病者や要介護者に対する，個人，集団，地域を対象とした栄養管理や医療チーム Nutritional support team(NST)の一員としての役割を果たす上で基礎となる疾病の成り立ちについて学習し，臨床栄養学，栄養管理，栄養指導など管理栄養士にとって大切な実地臨床を学ぶための基礎知識を修得することを目標とする。疾病の成り立ちとして学習する具体的内容は，下記の学習成果の項目に記載する。 学生の学習成果： 専門的学習成果： ・加齢や疾患に伴う変化，疾患診断や治療の概要について理解する。 ・栄養障害と代謝疾患，消化器系，循環器系，腎・尿路系，内分泌系，神経系，呼吸器系，生殖器系，血液・造血器・リンパ系，免疫・アレルギー等の主要疾患の病因，病態，診断，症状，合併症，治療等を理解する。 汎用的学習成果：職業上必要な知識を体系的に理解し、説明する能力を修得する。
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） ・教科書やプリントなどを活用し，栄養管理・予防の観点から疾患を理解できるよう講義を進める。 ・健康・医療に関する話題も取り入れ，疾患の理解を深めるよう配慮する。 ・講義終了時にシャトルカードを配布し、授業の感想等の記入を求める。 次回講義時に必要に応じてコメントを記載して返却する。
	予習・復習	予習事項：該当臓器について解剖生理学で学習した内容を確認した後，病理学のテキストを読み，不明な点があれば自分で調べる。 解決できなかった事項については，授業中に質問する。 復習事項：授業中に指示した重要項目を確認し，理解すること。
	テキスト	加藤昌彦他　サクセス管理栄養士・栄養士養成講座　　解剖生理学・病理学 第一出版　定価 2,900 円
学習評価の方法		3 項目の学習成果について，その修得度合を量的に評価し，おおよその配点を ①：②：③＝20：70：10 とする。 ①加齢や疾患に伴う変化，疾患診断や治療の概要について理解する。 ②各器官の主要疾患の病因，病態，診断，症状，合併症，治療等を理解する。 ③社会人としてあるいは職業上必要な知識を体系的に理解し説明する能力を修得する。 学習評価は，中間試験(40%程度)と期末試験(60%程度)の結果を総合して行なう。 なお，授業受講態度および学習意欲についても学習評価に加える場合もある(5%以内)。
注意事項		

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	オリエンテーション 1. 加齢・疾患に伴う変化：炎症と創傷治癒，壊死，アポトーシス，化生，異形成
2 回	1. 加齢・疾患に伴う変化： 腫瘍，癌遺伝子，癌抑制遺伝子，癌の増殖，浸潤，転移 個体の死
3 回	2. 疾患診断の概要：問診，診察，主な症候，その他の症候・病態，臨床検査 3. 疾患治療の概要：再生医療，クリティカルケア，末期患者の治療
4 回	4. 栄養障害と代謝疾患：栄養障害，肥満，メタボリックシンドローム
5 回	4. 栄養障害と代謝疾患：糖尿病，脂質代謝異常，高尿酸血症，痛風
6 回	5. 消化器系：消化管ホルモン，口内炎，胃食道逆流症，胃十二指腸潰瘍 慢性炎症性腸疾患，過敏性腸症候群
7 回	5. 消化器系：肝炎，肝硬変，脂肪肝・非アルコール性脂肪性肝炎 胆嚢炎，胆石症，膵炎，悪性腫瘍
8 回	6. 循環器系：血圧調節の機序，動脈硬化，高血圧
9 回	6. 循環器系：虚血性心疾患（狭心症・心筋梗塞）不整脈，心不全

10回	7. 腎・尿路系：急性・慢性糸球体腎炎，ネフローゼ症候群，急性・慢性腎不全
11回	7. 腎・尿路系：慢性腎臓病（CKD），血液透析・腹膜透析，尿路結石症
12回	8. 内分泌系：カルシウム代謝調節ホルモン，甲状腺機能亢進症・低下症 10. 呼吸器系：慢性閉塞性肺疾患，肺炎，気管支喘息，結核
13回	11. 運動器（筋・骨格）系：骨粗鬆症，骨軟化症，くる病，フレイルティ，サルコペニア ロコモティブシンドローム 12. 生殖器系：妊娠高血圧症候群，妊娠糖尿病
14回	13. 血液・造血器，リンパ系：貧血（鉄欠乏，葉酸欠乏，ＶＢ12 欠乏）
15回	講義内容の復習・まとめ

令　和　２　年　度　教　育　計　画							
科目名	微生物学	授業回数	15	単位数	2	担当教員	狩山玲子
質問受付の方法（e-mail、オフィスアワー等）：rkariyama@owc.ac.jp；A303 在室時は何時でも可							

教育目標と学生の学習成果		教育目標：微生物の形態と分類及びこれら微生物の増殖条件を理解し、ヒトに病原性を有する微生物の食品等における増殖制御法の理解を深める。また、ヒトに役立つ微生物とその役割についても理解する。一方、病原微生物による感染症の成立には免疫機能の強弱が大きく関わってくる。そこで、生活習慣病の有病者や易感染性宿主における免疫機能の低下と感染症発症リスクの関係が十分理解できることを目指す。 学生の学習成果： 専門的学習成果：感染症の原因となる病原体を理解し、感染症の成り立ちを理解する。また、感染防御に関与する免疫系の理解と免疫系に関する疾患を理解する。 汎用的学習成果：“様々な感染症”に関する報道・情報を適切に判断して対応できること。
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） 教科書および配布資料を教材とする。また、各授業内容に関連する報道記事などを取り上げ、事例から学ぶ。毎回、予習事項と復習事項を記載した「宿題」を配布する。「授業に取り組む姿勢」については、第１回の授業において説明する。「宿題」、「宿題テスト」、「シャトルカード」などによって学習進行状況を確認し、次回以降の授業に反映させる。重要項目については、小テストなどを適宜実施して理解度を確認する。授業中の質問や発言は積極的に行うように求める。
	予習・復習	予習事項：毎回配布する「宿題」に予習事項を記載する。 次回の授業に関連する部分の教科書を通読すること。 復習事項：毎回配布する「宿題」に復習事項を記載する。 次回の授業開始時に「宿題」の提出を求め、「宿題テスト」を行う。
	テキスト	林 英生・松井徳光 編（2010）「N ブックス 新版 微生物学」 建帛社 定価 2,600 円（税別）
学習評価の方法		定期試験（60%）、小テスト（10%）、「宿題」＆「宿題テスト」（20%）の成績に加えて、授業に取り組む姿勢（10%）を評価し、総合的に評価する。質問や日々の学習への取り組みを高く評価するので、「宿題」に記載している予習事項・復習事項などに積極的に取り組むことが重要である。私語などの授業受講態度についても評価対象とする。
注意事項		【参考図書】 授業中に適宜紹介する。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1回	授業の進め方についてシラバスを用いた説明 微生物学の歴史と生物界における微生物の位置づけ （ヒトと微生物の関わりについて理解する）
2回	微生物学の基礎（1） 微生物の種類と分類、微生物の増殖と培養 （微生物の種類と増殖機構を理解する）
3回	微生物学の基礎（2） 微生物の代謝、微生物の遺伝学 （微生物の代謝と遺伝学を理解する）
4回	食品微生物学 微生物利用食品、微生物の産業利用 （酵母、カビ、細菌を利用する発酵食品、ヒトに役立つ微生物とその役割について理解する）
5回	環境微生物と環境感染 （自然界における微生物の役割と環境感染、院内感染、日和見感染について理解する）
6回	微生物の増殖制御と滅菌・消毒の原理 （微生物の増殖制御法を理解する）
7回	微生物と健康 常在細菌叢、腸内細菌、プロバイオティクス・プレバイオティクス （ヒトの健康に関与する微生物を理解する）

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
8 回	病原微生物学 感染と感染症の仕組み、病原微生物と病原因子、感染の成立 （感染症の成り立ちを理解する）
9 回	免疫学（１） 自己と非自己の認識、① 自然免疫と獲得免疫 （免疫の基本原理を理解する）
10 回	免疫学（２） ② 体液性免疫と細胞性免疫 （感染防御における免疫の関わりを理解する）
11 回	免疫と病気 アレルギーの分類と発症機構、食物アレルギー、自己免疫疾患 （アレルギー疾患、自己免疫疾患などを理解する）
12 回	ヒト感染症の種類（１） 感染症法による感染症の分類 （新興感染症、再興感染症、性行為感染症、院内感染症などを理解する。）
13 回	ヒト感染症の種類（２） 器官別感染症（全身性、呼吸器系、消化器系、泌尿器系など） （感染症と病原体の関係を理解する）
14 回	感染症の診断・治療・対策・予防 （感染症の予防と治療について理解する）
15 回	講義全体のまとめ

令　和　２　年　　度　　教　　育　　計　　画							
科目名	食品学総論Ⅰ	授業回数	15	単位数	2	担当教員	次田隆志
質問受付の方法（e-mail,オフィスアワー等）：授業終了後の休み時間に、教室にて質問受付							

教育目標と学生の学習成果		教育目標： 人における健康の維持増進、疾病の予防をはかるために、高度な専門知識・技能に基づいて食生活の改善や栄養指導に携わることのできる管理栄養士の育成を最終の教育目標とする。この目標達成のために、食品学総論Ⅰにおいては、食品成分の分類とはたらき、食品中の主要な栄養成分の化学構造と機能・特性について学習することにより、食品に関する正しい知識を有し、食品成分の健康に対する働きを理解できる管理栄養士育成のために必要な基本的知識を習得する。 学生の学習成果： 専門的学習成果：食品中の三大栄養成分（炭水化物、脂質、たんぱく質）の化学構造と機能･特性を理解できる。 汎用的学習成果：インターネット等を活用して最新の知識・情報を収集するとともに、与えられた課題に対し、授業で学んだ知識や各自が収集した知識・情報をもとにして、その内容を理解し、レポートの形でまとめることができる。
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） ･教科書に基づいて、講義形式で授業を進める。 ･授業開始時にシャトルカードを配布し、授業終了時に授業内容についての質問、感想等を記入させ、回収する。これにコメントを記載して次回授業時に返却する。 ･まとまった単元終了時に課題（宿題）を与え、それに対する解答をレポートの形で提出させる。その内容を評価したうえで、次回授業時に返却する。 ･シャトルカードと課題により、学習進行状況を逐次確認･改善しながら授業を進める。
	予習・復習	予習事項：講義の最後に次回の講義範囲を学生に周知し、教科書の対応箇所を前もって目を通した上で講義に臨むよう指導する。 復習事項：その日の講義の中で重要であると説明したキーワードについて、再度、教科書などで確認するよう指導する。 ・予習・復習を効果的に行っているかどうかについて、シャトルカードと課題提出により確認する。
	テキスト	種村安子ら、イラスト食品学総論(第７版)、東京教学社
学習評価の方法		上記の専門的学習成果と汎用的学習成果がどれだけ達成できているかについて、定期試験、提出課題、および 15 回の授業終了後に提出させるノートの内容を総合的に判断して学習評価を行う。その割合は定期試験 80 点満点、課題評価 10 点満点、ノート評価 10 点満点とする。
注意事項		インターネット等を有効活用して、食品学に関わる最新の知識・情報を積極的に得ること。 また、15 回の授業のうち、３分の２以上出席しなければ定期試験の受験資格がなくなるので、遅刻や欠席がないように受講すること。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1回	授業の進め方と食品学総論Ｉの概要説明
2回	食品成分とその働き
3回	水分　水の分類と水分活性について
4回	炭水化物（その１）　炭水化物の分類・構造について
5回	炭水化物（その２）　単糖類の分類・構造・特性について
6回	炭水化物（その３）　単糖類の環状構造について
7回	炭水化物（その４）　少糖類の分類・構造と特性について
8回	炭水化物（その５）　多糖類の分類・構造と特性について
9回	脂質（その１）　脂質の分類・構造と単純脂質の分類・構造について
10回	脂質（その２）　複合脂質、誘導脂質の分類・構造・特性について
11回	脂質（その３）　脂肪酸の分類・構造・特性について
12回	脂質（その４）　油脂の分類と脂肪酸組成について
13回	たんぱく質（その１）　たんぱく質の分類とアミノ酸の種類・構造について
14回	たんぱく質（その２）　たんぱく質の構造と単純たんぱく質の種類・特性について
15回	たんぱく質（その３）　複合たんぱく質、誘導たんぱく質の種類・特性について

令　和　２　年　　度　　教　　育　　計　　画							
科目名	食品学総論Ⅱ	授業回数	15	単位数	2	担当教員	次田隆志
質問受付の方法（e-mail,オフィスアワー等）：授業終了後の休み時間に、教室にて質問受付							

教育目標と学生の学習成果		教育目標： 人における健康の維持増進、疾病の予防をはかるために、高度な専門知識・技能に基づいて食生活の改善や栄養指導に携わることのできる管理栄養士の育成を最終の教育目標とする。この目標達成のために、食品学総論Ⅱにおいては、食品学総論Ⅰで学んだ食品成分に関する基礎的知識に基づき、食品中の炭水化物、脂質、たんぱく質の貯蔵・調理・加工に伴う食品成分の化学的・物理的変化および、食品の色・香り・味成分について学習することにより、食品に関する正しい知識を有し、食品成分の健康に対する働きを理解できる管理栄養士育成のために必要な基本的知識を習得する。 学生の学習成果： 専門的学習成果：食品成分の機能・特性および食品の貯蔵・調理・加工に伴う成分変化を理解できる。 汎用的学習成果：インターネット等を活用して最新の知識・情報を収集するとともに、与えられた課題に対し、授業で学んだ知識や各自が収集した知識・情報をもとにして、その内容を理解し、レポートの形でまとめることができる。
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） ・教科書に基づいて、講義形式で授業を進める。 ・授業開始時にシャトルカードを配布し、授業終了時に授業内容についての質問、感想等を記入させ、回収する。これにコメントを記載して次回授業時に返却する。 ・まとまった単元終了時に課題（宿題）を与え、それに対する解答をレポートの形で提出させる。その内容を評価したうえで、次回授業時に返却する。 ・シャトルカードと課題により、学習進行状況を逐次確認･改善しながら授業を進め
	予習・復習	予習事項：講義の最後に次回の講義範囲を学生に周知し、教科書の対応箇所を前もって目を通した上で講義に臨むよう指導する。 復習事項：その日の講義の中で重要であると説明したキーワードについて、再度、教科書などで確認するよう指導する。 ・予習・復習を効果的に行っているかどうかについて、シャトルカードと課題提出により確認する。
	テキスト	種村安子ら、イラスト食品学総論(第７版)、東京教学社
学習評価の方法		上記の専門的学習成果および汎用的学習成果がどれだけ達成できているかについて、定期試験、提出課題、および 15 回の授業終了後に提出させるノートの内容を総合的に判断して学習評価を行う。その割合は定期試験 80 点満点、課題評価 10 点満点、ノート評価 10 点満点とする。
注意事項		インターネット等を有効に活用して、食品学に関わる最新の知識・情報を積極的に得ること。また、15 回の授業のうち、３分の２以上出席しなければ定期試験の受験資格がなくなるので、遅刻や欠席がないように受講すること。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1回	授業の進め方と食品学総論Ⅱの概要説明
2回	炭水化物の特性（その１）炭水化物の定義・分類、単糖類の種類と構造
3回	炭水化物の特性（その２）単糖類の環状構造、少糖類の種類と構造
4回	炭水化物の特性（その３）多糖糖の種類と構造、誘導糖の種類と構造
5回	炭水化物の変化　でんぷんの糊化と老化、カラメル化
6回	脂質の特性（その１）脂質の分類と構造、中性脂肪の分類と構造
7回	脂質の特性（その２）脂肪酸の分類と構造
8回	脂質の変化　油脂の酸敗と自動酸化
9回	たんぱく質の特性（その１）たんぱく質の構造、アミノ酸の分類と構造
10回	たんぱく質の特性（その２）たんぱく質の分類と性質
11回	たんぱく質の変化　たんぱく質の変性とその他の変化
12回	食品の色素成分（その１）食品の色素成分の分類と性質
13回	食品の色素成分（その２）酵素的褐変反応と非酵素的褐変反応
14回	食品の香気成分　食品の香気成分の分類と性質
15回	食品の呈味成分　食品の呈味成分の種類と味の相互作用、種々の呈味成分の性質

<table>
<tr><td colspan="8">令　和　２　年　　度　　教　　育　　計　　画</td></tr>
<tr><td>科目名</td><td>食品学総論実験</td><td>授業回数</td><td>15</td><td>単位数</td><td>1</td><td>担当教員</td><td>次田隆志</td></tr>
<tr><td colspan="8">質問受付の方法（e-mail,オフィスアワー等）：授業終了後の休み時間に、教室にて質問受付</td></tr>
<tr><td>教育目標と学生の学習成果</td><td colspan="7">教育目標：
人における健康の維持増進、疾病の予防をはかるために、高度な専門知識・技能に基づいて、食生活の改善や栄養指導に携わることのできる管理栄養士の育成を最終の教育目標とする。この目標達成のために、食品学総論実験においては、化学実験に関わる基礎的知識を理解し、実験の基本操作を習得することにより、管理栄養士に必要とされる食品成分に関する基本的知識と技術を習得する。
学生の学習成果：
専門的学習成果：化学実験に関わる基礎的知識各種食品に関する実験技術を習得するとともに、食品に含まれる各種成分とその変化について、実験を通じて理解することができる。
汎用的学習成果：チームの一員として、他のメンバーと協力し合って仕事を遂行することができる。また、実験で行った内容を理解するとともに、インターネット等を活用して実験に関わる知識・情報を収集し、これらの内容をレポートの形でまとめることができる。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">教育方法</td><td>授業の進め方</td><td colspan="6">（講義・演習・実験・実習・実技）
・実験に先立ち、実験を実施するために必要な基礎知識、実験の原理、方法、まとめ方などについて実験講義を行う。さらに、各回の実験の前には、その回の実験の進め方と注意点について説明の後、３～４人程度のグループに別れて実験し、データを記録させる。また、まとまった実験の終了後、各実験の方法、結果、考察等を記載したレポートを各人にまとめさせ、ほぼ２週間後を締め切りとして提出させる。
・授業開始時にシャトルカードを配布し、授業終了時に授業内容についての質問、感想等を記入させ、回収する。これにコメントを記載して次回授業時に返却する。
・シャトルカードと提出レポートにより、学習進行状況を逐次確認し、改善しながら授業を進める。</td></tr>
<tr><td>予習・復習</td><td colspan="6">予習事項：実験で使用する食品の種類や成分について、配布プリントや食品学総論の教科書の対応箇所を前もって目を通した上で講義に臨むよう指導する。
復習事項：実験終了後には、その実験内容について、参考書やインターネット等で詳細な情報を収集し、レポートに反映させるよう指導する。</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="6">実験の目的、方法などを記載したプリントを配布する。</td></tr>
<tr><td>学習評価の方法</td><td colspan="7">実験内容についてのレポートの内容を評価し、以下の基準で採点する。ただし、提出期限を過ぎたレポートについては減点の対象とする。　　A:90点、B:80点、C:70点、D:60点
試験は実施せず、何回か提出されたレポートの平均点(90点満点)を算出し、これに15回の授業終了後に提出するノートの内容、実験中の態度やグループ内での協力状況等を勘案した平常点(10点満点)を加算し評価点とする。</td></tr>
<tr><td>注意事項</td><td colspan="7">実験は危険を伴うものであり、常に集中して事故を起こさないように注意すること。また、15 回の授業のうち、３分の２以上出席しなければ学習評価を得ることができなくなるので、遅刻や欠席がないように受講すること。</td></tr>
</table>

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	食品学総論実験の概要説明 　実験における注意事項 実験に必要な基礎知識① 　物質の分類、有機化合物と無機化合物
2 回	実験に必要な基礎知識② 　有機化合物の構造と命名法（その１）　炭化水素とその異性体（アルカン）
3 回	実験に必要な基礎知識③ 　有機化合物の構造と命名法（その２）　炭化水素とその異性体（アルケン、環状炭化水素）
4 回	実験に必要な基礎知識④ 　有機化合物の構造と命名法（その３）　種々の官能基をもつ化合物
5 回	実験に必要な基礎知識⑤ 　有機化合物の構造と命名法（その４）　食品成分に関与する種々の結合
6 回	実験に必要な基礎知識⑥ 　百分率濃度
7 回	実験に必要な基礎知識⑦ 　モル数とモル濃度
8 回	実験に必要な基礎技術① 　メスフラスコ、ホールピペット、電子天秤の使用方法、レポートの書き方
9 回	実験に必要な基礎技術② 　一定モル濃度の塩化ナトリウム水溶液調製と密度測定
10 回	中和滴定実験① 　中和滴定の原理
11 回	中和滴定実験② 　中和滴定実験の実験講義、0.1N 水酸化ナトリウム水溶液の調製
12 回	中和滴定実験③ 　中和滴定による0.1N水酸化ナトリウム水溶液の力価測定
13 回	各種でんぷんの分離と顕鏡実験① 　顕微鏡の使い方、写真撮影の練習
14 回	各種でんぷんの分離と顕鏡実験② 　各種でんぷんの顕微鏡観察と写真撮影
15 回	まとめ

令　和　２年　度　教　育　計　画							
科目名	食品学各論	授業回数	15	単位数	2	担当教員	津村哲司

質問受付の方法（e-mail,オフィスアワー等）：
研究室（時間割決定後通知）・シャトルカードによる受付 e-mail：tumtac1020@ybb.ne.jp

教育目標と学生の学習成果		教育目標： 人における健康の維持増進、疾病の予防をはかるために、高度な専門知識・技能に基づいて、食生活の改善や栄養指導に携わることのできる管理栄養士育成を最終の教育目標とする。食品学各論においては、食品をその材料起源に基づいて分類し、それぞれの食品について、分類・種類、栄養成分の各面から解説することによって、食品に関する体系的知識を習得することにより、管理栄養士に必要とされる基本的知識を習得することを目標とする。 学生の学習成果： 専門的学習成果：植物性食品、動物性食品および調味料について食材ごとの種類・分類、成分・化学変化について、理解できる。 汎用的学習効果：食品および加工食品の成分を理解することはもちろんのこと、本学習が栄養指導の現場で有効活用出来るように食品と五大栄養素を結びつけて理解することができる。常に情報収集を心がけ、マスコミ等で話題になっている食品については本講義で学習した知識を基に的確に解説できる能力を身につける。
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） 日常利用している植物性食品（米、小麦、豆類、イモ類、野菜・果実）および動物性食品（食肉及びその加工品、魚介類及びその加工品、牛乳及び乳製品、鶏卵及びその加工品）および調味料に関する最新情報を盛り込んで系統的に講義する。 毎講義の最後に前回の講義内容から汎用的内容について 10 分程度の小テストを行い、理解度をチェックする。 さらに、9 回目の講義の最後に到達度判定試験を行い、それまでの学生の理解度をチェックする。
	予習・復習	予習については講義の最後に次回の講義範囲を学生に周知するので、その中でキーワードをマークして講義に望むようにすること。また、そのキーワードについて参考書等で調べておくこと。 復習については、学生自ら小テストの仮想問題を作成し、解答しておくこと。なお、実際の解答はシャトルカードを利用する。
	テキスト	高野克己 編、食べものと健康Ⅱ 新訂 食品学各論(樹村房)
学習評価の方法		定期試験の得点（80 点満点）＋小テストの得点（20 点満点）の合計点を算出し、これから、社会人として必要な倫理観、自己管理力を有しているかどうかを評価するという観点から、携帯電話など講義の妨げとなる行為と判断した場合や受講態度について評価の対象とする。小テスト、到達度判定試験、受講態度を汎用的学習成果の評価とする。
注意事項		シャトルカードには必ず質問を記入すること。質問の内容は講義に関する内容に限る。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	授業の進め方と食品学各論の概要説明
2 回	米：　米の種類、米の栄養成分について 米に含まれるでんぷんの種類と性質について理解すること
3 回	小麦：小麦粉の種類、小麦の栄養成分について 小麦粉に含まれるたんぱく質の種類と利用分野について理解すること
4 回	イモ類：イモ類の種類、栄養成分について イモ類以外も含めでんぷんの構造・性質・特徴について理解すること
5 回	豆類：豆類の種類、豆類の栄養成分について 大豆に含まれるたんぱく質の性質と微量成分について理解すること
6 回	果実類：果実類の栄養成分について 個々の果実類の特徴的な成分について理解すること
7 回	到達度判定試験 野菜類（その１）：野菜類の分類、野菜類の栄養成分について ポリフェノール類・硫黄化合物などについて理解すること
8 回	野菜類（その２）：野菜類の栄養成分について 個々の野菜類の特徴的な成分について理解すること
9 回	魚介類：魚介類の栄養成分について 魚介類の種類とそれらに含まれる栄養成分の有効性について理解すること
10 回	到達度判定試験解説 食肉（その１）：食肉の分類について 食肉の種類と筋肉組織の構造および色素変化について理解すること
11 回	食肉（その２）：食肉の熟成および代表的な食肉について 食肉の熟成に伴う成分変化と牛・豚・鶏肉について理解すること
12 回	鶏卵：鶏卵の構造・栄養成分について 卵白・卵黄中の成分の特性について理解すること
13 回	牛乳及び乳製品：牛乳の生産・栄養成分とについて 牛乳及び乳製品の分類と、牛乳中のたんぱく質の性質について理解すること
14 回	調味料：調味料の分類と栄養成分について 調味料の種類とそれらの利用例について理解すること
15 回	まとめ 試験対策を含め、講義全体を総括する

令　和　２　年　度　教　育　計　画							
科目名	食品学各論実験Ⅰ	授業回数	15	単位数	1	担当教員	津村哲司

質問受付の方法（e-mail,オフィスアワー等）：
研究室（時間割決定後通知）・シャトルカードによる受付 e-mail：tumtac1020@ybb.ne.jp

教育目標と学生の学習成果		教育目標： 人における健康の維持増進、疾病の予防を図るために、高度な専門知識・技能に基づいて、食生活の改善や栄養指導に携わることのできる管理栄養士育成を最終の教育目標とする。食品学各論実験Ⅰにおいては、食品学総論Ⅰ食品学各論等で学んだ基礎的知識と技術に基づき、食品中の糖質、脂質、たんぱく質、色素、呈味・香気成分の定量・分離や官能検査に関する実験により、管理栄養士に必要とされる基本的知識を習得することを目標とする。 学生の学習成果： 専門的学習効果：各種食品に関する実験技術を習得するともに、管理栄養士が常に留意しておかなければならない点として、食品に含まれる各種成分と加工・調理による成分変化が疾病に及ぼす影響について、実験を通じて理解することができる。 汎用的学習効果：実験から得られる成分量や成分変化が市場に並ぶ数多くの食品の製造・保蔵・品質変化にどのように影響しているのか、また、どの様な製造原理で作られて
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） 糖質、脂質、たんぱく質、色・味・香りなど、まとまった実験の前に、実験の原理、方法、まとめ方などを記載したプリントを配布し、全体的な実験講義を行う。さらに、各回の実験の前には、実験の進め方と注意点について説明後、３～４人程度のグループに別れて実験し、データを記録させる。この際、実験に用いる試薬等は、とくに危険なものを除き原則として学生自身に調製させ、また実験装置についても、できるだけ学生に準備させる。項目毎２～３回の実験の終了後、各実験の方法、結果、考察等を記載したレポートを各人にまとめさせ、ほぼ１週間後を締め切りとして提出させる。レポートの考察には実験で理解した内容が人間生活に生かされている例を記載した内容を汎用的考察として通常の考察と分けて記載する。
	予習・復習	予習については、実験で使用する食品の種類や成分を食品学各論のテキストや食品成分表で調べておくこと。 復習については、参考書やインターネットで詳細な情報を収集し、レポートに反映させること。
	テキスト	毎回、実験の目的、方法などを記載したプリントを配布する。 参考資料；わかりやすい食品の基礎と機能性分析法 （宇田靖、大石祐一編著；アイケイコーポレーション）
学習評価の方法		実験内容についてのレポートの内容を評価し、以下の基準で採点する。 A:90点、B:80点、C:70点、D:60点 ただし、提出期限を過ぎたレポートについては減点の対象とする。試験は実施せず、何回か提出されたレポートの点数の平均値(90点満点)を算出し、これに汎用例の評価(10点満点)を加算して学習成果を評価する。 社会人として必要な倫理観、自己管理力を有しているかどうかを評価するという観点から、携帯電話等実験を妨げる行為と判断した場合等汎用例の評価の対象とする。
注意事項		実験は危険を伴うものであり、常に集中して事故を起こさないように注意すること。 実験に供する試料を持参する場合があるので注意すること。シャトルカードには必ず質問を記入すること。質問・記載が無い場合は評価の対象とする。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1回	授業の進め方と食品学各論実験Ｉの概要説明 およびレポートの書き方
2回	食品の味と官能検査に関する実験（その１）味覚修飾植物を用いた甘味消失実験と甘味誘導実験
3回	食品の味と官能検査に関する実験（その２）　食品の味と官能検査に関する実験講義 食品中に含まれる呈味成分の種類・性質と、官能検査の原理について理解すること
4回	食品の味と官能検査に関する実験（その３）極限法を用いた糖質、有機酸の閾値測定
5回	レポート指導 第１回目のレポート提出に際し、提出されたレポートを修正、添削する
6回	糖質に関する実験（その１）　糖質に関する実験講義 糖質の種類と性質について理解すること
7回	糖質に関する実験（その２）　試薬調製と力価測定 清涼飲料中の還元糖の定量実験に関わる試薬の調製法と、滴定法について理解すること
8回	糖質に関する実験（その３）　清涼飲料中の還元糖の定量実験 清涼飲料水に含まれる還元糖の定量法を修得し、その性質について理解すること
9回	油脂食品に関する実験（その１）　実験講義と試薬調製 乳化の原理と性質について理解すること
10回	油脂食品に関する実験（その２）　色素法による乳化の型の判定試験 種々の食品における乳化の型の違いについて理解すること
11回	たんぱく質に関する実験（その１）　たんぱく質に関する実験講義と試薬調製 たんぱく質の種類と性質について理解すること
12回	たんぱく質に関する実験（その２）　小麦粉中のたんぱく質の分離(前半) 小麦粉に含まれるたんぱく質の種類による違いについて理解すること
13回	食品の色と香りに関する実験（その１）　食品の色と香りに関する実験の試薬調製と匂いに関する実験 食品等に含まれる香気成分の識別
14回	食品の色と香りに関する実験（その２） 植物性色素を抽出し、酸とアルカリによる色の変化を理解する。また、糖とアミノ酸の反応による加熱香気の性質について理解すること食品中に含まれる香気成分の種類・性質と食品成分の反応によって生成する色素と香気成分について理解すること
15回	食品の色と香りに関する実験講義 まとめ

令　和　２年　度　教　育　計　画							
科目名	食品学各論実験Ⅱ	授業回数	15	単位数	1	担当教員	津村哲司

質問受付の方法（e-mail,オフィスアワー等）：
研究室（時間割決定後通知）・シャトルカードによる受付 e-mail：tumtac1020@ybb.ne.jp

教育目標と学生の学習成果

教育目標：
人における健康の維持増進、疾病の予防をはかるために、高度な専門知識・技能に基づいて、食生活の改善や栄養指導に携わることのできる管理栄養士育成を最終の教育目標とする。食品学各論実験Ⅱにおいては、食品学総論実験、食品学各論実験Ⅰで学んだ知識と技術に基づき、植物性食品、動物性食品、油脂食品、調味料等の特性を理解し、これら食品類に含まれる各種成分の加工・貯蔵・調理に伴う成分変化および各種食品の物性に関する実験を行うことにより、管理栄養士に必要とされる基本的知識を習得することを目標とする。
学生の学習成果：
専門的学習効果：各種食品に関する実験技術を習得するともに、管理栄養士が常に留意しておかなければならない点として、食品に含まれる各種成分と加工・調理による成分変化が疾病に及ぼす影響について、実験を通じて理解することができる。
汎用的学習効果：実験から得られる成分量や成分変化が市場に並ぶ数多くの食品の製造・保蔵・品質変化にどのように影響しているのか、また、どの様な製造原理で作られているのかを理解できる。

教育方法

授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） 糖質、脂質、たんぱく質、色・味・香りなど、まとまった実験の前に、実験の原理、方法、まとめ方などを記載したプリントを配布し、全体的な実験講義を行う。さらに、各回の実験の前には、実験の進め方と注意点について説明後、３～４人程度のグループに別れて実験し、データを記録させる。この際、実験に用いる試薬等は、とくに危険なものを除き原則として学生自身に調製させ、また実験装置についても、できるだけ学生に準備させる。項目毎２～３回の実験の終了後、各実験の方法、結果、考察等を記載したレポートを各人にまとめさせ、ほぼ１週間後を締め切りとして提出させる。レポートの考察には実験で理解した内容が人間生活に生かされている例を汎用的考察として通常の考察と分けて記載する。
予習・復習	予習については、実験で使用する食品の種類や成分を食品学各論のテキストや食品成分表で調べておくこと。復習については、参考書やインターネットで詳細な情報を収集し、レポートに反映させること。
テキスト	毎回、実験の目的、方法などを記載したプリントを配布する。

学習評価の方法

実験内容についてのレポートの内容を評価し、以下の基準で採点する。
A:90点、B:80点、C:70点、D:60点 ただし、提出期限を過ぎたレポートについては減点の対象とする。試験は実施せず、何回か提出されたレポートの点数の平均値(90点満点)を算出し、これに汎用例の評価(10点満点)を加算して学習成果を評価する。
社会人として必要な倫理観、自己管理力を有しているかどうかを評価するという観点から、携帯電話等実験を妨げる行為と判断した場合等汎用例の評価の対象とする。

注意事項

実験は危険を伴うものであり、常に集中して事故を起こさないように注意すること。
実験に供する試料を持参する場合があるので注意すること。シャトルカードには必ず質問を記入すること。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	授業の進め方と食品学各論実験Ⅱの概要説明 植物性食品に関する実験（その１）でんぷんに関する実験講義
2 回	植物性食品に関する実験（その２）主なでんぷんの糊化温度の測定 でんぷんの種類による糊化温度の違いを確認すること
3 回	植物性食品に関する実験（その３）　新米・古米と、うるち米・もち米の鑑別試験 新米・古米の鑑別試験と、うるち米・もち米の鑑別試験の原理を理解すること
4 回	動物性食品に関する実験（その１）　動物性食品のたんぱく質に関する実験講義と試薬調製 動物性食品中のたんぱく質の種類と性質について理解すること
5 回	動物性食品に関する実験（その２）　牛乳中のたんぱく質分離と熱凝固実験 牛乳中のたんぱく質の性質と分離法およびラムゼン現象について理解すること
6 回	動物性食品に関する実験（その３）　動物性食品の色に関する実験講義と試薬調製 動物性食品中の色素の種類と性質について理解すること
7 回	動物性食品に関する実験（その４）　亜硝酸塩添加による肉色素の安定化試験 亜硝酸塩添加による肉色素の変化について理解すること
8 回	脂質に関する実験（その１）　脂質に関する実験講義 脂質の種類と性質について理解すること
9 回	脂質に関する実験（その２）　新鮮な油と古い油の酸価測定実験 油の劣化に伴う酸価の変化について理解すること
10 回	調味料に関する実験（その１）各種食品の呈味成分に関する実験講義と試薬調製 調味料・嗜好食品に含まれる呈味成分の性質について理解すること
11 回	調味料に関する実験（その２）　つゆ･スープに含まれる塩分の測定と官能評価 調味料に含まれる塩分と官能評価の方法について理解すること
12 回	調味料に関する実験（その３）　味覚の相互作用 ＭＳＧとＩＭＰの味の相乗効果について理解すること
13 回	食品の物性に関する実験（その１）　食品の物性に関する実験講義と試料の調整 各種食品に特徴的な物性と原理について理解すると共に、実験に供する試料を調整する。
14 回	食品の物性に関する実験（その２）　レオメーターによるうどんの物性測定試験 レオメーターを用いた、食品の物性測定法を理解すること
15 回	食品の物性に関する実験講義：テクスチャーおよび流体力学について まとめ

令　和　２年　度　教　育　計　画							
科目名	食品加工学Ⅰ	授業回数	15	単位数	2	担当教員	津村哲司
質問受付の方法（e-mail,オフィスアワー等）：時間割決定後通知、シャトルカードによる受付 e-mail：tumtac1020@ybb.ne.jp							

教育目標と学生の学習成果		教育目標： 　元来、食品加工学は採取・収穫した食品を美味しく、安全に保存する方法を習得する学問である。食品学の基礎となる植物性食品、動物性食品の加工品について、より幅広い知識、技術を習得してゆく。特に、加工中、貯蔵中の成分変化について理解する。 学生の学習成果： 　専門的学習成果：1）各加工食品の原材料が何であるかを理解する。2）各加工食品の製造工程を正しく理解する。特に、加工における食品成分の変化に関して学習させる。 　汎用的学習成果：1）食品の生産、加工、流通における栄養成分、栄養価の変化が習得出来る。2）加工食品の原材料・食品添加物を理解したうえでの献立作りができる。このような食品加工学の知識の習得により、職場で活躍できる管理栄養士育成に貢献する。
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） 　日常利用している植物性食品（米、小麦、豆類、イモ類、野菜・果実）の加工食品および動物性食品（食肉、魚介類、牛乳、鶏卵）の加工食品について加工中、貯蔵中の成分変化について系統的に講義する。特に国家試験に頻出の項目については時間を取って講義する。 　毎講義の最後に前回の講義内容から 10 分程度の小テストを行い、理解度をチェックする。さらに、8 回目の講義で到達度判定試験を行い、それまでの学生の理解度をチェックする。
	予習・復習	予習については講義の最後に次回の講義範囲を学生に周知するので、その中でキーワードをマークして講義に望むようにすること。また、そのキーワードについて参考書等で調べておくこと。 復習については、学生自ら小テストの仮想問題を作成し、解答しておくこと。なお、実際の解答はシャトルカードを利用する。
	テキスト	森孝夫　　食品加工学　　（化学同人） 高野克己編　食べものと健康Ⅱ 新訂 食品学各論(樹村房)
学習評価の方法		定期試験の得点（80 点満点）＋小テストの得点（20 点満点）の合計点を算出し、これから、社会人として必要な倫理観、自己管理力を有しているかどうかを評価するという観点から、携帯電話など講義の妨げとなる行為と判断した場合、評価の対象とする。 小テスト、受講態度等を汎用的学習成果の評価とする。
注意事項		２回程度ビデオ学習を取り入れる。そのため教室変更があるので、掲示等注意しておくこと。 シャトルカードには必ず質問を記入すること。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	授業の進め方と食品加工学Ｉの概要説明
2 回	歴史と定義：食品加工発展の歴史的背景 食品加工の定義
3 回	米　：米の種類、米の栄養成分と加工・貯蔵について 米に含まれるでんぷんの性質と加工中の成分変化について理解すること
4 回	小　麦：小麦粉の種類、小麦の栄養成分と加工・貯蔵について 小麦粉に含まれるたんぱく質の性質と加工中の成分変化について理解すること
5 回	イモ類：イモ類の種類、栄養成分と加工について イモ類に含まれる成分と加工品としてのでんぷんについて理解すること
6 回	豆　類１：豆類の種類、栄養成分について 大豆に含まれるたんぱく質の性質と豆腐について理解すること
7 回	豆　類２：豆類の加工品について 豆腐・植物性たんぱく等の製造原理
8 回	到達度判定試験 野菜類：野菜類の栄養成分と加工について 野菜に含まれる成分と加工・貯蔵中の成分変化について理解すること
9 回	果実類：果実類の栄養成分と加工について 果実類に含まれる成分と加工・貯蔵中の成分変化について理解すること
10 回	嗜好品（アルコールを除く）：嗜好品の種類と加工について 茶の分類と製造方法
11 回	到達度判定試験（解説） 魚介類：魚介類の栄養成分と加工について 魚介類の加工食品について加工・貯蔵中の成分変化を理解すること
12 回	食　肉：食肉の栄養成分と加工・貯蔵について 食肉の熟成に伴う成分変化について理解すること 食肉加工品について理解すること
13 回	鶏　卵：鶏卵の栄養成分と加工・貯蔵について 鶏卵中の成分の性質とその性質を利用した加工品について理解すること
14 回	牛乳及び乳製品：乳製品の栄養成分と加工について 乳製品の分類と、牛乳中のたんぱく質の性質について理解すること
15 回	まとめ 試験対策を含め、全体を総括する。

令　和　２年　度　教　育　計　画							
科目名	食品加工学Ⅱ	授業回数	15	単位数	2	担当教員	津村哲司
質問受付の方法（e-mail,オフィスアワー等）：研究室（時間割決定後通知）・ シャトルカードによる受付　e-mail : tumtac1020@ybb.ne.jp							

教育目標と学生の学習成果		教育目標： 　元来、食品加工学は採取・収穫した食品を美味しく、安全に保存する方法を習得する学問である。食品加工学Ⅰ・食品学各論で学んだことを発展させ、より幅広い知識、技術を習得してゆく。特に、加工中、貯蔵中の成分変化について理解する。また、保健機能食品についても機能表示と科学的根拠について理解する。また、食品加工実習で取り上げる項目について配合・工程について解説し、実習効率を上げることを目的とする。 学生の学習成果： 　専門的学習成果：1）食品の加工法による食品の安全性、保存性について、種々の食品加工技術による作用での食品成分の変化に関して学習させる事により食品の健全性が理解できる。2）食品の生産、加工、流通における栄養成分、栄養価の変化が習得出来る。 　汎用的学習成果：1）食品加工機器の知識を習得することにより食品製造現場での業務に反映できる。2）加工食品の原材料・食品添加物・製造技術を理解したうえでの献立作りができる。このような食品加工学の知識の習得により、即戦力として職場で活躍できる管理栄養士育成に貢献する。
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） 　食品加工学Ⅰで講義した植物性食品の加工食品および動物性食品以外の加工食品について加工中、貯蔵中の成分変化について系統的に講義する。また、いわゆる健康食品に関する最新情報を盛り込んで講義する。また、加工学実習の課題について詳細な配合・工程を解説し、実習がスムーズに出来るようにする。 　定期試験前に講義で学んだ加工品が給食現場の献立にどのように関っているかをレポートにまとめさせる。
	予習・復習	予習については講義の最後に次回の講義範囲を学生に周知するので、その中でキーワードをマークして講義に望むようにすること。また、そのキーワードについて参考書等で調べておくこと。 復習については、講義時に配布する講義ノートの太字や穴埋め個所を入念に復習しておく。
	テキスト	森孝夫　　食品加工学　　（化学同人） 高野克己編　食べものと健康Ⅱ 新訂 食品学各論（樹村房）
学習評価の方法		定期試験の得点（90 点満点）および平常点（10 点）の合計から算出する。ただし、今後社会人として必要な倫理観、自己管理力を有しているかどうかを評価するという観点から、携帯電話など講義の妨げとなる行為と判断した場合や受講態度等について、平常点の評価対象とする。 レポート等提出物、受講態度等を汎用的学習成果の評価とする。
注意事項		２回程度ビデオ学習を取り入れる。そのため教室変更があるので、掲示等注意しておくこと。 シャトルカードには必ず質問を記入すること。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	授業の進め方と食品加工学Ⅱの概要説明
2 回	穀類の加工品の復習。 上記項目の重要ポイントの確認と復習。
3 回	イモ類・豆類の加工品の復習。 上記項目の重要ポイントの確認と復習。
4 回	野菜類・果実類の加工品の復習。 上記項目の重要ポイントの確認と復習。
5 回	水産・畜産品の加工品の復習。 上記項目の重要ポイントの確認と復習。
6 回	鶏卵・乳製品の加工品の復習。 上記項目の重要ポイントの確認と復習。
7 回	冷凍食品：歴史、凍結方法、解凍方法、凍結中の成分変化、組織変化等について理解する。 （ビデオ学習）
8 回	嗜好品（アルコール飲料）：アルコール飲料の定義・分類（蒸留酒、醸造酒、混成酒）と特性および製造方法について理解すること。
9 回	嗜好品および油脂類：アルコール飲料の各論について 脂肪に関する基礎知識について
10 回	油脂類：油脂類の定義および製造方法と成分の特性について理解すること。
11 回	食品の保蔵：低温による貯蔵、Ａｗの低下による貯蔵、ｐＨの低下による貯蔵くん煙による貯蔵、殺菌・滅菌による貯蔵、ＣＡ・ＭＡ貯蔵
12 回	包装資材：食品の包装材料についてその特性・実用例等について理解すること
13 回	保健機能食品：特定保健用食品と栄養機能食品と機能性表示食品 食品表示法施工に伴う変更点を中心に保健機能食品の特徴を理解すること。
14 回	食品加工学実習解説：４年次実施予定の食品加工学実習の課題について、 その製造方法、重要ポイントを解説。
15 回	まとめ 試験対策を含め、全体を総括する。

令　和　２年　度　教　育　計　画							
科目名	食品加工学実習	授業回数	15	単位数	1	担当教員	津　村　哲　司

質問受付の方法（e-mail,オフィスアワー等）：
研究室（時間割決定後通知）・シャトルカードによる受付　e-mail：tumtac1020@ybb.ne.jp

教育目標と学生の学習成果	教育目標： 食品加工学Ⅰ及びⅡで学んだ基礎的知識に基づき、現在一般に流通している各種加工食品を製造する。学生自らの感覚で考察してゆき、創意工夫する能力を身につける。また、実習室の食品製造機器および講義により、食品製造現場で使用されている機械の解説をし、食品製造業務に就いた際、即戦力として活躍できる人材を育成することを目的とする。 学生の学習成果： 専門的学習成果：加工食品の加工原理と加工法を学び、給食管理現場で頻繁に利用される加工食品の製造過程を理解することで栄養管理・衛生管理に必要な知識を身につける。 汎用的学習成果：試作した加工品の特性を生かした調理・献立作りが出来る。新製品開発を行うことにより、給食の現場で既存の献立を組み合わせるだけの単純作業では無く、献立の創意工夫が出来るようにして、患者・入所者等の満足度の向上を図る。	
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） 各回とも加工の原理、実習の方法などを記載したプリントを配布し、まず、それぞれの食品の加工に関わる食品成分と加工原理について講義を行い、ついで実習の進め方について説明した後、実習に移る。実習は少人数のグループで行う。実習後には、出来あがったものを他の班と比較しながら試食し、結果を評価する。レポートは試作中の創意工夫と試食の結果を総合して考察を仕上げるように指導する。実習の終了後、各実習の方法、結果、考察等を記載したレポートを各人にまとめさせ、１週間後を締め切りとして提出させる。考察には課題加工品を利用した献立を考える。これを汎用的学習成果の評価とする。
	予習・復習	日頃から市場などを訪問し、加工食品が何から作られているのか成分表示をチェックするように心がける。 復習に関してはレポートでまとめ整理し仕上げる。
	テキスト	食品加工用の自作プリントを使用 参考図書等 森孝夫　食品加工学　　化学同人
学習評価の方法	実験内容についてのレポートの内容を評価し、以下の基準で採点する。 A:90点、B:80点、C:70点、D:60点 ただし、提出期限を過ぎたレポートについては減点の対象とする。 試験は実施せず、何回か提出されたレポートの点数の平均値(90点満点)を算出し、これに汎用例の評価(10点満点)を加算して学習成果を評価する。 社会人として必要な倫理観、自己管理力を有しているかどうかを評価するという観点から、携帯電話等実験を妨げる行為と判断した場合等汎用例の評価の対象とする。	
注意事項		

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	オリエンテーション：授業の進め方と食品加工学実習の概要説明 食品製造機器についての解説：実習室内の食品製造機器について使用方法などを解説
2 回	野菜加工品：こんにゃく 予習　こんにゃくの試作方法 復習と課題　こんにゃくの試作上の品質の変化
3 回	野菜加工品：トマトピューレ 予習　トマトピューレの試作方法 復習と課題　トマトピューレの試作上の品質の変化
4 回	野菜加工品：トマトケチャップ 予習　トマトケチャップの試作方法 復習と課題　トマトケチャップの試作上の品質の変化
5 回	官能検査：順位法による官能検査 第４回の実習で製造したトマトケチャップの客観的評価を行う。
6 回	果実加工品：リンゴジャム（仕入れによってマーマレード） 予習　ジャムの試作方法 復習と課題　ジャムの品質の変化測定
7 回	大豆加工品：豆腐 予習　豆腐の試作方法 復習と課題　豆腐の品質の変化測定、木綿と絹ごしの違い
8 回	小麦粉加工品：中華麺 予習　小麦粉の分類 復習と課題　中華麺の色調変化
9 回	小麦粉加工品：うどん 予習　小麦粉の製法 復習と課題　うどんの物性変化
10 回	水産加工品：アイスクリーム 予習　アイスクリームの試作方法 復習と課題　アイスクリームの分類と品質の変化
11 回	水産加工品：カマボコ 予習　カマボコの試作方法 復習と課題　水産練り製品の試作上の品質の変化
12 回	畜肉加工品：ソーセージ 予習　ソーセージの試作方法 復習と課題　ソーセージの試作上の品質の変化
13 回	嗜好飲料：固定化菌体によるアルコール発酵 予習　アルコール発酵原理 復習と課題　固定化酵素の特性
14 回	新商品開発：企画会議 これまで習得した食品加工の知識・技術を活用して市場に無い新しい加工食品を開発する。最後には企画書を作成する。
15 回	新商品開発：サンプル試作 前回、作成した企画書をもとに、サンプルを試作し、問題点・改善点を明確にし、企画・製造工程の最終案を作り上げる。

<table>
<tr><td colspan="8">令　和　２　年　　度　　教　　育　　計　　画</td></tr>
<tr><td>科目名</td><td>食品品質管理論</td><td>授業回数</td><td>１５</td><td>単位数</td><td>２</td><td>担当教員</td><td>次田隆志、狩山玲子、津村哲司</td></tr>
<tr><td colspan="8">質問受付の方法(e-mail、オフィスアワー等)：tsugita@owc.ac.jp、rkariyama@owc.ac.jp、tsumura@owc.ac.jp、授業終了後教室において、または定められたオフィスアワー時間に研究室において質問等を受付ける</td></tr>
<tr><td colspan="2">教育目標と学生の学習成果</td><td colspan="6">教育目標：
　生鮮食材や加工食品の品質は、様々な条件下で時間の経過とともに変化する。その品質劣化の要因と安全性を理解し、食品の劣化を阻止あるいは遅延させるための適正な品質管理の手法を学習することにより、食品の品質管理に関する専門家になることを最終の教育目標とする。
専門的学習成果：
　この教科では、食品の生物学的・化学的・物理的変化の客観的評価法、殺菌の種類と方法、品質の官能評価法などについての知識を習得し、食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格を取得できる能力を獲得する。
汎用的学習成果：
　コンピュータを用いた統計処理法を習得するとともに、インターネット等を活用して最新の知識・情報を収集し、食品品質管理に活かすことができる。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">教育方法</td><td>授業の進め方</td><td colspan="6">（講義・演習・実験・実習・実技）
　食品品質管理に関する知識とその方法、食品の加工・貯蔵過程における生物学的・化学的・物理的変化とその評価法・防止法、官能評価と統計処理による食品の品質管理の手法等について、教科書に基づき講義形式で授業を進め、必要に応じて補助教材としての資料を配付する。
　授業開始時にシャトルカードを配布し、授業終了時に授業内容についての質問、感想等を記入、回収する。これにコメントを記載して次回授業時に返却する。重要と考えられる質問等については、次回授業時、全員に解説する。
　シャトルカードや小テストによって、学生の授業理解度と学習進行状況を逐次確認し、教授内容を改善しながら授業を進める。</td></tr>
<tr><td>予習・復習</td><td colspan="6">　予習については次回の講義範囲を学生に周知し、その中でキーワードを重点的に予習して講義に望むよう指導する。
　復習については、その日の講義の中で重要であると説明したキーワードについて、再度、教科書などで確認するよう指導する。</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="6">三訂 食品の官能評価・鑑別演習（日本フードスペシャリスト協会編）建帛社
三訂 食品の安全性 第２版（日本フードスペシャリスト協会編）建帛社</td></tr>
<tr><td colspan="2">学習評価の方法</td><td colspan="6">上記の専門的学習成果および汎用的学習成果がどれだけ達成できているかについて、定期試験の得点に加えて、授業に取り組む姿勢を平常点として評価し、これらの合計を学習評価とする。平常点は、ノートを含めた提出物、出席状況、受講態度等により評価する。その割合は、定期試験 80 点満点、平常点 20 点満点とする。</td></tr>
<tr><td colspan="2">注意事項</td><td colspan="6">インターネット等を有効に活用して、食品の品質評価に関わる最新の知識・情報を積極的に得ること。また、15 回の授業のうち、３分の２以上出席しなければ定期試験の受験資格がなくなるので、遅刻や欠席がないように受講すること。</td></tr>
</table>

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	授業の進め方と食品品質管理論の概要説明（担当：次田）
2 回	食品の品質管理概要（担当：次田） 　食品に求められる特性、食品の品質とは、品質管理の目的
3 回	食品の安全管理①（担当：狩山） 　生物学的、化学的、物理的ハザード
4 回	食品の安全管理②（担当：狩山） 　食品別（食肉･食肉加工品、魚介類、野菜･果実、牛乳･乳製品、その他）
5 回	食品の安全管理③（担当：狩山） 　HACCP
6 回	食品の安全管理④（担当：狩山） 　一般的衛生管理プログラム、ISO22000
7 回	食品成分と品質①　食品中の水（担当：次田） 　水分活性と食品の保存性、食品の保存と水分の制御
8 回	食品成分と品質②　食品の色素成分と変色（担当：次田） 　クロロフィル、カロテノイド、フラボノイド、酵素的褐変、非酵素的褐変
9 回	食品成分と品質③　食品の色と鮮度（担当：次田） 　生鮮植物性食品、生鮮動物性食品、油脂、その他の食品
10 回	理化学的品質評価法（担当：津村） 　糖度と酸度、VBN、K 値、油脂の酸敗評価法、その他食品の品質評価法
11 回	物理的品質評価法（担当：津村） 　粘性、粘弾性、破断特性、テクスチャー特性
12 回	官能評価による食品の品質評価①（担当：津村） 　官能評価とは、パネルの構成、内部的･外部的条件とその管理
13 回	官能評価による食品の品質評価②（担当：津村） 　官能評価の種類と実践例
14 回	品質管理における統計的手法①（担当：次田） 　データの種類、基本統計量、ヒストグラム、帰無仮説と有意水準
15 回	品質管理における統計的手法②（担当：次田） 　各種統計解析法、食品品質管理のまとめ

令　和　２　年　度　教　育　計　画							
科目名	食品分析学	授業回数	15	単位数	2	担当教員	津　村　哲　司

質問受付の方法（e-mail,オフィスアワー等）：
研究室（時間割決定後通知）・シャトルカードによる受付 e-mail：tumtac1020@ybb.ne.jp

教育目標と学生の学習成果		教育目標： 流通されている食品は栽培方法や加工方法により、栄養素の含有量に変化が起こる。食品利用に際して、このような食品中の栄養素量の変化を知った上で、食品成分表に掲載されている栄養成分の数値を理解する必要がある。食品成分表に掲載されている各種の栄養成分の分析法をについて講義し理解力を向上させる。近年、食品偽装表示が問題となり、遺伝子検査が頻繁に行われるようになった。これを受け、本講義では遺伝子の分析方法についても理解することを目的とした。 学習成果： 専門的学習成果：基礎知識と実験手法に基づいた食品の分析法を理解する事が出来る。そして、食品の栄養価、食品の嗜好性の評価に役立つ分析値を得る方法を習得出来る。 汎用的学習成果：食品成分表に記載されている栄養素の成分値を単にエネルギー計算の数値として理解するのではなく、どのような分析・解析に基づき算出されているかを理解する
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） 授業は講義形式で行うが、分析機器・器具等は実際に機器を見せて講義することを心掛ける。本講義で解説した実験方法・機器が食品加工学実習、食品学総論実習、食品衛生学実習等と関連付けながら講義し、実験実習での学生の理解度が高まるようにする。 汎用的学習成果を把握するために５大栄養素の分析方法の講義が終了した段階でレポート課題を出し、評価の対象とする。そのため、食品成分表を携帯し、成分値の算出方法を理解させる。
	予習・復習	毎回の授業の際に来週の講義の予習箇所を明示する。 復習に関しては毎回大切な箇所を指摘し必ず来週の講義前日までに勉学することを指示する
	テキスト	基礎食品分析法　前田安彦　アイケイコーポレーション 参考図書等 原色食品加工図鑑：健パク社 日本標準食品成分表 2018
学習評価の方法		評価は定期試験（80 点満点）およびレポート（20 点）の合計を評価点とする。ただし、これから、社会人として必要な倫理観、自己管理力を有しているかどうかを評価するという観点から、携帯電話など講義の妨げとなる行為と判断した場合や受講態度等について、評価の対象とする。 レポートの課題には市販の食品の栄養成分表示の成分値を考察させ、汎用的学習の成果の評価とする。
注意事項		シャトルカードには必ず質問を記入すること。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1回	授業の進め方と食品分析学の概要説明　（オリエンテーション） 　食品分析の目的、知識と方法
2回	食品分析の基礎 　１、実験器具の使い方　　２、分析機器の使い方
3回	食品分析の基礎 　１、化学的基本量と濃度　　２、容量分析と重量分析
4回	食品成分の定量分析 　水分の定量・・・・・常圧加熱乾燥法、赤外線水分計ほか
5回	食品成分の定量分析 　灰分の定量・・・・・直接灰化法
6回	食品成分の定量分析 　粗タンパク質の定量分析 　　ケールダール窒素分析法とたんぱく質－窒素換算係数
7回	食品成分の定量分析 　ソックスレー抽出法による粗脂肪の定量分析 　油脂の化学的特性分析・・・ヨウ素価、けん化価、酸価等
8回	食品成分の定量分析 　炭水化物の定量分析・・・・差し引き法、アンスロン硫酸法
9回	食品成分の定量分析 　ビタミンの分析：水溶性ビタミン（ビタミンC，B，及びナイアシン）と 　　脂溶性ビタミンの分析（ビタミンA，D，及びE） 　　レチノール当量ほか実験値の取り扱い
10回	食品成分の定量分析 　無機質の分析（カルシウム、リン、鉄、ナトリウム、カリウム)、原子吸光法の原理
11回	その他の成分の定量分析 　　食物繊維など五大栄養素以外の成分の分析方法について解説 　　数値の表示方法について解説
12回	クロマトグラフィー 　　クロマトグラフィーの原理について理解する
13回	遺伝子について 　　DNA 研究の歴史と種類、構造についてグループワークで理解する
14回	遺伝子解析 　　サンガー法によるＤＮＡの塩基配列の決定方法についてグループワークで理解する
15回	まとめ

令　和　２　年　　度　　教　　育　　計　　画							
科目名	調理学Ⅰ	授業回数	15	単位数	2	担当教員	中原　眞由美
質問受付の方法(e-mail,オフィスアワー等)： nakahara@owc.ac.jp、OH:在室時は何時でも可Ａ107							

教育目標と学生の学習成果		教育目標： 　調理とは、食品素材をおいしく、すぐに食べられるように調製することであり、衛生的で安全な食べ物に調製し、食材素材の栄養効率を高めることを目的とする。食事計画に基づいた献立作成とそれに伴う食品素材の選択が必要となる。さらに、厨房設備、調理器具、エネルギー源などを使用した調理操作を行うことにより、食品（主に植物性食品）の栄養成分や物性の変化についての知識を獲得することができる。 学生の学習成果： 〇専門的学習成果： ・管理栄養士が果たすべき多様な専門領域に関する基本となる能力を養う。また、管理栄養士に必要とされる知識、技能、態度及び考え方の総合的能力を獲得する。 〇汎用的学習成果 ・調理学で習得した基礎的な知識を確実に身に付けるとともに、実習等の場において十分発揮できるように、与えられた課題に対して、授業で学んだことや自ら調査した情報をもとにその内容を理解し、まとめることができる。(課題提出)
教育方法	授業の進め方	(講義・演習・実験・実習・実技) 　調理の基礎基本を常に念頭に置き、調理実習との関連性を踏まえ、実際の現象などを折り込みながら明解に解析し、各食品の調理の特性について講義する。 〇授業は、テキスト、プリントなどを利用して進める。 〇授業開始時に「小テスト」を行い、また、授業終了時に「シャトルカード」に授業内容についての質問、感想等の記入を求める。「小テスト」及び「シャトルカード」により、学習進行状況を確認し、改善しながら進める。
	予習・復習	予習事項：毎授業前に「授業回数別教育内容」に記載された予習を求める。 復習事項：学習した内容の中で重要な語句等を再度復習させ「小テスト」を行う。 〇「小テスト」及び「シャトルカード」により、予習、復習を効率的に行っているかどうかを確かめる。問題がある場合には、学習の仕方等について指導する。
	テキスト	新食品・栄養科学シリーズ「調理学」(木戸詔子・池田ひろ　編)　　化学同人
学習評価の方法		以下に示す学習成果について、その獲得度合を量的に評価する。 ①調理操作（調味操作・非加熱調理操作） ②エネルギー源および調理器具（加熱器具・冷却器具・食器類）・加熱調理操作 ③植物性食品の調理性（米・小麦粉・いも類） ④植物性食品の調理性（豆・野菜・果物・果実・きのこ・海藻・山菜類） ⑤嗜好飲料・様式別供応食・食事環境（**課題提出**） 学習評価は、定期試験及び小テストの結果を総合して行う。 評価の割合は、定期試験７０点、小テスト３０点とする。 また、１５回授業の 2/3 以上の出席により定期試験が得られる。遅刻や欠席がないように受講すること。
注意事項		参考図書等 新ビジュアル食品成分表　　大修館書店

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	調理学の基本的理解およびオリエンテーション ○講義内容および授業の進め方(授業内容)について解説 ①予習復習の説明 ②小テスト及びシャトルカードの実施についての説明 ○調理操作の目的 ○調味操作　①調味料（塩味料）食塩・しょうゆ・みそ（テキストｐ15～18）
2 回	予習：調味操作について調べる。（テキストｐ18～23） ○調味操作 ①調味料（甘味料）砂糖・みりん　　（酸味料）食酢 ②香味料　　③うまみ（だしの取り方） ○非加熱調理操作（テキストｐ24～25） ①　洗浄　②　浸漬　③　切砕　④　粉砕・磨砕
3 回	予習：調理を行うための基本的なことを調べる。（テキストｐ26～29） ○非加熱調理操作 ⑤　混合･混ねつ・撹拌　⑥　圧搾・ろ過・形成　⑦　冷却･凍結･解凍 ○加熱調理操作 ①　湿式加熱
4 回	予習：調理を行うための基本的なことを調べる。（テキストｐ29～31） ○加熱調理操作 ②　乾式加熱 ③　誘電･誘導加熱（マイクロ波加熱・誘導加熱） 予習：エネルギー源について調べる。（テキストｐ129） ○エネルギー源
5 回	予習：どんな調理器具があるか調べる。（テキストｐ129～136） ○調理器具 ○加熱用機器 ○冷却機器 ○食器類
6 回	復習：調理操作（テキストｐ24～31）と調理器具（テキストｐ129～136）のまとめをする。 ○調理操作と調理器具の内容をまとめる。（2回～5回の内容）
7 回	予習：米の調理について調べる。（テキストｐ33～41） ○米の調理 ①米の種類と構造，成分 ②うるち米，もち米，米粉の調理
8 回	予習：小麦粉の種類と製品について調べる。（テキストｐ42～50） ○小麦粉の調理 ①小麦粉の構造と種類 ②小麦粉生地と膨化調理 ③その他小麦粉調理 復習：米・小麦粉の調理特性についてまとめる。 ○米・小麦粉の内容についてまとめる。（8回・9回の内容）

9 回	予習：いも・豆の種類について調べる。（テキストｐ50～56） ○いも類の調理（じゃがいも・さつまいも・さといも・やまのいも） ○豆類の調理 ①豆類種類と吸水 ②煮豆 ③あん ④豆腐
10 回	復習：いも・豆の調理特性についてまとめる。（テキストｐ50～56） ○いも・豆の内容についてまとめる。（10 回の内容） 予習：野菜についての特徴を調べる。（テキストｐ56～60） ○野菜の調理 ①野菜の調理操作による色・酵素的褐変・あく
11 回	予習：野菜についての特徴を調べる。（テキストｐ61～64） ○野菜の調理 ②ビタミン・無機質と調理 ③生食調理・加熱調理 ④漬物・香味野菜
12 回	予習：果物・種実・きのこ・海藻・山菜の特徴について調べる。（テキストｐ64～73） ○果物・種実・きのこ・海藻・山菜の調理性 ①種類 ②栄養成分 ③嗜好性 ⑤調理性と調理例
13 回	復習：野菜・果物・種実・きのこ・海藻・山菜の調理特性についてまとめる。 ○野菜～山菜の内容についてまとめる。（11 回・12 回の内容）　（テキストｐ56～73） 予習：嗜好飲料（非アルコール飲料）の特徴を調べる。（テキストｐ125～128） ○嗜好飲料 ①非アルコール飲料（茶，コーヒー，ココア，その他の飲料） ②アルコール飲料
14 回	予習：調理文化と時代を見つめた全体的な日本の食卓様式を調べる。 （テキストｐ153～156） ○供食と食卓構成 ○様式別供応食（日本料理）
15 回	予習：調理文化と時代を見つめた全体的な日本の食卓様式を調べる。 （テキストｐ156～162） ○様式別供応食（西洋料理・中華料理） **○食事環境（安全性・食育・環境・災害）（課題提出）** ○前期の内容のまとめ（復習）

令　和　２　年　　度　　教　　育　　計　　画							
科目名	調理学Ⅱ	授業回数	15	単位数	2	担当教員	中原　眞由美
質問受付の方法(e-mail,オフィスアワー等)： nakahara@owc.ac.jp、OH:在室時は何時でも可A 107							

教育目標と学生の学習成果

教育目標：

人における健康の維持増進、疾病の予防をはかるために、高度な専門知識・技能に基づいて、食生活の改善や栄養指導に携わることのできる管理栄養士育成を最終の教育目標とする。調理学Ⅱにおいては、調理を行うことによる食品の栄養成分や物性の変化、大量調理の現場で取り入れられつつある新調理システムと調理器具、さらに、調理の現場で求められる衛生管理などを学ぶことにより、食生活をより豊かにする調理のあり方を習得することを目標とする。調理の価値を増し食欲を起こさせる演出道具としての食器による心理的効果、食文化の歴史的変遷と行事食・饗応食・伝承料理や食習慣等について解説する。

学生の学習成果：

〇専門的学習成果

・食品（主に動物性食品・成分抽出素材）の調理特性や調理に伴う食品成分の変化、新調理システムの原理などの知識を獲得する。また、出来上がった料理の味の評価の方法についても多種多様な方法があることを知識として獲得することができる。

〇汎用的学習成果

・調理学で習得した基礎的な知識や調理現場での衛生管理手法などを確実に理解し、実習等の場において十分発揮できるように、与えられた課題に対して、授業で学んだことや自ら調査した情報をもとにその内容を理解することができる。

教育方法

授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） 調理の基礎基本を常に念頭に置き、調理実習との関連性を踏まえ、実際の現象など折り込みながら明解に解析し、各食品の調理の特性について講義する。 〇授業は、テキスト、プリントなどを利用して進める。 〇授業開始時に「小テスト」を行い、また、授業終了時に「シャトルカード」に授業内容についての質問、感想等の記入を求める。 〇「小テスト」及び「シャトルカード」により、学習進行状況を確認し、改善しながら進める。
予習・復習	予習事項：毎授業前に「授業回数別教育内容」に記載された予習を求める。 復習事項：学習した内容の中で重要な語句等を再度復習させ「小テスト」を行う。 〇「小テスト」及び「シャトルカード」により、予習、復習を効率的に行っているかどうかを確かめる。問題がある場合には、学習の仕方等について指導する。
テキスト	新食品・栄養科学シリーズ「調理学」（木戸詔子・池田ひろ　編）　化学同人

学習評価の方法

以下に示す学習成果について、その獲得度合を量的に評価する。

①動物性食品の調理性（食肉・魚介類）
②動物性食品の調理性（卵・牛乳・乳類）
③成分抽出素材の調理性（デンプン・ゲル化材料）
④成分抽出素材の調理性（油脂類・新食品素材）・大量調理
⑤調理と嗜好性（おいしさの基本的要因・おいしさの測定法）

学習評価は、定期試験及び小テストの結果を総合して行う。
評価の割合は定期試験７０点、小テスト及び課題３０点とする。
また、１５回授業の 2/3 以上の出席により定期試験が得られる。遅刻や欠席がないように受講すること。

注意事項

参考図書等

新ビジュアル食品成分表　　大修館書店

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	オリエンテーション ○講義内容および授業の進め方について解説 ①予習復習の説明 ②小テスト及びシャトルカードの実施についての説明 ○食肉の調理性 ①食肉のたんぱく質の種類と性質，脂質（テキストｐ75～78）
2 回	予習：食肉の調理の変化について調べる。（テキストｐ78～82） ○食肉の調理性 ①食肉の熟成と軟化、加熱による色の変化、保水性、粘着性 ②食肉の種類別の調理（牛肉，豚肉，鶏肉）
3 回	予習：魚肉の種類について調べる。（テキストｐ82～88） ○魚介類の調理性 ①魚介類の種類と特徴（旬，出回り期） ②魚肉の成分の特性（たんぱく質，脂質） ③魚の死後硬直と鮮度 ④魚の調理方法（下処理，生食，加熱調理）
4 回	復習：食肉と魚肉の調理性をまとめる。（テキストｐ75～88） ○食肉と魚肉の調理性の比較（食肉たんぱく質の組成） ２回・３回の内容の比較とまとめをする。 予習：卵について教科書を読む。（テキストｐ88～89） ○卵の調理性 ①卵の構造と成分
5 回	予習：卵について教科書を読む。（テキストｐ89～94） ○卵の調理性 ②卵の鮮度（品質の変化，品質判定法） ③鶏卵の調理性（希釈性，付着性，粘着性，起泡性，熱凝固性，乳化性）
6 回	予習：牛乳・乳製品について教科書を読む。（テキストｐ94～98） ○牛乳・乳製品の調理性 ①牛乳・乳製品の調理性（加熱による皮膜形成，褐変，酸による凝固） 予習：たんぱく質の栄養価の低下・食物アレルゲンについて教科書を読む。 （テキストｐ98～100） ○たんぱく質の栄養価の低下 ○食物アレルゲン（食物アレルギーの献立と調理上の注意） 復習：卵・牛乳・乳製品の調理性のまとめをする。（ｐ89～100） ○卵・牛乳・乳製品の内容のまとめをする。（5回・6回の内容）
7 回	予習：成分抽出素材のでん粉の種類と特徴について調べる。（テキストｐ103～107） ○でん粉の調理性（成分抽出素材の調理特性） ①でん粉・・・種類と特徴・糊化・老化・ゲル化 ②でん粉の調理 ③加工でん粉

8 回	予習：成分抽出素材のゲル化材料は何かについて調べる。（テキストｐ107～114） ○ゲル化材料 ①ゲル化材料（ゼラチン・寒天・カラギーナン・ペクチン） ②その他のゲル化剤
9 回	復習：成分抽出素材のでん粉・ゲル化材料の調理特性をまとめる。（テキストｐ103～114） ○でん粉とゲル化材料の調理特性のまとめをする。（７回・８回の内容のまとめ） 予習：成分抽出素材の油脂類の特徴について調べる。（テキストｐ114～115） ○油脂類の調理特性 ①油脂類の種類と特徴
10 回	予習：成分抽出素材の油脂の特徴を調べる。（テキストｐ115～120） ○油脂類の調理性 ②調理特性（風味と物性，熱媒体，接着防止と防水，クリーミング性，ショートニング性乳化性） ③調理による油脂の変化（酸化）（自動酸化，加熱変化） ④油脂を用いる調理 ⑤新しい機能をもった油脂類 予習：新食品素材について調べる。（ｐ120～123） ○新食品素材（大豆たんぱく質素材・小麦たんぱく質素材・食物繊維）
11 回	予習：おいしさについて調べる。（テキストｐ1～9） ○おいしさと人体のかかわり ○食べ物を構成する基本的要因 ○食べる人の基本的要因
12 回	予習：おいしさ測定方法について調べる。（テキストｐ9～13） ○おいしさの測定方法 ①官能評価の方法 ②理化学的測定の方法 ③官能評価と理化学的測定の関係
13 回	復習：おいしさとおいしさの測定方法についてまとめる。（テキストｐ1～13） ○おいしさとおいしさの測定方法の内容のまとめをする。（11 回・12 回の内容）
14 回	予習：大量調理について調べる。（テキストｐ165～166） ○大量調理の特性 ○大量調理と衛生管理
15 回	予習：大量調理について調べる。（テキストｐ166～173） ○調理工程と品質 ○集団給食の調理様式 ○後期のまとめ（復習）

令　和　２　年　　度　　教　　育　　計　　画							
科目名	調理学実習Ⅰ	授業回数	15	単位数	1	担当教員	中原　眞由美
質問受付の方法(e-mail,オフィスアワー等)： nakahara@owc.ac.jp、OH:在室時は何時でも可A 107							

教育目標と学生の学習成果

教育目標： 調理学実習は、調理学で学んだ理論を実技指導の中に取り入れ、食品に係わる操作点を理解した後、その知識を基に食品を衛生的・栄養的・嗜好的に献立調理へと発展させ、その技術を習得することを目的とする。そのためには、調理操作による食品素材の栄養、特性と物性の変化について理解し、調理器具の使い方、調理法、献立の立て方、多様化した食品素材の選択と組み合わせ方に配慮し、安全性と嗜好性を満足させる調理方法を探求する。また、おいしい料理を作るには、各食品の調理性の理解と調理操作が必要であるので、基本的な手法を中心に実験形式で科学的、理論的な調理技術を修得する調理学実習を計画する。調理学実習Ⅰでは基礎技術の習得に重点をおく。

学生の学習成果：

〇専門的学習成果

・調理の基本（包丁の使い方・だしの取り方・炊飯の仕方・計量等）を習得し、管理栄養士に必要とされる調理技術の向上をはかる。

・献立作成の手順を理解し、班で協力して課題に沿った献立を作成できる。

・日本料理・中国料理・西洋料理の基本的調理技術を習得する。

〇汎用的な学習成果

・研究献立の実習に当たって、献立表・栄養価計算・食品構成表・食品購入計画・調理作業計画・金銭出納帳・実習後の課題等の提出物が決められた期日までにきちんと提出できるという管理栄養士に求められる自己管理能力を養う。

教育方法

授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） テキストはプリントを使用し、必要に応じて教科書を利用する。 〇科学的、理論的な裏付けによる調理実習に加えて、実験形式による実習を行う。 〇自主的な学習の場を設定し、質問や研究討議の活性化を図り、積極的な実習になるようにする。（課題に提出） 〇実習後、自己評価を行い、献立の組み合わせの応用ができるようにする。 〇必要に応じて、実技テストおよび筆記テストを行う。
予習　復習	必要に応じて授業内で行う。
テキスト	新ビジュアル食品成分表(新訂版)　（大修館書店） メニューコーディネートのための「食材別調理集」第３版　（同文書院） 調理のためのベーシックデータ第４版　（女子栄養大学出版部）

学習評価の方法

・実習後の反省カード（計量記録・実習態度等）　２０％

・ペーパーテスト（計量・切り方）　１０％

・調理技術（実技テスト）　３０％

・研究献立の作成（個人＋班）　３０％

（献立作成・栄養価計算・発注書等の書類の作成・実習・協力）

・目ばかり・手ばかり　１０％

・課題の提出の遅れで、１点減点。

注意事項

参考図書等

新食品・栄養科学シリーズ「調理学」（木戸詔子・池田ひろ　編）　（化学同人）

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	調理学実習の基本的理解およびオリエンテーション 　実習内容および授業の進め方・成績評価 　調理学実習の服装（白衣・髪の毛）、手洗い、衛生面についてと準備物、実習ノートのまとめ方、調理実習室の説明　、調理器具の確認（チェックカード） ＊手洗いチェッカーによる手洗い実験
2 回	調理の基本①　包丁の持ち方・野菜の切り方 調味料・食品の体積と重量、計量器の正しい扱い方、包丁の持ち方、野菜の切り方 ＜献立名＞ 野菜チャーハン・野菜スープ（切った野菜と卵を使って自由に作る。） ＊調理技術テスト　　・野菜の切り方と包丁の持ち方（大根・にんじん） ＊食材の手ばかり（目測） ＊汁の塩分測定
3 回	調理の基本②　野菜の切り方　・だしの取り方 ＜献立名＞ おにぎり・味噌汁（煮干しのだしの取り方）・きゅうりのサラダ ＊調理技術テスト　　・きゅうりの輪切りテスト（１回目）後期にもう１回実施予定 　　・おにぎりが上手に握ることができるか。 ＊ペーパーテスト　　・野菜の切り方の名前
4 回	調理の基本③　調味操作（だしのとり方と種類）、潮汁：汁の塩分量、貝のうま味 炊飯の仕方（米の重量と水加減）　　（塩分計で測定） ＜献立名＞ ご飯（炊飯）・潮汁（ハマグリ）・りんご・手作りふりかけ ＊調理技術テスト　　・炊飯（鍋で炊く）・汁の塩分測定・白飯の吸水率について ＊りんごの皮むきテストと廃棄率の計算方法
5 回	＜献立名＞ えんどう飯　　・ 味付けご飯の水加減と塩分 若竹汁　　・かつおだしのとり方と塩分・筍のゆで方 和え物（ほうれん草とキャベツのごま和え）　・ゆでる操作、調味料の割合 ＊調理技術テスト　・さやつき豆の廃棄率について実測する。 ＊ペーパーテスト　・計量カップ・スプーンの調味料別の重量
6 回	＜献立名＞ パン マカロニグラタン　　・小麦粉と油脂と加熱（加熱による、粘着性を利用したルーの作り方、小麦粉と油脂の効用） 粉ふきいも　　・粉ふきいもの品種による違い、塩分量を検証 フルーツゼリー　　・ゼラチンの扱い方 ＊調理技術テスト　　・じゃがいもの皮むきと廃棄率・ホワイトルウの作り方
7 回	＜献立名＞ 麦ご飯　　・炊飯と水加減 五目豆の煮物　　・豆を水に浸漬して吸水、膨潤の仕方の違いと煮る時の調理条件・煮物の塩分量・野菜の切り方 だし巻き卵　　・卵の鮮度、だし汁の割合、塩・砂糖の量 ＊調理技術テスト　　・だし巻き卵　（油の敷き方・火加減）

8 回	＜献立名＞ ご飯　・炊飯と水加減 酢豚　・野菜と肉の下処理と合えるタイミング とうもろこしのスープ　・汁のとろみのつけ方 杏仁豆腐　・調理による牛乳の変化、固まった寒天とシロップの比重の差、寒天の使い方 ＊調理技術テスト　・寒天の溶かし方
9 回	＜献立名＞ ご飯　・炊飯と水加減 あじのムニエル　・魚の三枚おろし、油の調理 線キャベツ・トマト　・基本調理技術の習得 魚のあら汁　・あらの臭み消し ＊調理技術テスト・・・魚のさばき方　（３枚おろし）
10 回	＜献立名＞ ロールパン 豚肉のソテー（りんごソース）　・加熱速度と凝固状態、肉の軟化 ミネストローネ　・夏野菜の調理、塩分の測定 コールスローサラダ　・ドレッシング：油脂の乳化 ＊調理技術テスト　・肉のすじの切り方・肉の軟化の方法
11 回	献立作成 ・　献立作成の条件と食事の持つ役割 ・　献立作成の演習（主食、主菜、副菜の組み合わせ方の習得） ・　研究献立作成（課題テーマ別に作成、実習準備） ○ご飯を主食とする日本食の献立作成 食品構成・栄養価・価格・調理時間等を満たすことが条件 献立表・盛り付け図・食品構成表・栄養価表・発注書・作業工程表・金銭出納表等
12 回	献立作成 ・　献立作成の条件と食事の持つ役割 ・　献立作成の演習（主食、主菜、副菜の組み合わせ方の習得） ・　研究献立作成（課題テーマ別に作成、実習準備）
13 回	＜献立名＞ チキンピカタピラフ添え　・鶏肉の部位別料理、ささ身の下処理方法と焼き方 ブラマンジェのピーチソースかけ　・牛乳の成分と料理への利用 ＊調理技術テスト　・でんぷんの糊化と加熱温度(コーンスターチ)
14 回	研究献立の調理実習 ＊ 実習のねらい 調理学で得た知識を基に、班ごとに研究献立の意図を明確にした献立を作成し、協力して調理実習を行うことができる。また、調理学実習のまとめを実施する ○実施献立の評価（他の班の献立について）
15 回	研究献立の反省についてのプレゼンテーション（発表会） ・献立の内容・栄養価・価格・工夫した点・改善点などを、各班がレポートにまとめて１人２分間程度の発表をする。 調理室備品の点検・調理室の清掃

令　和　２　年　　度　　教　　育　　計　　画							
科目名	調理学実習Ⅱ	授業回数	15	単位数	1	担当教員	中原　眞由美
質問受付の方法(e-mail,オフィスアワー等)： nakahara@owc.ac.jp、OH:在室時は何時でも可A107							

教育目標と学生の学習成果

教育目標：　調理学実習Ⅱは、調理学実習Ⅰや調理学で学習した知識を基にさらに、食品を衛生的・栄養的・嗜好的に献立調理へと発展させ、その技術を習得することを目的とする。

調理は食品の調理性、食物の嗜好性、調理操作、献立作成、また、食品材料の多様化、新しく開発される各種の食品や環境問題にも配慮し、常に知識と共に適切な調理方法が必要となってくる。実習では調理技術の更なる習得を中心に置きながら、伝統的な食文化や国際社会における食生活のあり方、食を取り巻く環境問題について考えながら調理学実習を計画する。特に、調理学実習Ⅰで個人が未習得の事項を習得できるようにする。

学生の学習成果：

〇専門的学習成果

・調理学実習Ⅰで習得した調理技術を実習に生かし、管理栄養士に必要とされる難易度の高い調理技術を習得する。

・献立条件（栄養価・食品構成等）を満たした献立を、与えられた課題（日本料理・西洋料理）にそって作成することができる。

〇汎用的学習成果

・研究献立の実習に当たって、献立表・食品購入計画・調理作業計画・金銭出納帳・実習後の課題等の提出物が決められた期日までにきちんと提出できるという管理栄養士に求められる自己管理能力を養う。

・自分の古里の郷土料理について調査することにより、郷土に関する知識や郷土愛を養う。

教育方法

授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） テキストはプリントを使用し、必要に応じて教科書を利用する。 〇日本料理、西洋料理、中国料理の日常食に加えて、行事食の調理技術を習得する。 〇献立作成、食文化等についての研究を挿入し、自主的な実習に取り組めるようにする。(課題の提出) 〇自己の食生活と関連づけて、実習に取り組めるようにする。 〇必要に応じて、実技テストおよび筆記テストを行う。
予習　復習	必要に応じて授業内で行う。
テキスト	新ビジュアル食品成分表(新訂版)　（大修館書店） メニューコーディネートのための「食材別調理集」第３版　（同文書院） 調理のためのベーシックデータ第４版　（女子栄養大学出版部）

学習評価の方法

・実習後の反省カード	１５％
・ペーパーテスト（１年間の内容）	１０％
・実習中の学習態度・調理技術	２０％
・研究献立の作成（魚の献立）（班）	２０％
・研究献立の作成（郷土料理）（個人）	２５％
・目ばかり・手ばかり	１０％

・課題の提出の遅れで、１点減点。

注意事項

参考図書等

新食品・栄養科学シリーズ「調理学」（木戸詔子・池田ひろ　編）　（化学同人）

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	オリエンテーション ・後期の調理学実習Ⅱについての説明 ○うどんの生地作り ○調理器具を確認し整える。 ○調理室の清掃
2 回	＜献立名＞ ぶっかけうどん　・うどんの切り方・茹で方 天ぷら盛り合わせ　・油と水の加熱・衣の役割・油脂の吸収率 ＊調理技術テスト・・・揚げ物の温度管理・うどんの茹で加減
3 回	＜献立名＞ 強飯　・もち米の蒸し方、振り水の必要性 菊花豆腐のすまし汁　・豆腐を菊花型にする切り方 わかめときゅうりの酢の物　・合わせ酢の調味料の比率、きゅうりの色の変化 ＊調理技術テスト・・・きゅうりの輪切りテスト（２回目）・・・前期との比較 強飯の蒸し加減
4 回	＜献立名＞ ご飯　焼き餃子　・中国料理の点心について 白菜のスープ　・白菜の切り方 オレンジゼリー　・カラギーナン（アガー）を使用したゼリー ＊調理技術テスト・・・餃子の具の包み方・餃子の焼き方
5 回	研究献立作成（魚を使った料理） ・調理学で得た知識を基に、各自が研究献立の意図を明確にした献立を作成した後 ○班で献立を作成する。（魚を使った料理） 食品構成・栄養価・価格・調理時間等を満たすことが条件
6 回	研究献立作成（魚を使った料理） ・調理学で得た知識を基に、各自が研究献立の意図を明確にした献立を作成 ○自分の作成した献立をプレゼンテーションする。（発表資料作成） 献立・作り方・アピールポイント（発表の評価）
7 回	研究献立の実習　・魚の特徴と栄養、魚の取り扱い方。 （魚を使った料理）　・臭み消しの方法 ・環境問題を考え調理操作が的確に実施できる。 ○他の班の献立（調理したもの）を見て評価する。（評価表）
8 回	＜献立名＞ 山路飯　・五目飯で秋の材料を使用する・炊き込み飯の塩分添加の時間 白和え　・伝統的な日本料理・豆腐の扱い方 すまし汁　・だしの取り方（混合だしの取り方） ＊調理技術テスト・・・炊き込みご飯の塩分の計り方（調味%）

9 回	＜献立名＞クリスマス行事食（１） 手作りパン　・短時間でできるパン(フォカッチャ) タンドリーチキン　・鶏肉の下処理方法、揚げ方 かぼちゃのポタージュ　・冬至のかぼちゃについて 添え野菜　・にんじんのグラッセの作り方 ＊調理技術テスト・・・鶏肉の下処理（切り込み）
10 回	研究献立作成（個人献立）　「　雑煮＋おかず２品　」 （正月料理）　・我が家の正月料理の見直し ・郷土食（行事食）の見直し（調査・研究） ○自分の古里の郷土料理（正月料理）について 食品構成・栄養価・価格・調理時間等を満たすことが条件
11 回	研究献立作成（個人献立）　「　雑煮＋おかず２品　」 （正月料理）　・我が家の正月料理の見直し ・郷土食の見直し（調査・研究） ○自分の作成した献立をプレゼンテーションする。（発表資料作成） 献立・作り方・アピールポイント・自分の郷土自慢等の紹介（発表・評価）
12 回	＜献立名＞ 巻きずし　・すし飯の作り方・巻き方 茶碗蒸し　・卵液の加熱温度（すだちの防止） ＊調理技術テスト　・巻きずしの巻き方 ・卵液の固まり方 ・ぎんなんの皮のむき方
13 回	研究献立の実習（個人）　「　雑煮＋おかず２品　」 ・我が家の正月料理の見直し （正月料理）　・祝いの膳の意味と整え方、正月の準備の仕方と行事食 ・郷土食の見直し（調査・研究） ○他の人の調理したものをバイキング形式で試食・評価（評価表）
14 回	＜献立名＞クリスマス行事食　（２） スパゲティナポリタン　・スパゲティの茹で方 フルーツサラダ　・野菜の茹で方 クリスマスケーキ　・スポンジケーキの作り方 ・デコレーションの仕方 ＊調理技術テスト　・スポンジケーキの膨らみ方 デコレーションの出来具合
15 回	＜献立名＞ ピザトースト・フレンチトースト・フルーツヨーグルト・紅茶・コーヒー等 ○反省（アンケートの記入） ＊自分の１年間に行った目ばかりやきゅうりの輪切りの計測データ分析をし、気づいたことをまとめる。 ○ペーパーテスト・・・１年間に学習したことから出題 ○調理器具等を洗浄し、整理整頓（調理室内の清掃）をする。

令　和　2　年　度　教　育　計　画							
科目名	調理学実習Ⅲ	授業回数	15	単位数	1	担当教員	小野　明子
質問受付の方法（e-mail、オフィスアワー等）：life-eiyou@hyper.con.ne.jp							

教育目標と学生の学習成果		教育目標：調理操作による食品素材の栄養特性と物性の変化について理解し、調理器具の使い方、調理法、献立の立て方、多様化した食品素材の選択と組み合わせ方に配慮し、安全性と嗜好性を満足させる調理方法を探求する。 学生の学習成果：管理栄養士に必要とされる知識、技能、態度及び考え方の総合力を養う。 専門的学習成果：生活習慣病の予防や治療、疾病の改善を行う必要がある病態別の献立作成や調理のポイントを理解し、食生活の重要性を理解する。 汎用的学習成果：伝承料理、客膳料理の調整に対応できるようにする。
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） 1．基本的食品や新しく開発された食品材料の調理法を習得させ、各自献立作成が出来るようにする。 2．日常における疾病の予防、回復のために役立つ調理法を修得し、生活習慣病の予防食や疾病の治療食に対応できるようにする。 3．行事食を取り込み、日本の食習慣も実習に加える。 4．実習はグループ制で行い、研究討議もグループ毎で取り組む。 5．授業終了時に「シャトルカード」に授業内容についての質問、感想などの記述を求める。次回の授業の時に質問に対する答え、またはコメントを記入して返却する。「シャトルカード」により学習進行状況を確認しながら授業を進める。
	予習・復習	予習事項：献立作成にともなう栄養計算等 復習事項：調理技術の向上
	テキスト	・「臨床栄養学 食事療法の実習」本田桂子編　　第 11 版　　医歯薬出版株式会社 ・プリント
学習評価の方法		日常食、生活習慣病の予防、疾病毎にそれぞれの献立・調理のポイントが理解できていること。 学習評価は、実習の技術（40 点）、実習のレポート（40 点）、実習の態度（20 点）とする。
注意事項		【参考図書】

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	オリエンテーション ・　食塩濃度の違いを体感
2 回	流動食 ・　種類と適応 ・　調理法と摂取時の工夫 ・　濃厚流動食の試飲と固形化 ・　半消化態流動食の試飲
3 回	乳・幼児疾患の栄養補給 ・　離乳期の栄養：離乳の開始→離乳の進行→離乳の完了 ・　離乳食の調理と形態の変化の比較 ・　ベビーフードの試食
4 回	軟菜食 ・　五分粥食と全粥食の調理と食形態の比較
5 回	嚥下障害の介護食とケア ・　ゼリー食の調理と工夫 ・　造粘剤の特性と活用 ・　自助具を使用して食事介助の実践
6 回	常食（和食）・・・① ・対象者：40 歳　女性　身体活動レベルⅡ ・１日エネルギー2000kcal の献立を２日分作成（各自） 基準：たんぱく質エネルギー比 20%未満、脂肪エネルギー比 20%以上 25%未満 炭水化物エネルギー比 50%以上６0%未満
7 回	常食（和食）・・・② ・対象者：40 歳　女性　身体活動レベルⅡ ・１日エネルギー2000kcal の献立を２日分作成（各自） ・実記献立の発表、材料の発注表作成（グループ）

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
8 回	常食（和食）・・・③ ・１日エネルギー2000kcal の実施・評価
9 回	エネルギーコントロール食・・・① ・　糖尿病食：１食当たりエネルギー550kcal～600kcal、食塩 2-3g の献立作成（各自） ・　材料の発注表作成（グループ）
10 回	蛋白質コントロール・減塩食 ・　慢性腎不全食の調理と工夫 ・　減塩調味料の活用 ・　カリウム・リン制限の調理の工夫 ・　治療用特殊食品の種類と適応と試食
11 回	エネルギーコントロール食・・・② ・　糖尿病食：１食当たりエネルギー550kcal～600kcal の実施・評価 　＊　治療用特殊食品の低甘味料の活用
12 回	小児食物アレルギー食 ・　代替食品の種類と適応 ・　米・小麦アレルギーの主食とおやつの対応と調理
13 回	在宅高齢者の宅配弁当・・・① ・　１食 500kcal の弁当の献立作成 ・　メッセージカードの作成 ・　レシピーの作成
14 回	在宅高齢者の宅配弁当・・・② ・　１食 500kcal の弁当の献立作成 ・　メッセージカードの作成 ・　実施献立の発表　レシピーの作成
15 回	在宅高齢者の宅配弁当・・・③ ・　１食 500kcal の弁当の調理をし、弁当容器に盛り付ける ・　写真に撮ってレシピーに貼る

令　和　２　年　度　教　育　計　画							
科目名	食品衛生学Ⅰ	授業回数	15	単位数	2	担当教員	狩山玲子
質問受付の方法（e-mail、オフィスアワー等）：rkariyama@owc.ac.jp；A303 在室時は何時でも可							

教育目標と学生の学習成果		教育目標：人が健康に生きる上で食生活の占める割合は非常に大きい。また、近年は“食品の安全性”に関する問題も多く、その問題の種類も多岐にわたるようになっている。本講義では健全な食生活を維持するために重要な食品衛生関連法規の理解と多様な食品安全対策の立案・実施に必要な基礎的事項の理解を深める。 学生の学習成果： 専門的学習成果：給食施設や食品企業などにおける衛生管理を実効あるものとして行える知識を蓄えていることを最大の達成目標としているので、食品衛生関係用語が理解でき、給食経営管理論関連の実習などで十分知識を発揮できることを学習の成果とする。 汎用的学習成果：“食品の安全性”に関する報道・情報を適切に判断して対応できること。
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） 教科書および配布資料を教材とする。また、各授業内容に関連する報道記事などを取り上げ、事例から学ぶ。毎回、予習事項と復習事項を記載した「宿題」を配布する。「授業に取り組む姿勢」については、第１回の授業において説明する。「宿題」、「宿題テスト」、「シャトルカード」などによって学習進行状況を確認し、次回以降の授業に反映させる。重要項目については、小テストなどを適宜実施して理解度を確認する。授業中の質問や発言は積極的に行うように求める。
	予習・復習	予習事項：毎回配布する「宿題」に予習事項を記載する。 次回の授業に関連する部分の教科書を通読すること。 復習事項：毎回配布する「宿題」に復習事項を記載する。 次回の授業開始時に「宿題」の提出を求め、「宿題テスト」を行う。
	テキスト	小塚 諭 編著（2019）「イラスト 食品の安全性（第３版）」 東京教学社 定価 2,500 円（税別）
学習評価の方法		定期試験（60%）、小テスト（10%）、「宿題」＆「宿題テスト」（20%）の成績に加えて、授業に取り組む姿勢（10%）を評価し、総合的に評価する。質問や日々の学習への取り組みを高く評価するので、「宿題」に記載している予習事項・復習事項などに積極的に取り組むことが重要である。私語などの授業受講態度についても評価対象とする。
注意事項		【参考図書】 授業中に適宜紹介する。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	授業の進め方についてシラバスを用いた説明 食品衛生学Ｉの授業で取り上げる項目についての全体的解説
2 回	食品衛生行政と法規 食品衛生行政のしくみ、食品衛生関連法規（食品安全基本法と食品衛生法など） （食品衛生行政を理解する）
3 回	食品の変質 食品衛生と微生物、食品の腐敗 （食品中での細菌の増殖について理解する）
4 回	食品の変質 油脂の酸敗、食品の変質防止法 （油脂の酸敗、食品の変質（腐敗・酸敗）防止について理解する）
5 回	食中毒の定義と種類、食中毒の発生状況 （食中毒を起こす要因についての理解を深める）
6 回	自然毒（植物性・動物性）食中毒、化学性食中毒 （微生物以外の食中毒の原因物質を理解する）
7 回	微生物による食中毒（１） ①　食中毒の原因微生物の特徴 （細菌性食中毒を理解する）

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
8 回	微生物による食中毒（２） ② 食中毒の原因微生物の特徴 （細菌性・ウイルス性食中毒を理解する）
9 回	食品による感染症・寄生虫症 消化器系感染症、人獣共通感染症、食品から感染する寄生虫症 （経口感染症を理解する）
10 回	食品衛生管理 （HACCP システムの概要について理解する）
11 回	食品中の汚染物質（１） カビ毒（マイコトキシン）、化学物質（農薬、ダイオキシン類など） （汚染物質の種類と性質を理解する）
12 回	食品中の汚染物質（２） 重金属、食品成分の変化により生じる有害物質、異物混入 （汚染物質の種類と性質を理解する）
13 回	食品添加物とは 食品添加物の概念、メリットとデメリット、安全性評価 （食品添加物の使用について理解を深める）
14 回	食品添加物の種類と用途 （食品添加物の使用について理解を深める）
15 回	講義全体のまとめ

令　和　２　年　度　教　育　計　画							
科目名	食品衛生学Ⅱ	授業回数	15	単位数	2	担当教員	狩山玲子
質問受付の方法（e-mail、オフィスアワー等）：rkariyama@owc.ac.jp；A303 在室時は何時でも可							

教育目標と学生の学習成果		教育目標：現代の食生活における食品の安全性や健全性を確保するために必要な知識の理解力や説明能力を高めることを目指す。特に、食品や食品の器具・容器包装中に存在する物質による発がん促進や、食品等に混入の危険性が高い物質の種類とその作用に関する理解を深める。将来起こりうる食料危機に関連して、わが国における食料自給率の現状と食品の有効利用や輸入食品にも関連する遺伝子組換え食品や放射線照射食品等についての解説を加え、食品の安全性の正しい理解と食品の有効利用に関連した知識の蓄積を求める。 学生の学習成果： 専門的学習成果：給食施設や食品企業などにおける衛生管理を実効あるものとして行える知識を蓄えていることを最大の達成目標としている。 汎用的学習成果：“食品の安全性”に関する報道・情報を適切に判断して対応できること。
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） 教科書および配布資料を教材とする。また、各授業内容に関連する報道記事などを取り上げ、事例から学ぶ。毎回、予習事項と復習事項を記載した「宿題」を配布する。「授業に取り組む姿勢」については、第１回の授業において説明する。「宿題」、「宿題テスト」、「シャトルカード」などによって学習進行状況を確認し、次回以降の授業に反映させる。重要項目については、小テストなどを適宜実施して理解度を確認する。授業中の質問や発言は積極的に行うように求める。
	予習・復習	予習事項：毎回配布する「宿題」に予習事項を記載する。 次回の授業に関連する部分の教科書を通読すること。 復習事項：毎回配布する「宿題」に復習事項を記載する。 次回の授業開始時に「宿題」の提出を求め、「宿題テスト」を行う。
	テキスト	食品衛生学Ｉで使用した教科書 小塚 諭 編著（2018）「イラスト 食品の安全性（第３版）」 東京教学社 定価 2,500 円（税別）
学習評価の方法		定期試験（60%）、小テスト（10%）、「宿題」＆「宿題テスト」（20%）の成績に加えて、授業に取り組む姿勢（10%）を評価し、総合的に評価する。質問や日々の学習への取り組みを高く評価するので、「宿題」に記載している予習事項・復習事項などに積極的に取り組むことが重要である。私語などの授業受講態度についても評価対象とする。
注意事項		【参考図書】 授業中に適宜紹介する。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	授業の進め方についてシラバスを用いた説明 食品衛生と法規 （食品衛生行政について理解を深める）
2 回	新しい食品等の安全性問題 遺伝子組換え食品、ゲノム編集食品、放射線照射食品 （食料政策と食品の安全性問題について理解を深める）
3 回	食品添加物の有用性と安全性① 食品添加物の安全性評価、健康障害 （食品添加物の安全性評価と使用基準・成分規格を理解する）
4 回	食品添加物の有用性と安全性② 食品添加物の種類と用途 （食品添加物の使用について理解を深める）
5 回	食品の変質と有害物質 腐敗（微生物による変質）、油脂酸敗（化学的変質）、食品衛生管理 （食品の変質機構と食品衛生管理について理解を深める）
6 回	食品汚染と有害物質 食品の器具・容器包装中に存在する有害物質、食品中の有害物質 （食品中の危害要因について理解する）
7 回	食品汚染と健康障害（１） 食品汚染物質・食品中の有害物質（自然毒を含む）による健康障害 （食品汚染がもたらす健康障害を理解する）

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
8 回	食品汚染と健康障害（２） ① 食品等に含まれる長期的健康障害物質（発がん物質、内分泌かく乱物質など） ② 食品成分の変化により生じる有害物質や劣化食品による健康障害 （食品汚染がもたらす健康障害を理解する）
9 回	食品汚染と健康障害（３） ① 微生物による汚染（細菌性食中毒） （微生物による食品汚染の実態と健康障害を理解する）
10 回	食品汚染と健康障害（４） ② 微生物による汚染（細菌性食中毒、ウイルス性食中毒） （微生物による食品汚染の実態と健康障害を理解する）
11 回	食品汚染と健康障害（５） ① 食品による感染症・寄生虫症（感染症法、消化器系感染症、人獣共通感染症） （微生物・寄生虫による食品汚染がもたらす健康障害を理解する）
12 回	食品汚染と健康障害（６） ② 食品から感染する寄生虫症 （微生物・寄生虫による食品汚染がもたらす健康障害を理解する）
13 回	食品と薬物の相互作用（１） 食品が薬物に及ぼす影響、異物代謝機構 （食品と薬物との関わりを理解する）
14 回	食品と薬物の相互作用（２） 相互作用による薬効の変化 （食品と薬物との関わりを理解する）
15 回	講義全体のまとめ

令　和　２　年　度　教　育　計　画							
科目名	食品衛生学実験	授業回数	15	単位数	1	担当教員	狩山玲子
質問受付の方法（e-mail、オフィスアワー等）：rkariyama@owc.ac.jp; A303 在室時は何時でも可							

教育目標と学生の学習成果		教育目標：食品の衛生管理に関係した検査の基礎手技を習得し、食事・栄養指導時における説明能力を高める。このため衛生試験法に基づく微生物の分離・同定、各種食品添加物の検出、水質検査等を行い、検査結果に関する考察能力を高める。また、HACCP システムに関するシミュレーション実習を行い、HACCP システムを実施する上での理解力の向上を目指す。 学生の学習成果： 専門的学習成果：食の安全に関わる検査における基本操作、及び関連知識を理解し、給食施設や食品企業などの現場での衛生管理に応用できる技能を習得している事を学習の成果とする。 汎用的学習成果：“食品の安全性”に関する報道・情報を適切に判断して対応できること。
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） 授業は主として配布資料を用いて説明を行うが、詳細な事項や実験原理等については教科書を使用する。実験においては、授業参加者全員が必ず実験操作を行うように実験項目を組み立てているので、全員が主体的に実験に参加することを求めている。特に、病原細菌を取り扱う実験では、細心の注意を払う必要がある。 食品衛生法施行規則第 50 条第 4 号で規定された機械器具を用いた授業のほとんどは、機器の充実している倉敷市水道局浄水課水質試験センターの協力の基、授業の 1 回分を利用して、午後半日を用いた見学・研修授業を実施する。
	予習・復習	予習事項：毎回配布する「宿題」に予習事項を記載する。 次回の授業に関連する部分の教科書を通読すること。 復習事項：毎回配布する「宿題」に復習事項を記載する。 次回の授業開始時に「宿題」の提出を求め、「宿題テスト」を行う。
	テキスト	後藤政幸 編著（2015）「N ブックス実験シリーズ　改訂 食品衛生学実験」 建帛社 定価 2,000 円（税別）
学習評価の方法		実験・実習（1～3 回分）をまとめて 6 回のレポートとして提出、1 回当りのレポートを 10%または 15%（6 回のレポートの総計 70%）の成績とし、これに授業中に実施する宿題テストや最終（総合）テストの成績を加える（15%）。授業受講態度、グループ学習、実験や片付けなどへの取り組み、「宿題」・「ノート作成」・「レポート作成」への努力・工夫も評価対象（15%）とする。
注意事項		【参考図書】 小塚 諭 編著（2017）「イラスト 食品の安全性」 東京教学社　定価 2,500 円（税別） （食品衛生学Ⅰおよび食品衛生学Ⅱで使用したテキスト） 日本フードスペシャリスト協会 編（2018）「三訂 食品の安全性」 （食品品質管理論で使用するテキスト） 【授業回数別教育内容（実験・実習）の順番】 実験用資材の入手状況や水質試験センターの状況などにより変更することがある。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	授業の進め方についてシラバスを用いた説明 1）実験を安全に行うための注意事項の説明 2）実験ノート・レポートの取りまとめ方の説明
2 回	（1）食品添加物検査、亜硝酸塩の検出と定量 （添加物について理解する）
3 回	（2）微生物実験の基本操作・無菌操作 液体培地・平板培地の作製、検体の採取法、液体培地・平板培地での培養 （微生物取り扱いの基本技術を理解する）
4 回	（3）細菌の観察 単染色、光学顕微鏡での観察 （実験器具の取り扱い方法を理解する）
5 回	（4）細菌の観察 グラム染色、光学顕微鏡での観察、細菌増殖曲線の作成 （菌の特徴と細菌の増殖速度について理解する）
6 回	（5）鼻腔及び皮膚の細菌検査、環境調査 （人体・環境と微生物の関わりを理解する）
7 回	（6）手指の細菌検査 グローブ・ジュース法による手指の細菌数測定と手洗い効果の判定 （人体と微生物の関わりと消毒法の問題点を理解する）

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
8 回	（７）細菌の培養・検査法 選択培地の原理と調製法、大腸菌群の検査法、生菌数測定の準備 （食品衛生分野における細菌検査法を理解する）
9 回	（８）食品からの細菌の分離 食品材料からの細菌の分離 （食材中における微生物の特徴を理解する）
10 回	（９）食品検査のまとめ、HACCP による衛生管理 （食品中の危害要因について理解を深める）
11 回	(10) HACCP システムに関するシミュレーション実習 ① 基本計画書の作成 (HACCP について理解を深める)
12 回	(11) HACCP システムに関するシミュレーション実習 ② 危害要因分析、作業動線、食中毒事件対応 （現場における衛生管理を理解する）
13 回	(12) 検査機器の基本理論と使用の実際（見学・研修予習授業）
14 回	倉敷市水道局水質試験センターでの検査技術に関する見学・研修授業 （午後半日を使用して実施）
15 回	実験全体の取りまとめと総合テスト

令　和　２　年　度　教　育　計　画							
科目名	基礎栄養学	授業回数	15	単位数	2	担当教員	竹 原 良 記
質問受付の方法（e-mail,オフィスアワー等）：Ａ棟４０５研究室　この授業の後と昼の休み時間							

教育目標と学生の学習成果		本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である 教育目標：　あなたたちが管理栄養士として活動（栄養評価や食事指導）するためには、正しい栄養学を身につけることが大切です。この授業では栄養の知識を体系的に理解し、身の回りに栄養に関連した問題があることに気付いてもらうことが目標です。 学生の学習成果 専門的学習効果：　管理栄養士として必要な栄養の基本（栄養と栄養素、エネルギーの考え方、食べ物の消化・吸収、体内での栄養素の変化と役割および栄養と遺伝の関係など）を概説できる。 汎用的学習成果：栄養に関連した諸問題（生活習慣病や食の安全など）が現代人に身近なものであることが理解できるようになる。
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） テキストの各章に沿って、＜テーマ＞を中心にいくつかポイントを選んで説明します。次ページの教育内容にはテーマ項目の一部しか掲載していませんが、他の項目を説明しないという意味ではありません。また、テキストの図や表は理解の基本となるものです。理解する上でテキストの記述はあなたを助けるでしょう。「追加学習」として教科書の内容に加えて、関連の深い内容のハンドアウトを配布して学習します。 あなたの理解を深めるために、教科書の各章の最後にまとめの問題を課します。また、国試の簡単なレベルの問題を解いていきます。 授業中には、いつでも質問を受け付けます。また、授業中に質問できなかったことをシャトルカードに書けば、次回に答えを用意します。
	予習・復習	忙しいでしょうが、ホームワークはタイミングも重要です。 予習事項：授業の前日に授業範囲のテキストを読んでください。 復習事項：授業のあった日にテキストを読み返し、自分のノートを完成させましょう。
	テキスト	「イラスト基礎栄養学　」田村　明他著、東京教学社 本書は初学者が栄養学の概略を学ぶのに適していて、その後の卒業まで役立つ情報が書かれています。ぜひとも、書かれている内容をすべて読んで理解し、身につけて欲しいと思います。
学習評価の方法		到達基準：　栄養素の基本的な働きや、体内での栄養素相互の関係と健康との関連性が体系的に理解できていること。 評価基準：　上記の内容についての期末定期試験の成績（80%）と、加えて日頃からの学習意欲（各章章末問題および練習問題に解答する等）（10%）とを加えて専門的学習成果として評価します。また、授業への積極的な参加（自分の意見を発表する、質問をするなど）（10%）を汎用的学習成果として評価します。　上記の評価を合わせて総合評価とします。
注意事項		学習する上で参考となる図書等： 第０巻　導入教育　信頼される専門職となるために」特定非営利活動法人　日本栄養改善学会、2011 年、医歯薬出版。 「マンガでわかる栄養学」　２０１３年、薗田　勝、オーム社。 「決定版　栄養学の基本がまるごとわかる事典」2015 年、足立香代子監修、西東社。など

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	・オリエンテーション 　講義方法、復習法、予習法、教科書、参考書、定期試験のあり方について説明します。 **第１章　栄養の概念１** 　栄養学を学ぶにあたって踏まえておきたい基礎的事項について理解する。
2 回	**第１章　栄養の概念２** 　健康と栄養素、栄養素研究の歴史について理解する。 **第２章　食物の摂取** 　食べ物を摂取するタイミングについて理解する。
3 回	１、２章章末問題 **第３章　消化・吸収と栄養素の体内動態１** 　消化器系の構造と働きについて理解する。
4 回	**第３章　消化・吸収と栄養素の体内動態２** 三大栄養素（糖質、脂質、たんぱく質）の消化吸収について理解する。
5 回	３章章末問題（消化吸収） **第４章　たんぱく質の栄養１** 　たんぱく質はどんな性質を持つ物質であるかを理解する。
6 回	**第４章　たんぱく質の栄養２** 　栄養価を理解する。
7 回	４章章末問題（たんぱく質） **第５章　糖質の栄養** 　食事のタイミングと糖代謝を理解する。
8 回	５章章末問題（糖質） **第６章　脂質の栄養** 　脂質の種類とはたらきを理解する。
9 回	６章章末問題（脂質） **第７章　ビタミンの栄養** 　ビタミンの種類とはたらきを理解する。
10 回	７章章末問題（ビタミン） **第８章　ミネラル（無機質）の栄養** 　ミネラルの種類とはたらきについて理解する。
11 回	８章章末問題（ミネラル） **第９章　水・電解質の栄養的意義** 　水分の出納と電解質の働きを理解する。
12 回	９章章末問題（水・電解質） **第１０章　エネルギー代謝** 　エネルギー代謝を理解する。
13 回	１０章章末問題（エネルギー代謝） ☆消化と吸収の復習
14 回	練習問題 ☆３大栄養素の代謝の復習
15 回	練習問題 ☆エネルギー代謝についての復習 まとめ 　定期試験についての学習ポイントを説明します。

令　和　２　年　度　教　育　計　画							
科目名	基礎栄養学実験	授業回数	15	単位数	1	担当教員	竹原良記
質問受付の方法（e-mail,オフィスアワー等）：Ａ棟４０５研究室　この授業の後と昼の休み時間							

教育目標と学生の学習成果		教育目標：本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である 基礎栄養学において栄養に関して学んだことを基に、本実験を通して栄養の知識を深め、論理的な考え方およびその記述能力を習得すること、また基本的な実験手技およびデータの処理技術を習得することを目標とする。 学生の学習成果： 専門的学習成果：管理栄養士に必要とされる知識（栄養素の性質、消化、代謝に対する理解）が深まり、栄養のテーマに対して論理的に考え、記述説明する能力があがる。 汎用的学習成果：基本的な実験手技およびデータ処理ができる。加えてグループワークによりコミュニケション能力が養われる。
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） 毎回、授業の終了前に、次回の実験の目的、アウトラインを説明する。授業当日は、その日の実験項目についての手技の説明をして作業確認を行った後、実験を行う。 実験は少人数のグループに分けてローテーションまたは分担して行う。実験前にグループ内で実験内容を確認し合い、実験は間違わずに慎重に行なうこと。実験結果をノートや携帯写真などの証拠に残すこと。 実験テーマ毎に実験レポートを、各々個人で完成させて指定日に提出してもらう。提出されたレポートは評価後に後日返却する。
	予習・復習	予習：実験の流れを確認してから授業に臨むこと。
	テキスト	印刷物を配布する
学習評価の方法		到達基準：　実験を正しく、積極的に行動できること。および実験レポートが所定の書式により書かれ、かつ専門的な知識および記述能力がついていること。 評価方法：〇実験態度（よく聞く、正しく行動する、積極的に行動する）については、毎回の授業ごとに「２：よい。１：悪い。０：欠席。」の３段階で評価する。〇実験レポートについては、レポートごとに「５：考察まで書かれている。４：結果を理解している。３：結果まで書かれている。２：行った方法までは書かれている。１：方法が正しく書かれていない。」の５段階で評価する。なお、レポート提出期限に遅れると評価を２段階落とす。 成績は、実験態度の評価（30%）とレポートの評価（70%）を合計して、その得点率を総合評価とする。
注意事項		参考図書等：基礎栄養学実験（建帛社） 実験室内では白衣で動きやすい靴を着用すること。 実験には準備が必要なので、予め欠席することが分かっている場合には、事前に知らせること。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	**I. オリエンテーション** レポートなど一般的な注意事項や、基礎的な数字の取り扱い方の説明をする。 **Ⅱ.ミニ実験①** 実験器具・機器の安全な取り扱いに慣れる。（溶液の定量技術の定着）
2 回	**Ⅱ.ミニ実験②** データ処理の方法（データの統計的な取り扱い） **Ⅵ. 栄養代謝実験：**動物実験の説明（成長実験）
3 回	レポート提出（ミニ実験） **Ⅲ. 栄養素の実験（糖質①）** 糖質のいろいろな定性実験を通して糖質の性質を理解する。（試薬の調製）
4 回	**Ⅲ. 栄養素の実験（糖質②）** 糖質の定性実験を行う。 （ヨウ素デンプン反応、ベネディクト反応、セリワノフ反応、色素との反応）
5 回	**Ⅲ. 栄養素の実験（糖質③）** 唾液によるでんぷん消化に及ぼす pH の影響。（糖の加水分解反応）
6 回	**Ⅲ. 栄養素の実験（糖質④）** 唾液によるでんぷん消化に及ぼす pH、温度の影響。
7 回	糖質の実験のまとめのレポート作成・提出。 **Ⅳ. 栄養素の実験（脂質①）** 脂質の定性実験を通して脂質の性質を理解する。 （溶解度、乳化試験、リーベルマン・ブルハルト反応）
8 回	**Ⅳ. 栄養素の実験（脂質②）** 脂質についての定性実験を行う。 リパーゼによる脂肪の消化実験を行う。消化物は次回の実験に使う。
9 回	**Ⅳ. 栄養素の実験（脂質③）** 前回行った脂肪の消化物を薄層クロマトグラフィーにより分析する。（脂質の抽出）
10 回	脂質の性質：実験のまとめのレポート作成・提出。 **Ⅴ. 栄養素の実験（たんぱく質①）** たんぱく質のいろいろな定性実験を通してたんぱく質の性質を理解する。 たんぱく質の定性反応（等電点沈殿）
11 回	**Ⅴ. 栄養素の実験（たんぱく質②）** たんぱく質の呈色反応（ニンヒドリン反応、キサントプロテイン反応、ホプキンス・コーレ反応、酸凝固、沈殿反応など）
12 回	**Ⅴ. 栄養素の実験（たんぱく質③）** ペプシンによるたんぱく質消化に及ぼす pH の影響
13 回	たんぱく質の実験のまとめのレポート作り、提出 **Ⅵ. 栄養代謝実験①** 実験動物の栄養状態の把握、実験動物の解剖、組織重量の測定
14 回	**Ⅵ. 栄養代謝実験②** 血糖、中性脂肪、総たんぱく質の定量
15 回	栄養代謝実験のまとめのレポート作成、提出 実験の後始末、整理、総まとめ

令　和　２　年　度　教　育　計　画							
科目名	運動栄養学	授業回数	15	単位数	2	担当教員	清水　憲二

質問受付の方法：(質問票、e-mail,オフィスアワー等)：シャトルカード、shimizu@owc.ac.jp　、オフィスアワー：在室時はいつでも対応するが、特に月曜日午前１０時～１２時が望ましい。

教育目標と学生の学習成果

教育目標：

運動・トレーニングに伴う栄養所要量とエネルギー代謝、運動と栄養素の関係、運動と栄養補給との関係、並びに運動選手とのコミュニケーションおよび栄養管理について学習する。身体組成と食事の関連性や健康維持を目標とする際の運動の重要性が理解できることを目標とする。

学習成果：

運動・トレーニングを行なっている人の身体的状況判断、状況判断に対応できる基礎知識と思考力、および判断に基づいた考えを伝えるコミュニケーション能力が身についていること。

教育方法

授業の進め方

(講義・演習・実験・実習・実技)

教科書（「運動生理・栄養学」建帛社）に沿って講義形式で授業を行う。重要項目は理解を助けるために重点的にプリントあるいは板書を行ない，説明をする。

講義に際しては、シャトルカードで毎回質問を提出してもらい、翌週にそれらの回答プリントを配布して、個人毎の疑問に答える。定期試験以外にも予習、復習についての小テストを適宜行ない、知識の自己点検と予習、復習の評価を行なう。

予習・復習

予習：シラバスまたは講義の進捗状況に従って，テキストの予定講義範囲を読んでおき、予習復習の小テストに備えるほか、シャトルカードに記入する質問を自力で発見して記録しておく。

講義中：自らの手を動かし，ノートを作成するのが受講の基本である。予習および講義中に疑問点を発見したら、必ずシャトルカードに質問として提出する！

復習：講義があった日は，必ず教科書の該当部分を読み直して，予習復習の小テストに備える。また、シャトルカードの質問箱回答プリントを熟読し、他の学生の質問とその回答も含めて、ノートを完全にしておく。

テキスト

高松薫、山田哲雄　編集・Ｎブックス「運動生理・栄養学（第３版)」，建帛社、2.200 円＋税

必要に応じて３年次の運動生理学の教科書：樋口、湊、寺田　著（2018）「栄養・スポーツ系の運動生理学」南江堂、も講義資料として使用する。

成績評価の方法

運動と栄養との相関概念，運動不足による生理機能低下が如何に健康に影響を与えるか，運動による身体の生理機能の向上について理解ができていることを単位の認定基準とする。運動の意義について理解をしている事を前提とし，小テスト（10 点）と期末試験の合計点数が 100 点満点中 60 点以上であること。　学期中に行なう小テストは自己評価を主な目的とするが、予習／復習の状況を正確に反映するので、成績評価にも 10 点程度勘案する。

注意事項

参考図書：

Fred Brouns・(1997)・スポーツ栄養の科学的基礎・(樋口満監訳)・杏林書院

小林修平（1995）スポーツ指導者のためのスポーツ栄養学，南江堂

授業中の私語は固く禁じる（退室を命じることもある)。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1回	オリエンテーション：シラバスの説明 　授業の進め方、予習および復習の必要性について説明する。 　運動・トレーニングにおける栄養学とは何なのか、大まかに全体像を把握する。 　３年次後期で学習した「運動生理学」の復習テストを行なう。
2回	復習テストの解説と確認 健康・体力づくりの意義と運動の効用： 　栄養、運動、休養、運動不足の悪影響、運動と QOL などについて学習する。
3回	復習内容の確認 運動・トレーニングと身体の応答： 　健康・体力と身体諸機能、生体内代謝との関係について学習する。 運動・トレーニングによる身体諸機能の変化（１） 　神経と感覚器系、骨格と筋肉系、呼吸と循環器系
4回	復習内容の確認 運動・トレーニングと身体の応答： 運動・トレーニングによる身体諸機能の変化（２） 　内分泌系、消化器系、泌尿器系、体温調節機能、免疫系
5回	復習内容の確認 運動・トレーニングと身体の応答： 運動・トレーニングによる生体内代謝の変化（１） 　エネルギー、炭水化物、脂質
6回	復習内容の確認 運動・トレーニングと身体の応答： 運動・トレーニングによる生体内代謝の変化（２） 　タンパク質、ビタミン、無機質
7回	復習内容の確認 トレーニングと食生活： トレーニングの基本的な考え方 　トレーニングの定義・原則および手順について学習する。 トレーニングの実際 　トレーニングの目標、運動の作り方（筋力運動、パワー運動、エアロビック運動、計画の立て方、体力水準、効果の評価の仕方等）について学習する。特に、運動によるエネルギー消費量の計算法を修得し、減量や増量の目標設定と検証に役立てる。
8回	復習内容の確認 食生活の基本的な考え方 　公衆栄養学の範囲ではあるが「食生活と健康日本 21」、「食生活指針」、「食事バランスガイド」「食事摂取基準」について簡潔に再度復習する。 　健康増進・競技力向上のための食生活について学習する。

9 回	復習内容の確認 成長期のトレーニング 健常者：成長期（幼児期、学童期、思春期）の身体的特性について学習する。 健常者：幼児期、学童期、思春期の身体的特性と体力に合わせたトレーニングの方法について学習する。 成長期の食生活 幼児期、学童期、思春期の身体的特性と運動に必要なエネルギー摂取とその方法について学習する。
10 回	復習内容の確認 成人期の機能的特性 成人の食生活（特徴、問題点、留意事項）について学習する。 成人期の機能的特性 身体的、精神的、社会的特性とトレーニングについて学習する。 トレーニングの方法（筋力、エアロビック、ストレッチ、コーディネイション運動）について学習する。
11 回	復習内容の確認 高齢期の機能的特性 高齢期の身体的、精神的、社会的特性について学習する。
12 回	復習内容の確認 高齢期の機能的特性 高齢期のトレーニング・運動の行い方（筋力、エアロビック、ストレッチ等）を学習する。 高齢期の食生活（特徴、問題点、留意事項）について学習する。 この段階で、中間テストとしての小テストを行なう。
13 回	復習内容の確認 競技者の機能的特性 トレーニングの種類（トレーニングの種類による違い）とその効力（トレーニングで得た能力のフィールドへのフィードバック）について学習する。
14 回	復習内容の確認 競技者の機能的特性 トレーニング期、試合期における食事内容、食事の摂取タイミングなどを学ぶ。
15 回	復習内容の確認 有疾患者への運動・食事療法 （高血圧症、糖尿病、虚血性心疾患に対する食事および運動療法について学習する（重要）。

令　和　２　年　度　教　育　計　画							
科目名	応用栄養学	授業回数	15	単位数	2	担当教員	竹 原 良 記
質問受付の方法（e-mail, オフィスアワー等）：A棟 405 研究室　この授業の後と昼の休み時間							

教育目標と学生の学習成果		教育目標：本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である 応用栄養学では、「基礎栄養学」で学んだ知識・理解をもとに、ライフステージ別・運動および特殊環境（ストレス、低温高温・低圧高圧環境など）の各種の環境別の栄養特性から栄養ケアの知識を身につけること、および食事摂取基準指標算定の基礎理論を理解し、栄養評価や栄養教育に活用できることを教育目標とする。 学生の学習成果： 専門的学習成果：　ライフステージおよび運動・特殊環境下における栄養特性や栄養ケアのあり方について理解し、献立作成や栄養指導に活用することができる。食事摂取基準の指標算定の基礎理論を概説できる。 汎用的学習成果：話をよく聞く、質問に答える、課題に対応する。
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） １．授業中はテキストの各章毎に要点を拾いだして説明する。テキストにない補足事項をハンドアウトにして配布し説明するのでまとめて学習知識を深めていく。 ２．ハンドアウトの資料と対応させた授業ノートを自分で作ること ３．ライフステージ別および環境別の重要な問題点（項目）を把握しやすくするために、各章終了時に、自宅学習で練習問題に解答しておく。 ４．各章の終了後の次回授業時にその章についての小テストを行う。 ５．シャトルカードを利用して学生の疑問点に対して教員が答える。
	予習・復習	予習項目：授業までにテキストを読んで、１回分（１章分）の大筋を把握しておく。 復習項目：授業のあった日にハンドアウトとテキストで内容の確認し、授業ノートを完成させる。
	テキスト	「イラスト　応用栄養学」、田村　明ら著、東京教学社
学習評価の方法		到達基準：　栄養分野の基本的な知識を体系的に理解でき、ライフステージ別および各種環境別の栄養特性と栄養ケアについて理解できているか、食事摂取基準指標算定の考え方が理解できていること。 評価方法：　授業への積極的な参加（自分の意見を述べる、質問に答えるなど）（10%）と日頃からの学習（練習問題に解答する等）（10%）、および期末試験の結果に 80%の重みを付けて１００点満点とする。
注意事項		参考図書：「日本人の食事摂取基準　」第一出版 「応用栄養学実習ワークブック」第２版　みらい

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	オリエンテーション **第３章　成長・発達・加齢** 　加齢と食生活、生活リズムと食生活について概説する。 第３章練習問題
2 回	**第４章　妊娠期・授乳期①** 　妊娠期の生理的特徴、つわり、妊娠悪阻、妊娠貧血・妊娠高血圧症候群・妊娠糖尿病
3 回	**第４章　妊娠期・授乳期②** 　妊娠悪阻、妊娠貧血・妊娠高血圧症候群・妊娠糖尿病の栄養ケアのあり方について
4 回	**第４章　妊娠期・授乳期③** 　授乳期の生理的特徴・母乳の特徴について
5 回	第４章練習問題 **第５章　新生児期・乳児期①** 　新生児期・乳児期の特徴、乳児期の食事摂取基準について
6 回	**第５章　新生児期・乳児期②** 　新生児期・乳児期栄養の諸問題（母乳栄養と人工栄養、混合栄養、離乳期の栄養）
7 回	第５章練習問題 **第６章　成長期（幼児期）①** 幼児期の身体的特徴と栄養上注意すべき点、食事摂取基準、間食
8 回	**第６章　成長期（学童期）②** 　学童期の発育、学童期の食事摂取基準、学校給食、学童期の栄養障害について 　小児の生活習慣病（肥満、メタボリックシンドローム、貧血等）の判定方法について
9 回	**第６章　成長期（思春期）③** 　思春期の成長と発育、思春期栄養の特徴、栄養異常と関連疾患、思春期の食事摂取基準
10 回	第６章練習問題 **第７章　成人期** 　生活習慣病、更年期の身体の変化、実年期・高齢期の疾患予防について
11 回	第７章練習問題 **第８章　高齢期** 生体の加齢変化、食生活の特徴と栄養管理、高齢期の疾患予防、食事摂取基準について
12 回	第８章練習問題 **第９章　運動・スポーツと栄養** 運動とエネルギー代謝、健康増進と運動、スポーツと体力、トレーニングと栄養補給
13 回	第９章練習問題 **第１０章　環境と栄養** 　ストレスと栄養、低温・高温環境と栄養、低圧・高圧環境と栄養、無重力と栄養
14 回	第１０章練習問題 　まとめ
15 回	まとめ 定期試験の内容について、学習のポイントを説明する。

令　和　２　年　度　教　育　計　画							
科目名	栄養アセスメント	授業回数	15	単位数	2	担当教員	竹原良記
質問受付の方法（e-mail,オフィスアワー等）：Ａ棟４０５研究室　この授業の後と昼の休み時間							

教育目標と学生の学習成果		教育目標：本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である 栄養アセスメントの手段として用いられる身体計測法、生化学検査法及び臨床検査法等の理論と方法、および日本人の食事摂取基準を理解する。また、これらの成績に基づいた個々人に適した栄養管理（栄養ケア・マネジメント）を行うための理論と方法についての基礎理論を習得する。 学生の学習成果：本科目においては栄養状態を把握するための方法を体系的に修得できるとともに、この領域での考え方等の総合的能力を培うことを学習成果とする。そのために各種栄養アセスメントの必要性が理解でき、栄養ケア計画の作成に必要な情報の収集や栄養療法の適切性をモニターできる知識の蓄積が図れる。また、情報収集力などを含めた汎用的学習成果の向上が図れる。
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） 授業はテキストを配布し中心に進めるが、人体や栄養についての医学・栄養基礎知識の蓄積と栄養状況把握法の理解を求めているので、用語等に関する小テストや、宿題（レポート他）を課する。 専門用語が多いので、講義で出てきた用語を十分理解していること。 難解な用語については授業・またはシャトルカードなどで積極的に質問するなどして解決を図ること。
	予習・復習	予習：前回の授業において予習内容については指示を与えるが、それ以外にもテキストの講義範囲によく目を通しておく事。 復習：講義で出てきた用語を十分理解するために、必ずノートを作ってまとめていること。
	テキスト	「イラスト　応用栄養学」、田村　明ら著、東京教学社 「日本人の食事摂取基準〈2020 年版〉」、第一出版
学習評価の方法		到達基準：身体計測、生化学検査及び臨床検査項目の理論と方法、および日本人の食事摂取基準を理解し、これらの成績に基づいた個々人に適した栄養管理（栄養ケア・マネジメント）を行うための理論と方法についての基礎理論を習得している。 学習評価の方法は、期末試験結果を 80％と、日頃からの学習（練習問題に解答する等）(10%)とし、汎用的学習成果に関しては授業への積極的な参加（話をよく聞く、質問に答えるなど）(10%) として評価する。
注意事項		よくわかる「栄養ケア・マネジメント」ハンドブック。西堀すき江　編、中央法規

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	授業の進め方についての説明とシラバス解説 Ⅰ．栄養ケア・マネジメント（1） 1）マネジメントの流れ PDCA サイクル　/ 栄養状態の評価 / 栄養アセスメントの分類 達成目標：栄養ケア・マネジメントの流れを概説できる。
2 回	☆練習問題：栄養ケア・マネジメントの概念 Ⅱ．食事摂取基準（1） 指標の概要と策定方法、活用に関する基本的事項 達成目標①様々な指標を理解する
3 回	Ⅱ．食事摂取基準（2） 総エネルギー必要量算定の根拠 達成目標①必要エネルギー算定方法を理解する
4 回	☆練習問題：食事摂取基準（総論・エネルギー） Ⅱ．食事摂取基準（3） エネルギー産生栄養素の必要量算定の根拠 達成目標①エネルギー産生栄養素算定方法を理解する
5 回	Ⅱ．食事摂取基準（4） ビタミン・ミネラルの必要量算定の根拠 達成目標①ビタミン・ミネラルの算定方法を理解する。
6 回	☆練習問題：食事摂取基準（各種栄養素） Ⅰ．栄養ケア・マネジメント（2） 2）栄養状態の評価 栄養スクリーニング：主観的栄養アセスメント、MUST, MNA, SGA 達成目標：栄養スクリーニングを理解でき、目的や対象により適切なスクリーニング方法が選択できる。
7 回	Ⅰ．栄養ケア・マネジメント（3） 3）　栄養アセスメント：　A、B、C、D 3－1）A. 身体計測アセスメント（Anthropometric assessment） 身長と体重 / 体脂肪 / 骨格筋 / その他 到達目標：身体計測の内容を理解できる。
8 回	Ⅰ．栄養ケア・マネジメント（4） 3－2）B. 臨床検査の方法（血液生化学検査、生理機能検査、画像検査） 血液検査（たんぱく質、糖質、脂質） 到達目標：血液検査の評価を理解できる。

9 回	☆中間テスト：栄養ケア・マネジメントのプロセス Ⅰ．栄養ケア・マネジメント（５） ３－２）B. 臨床検査の方法（血液生化学検査、生理機能検査、画像検査） 血液検査（電解質、貧血、腎機能、肝機能、感染・炎症、免疫） 臨床検査まとめ　　その２ 到達目標：血液検査の評価を理解できる。
10 回	Ⅰ．栄養ケア・マネジメント（６） ３－２）B. 臨床検査の方法（血液生化学検査、生理機能検査、画像検査） 尿検査（窒素出納、尿中クレアチニン、3-メチルヒスチジン） 生理検査（血圧） 到達目標：血液検査の評価を理解できる。
11 回	Ⅰ．栄養ケア・マネジメント（７） ３－３）C. 臨床診査 ３－４）D. 栄養・食事調査 到達目標：食事調査の評価を理解できる。
12 回	Ⅰ．栄養ケア・マネジメント（８） ３－５）高齢者総合的機能評価 (Comprehensive geriatric assessment) 日常生活活動度 / 手段的日常生活活動度 / 認知機能 / 気分・幸福度 / コミュニケーション能力 / 社会的環境 ３－６）意識レベルの評価： 到達目標：高齢者総合的機能評価を理解できる。
13 回	Ⅰ．栄養ケア・マネジメント（９） ４）　栄養ケアプログラム 目標設定 / 計画・実施 / 栄養支援(栄養ケア)の内容 / 記録：理論的な問題志向型記録システム（POS）の問題志向型診療録(POMR) ５）評価 内容：企画評価、経過評価、影響評価、結果評価、経済評価、総合評価 評価デザイン：疫学的手法（無作為化比較試験、コホート研究、介入前後比較など） 到達目標：栄養ケアプログラムとさまざまな評価法を理解できる。
14 回	Ⅲ．栄養管理プロセス （１）栄養ケア・マネジメントと栄養管理プロセスの違い （２）栄養管理プロセスの過程 栄養スクリーニング / 栄養評価 / 栄養診断 / 栄養介入 / 栄養モニタリングと評価 / 記録方法 到達目標：栄養管理プロセスを理解できる。
15 回	栄養ケア・マネジメントの進め方および食事摂取基準のまとめ 講義のまとめ（期末試験について）

令　和　２　年　度　教　育　計　画							
科目名	応用栄養学実習	授業回数	15	単位数	1	担当教員	竹原良記
質問受付の方法（e-mail,オフィスアワー等）：Ａ棟４０５研究室　月曜日１，２限							

教育目標と学生の学習成果		本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である 教育目標：　管理栄養士として栄養管理ができるようになるために、栄養状態判定の指標（身体計測、生化学検査、食事摂取量調査など）を調査し、それらを分析して評価する技術が必要である。そのためこの実習では、①計測値や検査値の意味を理解し、初歩的な統計処理技術を習得すること、 ②ライフステージ毎の栄養ケアが計画できること、③対象者と対面で食事調査をして分析し、食事摂取基準に即した評価が出来ることを目標とする。これにより管理栄養士に必要な知識、技能、態度および考え方の総合的能力が養われる。 学生の学習成果： 専門的学習成果：計測値や検体検査値（尿検査値）や食事調査の結果などからを栄養アセスメントができる。 汎用的学習成果：初歩的な統計数値処理ができる。
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） 毎授業の最初に簡単に実習内容を説明する。次の段階で、実習のテーマに沿ってデーター収集・処理・レポート作成を行い、レポートを提出して授業を終了する。 データー集計・処理はパソコンの表集計ソフト「Excel」、および栄養ソフト「栄養君」を用いて行う。 所定の様式を予めファイルまたは印刷物で示すので、授業時にこれらに記入してレポートとして提出すること。レポートを指定授業回までに提出することは重要である。点検したレポートは後日に返却する。必要に応じてレポートの再提出を求めることがある。
	予習・復習	本実習では提出物が多い。レポートの様式は予め講義録に示すので、締め切り直前に慌てるよりは、自習でできる部分があれば、授業開始前に予め様式に書き込んでおくと授業中の作業がはかどる。
	テキスト	「応用栄養学実習ワークブック」山本由喜子　編、みらい
学習評価の方法		到達基準：計測値や検体検査値（尿検査値）や食事調査の結果などからを栄養アセスメントができる。 専門的成果として、①栄養状態を示す数値の意味を理解し、栄養状態を判定できる、②ライフステージやさまざまな環境の栄養管理の方法が理解できる について、レポートの内容より評価する(60%)。 汎用的成果として、①パソコンを使った簡単な計算技術や統計処理技術を習得している、②態度（挨拶、言葉使い、積極性など）について評価する(40%)。
注意事項		参考図書等：「日本人の食事摂取基準」第一出版；「簡単！食品カロリー早わかり BOOK」吉田美香著　主婦の友社；「マンガでわかるナースの統計学」オーム社；「エクセル栄養君」吉村幸男著　建帛社；食品成分表 この授業受講の準備として上記のような簡単な統計学の入門書を読んでおくことを進める。またエクセルの操作に熟知していると作業がはやい。授業には、積極的に参加する姿勢が重要である。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1回	・授業の進め方の説明 **大学生の食事マネジメント１（２４時間思い出し法による食事調査）** 目的：大学生の栄養の特性を考えて栄養ケアのあり方を考える。 テキスト第１章および第８章を参考に大学生の栄養の特性を考えて栄養ケアのあり方を考える。 一般的な成人の１日の献立を基にその栄養分析をして評価する。 食事調査法の２４時間思い出し法について理解する。
2回	予習：前日に１日分の食事を携帯カメラで保存する。 **大学生の食事マネジメント２（２４時間思い出し法による食事調査）** クラスメートに対して、24 時間思い出し法により食事調査を行う。 復習：食調査結果をまとめておく。
3回	**大学生の食事マネジメント３（２４時間思い出し法による食事調査）** 24 時間思い出し法による食事調査結果から栄養計算を行い、栄養状態を評価する。 まとめ、レポート提出
4回	**ライフステージの食事マネジメント１** 目的：高齢者の栄養の特性を考えて栄養ケアのあり方を考える。 身近な高齢者をイメージして、テキスト第９章を参考に高齢者の栄養の特性を考えて栄養ケアのあり方を考える。 **食事調査** 【ホームワーク】身近な高齢者に対して、24 時間思出し法で食事調査を行う。 復習：高齢者の栄養ケアのあり方を理解する。
5回	**ライフステージの食事マネジメント２** ホームワークまとめ ホームワークの食事調査結果から栄養計算を行って栄養状態を評価する。
6回	**ライフステージの食事マネジメント３** 前回に行なった栄養状態評価から改善献立を作成する。 まとめ、レポート提出
7回	**栄養アセスメント（身体計測１）** 目的：栄養アセスメントの方法論について理解し、統計的解析手法を学ぶ。 身体計測データーを統計処理する。（身長、上腕両翼長、体重） 収集したデーターの統計処理方法について学ぶ。 （母集団と標本集団、ヒストグラム、平均値、標準偏差、正規分布、変動係数、z‐スコア、95%信頼区間） 復習：エクセルで基本統計を計算する。
8回	**栄養アセスメント（身体計測２）** 各自で身体計測データーを測定して評価が出来る。 （上腕三頭筋皮下脂肪厚、肩甲骨下部皮下脂肪厚、上腕周囲長、腹部脂肪厚、骨密度）　前回に続き、収集したデーターの集計、統計処理方法について学ぶ。 （誤差とバイアス、帰無仮説、有意水準、*t*-検定） 復習：エクセルの関数を使って *t*-検定の計算をする。

9 回	**栄養アセスメント（身体計測３）** 前回に続き、データーの集計、統計処理手法について学ぶ。 （分割表、χ^2独立性の検定、相関） まとめ、レポート提出 復習：エクセルの関数を使ってχ^2検定の計算をする。
10 回	**栄養アセスメント（生化学検査１）** 目的：生化学的検査値（２４時間尿結果）および食事調査から、栄養関連指標を計算して検査値の意味を理解し、食事調査結果と合わせて栄養状態を評価する。 生化学検査の標準値の意味について学ぶ。 生化学検査例を評価できる。 尿検査（24 時間採尿方法および随時尿検査）の説明、畜尿ボトルの作成 【ホームワーク】：３日分の自己食事調査と生活活動調査、および最終日に 24 時間尿の採尿を行なう。採尿後、**一括して** 24 時間尿検査を外注。 復習：検査値の意味について理解する。
11 回	**栄養アセスメント（生化学検査２）** 随時尿検査：授業開始時に自分の随時尿検査を行ない、評価する。 （尿糖、尿タンパク質その他） **ホームワークで行なった自分の**自己食事記録調査と生活活動調査を集計する。 （栄養分析、身体活動レベルの算定） 【ホームワーク予備日】： 前回の尿提出が出来なかった者は、24 時間尿の採尿を行なう。採尿後、**一括して** 24 時間尿検査を検査センターに外注。 復習：随時尿検査の結果を解釈する。短時間に栄養分析が出来る。
12 回	**栄養アセスメント（生化学検査３）** **外注から戻ってきた検査結果をもとに自分の** 24 時間尿について評価をする。 随時尿検査予備日 前回に引き続き栄養分析、身体活動レベルの算定を行なう。 復習：身体活動レベルの計算方法を理解する。24 時間尿の解釈についてまとめる。
13 回	**栄養アセスメント（生化学検査４）** 生化学的検査値、食事調査結果と合わせて栄養状態を評価する。 （身体活動レベル、窒素出納、クレアチニン身長係数、ミネラルバランスなど） レポート提出 復習：栄養状態を判断するのに必要な検査項目についてまとめる。
14 回	**ライフステージ別の食事マネジメント１** 目的：**ライフステージ別**の栄養の特性を考えて栄養ケアのあり方を考える。 テキストを参考に妊娠期の栄養の特性を考えて栄養ケアのあり方を考える 復習：妊婦の栄養ケアのあり方を理解する。
15 回	**ライフステージ別の食事マネジメント２** 一般的な成人の１日の献立を基にその栄養分析をして評価する。 レポート提出

令　和　２　年　度　教　育　計　画							
科目名	栄養教育論Ⅰ	授業回数	15	単位数	2	担当教員	内田雅子
質問受付の方法（e-mail,オフィスアワー等）：　在室時はいつでも受け付けます							

教育目標と学生の学習成果		教育目標：本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である 健康・栄養状態，食行動，食環境等に関する情報の収集・分析，それらを総合的に評価・判定する能力を養う。また，対象に応じた栄養教育プログラムの作成・実施・評価を総合的にマネジメントできるよう健康や生活の質（QOL）の向上につながる主体的な実践力形式の支援に必要な健康・栄養教育の理論と方法を修得する。 学生の学習成果：専門的学習成果として，①栄養教育の目的，目標，②栄養教育の理論的基礎（行動科学，カウンセリング，食環境づくり），③栄養教育マネジメントを理解することで，健康・栄養教育の基礎を獲得する。 汎用的学習成果：本授業で得た専門的学習成果をコミュニケーション，プレゼンテーションおよび健康・栄養教育の際に活用できる能力を獲得する。
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） ・授業は、テキスト、プリントなどを利用して進めるが，初回以外は基本的に前の回に予習プリントを配布するので，予習事項を学生が発表することで授業を進める。補足事項，要点等はその後に説明する。予習の有無がかなり重要となる。 ・授業中に疑問点があれば，積極的に質問を行うように求める。 ・授業開始時に定期的に「小テスト」を行う。 ・毎回授業終了時に「シャトルカード」に授業内容についての質問、感想等の記入を求める。次回の授業で上記の質問に答え、また、コメントを記載して返却する。 ・上記を考慮し、授業内容を改善しながら進める。
	予習・復習	・毎授業前に、「授業回数別教育内容」に記載された予習を求める。 予習に不備を感じた場合は減点する。 ・毎授業後に、復習を求める。
	テキスト	・新食品・栄養科学シリーズ 栄養教育論　第５版 中山玲子・宮崎由子 編者，化学同人 ・日本人の食事摂取基準［2020 年版］，第一出版
学習評価の方法		以下に示す学習成果について、その獲得度合を量的に評価する。 ① 栄養教育の目的，目標を理解する。 ② 栄養教育の理論的基礎（行動科学，カウンセリング，食環境づくり）を理解する。 ③ 栄養教育マネジメントを理解する。 学習評価は、定期試験および小テストの結果を総合して行う。評価の割合は、定期試験 70 点、小テスト・提出物 30 点とする。なお、受講態度の評価として授業の妨害行為は減点法により成績判定に加える。授業内に適宜行う問いかけへの回答内容に対して加点および減点は行わない。受講態度の詳細に関しては授業の最初に説明する。予習の内容も評価の対象となる。
注意事項		授業中の私語，睡眠のある者は，予習の回答者として積極的に回答させる。すぐに回答できない場合は減点する。減点対象となった場合は授業の妨げになることを考え，2 回目以降私語，睡眠等あれば回答させることなく減点する。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1回	オリエンテーション 栄養教育の目的，目標（1） 　予習事項：テキスト　P1～8 栄養教育の定義，目的，目標を学び，栄養教育について考える
2回	栄養教育の目的，目標（2） 　予習事項：テキスト　P9～14 　　栄養教育の対象と機会，法的根拠を学び，栄養教育について考える
3回	栄養教育のための理論的基礎（1） 　予習事項：テキスト　P15～18，27～28，31，43～45 行動科学の基礎，レスポンデント条件付け，オペラント条件付けおよび組織・地域づくりへの展開を学び，栄養教育について考える
4回	栄養教育のための理論的基礎（2） 　予習事項：テキスト　P19～20，22～25，30～31 ヘルスビリーフモデル，計画的行動理論，社会的認知理論，プリシード・プロシードモデルを学び，栄養教育について考える
5回	栄養教育のための理論的基礎（3） 　予習事項：テキスト　P20～22 トランスセオレティカルモデルなどを学び，栄養教育について考える
6回	栄養教育のための理論的基礎（4） 　予習事項：テキスト　P18～27 各行動変容技法（刺激統制，反応妨害・拮抗（行動置換），オペラント強化など）栄養教育について考える
7回	栄養教育のための理論的基礎（5） 　予習事項：テキスト　P32～42 栄養カウンセリングを学び，栄養教育について考える
8回	栄養教育のための理論的基礎（6） 　予習事項：テキスト　P45～47 食環境づくりを学び，栄養教育について考える **「3･1･2 弁当箱法」を知り，栄養教育活用法を考える**

9 回	栄養教育マネジメント（1） 　予習事項：テキスト　P49～64，67 栄養教育マネジメントの全体の流れ，栄養アセスメント（種類，項目など），6W1H1B を学び，栄養教育について考える
10 回	栄養教育マネジメント（2） 　予習事項：テキスト　P49～64 栄養教育マネジメントの栄養アセスメント（種類と方法，食事調査，行動分析など）を学び，栄養教育について考える
11 回	栄養教育マネジメント（3） 　予習事項：テキスト　P64～72 栄養教育マネジメントの計画（Plan）（目標設定，教材など）を学び，栄養教育について考える
12 回	栄養教育マネジメント（4） 　予習事項：テキスト　P72～75 栄養教育マネジメントの計画（Plan）（討議法など）を学び，栄養教育について考える
13 回	栄養教育マネジメント（5） 　予習事項：テキスト　P65，73～78 栄養教育マネジメントの実施（Do）（コミュニケーション・プレゼンテーション技術，媒体など），栄養教育マネジメントの評価（Check），改善（Action）を学び，栄養教育について考える
14 回	栄養教育マネジメント（6） 　予習事項：これまで習ったこと全て 事例を対象として栄養教育の流れを作ることで学んだ理論を活用に繋げる
15 回	栄養教育マネジメント（7） 　予習事項：これまで習ったこと全て 事例を対象として栄養教育の流れを作ることで学んだ理論を活用に繋げる

<table>
<tr><td colspan="8">令　和　２　年　度　教　育　計　画</td></tr>
<tr><td>科目名</td><td>栄養教育論Ⅱ</td><td>授業回数</td><td>15</td><td>単位数</td><td>2</td><td>担当教員</td><td>内田雅子</td></tr>
<tr><td colspan="8">質問受付の方法（e-mail,オフィスアワー等）：　在室時はいつでも受け付けます</td></tr>
<tr><td>教育目標と学生の学習成果</td><td colspan="7">教育目標：本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である
ライフステージ，ライフスタイル別の特性を理解することで，栄養教育論Ⅰおよび栄養教育論実習Ⅰで修得した理論と方法を用いて対象者の特性に応じた適切な健康・栄養教育を行える能力を養う。
学生の学習成果：専門的学習成果として，ライフステージ・ライフスタイル別の栄養教育を理解することで，健康・栄養教育の基礎を獲得する。
汎用的学習成果：本授業で得た専門的学習成果をコミュニケーション，プレゼンテーションおよび健康・栄養教育の際に活用できる能力を獲得する。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">教育方法</td><td>授業の進め方</td><td colspan="6">（講義・演習・実験・実習・実技）

・授業は、テキスト、プリントなどを利用して進めるが，初回以外は基本的に前の回に予習プリントを配布するので，予習事項を学生が発表することで授業を進める。補足事項，要点等はその後に説明する。予習の有無がかなり重要となる。
・授業中に疑問点があれば，積極的に質問を行うように求める。
・授業開始時に定期的に理解度を確認するテストを行う。
・毎回授業終了時に「シャトルカード」に授業内容についての質問、感想等の記入を求める。次回の授業で上記の質問に答え、また、コメントを記載して返却する。
・上記を考慮し、授業内容を改善しながら進める。</td></tr>
<tr><td>予習・復習</td><td colspan="6">・毎授業前に、「授業回数別教育内容」に記載された予習を求める。
予習に不備を感じた場合は減点する。
・毎授業後に、復習を求める。</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="6">・新食品・栄養科学シリーズ 栄養教育論　第５版
中山玲子・宮崎由子 編者，化学同人
・日本人の食事摂取基準［2020 年版］，第一出版</td></tr>
<tr><td>学習評価の方法</td><td colspan="7">以下に示す学習成果について、その獲得度合を量的に評価する。
① ライフステージ・ライフスタイル別の栄養教育を理解する。
学習評価は、定期試験結果と小テスト他を用いて行う。評価の割合は、定期試験 80 点、小テスト・提出物 20 点とする。なお、受講態度の評価として授業の妨害行為は減点法により成績判定に加える。授業内に適宜行う問いかけへの回答内容に対して加点および減点は行わない。受講態度の詳細に関しては授業の最初に説明する。予習内容の提出物も評価の対象となる。</td></tr>
<tr><td>注意事項</td><td colspan="7">授業中の私語，睡眠のある者は，予習の回答者として積極的に回答させる。すぐに回答できない場合は減点する。減点対象となった場合は授業の妨げになることを考え，2 回目以降私語，睡眠等あれば回答させることなく減点する。</td></tr>
</table>

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1回	オリエンテーション 妊娠・授乳期の栄養教育（1） 　予習事項：テキスト　P81，87，93～94 妊娠期の特徴と基本的事項（Barker 説，リプロダクティブヘルスなど）を学び，栄養教育について考える
2回	妊娠・授乳期の栄養教育（2） 　予習事項：テキスト　P93～94 　　日本人の食事摂取基準（2015 年版）　P345～353 妊娠期に注意すべき栄養素および栄養素必要量の変化とその理由を学び，栄養教育について考える
3回	妊娠・授乳期の栄養教育（3） 　予習事項：テキスト　P87～92 妊娠期と臨床との関係（つわり，貧血，妊娠高血圧症候群，妊娠糖尿病など）を学び，栄養教育について考える
4回	妊娠・授乳期の栄養教育（4） 　予習事項：テキスト　P86～87 授乳期の特徴を学び，栄養教育について考える
5回	乳・幼児期の栄養教育（1） 　予習事項：テキスト　P95～118 乳児期の特徴，授乳・離乳の支援ガイド（授乳編）とその活用を学び，栄養教育について考える
6回	乳・幼児期の栄養教育（1） 　予習事項：テキスト　P113～117 　　日本人の食事摂取基準（2015 年版）　P354～372 「授乳・離乳の支援ガイド（離乳編）」その活用を学び，栄養教育について考える
7回	乳・幼児期の栄養教育（2） 　予習事項：テキスト　P113～117 幼児期の特徴，幼児期と臨床との関係（肥満，アレルギー，う歯など）を学び，栄養教育について考える
8回	学童期・思春期の栄養教育（1） 　予習事項：テキスト　P119、125～132 学童期の特徴（食行動，小児肥満など）を学び，栄養教育について考える
9回	学童期・思春期の栄養教育（2） 　予習事項：テキスト　P120～125 学童期と食育との関係を学び，栄養教育について考える

10回	学童期・思春期の栄養教育（３） 　予習事項：テキスト　P131～139 思春期の特徴（ダイエット，貧血（ダイエット由来，スポーツ由来），摂食障害など）を学び，栄養教育について考える
11回	成人期の栄養教育（１） 　予習事項：テキスト　P145～164 成人期の特徴（生活習慣，肥満など）を学び，栄養教育について考える
12回	成人期の栄養教育（２） 　予習事項：前回の講義内容 行動変容できない対象者への具体的な教育内容を学び，栄養教育について考える
13回	高齢期の栄養教育（１） 　予習事項：テキスト　P165～176 高齢期の特徴（加齢による変化，認知症，食事環境など），介護との関係を学び，栄養教育について考える
14回	高齢期の栄養教育（２） 　予習事項：テキスト　P179～190 　　日本人の食事摂取基準（2015 年版）　P373～396 高齢期と臨床との関係（低栄養，摂食・嚥下障害，褥瘡，脱水など）を学び，栄養教育について考える
15回	障がい者の栄養教育 　予習事項：テキスト　P233～240 障がい者の特徴（視覚障害，聴覚障害，肢体不自由障害，精神障害など），ノーマリゼーションを学び，栄養教育について考える

令　和　２　年　度　教　育　計　画							
科目名	栄養教育管理	授業回数	15	単位数	2	担当教員	内田雅子
質問受付の方法（e-mail,オフィスアワー等）：　在室時はいつでも受け付けます							

教育目標と学生の学習成果		教育目標：本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である 栄養教育論および栄養教育論実習で修得した健康・栄養教育に関する理論と方法，行動科学やカウンセリングの理論と技術等を活用して，適正な栄養教育を行う能力を養う。すなわち，健康・栄養状態，食行動等に関する情報を収集・分析して，それらを総合的に評価・判定する能力および対象に応じた栄養教育プログラムの作成，実施・評価を総合的にマネジメントする能力を養うことを目標とする。 学生の学習成果：専門的学習成果として，これまでの全授業で学んだ専門的学習成果を活かす演習を通して栄養教育マネジメントを理解することで，健康・栄養教育の基礎を獲得する。 汎用的学習成果：本授業で得た専門的学習成果を活かした栄養教育マネジメントを実施できる能力を獲得する。特に，対象者の問題点の抽出および実行可能な具体的行動変容計画の提示を行う能力を獲得する。
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） ・授業は、テキスト、プリントなどを利用して進めるが，初回以外は基本的に前の回に予習プリントを配布するので，予習事項を学生が発表することで授業を進める。補足事項，要点等はその後に説明する。予習の有無がかなり重要となる。 ・授業中に疑問点があれば，積極的に質問を行うように求める。 ・授業開始時に定期的に理解度を確認するテストを行う。 ・毎回授業終了時に「シャトルカード」に授業内容についての質問、感想等の記入を求める。次回の授業で上記の質問に答え、また、コメントを記載して返却する。 ・上記を考慮し、授業内容を改善しながら進める。
	予習・復習	・毎授業前に、「授業回数別教育内容」に記載された予習を求める。 予習に不備を感じた場合は減点する。 ・毎授業後に、復習を求める。
	テキスト	・新食品・栄養科学シリーズ 栄養教育論　第４版 中山玲子・宮崎由子 編者，化学同人 ・日本人の食事摂取基準［2015 年版］，第一出版
学習評価の方法		以下に示す学習成果について、その獲得度合を量的に評価する。 ① 栄養教育マネジメントを理解する。 ② 栄養教育マネジメントを実施できる。特に，対象者の問題点の抽出ができること，実行可能な具体的行動変容計画を提示できること。 学習評価は、定期試験の結果を用いて行う。評価の割合は、定期試験 80 点、提出物 20 点とする。なお、受講態度の評価として授業の妨害行為は減点法により成績判定に加える。授業内に適宜行う問いかけへの回答内容に対して加点および減点は行わない。受講態度の詳細に関しては授業の最初に説明する。予習の内容も評価の対象となる。
注意事項		授業中の私語，睡眠のある者は，予習の回答者として積極的に回答させる。すぐに回答できない場合は減点する。減点対象となった場合は授業の妨げになることを考え，2 回目以降私語，睡眠等あれば回答させることなく減点する。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	オリエンテーション 状態・疾病別の栄養教育マネジメント 　予習事項：テキスト　P66～P71 栄養教育計画の立案
2 回	状態・疾病別の栄養教育マネジメント 　予習事項：テキスト　P177～P186　151～156 肥満（1）
3 回	状態・疾病別の栄養教育マネジメント 　予習事項：テキスト　P187～P189　151～156 メタボリックシンドローム（2）
4 回	状態・疾病別の栄養教育マネジメント 　予習事項：テキスト　P189～P194 糖尿病（1）
5 回	状態・疾病別の栄養教育マネジメント 　予習事項：テキスト　P189～P194 糖尿病（2）
6 回	状態・疾病別の栄養教育マネジメント 　予習事項：テキスト　P195～P201 **脂質異常症、動脈硬化性疾患**
7 回	状態・疾病別の栄養教育マネジメント 　予習事項：テキスト　P202～P204 高血圧
8 回	状態・疾病別の栄養教育マネジメント 　予習事項：テキスト　P204～P206 心疾患
9 回	状態・疾病別の栄養教育マネジメント 　予習事項：テキスト　P206～P208　P171 **脳血管疾患（脳卒中）**

10 回	状態・疾病別の栄養教育マネジメント 　予習事項：テキスト　P208～P211 **高尿酸血症、,痛風**
11 回	状態・疾病別の栄養教育マネジメント 　予習事項：テキスト　P211～P218 **肝臓、胆のう、膵臓疾患**
12 回	状態・疾病別の栄養教育マネジメント 　予習事項：テキスト　P218～P224 **消化器系疾患**（1）
13 回	状態・疾病別の栄養教育マネジメント 　予習事項：テキスト　P218～P224 **消化器系疾患**（2）
14 回	状態・疾病別の栄養教育マネジメント 　予習事項：テキスト　P225～P228 CKD
15 回	状態・疾病別の栄養教育マネジメント 　予習事項：テキスト　P173～P176 摂食・嚥下障害，低栄養

令　和　２　年　度　教　育　計　画							
科目名	栄養教育論実習Ⅰ	授業回数	15	単位数	1	担当教員	内田雅子
質問受付の方法（e-mail,オフィスアワー等）：　在室時はいつでも受け付けます							

教育目標と学生の学習成果		教育目標：本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である 対象者の健康・栄養状態，食行動等に関する情報の収集・分析，それらを総合的に評価・判定する能力を養う。対象に応じた栄養教育プログラムの作成・実施・評価を総合的にマネジメントできる技術を修得し，食行動変容のための行動科学を踏まえた栄養カウンセリング技術，コミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力を体得する。 学生の学習成果：専門的学習成果としては，栄養教育論Ⅰで得た専門的学習成果である，①栄養教育マネジメント，②討議法，③栄養カウンセリングの実習を通して理解を深めことで，健康・栄養教育の基礎を獲得する。 汎用的学習成果：これまでに得た専門的学習成果を活かして①食事調査，②集団を対象とした栄養教育を実践できる能力を獲得する。
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） ・授業は実習形式で行い，主に配布資料を用いて進める。実習を数回ごとにセクション分けし，各セクションの初めにそのセクションで行う内容の説明を行い，各人あるいはグループでの作業に移る。途中説明が必要なときは，その都度説明を入れる。各セクションでは個人あるいはグループで発表を行う。実習レポートに関しては実習中に指示する。 ・毎回授業終了時に「シャトルカード」に授業内容についての質問、感想等の記入を求める。次回の授業で上記の質問に答え、また、コメントを記載して返却する。 ・上記を考慮し、授業内容を改善しながら進める。
	予習・復習	必要な場合には実習の中において指示する。
	テキスト	必要に応じて各自で準備すること。
学習評価の方法		以下に示す学習成果について、その獲得度合を量的に評価する。 ① 食事調査を理解し，実施できる。 ② 作成した媒体を用いて集団を対象とした栄養教育が実施できる。 ③ 討議法を理解する。 ④ 栄養カウンセリングを理解する。 学習評価は、①～④の項目について発表の評価点並びに実習レポートの評価点を各 10 点とし合計 40 点、提出物の課題レポートは提出点とレポート内容評価点で合計 40 点，受講態度の 20 点を総合して行う。なお、提出遅れは減点対象とし，未提出は-5 点で計算する。当日提出レポートは基本とする。受講態度の評価として授業の妨害行為は減点法により成績判定に加える。授業内に適宜行う問いかけへの回答内容に対して加点および減点は行わない。受講態度の詳細に関しては授業の最初に説明する。 **発表時には、白衣を着用すること。**
注意事項		実習の中で、栄養教育論Ⅰで使用した教科書と資料を適宜使用する。 食事調査の際には秤，食品成分表，調理に関する資料を使用する。 その他，発表・媒体作成において必要と考える資料を各自準備する。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	オリエンテーション 自己紹介の実施
2 回	個人栄養教育の実践 　１対１で栄養教育を実施することで、対象者が「ヒト」であることの意味を知り、考える。 栄養教育マネジメントの実践（１） 　食事調査（FFQｇ・秤量法)、生活活動調査の実践
3 回	栄養教育マネジメントの実践（２） 　食事調査、生活活動調査結果の分析 集団栄養教育の実践（１） 　テーマ：栄養素等摂取量の過不足の改善 　　カリキュラムの立案準備開始
4 回	栄養教育マネジメントの実践（3) 　食事調査、生活活動調査結果のまとめ
5 回	集団栄養教育の実践（２） 　テーマ：栄養素等摂取量の過不足の改善 　　カリキュラムの立案 　　栄養教育媒体の作成
6 回	集団栄養教育の実践（３） 　テーマ：栄養素等摂取量の過不足の改善 　　発表１
7 回	集団栄養教育の実践（４） 　テーマ：栄養素等摂取量の過不足の改善 　　発表２
8 回	集団栄養教育の実践（５） 　テーマ：栄養素等摂取量の過不足の改善 　　改善点の把握 　　カリキュラム改善案の立案 　　栄養教育媒体の改善
9 回	集団栄養教育の実践（６） 　テーマ：栄養素等摂取量の過不足の改善 　　カリキュラム改善案の立案 　　栄養教育媒体の改善

10回	集団栄養教育の実践（７） 　テーマ：栄養素等摂取量の過不足の改善 　　発表１
11回	集団栄養教育の実践（８） 　テーマ：栄養素等摂取量の過不足の改善 　　発表２
12回	集団栄養教育の実践（９） 　カウンセリング技法の活用 　心理テストの実施 各種討議法を用いた集団討論の実践
13回	栄養カウンセリングの実践 　学習形態の種類とその特徴 　　集団討議法（6･6 式討議法、パネルディスカッション、ブレインストーミング）
14回	食育の実践 　食育カードの活用 まとめ
15回	学習したことを説明する 　後期の授業で習ったことを発表する

令　和　２　年　度　教　育　計　画							
科目名	栄養教育論実習Ⅱ	授業回数	15	単位数	1	担当教員	内田雅子
質問受付の方法（e-mail,オフィスアワー等）：　在室時はいつでも受け付けます							

教育目標と学生の学習成果		教育目標：本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である 対象者の健康・栄養状態，食行動等に関する情報の収集・分析，それらを総合的に評価・判定する能力を養う。対象に応じた栄養教育プログラムの作成・実施・評価を総合的にマネジメントできる技術を修得し，食行動変容のための行動科学を踏まえた栄養カウンセリング能力，コミュニケーション能力を体得する。 学生の学習成果：専門的学習成果としては，栄養教育論Ⅰ・Ⅱ，栄養教育論実習Ⅰで得た専門的学習成果を実習で理解を深めることで，健康・栄養教育の基礎を獲得する。 汎用的学習成果：これまでに得た専門的学習成果を活かして個人を対象とした栄養教育実践できる能力を獲得する。
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） ・授業は実習形式で行い，主に配布資料を用いて進める。　実習を数回ごとにセクション分けし，各セクションの初めにそのセクションで行う内容の説明を行い，各人あるいはグループでの作業に移る。途中説明が必要なときは，その都度説明を入れる。各セクションでは個人あるいはグループで発表を行う。実習レポートに関しては実習中に指示する。 ・毎回授業終了時に「シャトルカード」に授業内容についての質問、感想等の記入を求める。次回の授業で上記の質問に答え、また、コメントを記載して返却する。 ・上記を考慮し、授業内容を改善しながら進める。
	予習・復習	必要な場合には実習の中において指示する。
	テキスト	必要に応じて各自で準備すること。
学習評価の方法		以下に示す学習成果について、その獲得度合を量的に評価する。 ① 個人を対象とした栄養教育を実施できる。特に，対象者が種々の状態・病態のケース，無関心期のケースを理解し，コミュニケーションをとり，栄養教育を計画できること。 学習評価は、①の評価を 50 点とし、発表の評価点並びに実習レポートの評価点を 30 点とし，受講態度を 20 点として行う。なお、課題レポートの提出は提出点とそのレポート内容で評価し，未提出は-5 点で計算する。当日提出レポートは提出点とそのレポート内容で評価する。受講態度の評価として授業の妨害行為は減点法により成績判定に加える。 発表時には白衣を着用し，身だしなみには注意すること。守れない場合は減点する。授業内に適宜行う問いかけへの回答内容に対して加点および減点は行わない。受講態度の詳細に関しては授業の最初に説明する。
注意事項		実習の中で栄養教育論Ⅰ・Ⅱ，栄養教育論実習Ⅰで使用した教科書と資料を適宜使用する。その他，発表・媒体作成において必要と考える資料を各自準備する。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1回	オリエンテーション アンケート調査基本の説明　1 課題の提示個人栄養教育の実践　1 　対象：妊婦，授乳婦，高齢者，高齢者の食事作りをしている人
2回	課題の提示個人栄養教育の実践　2 　対象：妊婦，授乳婦，高齢者，高齢者の食事作りをしている人 アンケート調査　2
3回	アンケート調査　3 　結果の報告 　パワーポイント発表
4回	EBN を知る　1 　EBN のグラフ作成および発表準備
5回	EBN を知る　2 　EBN のグラフ作成および発表 　パワーポイント発表
6回	個人栄養教育の実践２ 　テーマ：健康な対象者への BMI，体脂肪率，血圧，骨密度測定結果を用いた栄養教育 　　説明，課題の選択・決定、実施、評価、改善策の立案
7回	個人栄養教育の実践２ 　テーマ：無関心期の対象者への栄養教育（セリフあり１回目）１
8回	個人栄養教育の実践２ 　テーマ：無関心期の対象者への栄養教育（セリフあり１回目）２

9 回	個人栄養教育の実践２ テーマ：無関心期の対象者への栄養教育（セリフあり改善後）　３
10 回	個人栄養教育の実践２ テーマ：無関心期の対象者への栄養教育（セリフなし）　４ 対象の演者：教員 設定：中年，男，未婚（彼女なし），１人暮らし（家族は遠方），それ以外は自由
11 回	個人栄養教育の実践３ テーマ：食事調査からの栄養教育（学生同士）１ 食事調査の実施 エネルギー，たんぱく質摂取量の推定
12 回	個人栄養教育の実践３ テーマ：食事調査からの栄養教育（学生同士）２ 問題点の抽出，ケア計画の作成，提示，実施
13 回	個人栄養教育の実践３ テーマ：食事調査からの栄養教育（学生同士）３ 食事調査結果と教育内容の報告 スライドで発表
14 回	個人栄養教育の実践４ テーマ：食事調査からの栄養教育（対象の演者：教員）　１ ３グループでそれぞれ別の症例を対象に実施 食事調査を実施後，計画の検討
15 回	個人栄養教育の実践４ テーマ：食事調査からの栄養教育（対象の演者：教員）　２ 前回と同グループ，同対象者 食事調査結果を用いた栄養教育の実施

令　和　２　年　度　教　育　計　画							
科目名	臨床栄養学Ⅰ	授業回数	15	単位数	2	担当教員	保田　立二
質問受付の方法（e-mail,オフィスアワー等）：　在室時はいつでも対応 email　tatsuji.yasuda@gmail.com							

教育目標と学生の学習成果		教育目標：栄養学関連授業で学んだ栄養素の人体内での吸収と働きや、解剖・生理学及び生化学の基礎知識に基づいて、疾病時における人体の変化を理解してそれぞれの症状又は原因に対応した治療と食事療法の考え方を総論的に学ぶ。 学生の学習成果：本科目においては、管理栄養士業務において必要となる疾患や病態に関連した食事療法の総合的理解を図る。
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） 授業はテキストを中心に進めるが、理解力を確かめる小テストや医学用語の理解力を高めるレポートなどを科す予定である。講義終了時においては各疾患に対する栄養的アプローチの原理が理解できている事を学習成果として授業は進められる。 授業終了時に「シャトルカード」に授業内容についての質問、感想などの記述を求める。次回の授業の時に質問に対する答え、またはコメントを記入して返却する。 「シャトルカード」により学習進行状況を確認しながら授業を進める。
	予習・復習	予習：テキストの講義範囲に目を通しておく。 復習：講義に出てきた用語の理解に努める。用語は、今後の学習でも度々出現するのでできるだけ整理した状態で理解し、混乱が起こらないように注意する。 「シャトルカード」により効果的な復習を促進する。
	テキスト	佐藤和人、本間健、小松龍史　編「エッセンシャル臨床栄養学　第８版」医歯薬出版株式会社、3,700 円＋税
学習評価の方法		学習評価は、小テスト及び必要用語の理解度（２０％）に本試験の成績（８０％）を加味して評価する。今後の授業でも必要となるので、必要用語の理解度は重要な評価ポイントとなる。 私語など授業の妨害行為について減点を科す場合がある。
注意事項		「シャトルカード」には必ず質問を記入すること。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	授業の進め方についてシラバスを用いた説明 消化管疾患の病態生理 （胃・腸における疾患を理解する。）
2 回	消化管疾患の栄養食事療法 （胃・腸における疾患のおさらいと栄養食事療法を理解する。）
3 回	肝臓・胆嚢・すい臓疾患の病態生理 （肝臓・胆嚢・すい臓における疾患を理解する。）
4 回	肝臓・胆嚢・すい臓疾患の栄養食事療法 （肝臓・胆嚢・すい臓における疾患のおさらいと栄養食事療法を理解する。）
5 回	内分泌・代謝疾患の病態生理 （内分泌・代謝疾患を理解する。）
6 回	内分泌・代謝疾患の栄養食事療法 （内分泌・代謝疾患のおさらいと栄養食事療法を理解する。）
7 回	循環器・呼吸器の病態生理 （循環器・血液疾患を理解する。）
8 回	循環器・呼吸器の栄養食事療法 （循環器・血液疾患のおさらいと栄養食事療法を理解する。）

9 回	腎臓疾患の病態生理 （腎臓疾患を理解する。）
10 回	腎臓疾患の栄養食事療法 （腎臓疾患のおさらいと栄養食事療法を理解する。）
11 回	血液疾患・免疫・アレルギーの病態生理と栄養食事療法 （血液疾患・免疫・アレルギーを理解する。）
12 回	感染症の病態生理と栄養食事療法 （感染症を理解する。）
13 回	骨・関節、歯科、栄養欠陥、心身症の病態生理と栄養食事療法 （骨・関節、歯科、栄養欠陥、心身症の病態生理と栄養食事療法を理解する。）
14 回	外科の病態生理と栄養食事療法 （外科の病態生理と栄養食事療法を理解する。）
15 回	小児疾患、高齢者疾患 （小児疾患、高齢者疾患のおさらいと小児疾患、高齢者疾患を理解し、栄養食事療法を理解する。）

令　和　２　年　度　教　育　計　画							
科目名	臨床栄養学Ⅱ	授業回数	15	単位数	2	担当教員	平野　聡
質問受付の方法（e-mail,オフィスアワー等）：A 棟 206 研究室　水曜日 13 時から 14 時 30 分							

教育目標と学生の学習成果		＜教育目標＞本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である 臨床栄養学Ⅱは、臨床栄養学Ⅰで学んだ基礎知識に加えて、それぞれの症状または原因に対応した治療と食事療法の考え方をより専門的に追究する。本講は、診療報酬・介護報酬、栄養補給法、栄養評価指標及び疾患別の栄養管理計画のプランニングなどの栄養ケア・マネジメントの基本を理解することを目的とする。 ＜学生の学習成果＞ 専門的学習成果は、チーム医療、在宅医療、診療報酬・介護報酬、栄養ケア・マネジメントの概要、栄養補給法（経口栄養、経腸栄養、静脈栄養）、栄養評価指標の基本を理解する。 また、疾患別の栄養管理計画のプランニングができる総合的能力を獲得していること。 汎用的学習成果は、チーム医療の一員として参加できる能力（自己管理能力、論理的思考力、問題解決力）を付けていること。
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） １．授業は、テキスト、配付資料に沿って進める。 ２．授業開始時に前回習った内容の「小テスト」を行う。 ３．授業終了時「シャトルカード」に授業内容についての質問、感想の記入を求める。 ４．上記の質問、感想に対し、コメントを記載して次回の授業で配布する。 ５．「小テスト」、「シャトルカード」により、理解度を確認しながら授業を進める。
	予習・復習	予習：毎授業前に「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。 復習：授業毎に重要事項をテキスト、配布資料、返却された「シャトルカード」で復習を求める。練習問題の課題に取り組む。
	テキスト	佐藤和人編著　2016 年 4 月発行　ｴｯｾﾝｼｬﾙ「臨床栄養学　第 8 版」医歯薬出版
学習評価の方法		学習成果は、以下の獲得度合いを評価する。 ○専門的学習成果は、 ①　栄養補給法（経口栄養、経腸栄養、静脈栄養）を理解していること。 ②　栄養評価指標を理解していること。 ③　疾患別の栄養管理計画のプランニングができる総合的能力を獲得していること。 ○汎用的学習成果は、予習・復習の課題レポート（7 回目、14 回目に提出を予定する授業時のレポートとテスト）が提出・理解できていること。 ○学習評価は、専門的学習成果（定期試験８０点）の内訳は①：２０点、②：２０点、③：４０点、汎用的学習成果（授業時のレポートとテスト：２０点）を総合して行う。 なお、過度な私語や授業参加意欲が極端に低い場合、汎用的学習成果から減点をおこなう。
注意事項		参考図書等 基礎栄養学・生化学・解剖生理学の復習をしてください。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	授業の進め方について ・臨床栄養学Ⅱの授業内容について概説し、授業計画を説明する。 ・臨床栄養学における栄養ケア・マネジメントの概要と構造について説明する。
2 回	糖尿病の栄養ケア・マネジメント ・対象疾患の診断基準及病態について ・生化学検査及び身体症状 ・栄養状態の評価項目
3 回	脂質異常症の栄養ケア・マネジメント ・対象疾患の診断基準及病態について ・生化学検査及び身体症状 ・栄養状態の評価項目
4 回	高血圧症の栄養ケア・マネジメント ・対象疾患の診断基準及病態について ・生化学検査及び身体症状 ・栄養状態の評価項目
5 回	心臓病の栄養ケア・マネジメント ・対象疾患の診断基準及病態について ・生化学検査及び身体症状 ・栄養状態の評価項目
6 回	摂食嚥下障害の栄養ケア・マネジメント ・対象疾患の診断基準及病態について ・生化学検査及び身体症状 ・栄養状態の評価項目
7 回	骨粗鬆症の栄養ケア・マネジメント ・対象疾患の診断基準及病態について ・生化学検査及び身体症状 ・栄養状態の評価項目

8 回	膵炎の栄養ケア・マネジメント ・対象疾患の診断基準及病態について ・生化学検査及び身体症状 ・栄養状態の評価項目
9 回	肝硬変の栄養ケア・マネジメント ・対象疾患の診断基準及病態について ・生化学検査及び身体症状 ・栄養状態の評価項目
10 回	腎臓病の栄養ケア・マネジメント ・対象疾患の診断基準及病態について ・生化学検査及び身体症状 ・栄養状態の評価項目
11 回	透析の栄養ケア・マネジメント ・対象疾患の診断基準及病態について ・生化学検査及び身体症状 ・栄養状態の評価項目
12 回	胃潰瘍の栄養ケア・マネジメント ・対象疾患の診断基準及病態について ・生化学検査及び身体症状 ・栄養状態の評価項目
13 回	妊娠高血圧症と妊娠糖尿病の栄養ケア・マネジメント ・対象疾患の診断基準及病態について ・生化学検査及び身体症状 ・栄養状態の評価項目
14 回	小児における先天性代謝異常症の栄養ケア・マネジメント ・対象疾患の診断基準及病態について ・生化学検査及び身体症状 ・栄養状態の評価項目
15 回	医療保険制度・介護保険制度 医療保険制度・介護保険制度における栄養ケア・マネジメントの基本概念 管理栄養士が主に関わる診療報酬・介護報酬についての解説

令　和　２　年　度　教　育　計　画							
科目名	臨床栄養学Ⅲ	授業回数	15	単位数	2	担当教員	平野　聡
質問受付の方法（e-mail, オフィスアワー等）：A 棟 206 研究室　水曜日 13 時から 14 時 30 分							

教育目標と学生の学習成果		＜教育目標＞本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である 臨床栄養学Ⅲは、栄養の評価・判定、栄養補給、栄養教育、食べ物と薬剤の相互作用、及び医療・介護制度やチーム医療における管理栄養士の役割について理解する。さらに、ライフステージ別、疾患別及び様々な身体状況や栄養状態に応じた総合的な栄養ケア・マネジメントの実践について理解することを目的とする。 ＜学生の学習成果＞ 専門的学習成果は、傷病者及び高齢者を対象に栄養アセスメントに基づいた栄養管理計画の作成、栄養指導、実施、評価に関する総合的なマネジメント能力を獲得していること。 汎用的学習成果は、チーム医療の一員として参加できる能力（自己管理能力、論理的思考力、問題解決力）を付けていること。
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） １．授業は、テキスト、配付資料、症例問題に沿って進める。 ２．授業開始時に前回の授業内容に関する「小テスト」を行う。 ３．授業終了時「シャトルカード」に授業内容についての質問、感想の記入を求める。 ４．上記の質問に答え、また、コメントを記載して次回の授業で配布する。 ５．「小テスト」、「シャトルカード」により、理解度を確認しながら授業を進める。
	予習・復習	予習：毎授業前に「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。 復習：授業毎に重要事項をテキスト、配布資料、返却された「シャトルカード」で復習を求める。
	テキスト	佐藤和人編著　2016 年 4 月発行　ｴｯｾﾝｼｬﾙ「臨床栄養学　第 8 版」医歯薬出版
学習評価の方法		学習成果は、以下の獲得度合いを量的に評価する。 ○専門的学習成果は、 ①　病態別の栄養ケア・マネジメントを理解していること。 ②　病態別の栄養管理計画の作成を理解していること。 ③　病態別の栄養指導計画の作成を理解していること。 ④　傷病者及び高齢者を対象に栄養ケア･マネジメントができる総合的知識を獲得していること。 ○汎用的学習成果は、予習・復習の課題レポート（7 回目、14 回目に提出を予定する授業時のレポートとテスト）が提出・理解できていること。 ○学習評価は、専門的学習成果（定期試験８０点）の内訳は①：１５点、②：１５点、③：１０点、④：４０点、汎用的学習成果（授業時のレポートとテスト：２０点）を総合して行う。 なお、過度な私語や授業参加意欲が極端に低い場合、汎用的学習成果から減点をおこなう。
注意事項		参考図書等 基礎栄養学・生化学・解剖生理学・病理学の復習をしてください。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	授業の進め方について ・臨床栄養学Ⅲの授業内容について概説し、授業計画を説明 摂食障害（神経性食欲不振症・神経性大食症）の栄養ケア・マネジメント ・対象疾患の診断基準及病態について ・生化学検査及び身体症状 ・栄養状態の評価項目
2 回	老年症候群及び褥瘡の栄養ケア・マネジメント ・対象疾患の診断基準及病態について ・生化学検査及び身体症状 ・栄養状態の評価項目
3 回	動脈硬化性疾患の栄養ケア・マネジメント ・対象疾患の診断基準及病態について ・生化学検査及び身体症状 ・栄養状態の評価項目
4 回	虚血性心疾患及び心不全の栄養ケア・マネジメント ・対象疾患の診断基準及病態について ・生化学検査及び身体症状 ・栄養状態の評価項目
5 回	クローン病、潰瘍性大腸炎、短腸症候群の栄養ケア・マネジメント ・対象疾患の診断基準及病態について ・生化学検査及び身体症状 ・栄養状態の評価項目
6 回	慢性閉塞性肺疾患（ＣＯＰＤ）の栄養ケア・マネジメント ・対象疾患の診断基準及病態について ・生化学検査及び身体症状 ・栄養状態の評価項目
7 回	経静脈栄養の栄養ケア・マネジメント ・経静脈栄養法の目的・適応 ・末梢静脈栄養法と中心静脈栄養法の違い ・経静脈栄養法の合併症（リフィーディング症候群）・バクテリアルトランスロケーション
8 回	脂肪肝の栄養ケア・マネジメント 過栄養に伴う脂肪肝、アルコール性脂肪肝、非アルコール性脂肪肝炎（ＮＡＳＨ）、 非アルコール性脂肪性肝炎（ＮＡＦＬＤ） ・対象疾患の診断基準及病態について ・生化学検査及び身体症状 ・栄養状態の評価項目

9 回	肝臓硬変非代償期の栄養ケア・マネジメント ・対象疾患の診断基準及病態について ・生化学検査及び身体症状 ・栄養状態の評価項目
10 回	慢性腎臓病（ＣＫＤ）の栄養ケア・マネジメント ・対象疾患の診断基準及病態について ・生化学検査及び身体症状 ・栄養状態の評価項目
11 回	透析の栄養ケア・マネジメント ・対象疾患の診断基準及病態について ・生化学検査及び身体症状 ・栄養状態の評価項目
12 回	術前・術後の栄養ケア・マネジメント（胃の全摘出） ・対象疾患の診断基準及病態について ・生化学検査及び身体症状 ・栄養状態の評価項目
13 回	血液疾患における栄養ケア・マネジメント（鉄欠乏性貧血） ・対象疾患の診断基準及病態について ・生化学検査及び身体症状 ・栄養状態の評価項目
14 回	内分泌疾患の栄養ケア・マネジメン（甲状腺機能亢進症・低下症） ・対象疾患の診断基準及病態について ・生化学検査及び身体症状 ・栄養状態の評価項目
15 回	乳幼児・小児の栄養ケア・マネジメント ・対象疾患の診断基準及病態について ・生化学検査及び身体症状 ・栄養状態の評価項目

令　和　２　年　度　教　育　計　画							
科目名	臨床栄養学実習	授業回数	15	単位数	1	担当教員	平野　聡
質問受付の方法（e-mail, オフィスアワー等）：A 棟 206 研究室　水曜日 13 時から 14 時 30 分							

教育目標と学生の学習成果		＜教育目標＞本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である 傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいて適切な栄養管理を行うためには、基本的な技法を身に付ける必要がある。本実習では、栄養状態を評価・判定するために必要な身体計測・生化学検査・臨床診査・食事摂取調査の意義を理解し、実践する。また、チーム医療の重要性を理解し、他の職種や患者様との対話を円滑に進める方法を身に付けることを目的とする。 ＜学生の学習成果＞ 専門的学習成果は、身体計測の測定方法と評価方法、栄養スクリーニングの実施と評価、食事摂取調査の実施と評価、疾患に応じた食事内容の立案、集団栄養指導の実施をおこなうことができる能力を獲得する。 汎用的学習成果は、チーム医療をおこなうためのチームワークや社会人としての自己管理能力、倫理観を獲得する。
教育方法	授業の進め方	（　講義　・演習　・実験　・実習　・実技） ・毎回、実習前にプリントを配布して実習の進め方と注意点を説明する。 ・少人数のグループに別れて、授業回数別教育内容に沿って実習を行う。 ・各グループの全員が正確に実技・実演できるように指導する。 ・授業終了時「シャトルカード」に質問、感想の記入を求め、コメントを書いて次回の授業で配布する。 ・授業中は必要に応じて白衣を着用する。
	予習・復習	シラバスを確認し、テキストを事前に確認することを望む。
	テキスト	・日本糖尿病学会編　2016 年 1 月 21 日発行「糖尿病食事療法のための食品交換表第 7 版」文光堂 ・西堀すき江　　よくわかる「栄養ケア・マネジメント」ハンドブック　中央法規 ・佐藤和人編著　2016 年 4 月発行　ｴｯｾﾝｼｬﾙ「臨床栄養学　第 8 版」医歯薬出版
学習評価の方法		以下に示す学習成果について、その獲得度合いを評価する。 ○専門的学習成果については、 ①身体計測の測定と栄養評価ができること。 ②食事摂取調査と栄養評価ができること。 ③治療食の食事計画の作成ができること。 ④機器・器具の扱いが正しくできること。 ⑤集団栄養指導の実習ができること。 ○汎用的学習成果については、コミュニケーション能力（チームワーク）や社会人としての倫理観・自己管理能力が獲得できること。 ○学習評価は、専門的学習成果（実習の技術：６０点）、汎用的学習成果（実習中の提出物：２０点、グループ学習での対話・意欲・態度：２０点）の結果を総合して行う。 なお、過度な私語や授業参加意欲が極端に低い場合、適宜減点をおこなう。
注意事項		参考図書等 集団栄養指導実習の際には、図書館で糖尿病関連の書籍を借りてください。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	授業の進め方についての説明 ・臨床栄養学実習について概説し、授業計画を説明する。 ・病院での管理栄養士の役割と業務に関する映像を用いて説明する。
2 回	食事摂取調査のうち、食事記録法と 24 時間思い出し法についての実習① ①　食事記録法は、患者様役が事前に 3 日間の食事内容を記録し、持参する。 ②　24 時間思い出し法は管理栄養士役が問診し、記録する。 （持参物：白衣）
3 回	食事摂取調査のうち、食事記録法と 24 時間思い出し法についての実習② 2 回目の授業内容で得た調査結果から栄養価計算を行い、エネルギー産生栄養素バランスを評価・判定する。 （持参物：白衣）
4 回	糖尿病交換表の使用方法についての実習① 在宅での糖尿病患者様を想定し、7 日間の献立を糖尿病交換表に基づき作成する。 外来患者用の食事計画を作成する実習（パソコンを使用） （課題：３日間の食事計画と１日分の食事を試作し提出する。） （持参物：ＵＳＢ）
5 回	糖尿病交換表の使用方法についての実習② 在宅での糖尿病患者様を想定し、7 日間の献立を糖尿病交換表に基づき作成する。 外来患者様の食事計画を作成する実習（パソコンを使用） （持参物：ＵＳＢ）
6 回	糖尿病交換表の使用方法についての実習③ 在宅での糖尿病患者様を想定し、7 日間の献立を糖尿病交換表に基づき作成する。 外来患者様の食事計画を作成する実習（パソコンを使用） （４回目に提示した課題の締め切り） （持参物：ＵＳＢ）
7 回	栄養スクリーニングの実習① ①　ベッドサイドでの主観的包括的評価（ＳＧＡ）の方法説明 ②　簡易栄養状態評価表（ＭＮＡ）の方法説明と実践 （患者役、管理栄養士役、見学者に分かれて実践する。） （持参物：白衣　備考：身だしなみを整えて来てください。）
8 回	栄養スクリーニングの実習② 実技テスト：簡易栄養状態評価表（ＭＮＡ）の実践 （持参物：白衣　備考：身だしなみを整えて来てください。）

9 回	身体計測の実習① ・身体計測の意義の説明 ・立位での身体計測の実施 　身長計・体重計・腹囲・上腕三頭筋皮下脂肪厚・上腕周囲・下腿周囲・体脂肪・握力 ・障がいを持たれている方の身体計測における評価方法 　四肢欠損を考慮しての計算 （持参物：白衣、電卓　備考：袖が捲れる服装）
10 回	身体計測の実習② ・横臥位での身体計測の実施 　身長・上腕三頭筋皮下脂肪厚・上腕周囲・膝高計 ・身体計測値からみた栄養状態の評価法・膝高から身長・体重を求める方法 （持参物：白衣、電卓　備考：袖が捲れる服装）
11 回	身体計測の実習③ ・実技テストの実施 ・横臥位での身体計測の実施 　身長・上腕三頭筋皮下脂肪厚・上腕周囲・膝高計 ・身体計測値からみた栄養状態の評価法・膝高から身長・体重を求める方法 （持参物：白衣、電卓　備考：袖が捲れる服装）
12 回	食事摂取方法についての実習① ・人体模型を使って経腸栄養法の説明 ・経鼻経管栄養法と経腸栄養法の構造を説明 ・ベッド上での食事介助の実習 　体位・・・ベッド上でのセミファーラ位（15～30 度挙げた状態） 　食事・・・プリン、ゼリー状の水 　器具・・・小スプーン （持参必須：白衣、プリン、手が拭ける程度のサイズのタオル）
13 回	糖尿病患者様を対象とした糖尿病教室の開催① ・糖尿病の栄養管理ついての解説 ・糖尿病の症例を用いた栄養ケア・マネジメントの実践 （持参物：白衣・ＵＳＢ）
14 回	糖尿病患者様を対象とした糖尿病教室の開催② ・糖尿病教室の準備 ・糖尿病教室の指導案の作成 ・糖尿病教室のパワーポイントの作成 （持参物：白衣・ＵＳＢ）
15 回	糖尿病患者様を対象とした糖尿病教室の開催③ ・実技テストの実施 ・糖尿病教室の発表 　グループごとに発表する。 （持参物：白衣・ＵＳＢ）

令　和　２　年　度　教　育　計　画							
科目名	臨床栄養学演習	授業回数	15	単位数	2	担当教員	平野　聡
質問受付の方法（e-mail,オフィスアワー等）：hirano@owc.ac.jp 水曜日 13 時から 14 時 30 分							

教育目標と学生の学習成果	＜教育目標＞本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である 傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいて、栄養状態の評価判定・栄養管理計画書又は栄養ケア計画書の作成・栄養補給法の選択・ベッドサイドでの栄養指導等が臨床の場で実施できる管理栄養士として総合的能力を身に付けることを目的とする。 ＜学生の学習成果＞ 専門的学習成果は、疾患別に栄養状態の評価ができ、その内容をよく理解し、それに基づく、栄養管理計画書又は栄養ケア計画書を作成する能力が獲得できていることとする。また、それに基づいた栄養指導を行えることとする。 汎用的学習成果は、管理栄養士としての自覚をもって積極的に任務に取り組むことができていることとする。その中でもチームワーク、パートナーシップ、対話能力として論理的思考力・自己管理能力が獲得することとする。

教育方法	授業の進め方	（　講義　・演習　・実験　・実習　・実技） 1. 各種疾患の症例に基づく栄養ケア・マネジメントについて演習をする。 ①栄養スクリーニング・アセスメント書の作成　②疾患ごとの栄養評価の実施　③栄養管理計画又は栄養ケア計画書の作成　④疾患によって栄養指導案の作成及び栄養指導の演習をおこなう。 ⑤演習の過程では、個別のアドバイスを適宜おこなう。 2.SOAP 形式による栄養ケア記録の作成をする。 3.授業終了時「シャトルカード」に質問、感想の記入を求め、内容によっては次回の授業で説明する。
	予習・復習	・各疾患については事前に予習をしておくこと。 ・時間内にできない場合は、課題として取り組むこと。
	テキスト	佐藤和人編著　2016 年 4 月発行　ｴｯｾﾝｼｬﾙ「臨床栄養学　第 8 版」医歯薬出版

学習評価の方法	学習成果は、以下の獲得度合いを評価する。 ○専門的学習成果 ①症例患者に適した栄養管理計画書の作成ができ、その内容が理解できる能力・技術を獲得していること。 ②症例患者にカウンセリングを取り入れた栄養指導ができる技術を獲得していること。 ③栄養指導後の SOAP による栄養指導記録の作成ができていること。 ○汎用的学習成果 管理栄養士としての自覚をもって積極的に任務に取り組むことができていること。チームワーク、パートナーシップ、対話能力の能力として自己表現力・他者理解力が取れていること。 ○学習評価は、専門的学習成果として、①栄養評価：50 点、②栄養管理計画書の作成：20 点、SOAP 式での記録作成：10 点とする。汎用的学習成果③チームワーク・論理的思考力、自己管理能力 20 点を総合しておこなう。 なお、過度な私語や授業参加意欲が極端に低い場合、汎用的学習成果から減点をおこなう。
注意事項	参考図書等 基礎栄養学・生化学・解剖生理学の復習をしてください。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	授業の進め方について 臨床栄養学演習について概説し、授業計画を説明する。 栄養ケア・マネジメントの書式に関して説明する。 臨床栄養学で用いる用語の解説。
2 回	糖尿病の栄養ケア・マネジメントについて症例を通しての演習 ・対象疾患の診断基準及び病態について ・生化学検査及び身体症状 ・栄養状態の評価項目 ・栄養管理計画書または栄養ケア計画書の作成
3 回	脂質異常症の栄養ケア・マネジメントについて症例を通しての演習 ・対象疾患の診断基準及び病態について ・生化学検査及び身体症状 ・栄養状態の評価項目 ・栄養管理計画書または栄養ケア計画書の作成
4 回	高血圧症の栄養ケア・マネジメントについて症例を通しての演習 ・対象疾患の診断基準及び病態について ・生化学検査及び身体症状 ・栄養状態の評価項目 ・栄養管理計画書または栄養ケア計画書の作成
5 回	心臓病の栄養ケア・マネジメントについて症例を通しての演習 ・対象疾患の診断基準及び病態について ・生化学検査及び身体症状 ・栄養状態の評価項目 ・栄養管理計画書または栄養ケア計画書の作成
6 回	代謝疾患及び循環器疾患の栄養指導を通しての演習① ・対象疾患の指導内容の検討 ・栄養指導用の媒体作成 ・栄養ケア・マネジメントに関するテスト
7 回	代謝疾患及び循環器疾患の栄養指導を通しての演習② ・対象疾患の指導内容の検討 ・栄養指導用の媒体作成 ・栄養ケア・マネジメントに関するテストの解説
8 回	代謝疾患及び循環器疾患の栄養指導を通しての演習③ ・栄養指導の演習

9 回	膵炎の栄養ケア・マネジメントについて症例を通しての演習 ・対象疾患の診断基準及び病態について ・生化学検査及び身体症状 ・栄養状態の評価項目 ・栄養管理計画書または栄養ケア計画書の作成
10 回	肝硬変の栄養ケア・マネジメントについて症例を通しての演習 ・対象疾患の診断基準及び病態について ・生化学検査及び身体症状 ・栄養状態の評価項目 ・栄養管理計画書または栄養ケア計画書の作成
11 回	腎臓病の栄養ケア・マネジメントについて症例を通しての演習 ・対象疾患の診断基準及び病態について ・生化学検査及び身体症状 ・栄養状態の評価項目 ・栄養管理計画書または栄養ケア計画書の作成
12 回	胃潰瘍の栄養ケア・マネジメントについて症例を通しての演習 ・対象疾患の診断基準及び病態について ・生化学検査及び身体症状 ・栄養状態の評価項目 ・栄養管理計画書または栄養ケア計画書の作成
13 回	消化器疾患・腎疾患の栄養指導を通しての演習① ・対象疾患の指導内容の検討 ・栄養指導用の媒体作成 ・栄養ケア・マネジメントに関するテスト
14 回	消化器疾患・腎疾患の栄養指導を通しての演習② ・対象疾患の指導内容の検討 ・栄養指導用の媒体作成 ・栄養ケア・マネジメントに関するテストの解説
15 回	消化器疾患・腎疾患の栄養指導を通しての演習③ ・栄養指導の演習

<table>
<tr><td colspan="8">令　和　２　年　　度　　教　　育　　計　　画</td></tr>
<tr><td>科目名</td><td>公衆栄養学Ⅰ</td><td>授業回数</td><td>15</td><td>単位数</td><td>2</td><td>担当教員</td><td>高槻　悦子</td></tr>
<tr><td colspan="8">質問受付の方法（e-mail,オフィスアワー等）：Ｃ棟研究室において授業時間以外に受け付ける</td></tr>
<tr><td>教育目標と学生の学習成果</td><td colspan="7">教育目標：本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である
国民、地域住民、職域などのさまざまな集団を対象に、食と健康を明らかにし、望ましい食生活の実現に向けた公衆栄養活動を推進するための基本的な知識と技術の習得を目指す
学生の学習成果：
専門的学習成果－地域や職域等における保健、医療、福祉、介護システムの栄養関連サービスのマネジメント能力、に関するプログラムの作成、実施、評価を総合的に実行できる能力の獲得
汎用的学習成果－栄養学分野の基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を現代の諸問題と関連づけて理解する能力の獲得</td></tr>
<tr><td rowspan="3">教育方法</td><td>授業の進め方</td><td colspan="6">（講義・演習・実験・実習・実技）
・授業は教科書およびプリントを教材として行うが、新聞などの最新の報道記事等も活用する。
・各授業終了時に「シャトルカード」に授業内容についての質問や感想を記入、提出すること。理解度を確認しながら、次回の授業に反映させる。
・各単元の終了後の「小テスト」、毎回のシャトルカードにより、学習の進捗状況を確認し、改善しながらすすめる。</td></tr>
<tr><td>予習・復習</td><td colspan="6">食生活に関わる報道記事などは常に関心を持っておくこと。
予習事項：次回の学習内容・教科書の範囲を示すので、教科書を必ず読んでおくこと。
復習事項：キーワードを中心に授業で出てきた用語の意味を説明できるようにする。
キーワード集を作成すること。</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="6">カレント　公衆栄養学　　由田克士・押野榮司　編著　建帛社
定価　2,600 円（税別）
日本人の食事摂取基準（２０２０年版）　第一出版　定価 2,700 円（税別）</td></tr>
<tr><td>学習評価の方法</td><td colspan="7">上記学習成果の獲得のため、以下の項目について理解度を評価する。
①公衆栄養の概念を理解している
②健康・栄養問題の現状と課題を理解している
③栄養施策を理解している
学習評価は、定期試験成績（７０％）および単元ごとの小テスト（３０％）によって行う。
授業態度は、減点法により成績判定に加える。授業態度については授業の最初に説明する。</td></tr>
<tr><td>注意事項</td><td colspan="7">15 回授業の 2/3 以上の出席により定期試験の受験資格が得られる。遅刻や欠席がないように受講すること</td></tr>
</table>

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	オリエンテーション 授業の進め方、評価の方法について 第１章　公衆栄養の概念 　①公衆栄養の概念 　　予習事項：テキスト１－１（P1-5）
2 回	第１章　公衆栄養の概念 　②公衆栄養活動 　予習事項：テキスト１－２（P5-13）
3 回	第２章　健康・栄養問題の現状と課題 　①②健康状態の変化 　　予習事項：テキスト２－２（P22-26）
4 回	第２章　健康・栄養問題の現状と課題 　③食事の変化 　　予習事項：テキスト２－３（P26-35）
5 回	第２章　健康・栄養問題の現状と課題 　④食生活の変化 　　予習事項：テキスト２－４（P35-40）
6 回	第２章　健康・栄養問題の現状と課題 　④食生活の変化（国民健康栄養調査から） 　　予習事項：テキスト２－４（P35-40）
7 回	第２章　健康・栄養問題の現状と課題 　⑤食環境の変化 　　予習事項：テキスト２－５（P40-44）
8 回	第２章　健康・栄養問題の現状と課題 　⑥諸外国の健康・栄養問題の現状と課題 　　予習事項：テキスト２－６（P45-49）
9 回	第３章　栄養政策 　①我が国の公衆栄養活動 　②公衆栄養関連法規 　　予習事項：テキスト３－１（P51-54・58）

10回	第３章　栄養政策 ②公衆栄養関連法規 予習事項：テキスト３－２（P54-58）
11回	第３章　栄養政策 ③我が国の管理栄養士・栄養士制度 予習事項：テキスト３－３（P59-61）
12回	第３章　栄養政策 ④国民健康・栄養調査 予習事項：テキスト３－４（P62-66）
13回	第３章　栄養政策 ⑤実施に関する指針、ツール 予習事項：テキスト３－５（P62-66）
14回	第３章　栄養政策 ⑥国の健康増進基本方針と地方計画 予習事項：テキスト３－６（P76-88）
15回	倉敷市の健康増進計画・食育推進計画と公衆栄養活動 食育栄養まつりについて

令　和　２　年　　度　　教　　育　　計　　画							
科目名	公衆栄養学Ⅱ	授業回数	15	単位数	2	担当教員	高槻　悦子
質問受付の方法（e-mail,オフィスアワー等）：Ｃ棟研究室において授業時間以外に受け付ける							

教育目標と学生の学習成果		教育目標：本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である 国民、地域住民、職域などのさまざまな集団を対象に、食と健康を明らかにし、望ましい食生活の実現に向けた公衆栄養活動を推進するための基本的な知識と技術の習得を目指す 学生の学習成果： 専門的学習成果－地域や職域等における保健、医療、福祉、介護システムの栄養関連サービスに関するプログラムの作成、実施、評価を総合的に実行できる能力の獲得 汎用的学習成果－栄養学分野の基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を現代の諸問題と関連づけて理解する能力の獲得
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） ・授業は教科書およびプリントを教材として行うが、新聞などの最新の報道記事等も活用する。 ・各授業終了時に「シャトルカード」に授業内容についての質問や感想を記入、提出すること。理解度を確認しながら、次回の授業に反映させる。 ・各単元の終了後の「小テスト」、毎回のシャトルカードにより、学習の進捗状況を確認し、改善しながらすすめる。
	予習・復習	食生活に関わる報道記事などは常に関心を持っておくこと。 予習事項：次回の学習内容・教科書の範囲を示すので、教科書を必ず読んでおくこと。 復習事項：キーワードを中心に授業で出てきた用語の意味を説明できるようにする。 キーワード集を作成すること。
	テキスト	カレント　公衆栄養学　　由田克士・押野榮司　編著　建帛社 定価　2,600 円（税別） 日本人の食事摂取基準（２０２０年版）　第一出版　定価 2,700 円（税別）
学習評価の方法		上記学習成果の獲得のため、以下の項目について理解度を評価する。 ①栄養疫学を理解している ②公衆栄養マネジメントを理解している ③公衆栄養プログラムを理解している 学習評価は、定期試験成績（７０％）および単元ごとの小テスト（３０％）によって行う。授業態度は、減点法により成績判定に加える。授業態度については授業の最初に説明する。
注意事項		参考図書等 参考図書は新書程度の本を授業内容に合わせて紹介する。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	オリエンテーション 　授業の概要と評価法について 公衆栄養活動について（倉敷市の取り組み） 　　倉敷市食育推進計画・食育栄養まつり
2 回	第４章　栄養疫学 　①栄養疫学の概要 　　予習事項：テキスト４－１（P95-97）
3 回	第４章　栄養疫学 　②曝露情報としての食事摂取量 　　予習事項：テキスト４－１・２（P95-102）
4 回	第４章　栄養疫学 　③食事摂取量の測定方法 　　予習事項：テキスト４－３（P102-109）
5 回	第４章　栄養疫学 　日本人の食事摂取基準 　　予習事項：日本人の食事摂取基準（２０２０年版）
6 回	第４章　栄養疫学 　日本人の食事摂取基準 　地域集団への活用 　　予習事項：テキスト５－２（P124-126）
7 回	第４章　栄養疫学 　④食事摂取量の評価方法 　　予習事項：テキスト４－４（P109-120）
8 回	第５章　公衆栄養マネジメント 　①公衆栄養マネジメント 　　予習事項：テキスト５－１（P122-124）
9 回	第５章　公衆栄養マネジメント 　　②公衆栄養アセスメント 　　予習事項：テキスト５－２（P124-130）

10回	第５章　公衆栄養マネジメント ③公衆栄養プログラムの目標設定 予習事項：テキスト５－３（P130-133）
11回	第５章　公衆栄養マネジメント ④⑤公衆栄養プログラムの計画、評価 予習事項：テキスト５－４、５（P133-145）
12回	第６章　公衆栄養プログラムの展開 ①地域特性に応じたプログラムの展開 予習事項：テキスト６－１（P146-170）
13回	第６章　公衆栄養プログラムの展開 ②食環境づくりのためのプログラムの展開 予習事項：テキスト６－２（P171-186）
14回	第６章　公衆栄養プログラムの展開 ③地域集団の特性別プログラムの展開 予習事項：テキスト６－３（P187-211）
15回	公衆栄養学のまとめ

令　和　２　年　　度　　教　　育　　計　　画							
科目名	公衆栄養学実習	授業回数	15	単位数	1	担当教員	高槻　悦子
質問受付の方法（e-mail,オフィスアワー等）：Ｃ棟研究室において授業時間以外に受け付ける							

教育目標と学生の学習成果		教育目標：本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である 国民、地域住民、職域などのさまざまな集団を対象に、食と健康を明らかにし、望ましい食生活の実現に向けた公衆栄養活動を推進するための基本的な知識と技術の習得を目指す 学生の学習成果： 専門的学習成果－地域や職域等における保健、医療、福祉、介護システムの栄養関連サービスに関するプログラムの作成、実施、評価を総合的に実行できる能力の獲得 汎用的学習成果－栄養学分野の基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を現代の諸問題と関連づけて理解する能力の獲得
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） 公衆栄養プログラムの模擬実習として、学生を対象とした食事調査、食生活状況調査、身体状況調査を行う。また、集団への食事調査として、調査対象者に興味関心が深まる食育ＳＡＴシステムの有効な活用法についても実習を行う。 調査後のデータを処理し、得られた結果と既存資料を利用して、その集団の問題点を把握（アセスメント）し、対象集団への公衆栄養マネジメントとして健康教育の模擬授業を行う。 公衆栄養活動を模擬体験するとともに、学生自らの食生活改善を促すことも目的とする。 発表内容の整理や媒体の作成などを積極的に行うこと。
	予習・復習	公衆栄養活動に関連するキーワードについて、公衆栄養学（講義）と関連づけて予習・復習をすること。 発表内容の整理や媒体の作成など、予習・復習として積極的に行うこと。
	テキスト	公衆栄養学実習　第２版　上田信夫編　化学同人　定価２４００円（税別） 日本人の食事摂取基準（２０２０年版）　第一出版　定価 2,700 円（税別） 参考図書は新書程度の本を授業内容に合わせて紹介する。
学習評価の方法		学習成果の評価としては、地域または、集団への公衆栄養マネジメントができることである。学習評価は、毎回提出されたアセスメントのためのレポート（70%）と健康教育の模擬授業（30%）によって行う。特に模擬授業については、管理栄養士としてのマネジメント能力・事業遂行能力を総合評価する。また、他者を評価することにより公衆栄養活動を客観的に理解できたかも評価の対象とする。公衆栄養活動の実践には他職種との連携が必要となるのでグループ活動時の態度も評価する。
注意事項		毎回の実習ごとにレポートの提出をもとめる。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	オリエンテーション（実習の概要について） 公衆栄養学の情報の検索方法　① 　情報の収集（新聞記事から）
2 回	公衆栄養学の情報の検索方法　② 　情報収集の結果　発表
3 回	公衆栄養活動の実践 　　地域での公衆栄養活動 （「倉敷市食育栄養まつり」の参加のための実践計画作成）
4 回	栄養状態の判定と評価　① 　身体状況調査と評価（個人）
5 回	栄養状態の判定と評価　② 　身体状況調査と評価（集団）－データ解析
6 回	栄養状態の判定と評価　③ 　食事調査の実施－24 時間思い出し法 　　食物摂取頻度調査・食育ＳＡＴシステムによる 　　栄養素摂取量の推定と評価
7 回	栄養状態の判定と評価　④ 　食事調査の実施－24 時間思い出し法 　　食物摂取頻度調査・食育ＳＡＴシステムによる 　　栄養素摂取量の推定と評価
8 回	栄養状態の判定と評価　⑤ 　国民健康栄養調査の実施－食事記録法による 　　食物摂取状況の把握と栄養素摂取量の算出、評価
9 回	栄養状態の判定と評価　⑥ 　国民健康栄養調査の実施－食事記録法による 　　食物摂取状況の把握と栄養素摂取量の算出、評価・現状把握 　　（個人）

10 回	栄養状態の判定と評価　⑦ 　国民健康栄養調査の実施－食事記録法による 　　食物摂取状況の把握と栄養素摂取量の算出、評価・現状把握 （集団）
11 回	公衆栄養活動の実践　① 　プリシード・プロシードモデルによる公衆栄養マネジメント 　健康教育の目標設定と計画書の作成
12 回	公衆栄養活動の実践　② 　健康教育の計画書と媒体作成（指導案・媒体案）
13 回	公衆栄養活動の実践　③ 　健康教育の計画書と媒体作成　（細案・媒体）
14 回	公衆栄養活動の実践　④ 　健康教育の計画書と媒体作成
15 回	公衆栄養活動の実践　⑤ 　健康教育模擬授業とその評価

<table>
<tr><td colspan="8">令和　2　年　　度　　教　　育　　計　　画</td></tr>
<tr><td>科目名</td><td>給食経営管理論Ⅰ</td><td>授業回数</td><td>15</td><td>単位数</td><td>2</td><td>担当教員</td><td>佐藤　幸枝</td></tr>
<tr><td colspan="8">質問受付の方法：C 棟 201 研究室で授業以外の時間で対応</td></tr>
<tr><td>教育目標と学生の学習成果</td><td colspan="7">＜教育目標＞本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である
給食経営管理Ⅰでは、学校・病院・福祉施設などの特定給食施設における利用者の身体状況や栄養状態、その他の利用目的にあわせた給食サービスの方法について「栄養・食事管理」と「経営管理」を学習し、給食経営管理業務に必要な基礎知識を習得する。また、各項目の目的や意義を理解し給食経営管理の流れを理解する。

＜学生の学習成果＞
給食経営管理業務の基本となる専門知識を習得する。給食管理には、コミュニケーションによる良好な人間関係を築くことが重要であることを理解する。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">教育方法</td><td>授業の進め方</td><td colspan="6">（講義・演習・実験・実習・実技）
授業は、テキスト、プリントなどを利用して進める。
・授業開始時に「小テスト」を行う。また、授業終了時に「シャトルカード」に授業内容についての質問、感想等の記入を求める。
・上記の質問に答え、また、コメントを記載して次回の授業で返却する。
・「小テスト」および「シャトルカード」により、学習進行状況を逐次確認し、改善しながら進める。</td></tr>
<tr><td>予習・復習</td><td colspan="6">「小テスト」および「シャトルカード」により、予習・復習を効果的に行っているかどうかを確かめる。問題がある場合は、学習の仕方等について指導する。</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="6">管理栄養士テキストブック　給食経営管理論　　片山直美・原正美　　（株）未来</td></tr>
<tr><td>成績評価の方法</td><td colspan="7">小テスト 14 回（14 点：1 点/回）
定期試験（86 点）
加点合計 100 点</td></tr>
<tr><td>注意事項</td><td colspan="7">15 回授業の 2/3 以上の出席により定期試験の受験資格が得られる。遅刻や欠席がないように受講すること。予習・復習を行うこと。</td></tr>
</table>

	授　業　回　数　別　教　育　内　容
1 回	オリエンテーション（シャトルカードの記入方法） 給食の概念　　P14～30 １）給食の概要 ２）給食システム ３）給食施設の特徴と関連法規 給食経営管理の概念内容予告
2 回	給食の経営管理の概念（小テストによる復習①）P31～52 １）給食経営と献立 ２）経営管理の概要 ３）給食とマーケティング ４）給食経営と組織 栄養・食事管理内容予告
3 回	栄養・食事管理（小テストによる復習②）P54～81 １）栄養・食事のアセスメント ２）食事の計画(栄養目標量の設定) ３）食事計画の実施、評価、改善 給食経営における品質管理内容予告
4 回	給食経営における品質管理（小テストによる復習③）P82～99 １）品質と標準化 ２）原価 食材・生産調理内容予告
5 回	給食経営における品質管理（小テストによる復習④）P100～125 ３）食材 ４）生産(調理)と提供 給食の安全・衛生内容予告
6 回	給食の安全・衛生（小テストによる復習⑤）P126~144 １）安全・衛生の概要 ２）安全・衛生の実際(大量調理施設衛生管理マニュアル) 給食の施設・設備内容予告
7 回	給食の施設・設備（小テストによる復習⑥）P160～183 １）生産(調理)設計・設備設計 ２）食事環境の設計と設備 給食の人事管理内容予告
8 回	給食の人事管理（小テストによる復習⑦）P184～193, １）人事 ２）給食業務従事者の教育・訓練 ３）人事考課 給食の安全・衛生 P145～159 ４）事故・災害対策 　　医療施設内容予告
9 回	医療施設（小テストによる復習⑧）P194～202 １）給食の目的　　4）栄養・食事管理の特徴 ２）施設の分類　　5）生産管理の特徴 ３）経営管理の特徴　　6）安全・衛生管理の特徴　7）施設・設備管理の特徴 高齢者・介護福祉施設内容予告
10 回	高齢者・介護福祉施設（小テストによる復習⑨）P203～214 １）給食の目的　　4）栄養・食事管理の特徴

	２）施設の分類　　5）生産管理の特徴 ３）経営管理の特徴　　6）安全・衛生管理の特徴　7）施設・設備管理の特徴 児童福祉施設・障害者福祉施設内容予告
11回	児童福祉施設（小テストによる復習⑩）P215～230 1）給食の目的　　4）栄養・食事管理の特徴 2）施設の分類　　5）生産管理の特徴 3）経営管理の特徴　　6）安全・衛生管理の特徴　7）施設・設備管理の特徴 障害者福祉施設 1）給食の目的　　4）栄養・食事管理の特徴 2）施設の分類　　5）生産管理の特徴 3）経営管理の特徴　　6）安全・衛生管理の特徴　7）施設・設備管理の特徴 学校内容予告
12回	学校（小テストによる復習⑪）P231～242 １）学校給食の目的類　　４）栄養・食事管理の特徴 ２）学校給食の運営形態による分類　　５）安全・衛生管理の特徴 ３）経営管理の特徴　　６）施設・設備管理の特徴 事業所・その他給食施設内容予告
13回	事業所（小テストによる復習⑫）P243～258 １）施設・設備の基準と関係法規 ２）食事環境の設計と設備 その他給食施設 給食サービス事業所内容予告
14回	給食サービス事業所（小テストによる復習⑬）P259～272 １）給食運営の委託事業 ２）院外給食 ３）配食事業 ４）大量調理施設衛生管理マニュアルについて
15回	まとめ（小テストによる復習⑭） 全体のまとめ

令　和　2　年　度　教　育　計　画							
科目名	給食経営管理論Ⅱ	授業回数	15	単位数	2	担当教員	佐藤　幸枝
質問受付の方法：C 棟 201 研究室で授業以外の時間で対応							

教育目標と学生の学習成果		＜教育目標：＞本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である 給食経営管理論Ⅰで習得した基礎知識を基に、各種給食施設の運営形態を理解し経営管理の実際を学ぶ。関連の資源（食品流通、給食に関わる組織や経費など）の総合的な判断力、栄養面、安全面、経済面全般のマネジメント能力を養う。 ＜学生の学習成果＞ 給食経営管理業務の総合的能力を養う。特定給食施設での栄養・給食関連サービスのマネジメントや良好な経営管理継続のための応用力や実践的な総合能力を養う。
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） 授業は、テキスト、プリントなどを利用して進める。 ・授業開始時に「小テスト」を行う。また、授業終了時に「シャトルカード」に授業内容についての質問、感想等の記入を求める。 ・上記の質問に答え、また、コメントを記載して次回の授業で返却する。 ・「小テスト」および「シャトルカード」により、学習進行状況を逐次確認し、改善しながら進める。
	予習・復習	「小テスト」および「シャトルカード」により、予習・復習を効果的に行っているかどうかを確かめる。問題がある場合は、学習の仕方等について指導する。
	テキスト	給食経営管理論　　片山直美・原正美　編　　（株）みらい Plan-Do-See にそった 給食運営・経営管理実習のてびき 西川貴子、深津智恵美ら 医歯薬出版株式会社
成績評価の方法		小テスト 7 回（7 点：1 点/回） レポート 8 回（8 点：1 点/回） 定期試験（85 点） 加点合計 100 点
注意事項		15 回授業の 2/3 以上の出席により定期試験の受験資格が得られる。遅刻や欠席がないように受講すること。

	授　業　回　数　別　教　育　内　容
1 回	オリエンテーション 健康増進法における特定給食施設の役割（小テストによる復習）P14～30（給食経営管理論） １）特定給食施設の基準　　３）関連法規 ２）管理栄養士・栄養士の配置　　４）トータルシステムとサブシステム 学校給食の給食について予習のポイント　　５）給食組織と関連分野の連携
2 回	学校給食の給食（小テストによる復習）　P231～242（給食経営管理論） １）学校給食の意義と概要 ２）給食の実施形態 ３）食事内容、食に関する指導 病院給食予習のポイント
3 回	病院給食（小テストによる復習）　P194～202（給食経営管理論） １）病院給食の概要 ２）入院時食事療養制度 ３）栄養管理と栄養法 ４）食事基準 高齢者・介護福祉施設の給食予習のポイント
4 回	高齢者・介護福祉施設の給食（小テストによる復習）　P203～214（給食経営管理論） １）高齢者・介護福祉施設 ２）介護保険制度 ３）高齢者の栄養管理 福祉施設給食の予習のポイント
5 回	福祉施設の給食（小テストによる復習）　P224～230　（給食経営管理論） １）障害者福祉施設 ２）栄養管理体制加算 福祉施設の給食、事業所の予習のポイント
6 回	児童福祉施設の給食、事業所の給食（小テストによる復習）　P215～223　243～250（給食経営管理論） １）児童福祉施設 ２）事業所、自衛隊 給食における栄養管理の実際①の予習のポイント
7 回	給食における栄養管理の実際①（レポート・小テストによる復習） P6～8（経営管理実習の手引き） １）アセスメント、栄養･食事計画 ２）給与目標量の算出 給食における栄養管理の実際②の内容について予告
8 回	給食における栄養管理の実際②（レポート・小テストによる復習） P8～13（経営管理実習の手引き） １）食品群別加重平均成分表の算出 ２）食品構成表作成 ３）栄養比率の算出 給食における栄養管理の実際③の内容について予告
9 回	給食における栄養管理の実際③（レポート・小テストによる復習） P14～32（経営管理実習の手引き） １）献立作成の留意点 ２）栄養教育教材としての給食の役割 ３）個別対応の方法 給食における栄養管理の実際④の内容について予告

10 回	給食における栄養管理の実際④（レポート・小テストによる復習） P45～50（経営管理実習の手引き） １）食品流通　食材の購入方法 ２）在庫管理と発注 給食の品質管理の実際の内容について予告
11 回	給食の品質管理の実際（レポート・小テストによる復習）　P82～96（給食経営管理論） １）栄養・食事管理と総合品質 ２）栄養出納表の算出 ３）品質改善とＰＤＣＡサイクル 原価管理の実際の内容について予告
12 回	原価管理の実際（レポート・小テストによる復習）　P145～148（経営管理実習の手引き） １）原価計算 ２）ABC 分析 会計・原価管理の実際の内容について予告
13 回	原価管理の実際（レポート・小テストによる復習）　P149～151（経営管理実習の手引き） １）給食における収入と原価・売上 ２）損益分岐点作成 衛生管理の実際の内容について予告
14 回	衛生管理の実際（小テストによる復習）　P126～143（給食経営管理論） １）大量調理マニュアル ２）衛生管理の実際の流れ 給食の生産管理の実際の内容について予告
15 回	給食の生産管理の実際（レポート・小テストによる復習）　P160～182（給食経営管理論） １）生産ラインと作業動線 ２）施設・設備のレイアウト ３）新調理システム ４）労働生産性 ５）作業工程の分析、工程表の作成

令　和　2　年　度　教　育　計　画							
科目名	給食経営管理実習Ⅰ	授業回数	15	単位数	1	担当教員	佐藤　幸枝
質問受付の方法：C 棟 201 研究室で授業以外の時間で対応							

教育目標と学生の学習成果		＜教育目標＞本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である 給食経営管理論での学びが実践の場で生かせるよう、対象者に見合った食事計画や献立、作業計画を作成し、発注・調理・試食を行い、大量調理を想定した大型機器を使用し調理方法の習得や衛生管理の実際を体験する。また、給食を活用した栄養教育・情報提供を行う。 給食経営の関わりは対象者の目的に合った、おいしく安全な食事提供ができたか、作業の時間配分や衛生面で問題はなかったかなど、業務全体のマネジメントの評価が行え、栄養士と調理従事者の業務内容や役割を理解し、協力体制の重要性を学び、問題点を見つける目やその改善策を考える力を身につける。 ＜学生の学習成果＞ 衛生管理の方法を理解する。大量調理技術、新調理技術の習得。給食業務のマネジメントの流れを習得する。給食経営管理業務で必要な応用力、リーダーシップ、コミュニケーション能力、自己管理力を身につける。給食業務に必要な数量的スキルを獲得する。
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） ・対象者に見合った献立を SAT システムを活用しながら作成する。 ・大量調理や衛生管理技術の実習は 7 グループ（管理栄養士役、下処理役、調理師役、調理パート役、盛り付けパート役、洗浄パート役・衛生係）に分けて 7 回ローテーションを行いすべての作業を体験する。体験を通して大量調理器具使用方法や管理方法も学ぶ。 ・給食経営管理の基本である計画・実施・評価の流れは管理帳票を作成することで、実務能力を身につける。 ・「シャトルカード」により、学習進行状況を逐次確認し、改善しながら進める。
	予習・復習	毎回の授業に対しては予習、復習を必要とする。
	テキスト	西川貴子、深津智恵美ら　Plan-Do-See にそった 給食運営・経営管理実習のてびき 第 4 版：医歯薬出版株式会社 メニューコーディネイターのための食材別料理集第三版：同文書院 NEX 献立作成の基本と実践：講談社サイエンティフィク
成績評価の方法		衛生管理　　（15 点：5 点/回）（衛生的な服装・検便・手洗い） 課題レポート 7 回（35 点：5 点/回） （献立、調理衛生、指導案、大量調理、発注書、給食日誌、実習改善案） 実習内容　　（50 点）　検収作業・衛生的作業　（10 点：5 点/各） 調理技術　　（20 点） グループ作業　（20 点：リーダーシップ、チームワーク） 加点合計 100 点 実習ファイル未提出 10 点減点とする。期限より遅れた場合は 5 点減点とする。
注意事項		実習で 7 つの役割を体験することになってため、休むと役割が理解できなくなる。 体調を整え遅刻や欠席がないようにする。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	オリエンテーション 実習のグループ編成、 学校給食の栄養・食事計画を立て、実習テーマを決定する
2 回	栄養・食事計画に基づいた献立作成 SAT システムを活用し献立作成を行う （献立表の提出）
3 回	給食施設見学 給食を活用した指導案の作成、 （指導案提出）
4 回	衛生管理 衛生帳票の記入方法 手洗いチェック（3 段階で評価）
5 回	大量調理について 器具の使用方法、下処理方法、調理方法、盛り付け方法について 給食帳票の記入方法　　野菜カットテスト
6 回	課題実習打合せ 献立、調理、作業工程表説明、食器衛生検査説明 （次回実習のための予習を必ず行う）
7 回	予備実習（管理栄養士役は給食日誌作成） ・　グループに分かれて、実習を役割に分かれて行う。 （管理栄養士役、下処理役、調理師役、調理パート役、盛り付けパート役、洗浄パート役・衛生係） ・　学校給食実習の準備
8 回	課題献立①：真空調理の実習（管理栄養士役は給食日誌提出） ・　真空調理の仕込み実習を役割に分かれて行う。 （管理栄養士役、下処理役、調理師役、調理パート役、盛り付けパート役、洗浄パート役・衛生係） ・　学校給食実習の準備
9 回	課題献立①（魚）：真空調理の実習（管理栄養士役は給食日誌提出） ・　真空調理の再加熱実習を役割に分かれて行う。 （管理栄養士役、下処理役、調理師役、調理パート役、盛り付けパート役、洗浄パート役・衛生係） ・　学校給食実習の準備
10 回	・課題献立②（肉）：真空調理の実習（管理栄養士役は給食日誌提出） ・　真空調理の仕込み実習を役割に分かれて行う。 （管理栄養士役、下処理役、調理師役、調理パート役、盛り付けパート役、洗浄パート役・衛生係） ・　学校給食実習の準備

11回	・課題献立②（肉）：真空調理の実習（管理栄養士役は給食日誌提出） ・　真空調理の再加熱実習を役割に分かれて行う。 （管理栄養士役、下処理役、調理師役、調理パート役、盛り付けパート役、洗浄パート役・衛生係） ・　学校給食実習の準備 （課題実習終了後大量調理、真空調理のレポート提出）
12回	グループ実習「学校給食」準備 ・　作業工程表、作業動線、献立指示書作成 ・　発注書、作業工程表の作成 ・　作業計画のプレゼンテーション ・　作業グループでの打合せ （発注書、作業工程提出）
13回	グループ A 班献立の実習「学校給食」（管理栄養士役は給食日誌提出） ・　実習を役割に分かれて行う。 （管理栄養士役、下処理役、調理師役、調理パート役、盛り付けパート役、洗浄パート役・衛生係） ・　給食時指導の媒体作成
14回	グループ B 班献立の実習「学校給食」（管理栄養士役は給食日誌提出） ・　実習を役割に分かれて行う。 （管理栄養士役、下処理役、調理師役、調理パート役、盛り付けパート役、洗浄パート役・衛生係） ・　給食時指導の媒体作成
15回	・学校給食の給食時の指導を行う。 ・給食の原価計算 ・学校給食実習についてグループでまとめ、学校給食実習の評価、改善点についてプレゼンテーションを行う。 （実習評価・改善表提出）

<table>
<tr><td colspan="8">令　和　2　年　度　教　育　計　画</td></tr>
<tr><td>科目名</td><td>給食経営管理実習Ⅱ</td><td>授業回数</td><td>15</td><td>単位数</td><td>1</td><td>担当教員</td><td>佐藤　幸枝</td></tr>
<tr><td colspan="8">質問受付の方法：C 棟 201 研究室で授業以外の時間で対応</td></tr>
<tr><td>教育目標と学生の学習成果</td><td colspan="7">＜教育目標＞本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である
病院、福祉施設、事業所などでの給食業務を想定して栄養・食事管理およびマーケティングの視点に立った経営管理を実習する。
給食施設の種類によるニーズや提供方法の違いを理解し実践することで、様々な給食施設でのマネジメント能力を養い、応用力や判断力を習得する。施設ごとの給食を活用した栄養教育、情報提供方法を学習する。
＜学生の学習成果＞
個別対応を含む大量調理技術の習得。嚥下調整食の習得。病院、福祉施設、事業所のマネジメント能力を養う。給食経営管理におけるマーケティングの基本を理解する。給食経営管理業務で必要な自己管理力、応用力、課題解決能力を身につける。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">教育方法</td><td>授業の進め方</td><td colspan="6">（講義・演習・実験・実習・実技）
・病院、福祉施設、事業所での給食業務を実習する。
・各施設の違いや特色を取り入れた献立を SAT システムを活用しながら作成する。
・大量調理や衛生管理技術の実習は 7 グループ（管理栄養士役、下処理役、調理師役、調理パート役、盛り付けパート役、洗浄パート役・衛生係）に分けて 7 回ローテーションを行いすべての作業を体験する。体験を通して大量調理器具使用方法や管理方法も学ぶ。
・給食経営管理の基本である計画・実施・評価の流れは管理帳票を作成することで、実務能力を身につける。
・「シャトルカード」により、学習進行状況を逐次確認し、改善しながら進める。</td></tr>
<tr><td>予習・復習</td><td colspan="6">毎回の授業に対しては予習、復習を必要とする。</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="6">西川貴子、深津智恵美ら Plan-Do-See にそった 給食運営・経営管理実習のてびき 第 4 版・医歯薬出版株式会社
メニューコーディネイターのための食材別料理集第三版：同文書院
NEX 献立作成の基本と実践：講談社サイエンティフィク</td></tr>
<tr><td>成績評価の方法</td><td colspan="7">衛生管理　（10 点：5 点/回）（衛生的な服装・検便）
課題レポート 8 回（40 点：5 点/回）
（給与栄養目標量計算表、献立作成、病院給食、高齢者福祉施設、事業所、給食日誌、ヘルシー弁当宣伝媒体案、実習まとめ改善シート）
実習内容　（50 点）　検収作業・衛生的作業（10 点：5 点/各）
調理技術　（20 点）
グループ作業　（20 点：リーダーシップ、チームワーク）
加点合計 100 点
実習ファイル未提出 10 点減点とする。期限より遅れた場合は 5 点減点とする。</td></tr>
<tr><td>注意事項</td><td colspan="7">実習で 7 つの役割を体験することになっているため、休むと役割が理解できなくなる。
体調を整え遅刻や欠席がないようにする。</td></tr>
</table>

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	オリエンテーション グループ実習（病院、福祉施設、事業所）の栄養・食事計画の作成 各施設の給与栄養目標量算出 栄養・食事計画に基づいた献立作成 SAT システムを活用し献立作成を行う （給与栄養目標量算出表提出）
2 回	グループ実習（各施設）の献立作成 課題実習の説明、打ち合わせ （献立表提出）
3 回	課題（嚥下調整食 1）実習（管理栄養士役は給食日誌提出） ・　実習を役割に分かれて行う。 （管理栄養士役、下処理役、調理師役、調理パート役、盛り付けパート役、洗浄パート役・衛生係） ・　施設実習の準備
4 回	課題（嚥下調整食 2）実習（管理栄養士役は給食日誌提出） ・　実習を役割に分かれて行う。 （管理栄養士役、下処理役、調理師役、調理パート役、盛り付けパート役、洗浄パート役・衛生係） ・　施設実習の準備
5 回	課題（嚥下調整食 3）実習（管理栄養士役は給食日誌提出） （摂食嚥下困難食レポート提出） ・　実習を役割に分かれて行う （管理栄養士役、下処理役、調理師役、調理パート役、盛り付けパート役、洗浄パート役・衛生係） ・　施設実習の準備
6 回	グループ実習「各施設給食」準備 ・　作業工程表、作業動線、献立指示書作成 ・　発注書、作業工程表の作成 ・　作業計画のプレゼンテーション ・　作業グループでの打合せ
7 回	ヘルシー弁当のテーマ決定 SAT システムを活用し献立作成を行う
8 回	①　病院給食実習（治療食・食事形態）（管理栄養士役は給食日誌提出） ・　病院給食実習を役割に分かれて行う。 （管理栄養士役、下処理役、調理師役、調理パート役、盛り付けパート役、洗浄パート役・衛生係） ・　ヘルシーメニューの準備 （病院給食レポート提出）
9 回	②　高齢者福祉施設給食実習（管理栄養士役は給食日誌提出） ・　高齢者福祉施設給食実習を役割に分かれて行う。 （管理栄養士役、下処理役、調理師役、調理パート役、盛り付けパート役、洗浄パート役・衛生係） ・ヘルシーメニューの準備 （高齢者福祉施設給食レポート提出）

10 回	③ 事業所給食実習　　（管理栄養士役は給食日誌提出） ・　事業所給食実習を役割に分かれて行う。 （管理栄養士役、下処理役、調理師役、調理パート役、盛り付けパート役、洗浄パート役・衛生係） ・ヘルシーメニューの準備 （事業所給食レポート提出）
11 回	各施設給食実習のまとめ ヘルシー弁当選考会準備
12 回	ヘルシー弁当選考会 （各グループ 20 分ずつプレゼン⇒弁当決定）、材料発注、食券販売計画打ち合わせ 野菜カッティングテスト
13 回	ヘルシー弁当の実習準備 弁当の販売促進用媒体を作成する。 実習作業計画のプレゼンテーション 作業グループでの打ち合わせ （宣伝媒体提出）
14 回	ヘルシー弁当実習（管理栄養士役は給食日誌提出） ・　実習を役割に分かれて行う。 （管理栄養士役、下処理役、調理師役、調理パート役、盛り付けパート役、洗浄パート役・衛生係）
15 回	実習の評価、反省会ヘルシー弁当のまとめ ・　ヘルシー弁当実習についてグループでまとめる ・　実習の評価、改善点についてプレゼンテーション。 実習室の清掃 （実習評価・改善表提出）

令　和　２　年　度　教　育　計　画							
科目名	総合演習	授業回数	15	単位数	2	担当教員	竹原良記、高槻悦子、佐藤幸枝、内田雅子、平野　聡
質問受付の方法（e-mail,オフィスアワー等）：各担当教員研究室にて行なうこと							

教育目標と学生の学習成果		教育目標： 　基礎栄養学、応用栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理論の専門科目の知識及び技術を修得した後に、これらの専門分野の知識及び技術を統合して、管理栄養士業務である栄養評価や管理が適正に行える総合的な能力を養うために、専門分野を横断した演習を行なう。 学生の学習成果： 　専門的な学習成果としては、病院や高齢者福祉施設、および地域における管理栄養士の果たす役割が理解できる。 　汎用的な学習成果としては、教員とのコミュニケーションをとおして、卒業後社会人として求められるコミュニケーション能力、態度（心構え）や職業に対する知識、理解、価値、意見を獲得する。
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） 　教育内容の「管理栄養士が果たす役割」の「Ⅰ」～「Ⅳ」において、学生はそれぞれ関連教員による説明および演習内容を理解した後、グループに分かれて演習を行う。 　また、学生の理解度のチェックのためにアンケートやレポート提出を課することがある。
	予習・復習	授業で行なう内容については、必ず事前準備および復習を行なうことが次の授業につながる。
	テキスト	現在までに学習した専門基礎分野および専門分野のテキストと参考書のすべて
成績評価の方法		上記の学習成果が達成できているかについて、授業に関わった教員がそれぞれ総合的に判断して１００点満点で採点して平均して総合評価とする。
注意事項		参考図書等 グループワークを円滑に進行するために、出席は重要である。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1回	オリエンテーション：シラバスによる説明（担当：竹原） 管理栄養士が果たす役割　Ⅰ（担当：高槻、佐藤、内田、平野、竹原） （栄養教育・食育に関する管理栄養士のしごと①） 食育栄養まつり準備（解説・計画と媒体作成）
2回	管理栄養士が果たす役割　Ⅰ（担当：高槻、佐藤、内田、平野、竹原） （栄養教育・食育に関する管理栄養士のしごと②） 食育栄養まつり準備（媒体作成）
3回	管理栄養士が果たす役割　Ⅰ（担当：高槻、佐藤、内田、平野、竹原） （栄養教育・食育に関する管理栄養士のしごと③） 食育栄養まつり準備（発表練習と検討）
4回	管理栄養士が果たす役割　Ⅰ（担当：高槻、佐藤、内田、平野、竹原） （栄養教育・食育に関する管理栄養士のしごと④） 食育栄養まつり参加（倉敷地区または児島地区）
5回	管理栄養士が果たす役割　Ⅱ（担当：佐藤、高槻、内田、平野、竹原） （福祉施設等における管理栄養士のしごと：Ａ食事介助①、Ｂ高齢者に適した食事形態） 食事介助の説明および具体的な動作の解説 おやつ作りの説明
6回	管理栄養士が果たす役割　Ⅱ（担当：佐藤、高槻、内田、平野、竹原） （福祉施設等における管理栄養士のしごと：食事介助②） 学生による演習
7回	管理栄養士が果たす役割　Ⅲ（担当：内田、佐藤、高槻、平野、竹原） （給食施設における管理栄養士のしごと：栄養ケア計画、指導①） 学校給食時の指導（指導案の作成）
8回	管理栄養士が果たす役割　Ⅲ（担当：内田、佐藤、高槻、平野、竹原） （給食施設等における管理栄養士のしごと：栄養ケア計画、指導②） 学校給食時の指導（媒体づくり）

9 回	管理栄養士が果たす役割　Ⅲ（担当：内田、佐藤、高槻、平野、竹原） （給食施設等における管理栄養士のしごと：栄養ケア計画、指導③） 学校給食時の指導（発表）
10・11 回	管理栄養士が果たす役割　Ⅳ（担当：平野、内田、佐藤、高槻、竹原） （病院における管理栄養士のしごと：①） 病院見学
12 回	管理栄養士が果たす役割　Ⅱ（担当：佐藤、高槻、内田、平野、竹原） （福祉施設等における管理栄養士のしごと：高齢者に適した食事形態） おやつ作り
13 回	管理栄養士が果たす役割　Ⅳ（担当：平野、内田、佐藤、高槻、竹原） （病院における管理栄養士のしごと：②） 個人指導の準備（パワーポイントによるリーフレット作成）
14 回	管理栄養士が果たす役割　Ⅳ（担当：平野、内田、佐藤、高槻、竹原） （病院における管理栄養士のしごと：③） 個人指導の演習（リーフレットを利用しての指導）
15 回	管理栄養士が果たす役割　Ⅳ（担当：平野、内田、佐藤、高槻、竹原） （病院における管理栄養士のしごと：④） 個人指導の演習（リーフレットを利用しての指導） 学生による自己評価提出

令　和　2　年　度　教　育　計　画							
科目名	給食経営管理実習事前事後	授業回数	15	単位数	1	担当教員	佐藤　幸枝
質問受付の方法：C 棟 201 研究室で授業以外の時間で対応							

教育目標と学生の学習成果		＜教育目標＞本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である 臨地実習（臨床栄養・公衆栄養・給食栄養管理Ⅰ・Ⅱ）の準備段階として、実践活動の場での「課題発見や問題解決」に必要な専門知識と技術の習得を行うとともに、実習を円滑に進めるための基本マナーを指導する。 実習後は、各臨地実習で学んだ管理栄養士の実践業務を再復習し、「専門的知識と技術」を統合させ、マネージメント能力の高い管理栄養士の育成を目指す。 ＜学生の学習成果＞ 各臨地実習の実践業務での課題を見つけ、課題研究を行い結果がまとめられ、発表することができる。社会人としての自己管理能力を身につけ実習に臨むことができる。実習に必要な知識をまとめ、積極的な態度で実習に臨むことができる。
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） ・ 事前指導では、臨地実習に関わる知識の復習と実践現場を想定した技術の演習を中心に行う。 ・ 社会人、医療人としての資質、感性を身につける。 ・ 事後指導では、臨地実習で取り組んだ課題や習得した知識・技術をまとめ、実践業務の気づきや問題点、反省点などをプレゼンテーションする。 ・ 管理栄養士として今後期待される点や取り組んでいかなければならない課題を明らかにし、管理栄養士の資質向上へ向けた指導を行う。
	予習・復習	毎回の授業に対しては予習、復習を必要とする。
	テキスト	松崎政三ら編著　臨地実習マニュアル[給食経営管理・給食の運営]　建帛社（2007）
成績評価の方法		給食経営管理実習事前事後評価 事前の課題研究内容　（10 点） 事前の準備事項　（30 点） 実習事項確認テスト　（20 点） 事後の課題研究のまとめ　（10 点） 事後の課題発表能力　（30 点） 加点合計 100 点 臨地実習の参加に関しては事前の準備、事後のまとめが重要であるため提出物の期限を厳守すること。
注意事項		参考図書等

授　業　回　数　別　教　育　内　容		
事前教育　二年後期	1回	オリエンテーション 1.　臨地実習の目的と意義 2.　実習先施設について 　学校、高齢者福祉施設、保健所、病院実習の概要説明 3.　個人調査
	2回	4.　臨地実習施設の実習内容とスケジュール ・　実習に必要な知識と技術 ・　実習中の服装、持参品、費用について 5.　実習中のマナー、良好な人間関係を築くための必要事項
	3回	6.　実習に必要な実践的な知識と技術 ・　栄養管理、給食管理、衛生管理について 7.　臨地実習での研究課題について
	4回	8.　学校おける管理栄養士の業務と課題
	5回	9.　福祉施設における管理栄養士の業務
	6回	10.　実習先管理栄養士による臨地実習の内容について講義（高齢者施設） ・　レポート作成 ・　研究課題をまとめる
	7回	11.　実習先管理栄養士による臨地実習の内容について講義（病院） ・　レポート作成 ・　研究課題をまとめる
	8回	12.　実習施設の説明、実習の心得 ・　研究課題の完成、目標の設定を明確化
事前教育　三年前期	9回	13.　実習施設との打ち合わせ・訪問について ・　電話の対応、挨拶などのマナー ・　打ち合わせ準備、レポートなど説明文書について
	10回	14.　大量調理の知識と技術 ・　栄養管理の実際 ・　大量調理マニュアル ・　衛生について ・　給食帳票類について
	11回	15.　実習記録ノートの書き方 16.　実習準備確認テストと解説

	12回	17. 実習中のマナー、注意事項、最終確認事項 18. 課題研究のまとめ方 19. お礼状の書き方
事後教育　三年前期	13回	1.　臨地実習のまとめ 2.　臨地実習報告会の準備
	14回	3.　臨地実習報告会の準備
	15回	4.　臨地実習報告会の準備
		臨地実習報告会 ・　施設別に実習の反省、感想を発表する 施設別の実習課題への取り組みの報告と討論 ＜インターンシップ＞ 希望学生に対して、実習施設別事後研修の施設選定、研修内容などの助言を行う。

令　和　２　年　　度　　教　　育　　計　　画							
科目名	給食経営管理臨地実習Ⅰ	授業回数	1週間	単位数	1	担当教員	佐藤　幸枝
質問受付の方法：C 棟 201 研究室で授業以外の時間で対応							

教育目標と学生の学習成果		＜教育目標＞本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である 給食経営管理臨地実習Ⅰは、給食の運営を含む実習内容とし、学校給食施設又は事業所等の集団給食施設で行う。各施設における給食の役割を理解し、給食サービス提供に関し必要な、給食費、献立作成、材料発注、検収、食数管理、調理作業、配膳、衛生管理などの知識及び技能を習得する。 また、学校では児童・生徒に対する適切な栄養教育を行うための知識と技術を習得する。 ＜学生の学習成果＞ 各施設における給食業務の内容を理解し、職務の遂行技術を習得する。 給食の目的・役割を理解し実践的な能力を身につける。社会人としての責任的倫理観、自己管理能力を獲得する。管理栄養士として必要な数量的スキル、情報リテラシーを獲得する。 施設でのコミュニケーション、チームワーク能力を身につける
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） 学校給食施設または高齢者福祉施設において 3 年次前期に 1 週間の臨地実習を行う。 研究課題を決め実習の目標とする。 実習内容は、指導担当管理栄養士と協議する。
	予習・復習	臨地実習に対しては予習、復習を必要とする。
	テキスト	松崎政三ら編著　臨地実習マニュアル[給食経営管理・給食の運営]　建帛社（2007）
成績評価の方法		実習先の評価（50 点） 課題研究（30 点） 実習ノート（20 点） 加点合計 100 点 社会人としての倫理観、自己管理能力の評価をおこなう。
注意事項		参考図書等

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
実習前	実習先事前訪問 ・　オリエンテーション ・　研究課題の設定・指導
1日目	管理者・関係者への挨拶 施設の概要と特徴説明 給食業務の概要説明 食教育の概要又は高齢者の食事形態の概要について
2日目	給食管理システムについて 給食実施計画とその実際 実習の研究課題
3日目	給食管理・運営の実際 ・大量調理作業分析 ・衛生管理の実際 ・食育活動の実際・高齢者の食事の実際
4日目	給食管理・運営の実際 ・栄養士業務の分析 ・食育活動の実際・高齢者の食事の実際
5日目	研究課題の整理・実習施設での反省会
6日目	大学での実習補講 ・各施設の実習項目の確認 ・課題レポート作成 ・実習グループでのまとめと反省点

令　和　2　年　度　教　育　計　画							
科目名	給食経営管理臨地実習Ⅱ	授業回数	1週間	単位数	1	担当教員	佐藤　幸枝
質問受付の方法：C棟201研究室で授業以外の時間で対応							

教育目標と学生の学習成果		＜教育目標＞本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である 高齢者福祉施設での実習では、対象者のアセスメントに基づいた的確な食事提供や給食運営方法、経営管理全般の業務を身に付け、実践現場で速やかな状況判断や業務全般のマネジメント能力を向上させる。また、給食に携わるスタッフとの連携方法や入所者への対応など、マニュアルでは理解しにくい、ソフト面の技術を学ぶ。 栄養ケア・マネジメントの知識と技術を習得する。 ＜学生の学習成果＞ 福祉・介護システムの中で栄養・給食関連サービスのマネジメントを行うことができる実践的な能力を獲得する。栄養ケア・マネジメントの知識と技術を習得する。入所者、他職種との連携に必要なコミュニケーション能力を学ぶ。マネジメントに必要な数量的スキル、情報リテラシーを獲得する。
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） 高齢者福祉施設で、3年次前期に1週間の実習を行う。 研究課題を決め実習の目標とする。 実習内容は、指導担当管理栄養士と協議する。
	予習・復習	臨地実習に対しては予習、復習を必要とする。
	テキスト	松崎政三ら編著　臨地実習マニュアル[給食経営管理・給食の運営]　建帛社（2007）
成績評価の方法		実習先の評価（50点） 課題研究（30点） 実習ノート（20点） 加点合計100点 社会人としての倫理観、自己管理能力の評価をおこなう。
注意事項		参考図書等 実習中の衛生管理、接遇に気をつけること。 臨地実習先の担当管理栄養士の指示に従い、積極的に実習に取り組むこと。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
実習前	実習先事前訪問 オリエンテーション 研究課題の設定・事前指導
1日目	実習オリエンテーション 施設職員への挨拶 施設の概要説明・見学 栄養部門業務の概要説明
2日目	経営管理システムの分析 入所者の食事管理・入所者とのコミュニケーション 研究課題活動①
3日目	衛生管理の実際、衛生教育 栄養ケア・マネジメントの実際 研究課題活動②
4日目	高齢者福祉施設調理作業の実際 栄養ケア・マネジメントの実際 研究課題活動③
5日目	研究課題の整理・実習施設での反省会
6日目	大学での実習補講 高齢者福祉施設での給食経営管理項目の確認 実習報告会の打ち合わせ 課題レポートについて

<table>
<tr><td colspan="8">令　和　２　年　　度　　教　　育　　計　　画</td></tr>
<tr><td>科目名</td><td>公衆栄養臨地実習</td><td>授業回数</td><td>7</td><td>単位数</td><td>1</td><td>担当教員</td><td>高槻　悦子</td></tr>
<tr><td colspan="8">質問受付の方法（e-mail,オフィスアワー等）：C 棟研究室において授業時間外に受け付ける</td></tr>
<tr><td>教育目標と学生の学習成果</td><td colspan="7">教育目標：本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である
保健所および市町村保健センター等の果たす役割や業務を理解し、地域での公衆栄養活動を体験することによって、地域等における栄養関連サービスに関する実践力を身に付ける。

学生の学習成果：
学内で習得した公衆栄養活動の知識・技術を実践の場に適用し、理論と実践を結びつけて理解することが出来るようになる。また、保健所および市町村等の役割や業務を理解できるようになる。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">教育方法</td><td>授業の進め方</td><td colspan="6">（講義・演習・実験・実習・実技）
岡山県内の保健所または市町村保健センターなどにおいて１週間の臨地実習を行う。研究課題を決め、実習の目的とすること。実習終了後は、研究課題をまとめ、レポートとして各自実習施設に提出する。学内においては、全員で反省会を開催し、他の実習施設での実習参加者の報告も踏まえ各自レポートを提出する。</td></tr>
<tr><td>予習・復習</td><td colspan="6">媒体の作成などを積極的に行うこと。</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="6">岡山県保健福祉部健康対策課監修　実習テキスト
岡山学院大学「管理栄養士のための臨地実習ノート」</td></tr>
<tr><td>学習評価の方法</td><td colspan="7">成績の評価は、事前補習（３０％）、実習施設からの評価点（５０％）、研究課題・実習ノート（２０％）を加味して行う。</td></tr>
<tr><td>注意事項</td><td colspan="7">公衆栄養臨地実習受講準備のための事前補習を必ず受講すること。
事前補習による課題、提出物も評価対象とする。</td></tr>
</table>

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
学内	オリエンテーション 実習にあたっての事前説明および実習先の把握
第1日目	保健所・市町村保健センター等の概要と業務について（講義）
第2日目	地域保健対策関係課の業務について（講義） 行政栄養士の業務について（講義）
第3日目	地域保健栄養活動の実際① （地域保健の現状とその対策）
第4日目	地域保健栄養活動の実際② （地区組織の育成　他）
第5日目	地域保健栄養活動の実際③ （母子保健事業　他）
第6日目	学内での臨地実習報告会

令　和　2　年　度　教　育　計　画							
科目名	臨床栄養臨地実習	授業回数	15	単位数	2	担当教員	平野　聡
質問受付の方法（e-mail, オフィスアワー等）：A 棟 206 研究室　水曜日 13 時から 14 時 30 分							

教育目標と学生の学習成果		＜教育目標＞本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である 臨床栄養学および臨床栄養学実習・演習を履修した後、病院の現場において個々の患者に対して栄養評価・判定に基づく適切な栄養ケア・マネジメントを行う。また、チーム医療を理解するために、現場の医療関係者との合同カンファレンスに参加してその重要性を学ぶことを目的とする。 ＜学生の学習成果＞ 専門的学習成果は、実践の場で総合的な栄養ケア・マネジメントができる知識及び技術が実践できていること。 汎用的学習成果は、チーム医療の場で社会人としての倫理観が獲得できること。課題発見とその解決ができる課題解決能力が獲得できること。
教育方法	授業の進め方	（　講義　・演習　・実験　・実習　・実技） １．病院実習を 3 年生後期に 2 週間行う。実習時間は 1 日 9 時間とする。 ２．3 年生前期に補習を実施し、研究課題の作成及び臨地実習の準備をおこなう。 ３．後期オリエンテーション時に研究課題の最終確認及び各病院の挨拶状況を確認する。 ４．研究課題をまとめ、報告会ではパワーポイントで発表する。
	予習・復習	専門基礎科目、専門科目をしっかり復習する。
	テキスト	本学作成の「臨床栄養学臨地実習ノート」 佐藤和人編著　2016 年 4 月発行　ｴｯｾﾝｼｬﾙ「臨床栄養学　第 8 版」医歯薬出版 西堀すき江　　よくわかる「栄養ケア・マネジメント」ハンドブック　中央法規
学習評価の方法		学習成果は、以下の獲得度合いを評価する。 〇専門的学習成果は、実践の場で総合的な栄養ケア・マネジメントができる知識及び技術が実践できていること。 〇汎用的学習成果は、チーム医療の場で社会人としての態度が取れていること。課題発見とその解決ができる能力が見えていること。栄養ケア・マネジメント実践の補習と事前事後の準備会に出席していること。 〇学習評価は、実習先評価（30 点）、実習ノート（10 点）、研究課題レポート（10 点）、研究課題の発表（20 点）、事前事後課題（30 点）を総合して行う。 〇なお、臨地実習が規定の日数をおこなえない場合や実習先評価が著しく低い場合は、その他の学習評価が規定の得点を満たした場合でも、単位の認定はおこなえない。
注意事項		参考図書等 ・授業回数別内容は臨地実習先及び病院が指定する休日により変更となる可能性があるので適宜対応する。 ・これまでの授業内容について科目を問わず復習する。 　特に解剖生理学と病理学のテキストは読み返す。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	事前実習（学内） ・実習概要・実習目標・注意事項などを説明する。 ・研究課題について説明する。
2 回	臨地実習　１日目・・・実習内容は、病院側の実習計画に沿って行う
3 回	臨地実習　２日目・・・実習内容は、病院側の実習計画に沿って行う
4 回	臨地実習　３日目・・・実習内容は、病院側の実習計画に沿って行う
5 回	臨地実習　４日目・・・実習内容は、病院側の実習計画に沿って行う
6 回	臨地実習　5 日目・・・実習内容は、病院側の実習計画に沿って行う
7 回	学内にて臨地実習　6 日目・・・全員登校 ・実習ノートの確認（確認） ・研究課題の進捗状況の報告および質疑応答 ・1 週間の反省を病院別にまとめ発表する
8 回	臨地実習　７日目・・・実習内容は、病院側の実習計画に沿って行う
9 回	臨地実習　８日目・・・実習内容は、病院側の実習計画に沿って行う

10回	臨地実習　９日目・・・実習内容は、病院側の実習計画に沿って行う
11回	臨地実習　１０日目・・・実習内容は、病院側の実習計画に沿って行う
12回	臨地実習　１１日目・・・実習内容は、病院側の実習計画に沿って行う
13回	学内にて事後実習　１２日目・・・全員登校 ・実習ノート及び研究課題のまとめ（提出） ・礼状の書き方 ・報告会の役割分担を決める 〇持参物：便箋と白の封筒
14回	学内にて事後実習 ・臨床栄養臨地実習の報告会の準備 　レポートの完成・パワーポイントの完成
15回	学内にて事後実習 ・研究課題の報告会

令　和　２　年　度　教　育　計　画							
科目名	学校栄養指導論Ⅰ	授業回数	15	単位数	2	担当教員	井上　恵子
質問受付の方法（e-mail,オフィスアワー等）：A 107 毎週月曜日４限　　k.t.m.noda@ezweb.ne.jp							

教育目標と学生の学習成果		教育目標：近年、食に関する問題は食生活の多様化が進む中、喫緊の課題となっている。次代を担う子どもの食生活については、学校・家庭・地域が連携して望ましい食生活を形成する必要があるが、学校教育の場において児童生徒にいかに食教育を進めていくかが重要であると考えられる。学校における食に関する指導の目標、栄養教諭が中心となり作成する食に関する指導の全体計画、各教科等や給食における食に関する指導方法を学び、食教育のあり方と課題を考え、管理栄養士として学んだことを学校教育の現場に生かすことができるよう、栄養教諭としての使命と自覚、職務内容についての理解を深めるようにする。 学生の学習成果 専門的学習成果：栄養教諭としての基礎的な知識はもとより、食に関する指導の考えと方法を身に付け、教諭としての資質を練磨する。 汎用的学習成果：学校における管理栄養士が果たすべき多様な専門領域に関する能力を培い、技能・態度及び考え方の総合的能力を身に付ける。栄養教諭として必要なチームワーク・リーダーシップ・コミュニケーション能力として倫理的思考力・問題解決力を培う。
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） 栄養教諭が食に関する指導をおこない、学校給食管理についても指導的な立場であることの理解を踏まえながら、栄養教諭が関わっている制度・法律等をわかりやすく説明して授業を進めていく。資料提供をして具体的な実例を示し理解を図る。授業は、テキスト、プリント、パワーポイント、学習指導案、模擬授業などを利用して進める。 また、授業終了時に「シャトルカード」に授業内容についての質問、感想等の記入を求める。上記の質問に答え、コメントを記載して次回の授業で返却する。 「シャトルカード」により、学習進行状況を逐次確認し、改善しながら進める。
	予習・復習	・毎授業前に、「授業回数別教育内容」に記載された予習を求める。 ・毎授業後に、復習を求める。 ・「シャトルカード」により、予習・復習を効果的に行っているかどうかを確かめる。問題がある場合は、学習の仕方等について指導する。
	テキスト	四訂　栄養教諭論　-理論と実際-　金田　雅代　編著　（健帛社） 文部科学省・食に関する指導の手引　第二次改定版　（東山書房） 文部科学省・小学校学習指導要領解説　総則編　（東洋館出版社） 文部科学省・小学校学習指導要領解説　特別活動編　（東洋館出版社）
学習評価の方法		基本的な栄養教諭の役割が理解できていることが基準となる。学習態度及び学習意欲も大切であるが、授業内容についての理解度を判定するために試験を行う。 教諭として教壇に立つための基本的な教育力が身についた学習指導案が出来上がったか、そのレポートを提出し、総合として評価する。 ・ペーパーテストによる基準得点の取得　・・・85% ・レポートの提出（学習指導案）・・・　15%

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	オリエンテーション 栄養教諭の児童・生徒に対する食に関する指導のあり方と基本的な概念の説明 栄養教諭の職務内容・使命・役割について説明
2 回	第１章　栄養教諭の制度と役割（１） ・　栄養教諭制度の創設の経緯 ・　栄養教諭の資質能力の確保 ・　栄養教諭の配置、身分
3 回	第１章　栄養教諭の制度と役割（２） ・　栄養教諭の職務 ・　学校給食の歴史 ・　学校給食法、食育基本法の施行、食育推進基本計画の決定
4 回	第２章　学校組織と栄養教諭 ・　学校組織と栄養教諭の位置づけ ・　委員会活動等における栄養教諭の役割
5 回	第７章　「食に関する指導」の展開 ・　指導内容の整理と指導計画 ・　年間指導計画に基づいた指導の成果
6 回	第７章　「食に関する指導」の展開 ・　学習指導の評価 ・　特別支援学校における食に関する指導
7 回	第８章　給食の時間における食に関する指導① ・　学校指導要領における給食の位置づけ ・　給食の時間における指導の特徴 ・　給食の時間における食に関する指導の進め方
8 回	第８章　給食の時間における食に関する指導② ・　指導上における留意点 ・　学校給食におけるリスクマネジメント ・　給食の時間における指導の評価
9 回	第８章　給食の時間における食に関する指導③ ・　学習指導案の書き方

10 回	第８章　給食の時間における食に関する指導④ ・　模擬授業実施
11 回	第８章　給食の時間における食に関する指導⑤ ・　模擬授業実施
12 回	第３章　学校給食と日本人の食生活 ・　学校給食の食事内容の推移　多様化してきた学校給食 ・　学校給食の食事環境 ・　学校給食用食器具の変遷
13 回	第３章　学校給食と日本人の食生活 ・　地場産物の活用 ・　米飯給食の普及と郷土食
14 回	第３章　学校給食と日本人の食生活 ・　食に関する指導体制の整備について ・　法律に基づく食の体制について
15 回	第４章　子どもの発達と食生活 ・　体位と健康 ・　食習慣と健康 ・　調査から見える食生活の課題 ・　学校給食でのエネルギーおよび栄養素の摂取量

令　和　２年　度　教　育　計　画							
科目名	学校栄養指導論Ⅱ	授業回数	15	単位数	2	担当教員	井上　恵子
質問受付の方法(e-mail,オフィスアワー等):A107 毎週月曜日４限　　k.t.m.noda@ezweb.ne.jp							

教育目標と学生の学習成果		教育目標:学校栄養指導論Ⅰの講義内容を受け、この教科では栄養教諭のあり方についてさらに実践に結びつく学習を行う。学校現場における栄養教諭が実際に行う食に関する指導について、各教科及び特別活動、道徳、総合的な学習、給食時間の指導など学習指導要領を基に学習指導案を作成し、問題点や解決策を見い出せるようにする。 学生の学習成果 専門的学習成果:　講義・指導案作成理論を通じて、栄養教諭として身につけたい資質・能力をより深く極める。そのために、教諭として教壇に立つポイントをつかみ、実際に模擬授業を実施し、食に関する指導の実践に結びつけることによって今後の教育実習に備える。 汎用的学習成果:学校における管理栄養士が果たすべき多様な専門領域に関する能力を培い、技能・態度及び考え方の総合的能力を身につける。そして栄養教諭として児童生徒への食に関する指導を行う能力を獲得する。また、栄養教諭として必要なチームワーク、リーダーシップ、コミュニケーション能力として倫理的思考力、問題解決力を培う。
教育方法	授業の進め方	(講義・演習・実験・実習・実技) 栄養教諭の現状のテキストを基に講義をする。 学習指導要領を基に指導案を作成し、教材づくり等を理解するためにパワーポイントやプリントで具体的な説明を行う。指導案や教材研究をした上で、模擬授業を個人で実施し成果を批評し合い意欲を高める。 　また、授業終了時「シャトルカード」に授業内容についての質問、感想等の記入を求める。質問に答え、コメントを記載して次回の授業で返却する。 「シャトルカード」により、学習進行状況を逐次確認し、改善しながら授業を進める。
	予習・復習	・毎授業前に、「授業回数別教育内容」に記載された予習を求める。 ・毎授業後に、復習を求める。 ・「シャトルカード」により、予習・復習を効果的に行っているかどうかを確かめる。問題がある場合は、学習の仕方等について指導する。
	テキスト	四訂　栄養教諭論-理論と実際-　金田　雅代　編著　(健帛社) 文部科学省・食に関する指導の手引　第二次改定版　(東山書房) 文部科学省・小学校学習指導要領解説　総則編(東洋館出版社) 文部科学省・小学校学習指導要領解説　特別活動編(東洋館出版社)
学習評価の方法		栄養教諭としての基礎・基本がどのくらい身についたかをペーパーテストによる評価を行う。 学習指導案による細案・板書計画・指導媒体の作成と使用方法について評価を行う。 ・　ペーパーテスト・・・・８５％ ・　模擬授業実践　・・・・１５　％
注意事項		

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1回	オリエンテーション 栄養教諭の使命と役割および授業方針と講義内容についての説明 学習指導要領の意義と「食に関する指導」のあり方について
2回	第５章　学習指導要領の意義と食育のあり方 ・　学習指導要領改訂の趣旨 ・　学校における体育・健康に関する指導と食育の推進 ・　現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力
3回	第６章　学習指導要領の意義と食育のあり方 ・　カリキュラムマネジメント ・　栄養教諭に求められるもの ・　食育推進の評価
4回	第７章　「食に関する指導」の展開 ・　指導内容の整理と指導計画 ・　年間指導計画に基づいた指導の成果
5回	第７章　「食に関する指導」の展開 ・　学習指導の評価 ・　特別支援学校における食に関する指導 ・　学習指導案について、指導媒体について
6回	第９章　教科等における食に関する指導 ・　生活科における食に関する指導 ・　家庭科、技術家庭科における食に関する指導 ・　体育科、保健体育科における食に関する指導 ・　総合的な学習の時間における食に関する指導
7回	第９章　教科等における食に関する指導 ・　特別活動における食に関する指導 ・　社会科における食に関する指導 ・　理科における食に関する指導 ・　特別の教科道徳における食に関する指導
8回	実践演習①（食に関する指導の指導案作り） 各教科との関連した指導案の作成 学習指導要領を基にした指導案の作成について

9 回	実践演習②（食に関する指導の指導案作り） 各教科との関連した指導案の作成 教材の利用方法、指導のための資料の作成方法についての検討と説明
10 回	実践演習③（食に関する指導の指導案作り） 個人あるいは 2～3 人のグループで学年に合わせた指導案の検討及び作成を行う。
11 回	実践演習④(作成した指導案の発表、相互評価) 作成した指導案の発表を行う。児童生徒がその発達段階に応じて食生活に対する正しい理解と望ましい食習慣を身につけることができる指導案か相互に問題点を指摘し、より良い指導案の作成を行う。
12 回	実践演習⑤(作成した指導案の発表、相互評価) 11 回と同様に作成した指導案の発表を行い、指導案が「学校における食育の推進」に結びつくか相互に検証し、より良い指導案の作成を行う。
13 回	実践演習⑥（15 分間模擬授業演習　採点実践演習） 作成した指導案に沿って模擬授業を行い、授業のやり方、説明の方法について検討を行う。
14 回	実践演習⑦（15 分間模擬授業演習　採点実践演習） 作成した指導案に沿って模擬授業を行い、授業のやり方、説明の方法について検討を行う。
15 回	第１０章　個別栄養相談指導の意義と方法 ・　個別栄養相談の実際 第１１章　家庭・地域社会との連携 ・　なぜ今「家庭・地域社会との連携」なのか ・　家庭、地域社会との連携に期待される「コーディネーター」の役割 ・　地域、家庭との連携を具体的に推進するための「キーワード」 「開く」　「結ぶ」　「育む」 ・　地場産物を活用するための連携

令　和　2　年　度　教　育　計　画							
科目名	教育原理	授業回数	15	単位数	2	担当教員	福野裕美

質問受付の方法（e-mail,オフィスアワー等）：
yfukuno@owc.ac.jp、OH：木曜日 12:20～13:00、その他在室時は何時でも可（M 棟 410）

教育目標と学生の学習成果

教育目標：
教育とは、学習とは、一体どのような営みなのか。本講義では、教育学の主要なトピックを取り上げ、歴史的検討、国際比較などを交えながら、「教育」という営みの本質、近代学校教育の意義について基本的な知見を学ぶ。また、今日の教育的課題と今後の展望について多角的に考察する中で、教育に対する自分自身の向き合い方を自覚し、吟味・再構築していく。

学生の学習成果：
専門的学習成果：下記の事柄について基礎的知識を修得する。
1.教育の目的、目標、　2．教育の思想と歴史、　3．教育の内容、方法、評価
4.教育の現状と課題
汎用的学習成果：コミュニケーション能力、情報編集･発信の能力、論理的思考力を身につける。

教育方法

授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） ・主として講義形式とする。 ・コミュニケーション能力を育成するため、DVD 教材をもとにディスカッション等の活動を行う。 ・シャトルカードを記入してもらい、学生からの質問や感想などを把握し、次回の授業の初めに補足説明を加える。 ・学生の理解を促すために、授業中に小テストや課題を課す。
予習・復習	予習事項：各回の授業で学習する内容についてテキストを読み、疑問点を明確にする。 復習事項：テキストおよび授業で配付されたレジュメを読む。各回の復習キーワードを中心に、授業で出てきた用語の意味を説明できるようにする。 各回の予習・復習事項は「授業回数別教育内容」に示す。
テキスト	田嶋一・中野新之祐・福田須美子・狩野浩二著『やさしい教育原理〔第 3 版〕』有斐閣、2016 年。

学習評価の方法

学習成果：以下の項目について、おおよそ同等の比重をかけて評価する。
・教育の目的、目標について理解している。
・教育の主要な思想、歴史について理解している。
・教育の内容、方法、評価について理解している。
・今日の教育の現状と課題を認識し、他者の多様な考えを踏まえた上で、自分なりの意見を持つことができる。
・自分の意見を正しい日本語で論理的に表現することができる。

学習評価は、試験（50%）、レポート（50%）によって評価する。レポート課題は授業中に提示する。

注意事項

参考図書等：
柴田義松編『新・教育原理　改訂版』有斐閣、2003 年。
それ以外の図書については、授業時に随時紹介する。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	〈オリエンテーション〉 ○本時の目標 本時では、本科目の全体目標及び授業スケジュール、成績評価等について理解するとともに、教育について学ぶ意義を理解する。 ○本時の活動 ・オリエンテーション 本科目の全体目標、授業スケジュール、成績評価等の説明。 ・ディスカッション：教育とは何か。その他、配付資料を用いて解説する。 ○本時の学習成果 本科目の概要について理解し、教育について学ぶ意義を理解している。 ○予習及び復習事項 予習事項：テキストの目次を中心に一通り目を通してくる。 復習事項：授業で配付された資料を読み、本日の授業の要点をまとめる。
2 回	〈なぜ教育学を学ぶのか〉 ○本時の目標 本時では、映像資料の視聴とディスカッションを通して、栄養教諭になる上でなぜ教育学を学ぶのかを理解する。 ○本時の活動 ・ドキュメンタリー番組『いのちの授業 900 日　ぶたの P ちゃんと 32 人の小学生』視聴 ・ディスカッション：いのちの授業について ○本時の学習成果 栄養教諭になる上で、教育学を学ぶ意義を理解している。 ○予習及び復習事項 予習事項：なぜ教育学を学ぶ必要があるのか、自分の意見をまとめておく。 復習事項：小レポートを作成する。
3 回	〈教育とは何か〉 ○本時の目標 本時では、教育の意味とその必要性を理解する。 ○本時の活動 ・テキスト（1-42 頁）及び配付資料で解説する。 ○本時の学習成果 教育の意味や必要性について理解しており、教育学の用語を用いながら、自分なりに説明できる。 ○予習及び復習事項 予習事項：テキスト（1-42 頁）を読んでくる。 復習事項：生理的早産、野生児について自分なりに説明できるようにする。
4 回	〈教育の思想〉 ○本時の目標 教育に関連する代表的な人物の思想を理解する。 ○本時の活動 ・配付資料で解説する。 ○本時の学習成果 教育に関連する代表的な人物と、その思想について理解している。 ○予習及び復習事項 予習事項：「ルソー」、「ペスタロッチ」、「フレーベル」について情報を収集してくる。 復習事項：授業で取り上げた人物の思想を自分なりに説明できるようにする。

5 回	〈学校とは何か①〉 ○本時の目標 本時では、学校がなぜ生まれ、それがどのように発展し、近代学校が準備されていったのかを理解する。 ○本時の活動 ・テキスト（43-59 頁）及び配付資料で解説する。 ○本時の学習成果 学校の成り立ちと近代教育制度の成立までを理解している。 ○予習及び復習事項 予習事項：テキスト（43-59 頁）を読んでくる。 復習事項：なぜすべての子どもが学校に通うようになったか、自分なりに説明できるようにする。
6 回	〈学校とは何か②〉 ○本時の目標 本時では、特に日本において学校はどのように成立し、展開してきたのかを理解する。 ○本時の活動 ・テキスト（61-89 頁）及び配付資料で解説する。 ○本時の学習成果 日本の学校教育の成立と展開を理解している。 ○予習及び復習事項 予習事項：テキスト（61-89 頁）を読んでくる。 復習事項：自分が受けてきた学校教育は、どのような歴史の流れの中に位置付くか、考えてみる。
7 回	〈学校とは何か③〉 ○本時の目標 本時では、学校の成立と展開の歴史をふまえて、現代社会における教育課題を理解する。 ○本時の活動 ・配付資料で解説する。 ○本時の学習成果 学校教育の成立と展開の歴史をふまえて、現代社会における教育課題について、自分の意見を述べることができる。 ○予習及び復習事項 予習事項：第 5 回、第 6 回で学んだ内容を自分なりにまとめる。 復習事項：現代社会における教育課題を解決するために、どのような方法が考えられるか、自分なりの意見をまとめる。
8 回	〈授業の可能性・学校の可能性〉 ○本時の目標 本時では、学習指導のあり方が歴史的展開の中で大きく変わってきたことを理解し、これから求められる学習指導のあり方を考える。 ○本時の活動 ・テキスト（157-181 頁）及び配付資料で解説する。 ○本時の学習成果 学習指導の歴史的な変遷を理解し、これからの学習指導のあり方について、自分なりの意見を述べることができる。 ○予習及び復習事項 予習事項：テキスト（157-181 頁）を読んでくる。 復習事項：これからの学校教育において、どのような形態の授業が求められるか、自分の意見をまとめる。

9 回	〈生活指導とは何か〉 ○本時の目標 一般に学校では頭髪検査や服装チェックなど、生活指導（生徒指導）が行われている。本時では、生活指導（生徒指導）何を目的としているのか、どのような意義があるのかについて理解する。 ○本時の活動 ・配付資料で解説する。 ○本時の学習成果 生活指導（生徒指導）の目的やその意義について理解している。 ○予習及び復習事項 予習事項：中学校や高等学校でどのような生活指導（生徒指導）を受けたか、その時にどのように感じたかを思い出してくる。 復習事項：生活指導、問題行動について、自分なりに説明できるようにする。
10 回	〈家庭教育について〉 ○本時の目標 現代の子どもたちが育つ家庭はどのような特徴を持っているのか。子どもたちは家庭で親からどのようなことを学ぶのか。また、家庭教育を補う機関にはどのようなものがあるのか。本時では、家庭教育に関わる基本的な事柄を理解する。 ○本時の活動 ・配付資料で解説する。 ○本時の学習成果 家庭教育の領域や、保育所・幼稚園・認定こども園による子育て支援など、家庭教育に関わる基本的な事柄を理解している。 ○予習及び復習事項 予習事項：家庭で、子どもは親からどのようなことを学んでいるか、自分なりの意見を考えておく。 復習事項：保育所、幼稚園、認定こども園、子育て支援について自分なりに説明できるようにする。
11 回	〈社会教育と生涯学習〉 ○本時の目標 本時では、社会教育や生涯学習とは何か、また、なぜ生涯学習社会が必要とされるのかを理解する。 ○本時の活動 ・テキスト（227-242 頁）及び配付資料で解説する。 ○本時の学習成果 社会教育や生涯学習の意味、生涯学習社会の必要性について理解している。 ○予習及び復習事項 予習事項：テキスト（227-242 頁）を読んでくる。 復習事項：社会教育、生涯学習について自分なりに説明できるようにする。

12 回	〈教師の仕事〉 ○本時の目標 本時では、教師はどのようにして養成されるのか、現代の教師は教育活動に従事していくためにどのような力量が求められているのかを理解する。 ○本時の活動 ・テキスト（183-208 頁）及び配付資料で解説する。 ○本時の学習成果 教員養成の歴史や現代の教師に求められている事柄について理解している。 ○予習及び復習事項 予習事項：テキスト（183-208 頁）を読んでくる。 復習事項：師範学校、開放制、教員免許更新制について自分なりに説明できるようにする。
13 回	〈子どもの問題と学校教育〉 ○本時の目標 本時では、現代の学校や子どもをめぐって生じているさまざまな問題についてその実態、考えられる原因や対応策について理解する。 ○本時の活動 ・配付資料で解説する。 ○本時の学習成果 現代の学校や子どもをめぐる問題についてその実態を理解し、原因や対応策について自分なりの意見を述べることができる。 ○予習及び復習事項 予習事項：近年の子どもが抱える問題にはどのようなものがあるか調べてくる。 復習事項：不登校、いじめ、学級崩壊について自分なりに説明できるようにする。
14 回	〈社会の変化と教育問題〉 ○本時の目標 本時では、社会の変化に応じて、学校現場で生じる問題について理解する。 ○本時の活動 ・配付資料で解説する。 ・ディスカッション：学校におけるジェンダー ○本時の学習成果 社会の変化に応じて、学校現場で問題となる事柄について理解し、自分なりの意見を述べることができる。 ○予習及び復習事項 予習事項：これまでの学校生活を振り返り、男女別に分けられていたことを挙げる。 復習事項:隠れたカリキュラム、ジェンダーについて自分なりに説明できるようにする。
15 回	〈まとめ：これまでの学習内容の総復習〉 ○本時の目標 本時では、これまでの学習内容の重要なポイントを振り返り、教育の基本的概念、歴史や思想をふまえた上で、教育の本質について理解する。 ○本時の活動 ・配付資料で解説する。 ○本時の学習成果 教育の基本的概念、歴史や思想をふまえた上で、教育とは何かについて、自分の意見を論理的に述べることができる。 ○予習及び復習事項 予習事項：これまでの授業の中で理解が不十分な箇所をまとめ、質問できるようにしておく。 復習事項：授業で配付されたすべてのレジュメおよび資料を見直す。

令　和　2　年　度　教　育　計　画							
科目名	教師論	授業回数	15	単位数	2	担当教員	福野　裕美
質問受付の方法（e-mail,オフィスアワー等）： yfukuno@owc.ac.jp、OH：木曜日 12:20～13:00、その他在室時は何時でも可（M 棟 410）							

教育目標と学生の学習成果		教育目標：教職を志望する受講生を対象に、以下の事柄に関する基礎的知識の定着を図るとともに、教職に就くことの意味を考え、教職に対する使命感を高めることを目標とする。 ・教師の仕事の意義と内容 ・教師の地位や身分 ・組織の一員としての教師の役割 ・教師に課せられる服務上・身分上の義務及び身分保障 ・教師の力量発達 ・近年の教育改革（チーム学校への対応） 学生の学習成果： 専門的学習成果：上記の基礎的知識を修得する。 汎用的学習成果：①論理的思考力、②コミュニケーション能力、③教師としてふさわしい倫理観、自己管理力を身につける。
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） 1．講義、個人発表、および質疑応答を授業の主要な構成要素とする。 2．各受講生が担当する箇所を決め、当該箇所について、受講生が作成したレジュメをもとに発表を行う。レジュメは早期に作成し、発表までに一度は担当教員のチェックを受けること。 3．発表をもとに、質疑応答を行う。また、以上の内容を補う講義をする。 4．授業後にシャトルカードに記入してもらい、双方向的な授業を展開する。
	予習・復習	予習事項：各回の授業で学習する内容についてテキストを読み、質問を考えてくる。 復習事項：テキストおよび授業で配付されたレジュメを読む。各回の復習キーワードを中心に、授業で出てきた用語の意味を説明できるようにする。
	テキスト	秋田喜代美、佐藤学編著『新しい時代の教職入門〔改訂版〕』有斐閣、2015 年。
学習評価の方法		学習成果：下記の学習成果について、おおよそ同等の比重をかけて評価する。 ①教職の意義や職務内容など、教職に関する基礎的知識を修得している。 ②教員の身分や役割、研修などに関する法令や制度の概要を理解している。 ③教師の力量形成の現状と課題について理解している。 ④テキストの担当箇所について、ポイントを的確にとらえたレジュメを作成し、発表することができる。 ⑤教職をめぐる課題を認識したうえで、これまでの自身の経験を踏まえて、自分なりの考えを論理的に展開することができる。 学習評価は、最終試験（60%）、レジュメ発表（20%）、課題（20%）によって評価する。課題は授業中に提示する。
注意事項		参考図書等：曽余田浩史・岡東壽隆編著『改訂版　新・ティーチング・プロフェッション 次世代の学校教育をつくる教師を目指す人のために』明治図書出版、2019 年。 浅田匡･生田孝至･藤岡完治編著『成長する教師―教師学への誘い』金子書房、1998 年。 大村はま・苅谷剛彦・苅谷夏子『教えることの復権』ちくま書房、2003 年。 それ以外の図書については、授業中に随時紹介する。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	〈オリエンテーション〉 ○本時の目標 本時では、本科目の全体目標及び授業スケジュール、成績評価等について理解するとともに、なぜ教職について学ぶのかを理解する。 ○本時の活動 ・オリエンテーション 本科目の全体目標、授業スケジュール、成績評価等の説明。 ・配付資料を用いて解説する。 ○本時の学習成果 本科目の概要について理解し、教師の仕事について学ぶ意義を理解している。 ○予習及び復習事項 予習事項：テキストの目次を中心に一通り目を通してくる。 復習事項：授業で配付されたレジュメを参照し、本日の授業の要点をまとめる。
2 回	〈レジュメ作成の説明・教師の仕事の実像に迫る①〉 ○本時の目標 本時では、第5回以降に行う各自の発表に向けて、担当箇所を決定し、レジュメ作成の方法を理解する。また、実在の教師を取り上げた映像資料を通して、教師の仕事に対するイメージを構築する。 ○本時の活動 ・担当箇所の決定、レジュメ作成方法の説明 ・映像資料の視聴とそれに基づく議論 ○本時の学習成果 レジュメ作成の方法を一通り理解するとともに、教師の仕事に対するイメージをより明確にする。 ○予習及び復習事項 予習事項：テキストに目を通し、自分が担当したい章を考えてくる。 復習事項：映像資料に関する小レポートを作成する。
3 回	〈レジュメ作成の準備・教師の仕事の実像に迫る②〉 ○本時の目標 本時では、第5回以降に行う各自の発表に向けて、発表準備を進める。また、実在の教師を取り上げた映像資料を通して、多様な教師の姿を理解する。 ○本時の活動 ・発表に向けた準備（レジュメ作成状況の確認、疑問点の解消など） ・映像資料の視聴とそれに基づく議論 ○本時の学習成果 レジュメ作成の方法を十分に理解しているとともに、多様な教師の姿を理解している。 ○予習及び復習事項 予習事項：レジュメ作成を進め、疑問点があれば質問できるようにしておく。 復習事項：映像資料に関する小レポートを作成する。

4 回	〈教師の仕事の実像に迫る③〉 ○本時の目標 　本時では、第5回以降に行う各自の発表に向けて、発表準備を進める。また、実在の教師を取り上げた映像資料を通して、多様な教師の姿を理解し、自らの持つ教師の仕事に対するイメージをより明確にする。 ○本時の活動 ・発表に向けた準備（レジュメ作成状況の確認、疑問点の解消など） ・映像資料の視聴とそれに基づく議論 ○本時の学習成果 レジュメ作成の方法を習得するとともに、多様な教師の姿を理解し、自らの持つ教師の仕事に対するイメージが明確になっている。○予習及び復習事項 予習事項：レジュメ作成を進め、疑問点があれば質問できるようにしておく。 復習事項：映像資料に関する小レポートを作成する。
5 回	〈教師の日常世界へ〉 ○本時の目標 　本時では、教師の仕事がどのような活動や要素から成り立ち、どのように組織されているのか、教職の特徴を理解する。 ○本時の活動 ・テキスト（1～20頁）に基づく発表と質疑応答、議論 ・発表内容の補足 ○本時の学習成果 教師の仕事の性質や教職の特徴を理解している。 ○予習及び復習事項 予習事項：テキスト（1～20頁）を読む。 復習事項：教育職員免許状、無境界性、感情労働について自分なりに説明できるようにする。
6 回	〈授業をつくる〉 ○本時の目標 　本時では、授業のデザインという仕事を支える教師の知識やどのようなもので、それを教師はどのように身につけていくのかを理解する。 ○本時の活動 ・テキスト（21～47頁）に基づく発表と質疑応答、議論 ・発表内容の補足 ○本時の学習成果 　授業において教師が具体的にどのような活動をしているのか、そこで求められる知識を、教師はどうやって身につけていくのかを理解している。 ○予習及び復習事項 予習事項：テキスト（21～47頁）を読む。 復習事項：授業のデザイン、教室談話について自分なりに説明できるようにする。
7 回	〈授業から学ぶ〉 ○本時の目標 　本時では、教師が授業を通して何を捉え、どのように意味づけながら、日々の教育実践を創造していくのかに着目しながら、「学び手」としての教師について理解する。 ○本時の活動 ・テキスト（49～69頁）に基づく発表と質疑応答、議論 ・発表内容の補足 ○本時の学習成果 　教職とは、日々の教育実践から常に学び続けることを通して自らの力量を高め、成長していく仕事であることを理解している。 ○予習及び復習事項 予習事項：テキスト（49～69頁）を読む。 復習事項：省察、教育評価、研修について自分なりに説明できるようにする。

8 回	〈カリキュラムをデザインする〉 ○本時の目標 　本時では、カリキュラムについての考え方を押さえた上で、教師がカリキュラムをデザインする過程について理解する。また多様な専門性を持つ人材と連携することの重要性を理解する。 ○本時の活動 ・テキスト（71～83 頁）に基づく発表と質疑応答、議論 ・発表内容の補足 ○本時の学習成果 　カリキュラム・デザインの過程を理解するとともに、多様な専門性を持つ人材と連携することの意義を理解している。 ○予習及び復習事項 予習事項：テキスト（71～83 頁）を読む。 復習事項：プロジェクト単元、カリキュラム開発、実践‐批評‐開発モデルについて自分なりに説明できるようにする。
9 回	〈子どもを育む〉 ○本時の目標 　本時では、教師の仕事が教科指導のみならず、生徒指導や教育相談、進路指導など多岐にわたることを踏まえ、子どもを育むという観点から、教師として子どもの心に寄り添うことを理解する。また、教師がカウンセラー役を兼ねることの難しさ、教師とカウンセラーの違いについても理解する。 ○本時の活動 ・テキスト（85～106 頁）に基づく発表と質疑応答、議論 ・発表内容の補足 ○本時の学習成果 　子どもの心を育むという観点から、教師としてどのように子どもの心に寄り添えばよいかを理解している。 ○予習及び復習事項 予習事項：テキスト（85～106 頁）を読む。 復習事項：教師のメンタルヘルス、バーンアウトについて自分なりに説明できるようにする。
10 回	〈生涯を教師として生きる〉 ○本時の目標 　本時では、教師は授業や専門科目の研究、子ども達との出会い、同僚や先輩教師、保護者等との交流等を通して、危機を乗り越えながら成長していく。教職生活におけるターニング・ポイントに注目しながら、教職人生の行路をたどり、教師として生き、成長することについて理解する。 ○本時の活動 ・テキスト（107～131 頁）に基づく発表と質疑応答、議論 ・発表内容の補足 ○本時の学習成果 　新任者として着任してからベテランになるまで、教師がどのような過程を経て成長していくかを理解している。 ○予習及び復習事項 予習事項：テキスト（107～131 頁）を読む。 復習事項：リアリティ・ショック、イニシエーション、アイデンティティについて自分なりに説明できるようにする。

11 回	〈同僚とともに学校を創る〉 ○本時の目標 　本時では、教師は一人で仕事をしているのではなく、同僚らと仕事を分担したり学びあったりしている。組織の中で働き学ぶ教師について、また教員間の関係や雰囲気がどのように創り出されていくのかについて理解し、チームとして組織的課題に対応することの重要性を理解する。 ○本時の活動 ・テキスト（133～152 頁）に基づく発表と質疑応答、議論 ・発表内容の補足 ○本時の学習成果 　校内の教職員が効果的に連携・分担し、チームとして組織的課題に対応することの重要性を理解している。 ○予習及び復習事項 予習事項：テキスト（133～152 頁）を読む。 復習事項：校内研修、校務分掌、同僚性について自分なりに説明できるようにする。
12 回	〈教職の専門性〉 ○本時の目標 　本時では、専門職とは何か、教職の専門性とはどのような内実を備えているのか、専門性を獲得するためにはどのような教育が必要かといったトピックについて、国際的な認識やわが国の捉え方を参照しながら理解する。 ○本時の活動 ・テキスト（153～178 頁）に基づく発表と質疑応答、議論 ・発表内容の補足 ○本時の学習成果 　教職の専門性とは何か、その専門性の開発に関して、日本の教職の特徴を理解している。 ○予習及び復習事項 予習事項：テキスト（153～178 頁）を読む。 復習事項：教員の地位に関する勧告、養成教育、現職教育について自分なりに説明できるようにする。
13 回	〈時代の中の教師〉 ○本時の目標 　それぞれの時代の教科書に描かれた教師、生徒関係に注目しながら、過去そして現在の教師がどのような時代性を背負って生きてきた（いる）のかを理解する。 ○本時の活動 ・テキスト（179～200 頁）に基づく発表と質疑応答、議論 ・発表内容の補足 ○本時の学習成果 　それぞれの時代の教師像をふまえ、現代の教師がどのような時代性を背負っているかを理解している。 ○予習及び復習事項 予習事項：テキスト（179～200 頁）を読む。 復習事項：聖職者教師像、教師専門職論について自分なりに説明できるようにする。

14 回	〈教師の仕事とジェンダー〉 ○本時の目標 　本時では、教師の仕事における女性進出の歴史を追いながら、ジェンダーの観点から学校の構造、教師の仕事を理解する。 ○本時の活動 ・テキスト（201～226 頁）に基づく発表と質疑応答、議論 ・発表内容の補足 ○本時の学習成果 　ジェンダーの観点から教師の仕事を考察し、教師の仕事をより深く理解している。 ○予習及び復習事項 予習事項：テキスト（201～226 頁）を読む。 復習事項：ジェンダー、性別役割分業、性差別について自分なりに説明できるようにする。
15 回	〈まとめ：これまでの学習内容の総復習〉 ○本時の目標 　これまでの学習内容の重要なポイントを振り返り、教職の意義や教員の役割を理解するとともに、教師に課せられる服務上・身分上の義務及び身分保障について理解する。 ○本時の活動 ・配付資料で解説する。 ○本時の目標 　教職の意義や教員の役割を理解するとともに、教師に課せられる服務上・身分上の義務及び身分保障について理解している。 ○予習及び復習事項 予習事項：これまでの授業の中で理解が不十分な箇所をまとめ、質問できるようにしておく。 復習事項：授業で配付されたすべてのレジュメおよび資料を見直す。

令　和　2　年　度　教　育　計　画							
科目名	教育制度論	授業回数	8	単位数	1	担当教員	福野　裕美

質問受付の方法（e-mail,オフィスアワー等）：
yfukuno@owc.ac.jp、OH：木曜日 12:20～13:00、その他在室時は何時でも可（M 棟 410）

教育目標と学生の学習成果

教育目標：
学校現場で行われる１つ１つの行為は、社会的な制度の枠内で運営されている。本講義では、教育制度への全般的な理解を深め、教職におけるリーガルマインドを身につける。さらに教育界における今日的課題に対する認識を新たにし、多角的な視座を身につける。

学生の学習成果：
専門的学習成果：学校教育制度、教育行財政制度、学校経営・学校評価等に関わる基礎的知識を修得する。
汎用的学習成果：基礎的知識を用いて論理的に思考する力、自らの考えを適切な表現で的確に伝えると同時に他者の考えを理解するコミュニケーション能力を身につける。

教育方法

授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） ・主として講義形式を採用する。受講生の興味関心に応じて、グループ・ディスカッション等の活動を行う場合もある。授業時間内の活動には積極的な参加を求める。 ・授業中に小テストを行うことで、基礎的知識の修得を確認する。 ・授業後にシャトルカードに記入してもらい、双方向的な授業を展開する。 ・シャトルカードの質問内容及び回答を次回の講義の始めに補足説明し、授業理解の一助として活用する。
予習・復習	予習事項：毎回の授業のはじめに確認テストを行う。各回の授業で提示する〈キーワード〉について各自予習してくること。 復習事項：テキストおよび授業で配付されたレジュメを読む。各回の〈キーワード〉を中心に、授業で出てきた用語の意味を説明できるようにする。
テキスト	教育制度研究会編『要説　教育制度[新訂第三版]』学術図書出版社、2011 年。

学習評価の方法

学習成果：下記の項目について、おおよそ同等の比重をかけて評価する。
・学校教育制度、教育行財政制度、学校経営・学校評価等に関わる諸概念を理解している。
・学校教育制度、教育行財政制度、学校経営・学校評価等に関わる法規について理解している。
・わが国の教育制度改革の動向や課題を認識し、自分なりの考えを論理的に展開することができる。

学習評価は、最終試験（70%）、課題・小テスト（30%）によって評価する。

注意事項

参考図書等
河野和清編著『現代教育の制度と行政〔改訂版〕』福村出版、2017 年。
菱村幸彦著『新訂第 5 版 やさしい教育法規の読み方』教育開発研究所、2015 年。
ほか、随時紹介する。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	〈オリエンテーション〉 ○本時の目標 　本時では、本科目の全体目標及び授業スケジュール、成績評価等について理解するとともに、教育制度とは何かを理解する。 ○本時の活動 　・オリエンテーション 　　本科目の全体目標、授業スケジュール、成績評価等の説明。 　・配付資料を用いて解説する。 ○本時の学習成果 　本科目の概要について理解し、教育制度とは何かを理解している。 ○予習及び復習事項 　予習事項：テキストの目次を中心に一通り目を通してくる。 　復習事項：授業で配付されたレジュメを参照し、本日の授業の要点をまとめる。
2 回	〈教育制度の基本原理〉 ○本時の目標 　本時では、今まで当たり前のように受けてきた公教育とは、どのような原理で成り立っているのか。また、現代の公教育制度にはどのような課題があるのか。現代公教育制度の意義・原理・構造について理解する。 ○本時の活動 　・テキスト（19-34 頁）及び配付資料で解説する。 ○本時の学習成果 　公教育の意味やその原理（義務性、無償性、中立性）について理解し、教育制度をめぐる諸課題について自分なりの意見を述べることができる。 ○予習及び復習事項 　予習事項：〈キーワード〉公教育の意味、義務性、無償性、中立性　の意味を調べる。 　復習事項：テキスト（19-34 頁）を読み、内容を整理する。
3 回	〈教育法規の理論と体系〉 ○本時の目標 　本時では、公教育制度を構成している教育法規の理論と体系を理解する。 ○本時の活動 　・配付資料で解説する。 ○本時の学習成果 　教育法規の理論と体系を理解するとともに、教育に関連する各種の重要法規を理解している。 ○予習及び復習事項 　予習事項：〈キーワード〉日本国憲法、教育基本法、学校教育法　の意味を調べてくる。 　復習事項：配付資料を読み、内容を整理する。
4 回	〈教育行財政の仕組みを学ぶ。〉 ○本時の目標 　本時では、日本の教育を支える教育行財政の仕組みについて理解する。 ○本時の活動 　・テキスト（179-196 頁）及び配付資料で解説する。 ○本時の学習成果 　日本における教育行財政の仕組みについて理解している。 ○予習及び復習事項 　予習事項：〈キーワード〉文部科学省、教育委員会　の意味を調べてくる。 　復習事項：テキスト（179-196 頁）を読み、内容を整理する。

5 回	〈学校と地域との連携〉 ○本時の目標 学校と地域が連携する意義やその方法について、開かれた学校づくりが進められてきた経緯とともに理解する。 ○本時の活動 ・テキスト（197-214 頁）及び配付資料で解説する。 ○本時の学習成果 学校と地域が連携することの意義やその方法、開かれた学校づくりが進められてきた経緯について理解している。 ○予習及び復習事項 予習事項：〈キーワード〉学校評議員制度、学校運営協議会、学校評価　の意味を調べてくる。 復習事項：テキスト（197-214 頁）を読み、内容を整理する。
6 回	〈教員に関する仕組み〉 ○本時の目標 教育の直接的な担い手である教員に関する仕組みについて理解する。 ○本時の活動 ・テキスト（215-230 頁）及び配付資料で解説する。 ○本時の学習成果 学校に置かれる教員の種類、教師として守らなければならないきまりについて理解している。 ○予習及び復習事項 予習事項：〈キーワード〉教職員の種類、栄養教諭、職務上の義務、身分上の義務　の意味を調べてくる。 復習事項：テキスト（215-230 頁）を読み、内容を整理する。
7 回	〈学校安全への対応〉 ○本時の目標 本時では、学校安全の目的や必要性を理解するとともに、子どもの安全を確保するための具体的な取り組みを理解する。 ○本時の活動 ・テキスト（212-213 頁）及び配付資料で解説する。 ○本時の学習成果 学校安全の目的や必要性とともに、子どもの安全を確保するための具体的な取り組みを理解している。 ○予習及び復習事項 予習事項：〈キーワード〉学校の管理下、学校保健安全法　の意味を調べてくる。 復習事項：テキスト（212-213 頁）及び配付資料を読み、内容を整理する。
8 回	〈まとめ：これまでの学習内容の総復習〉 ○本時の目標 これまでの学習内容の重要なポイントを振り返り、今日の学校で生じている様々な問題について、教育制度の視点から考察する。 ○本時の活動 ・配付資料で解説する。 ○本時の学習成果 現代の学校教育に関する制度的な事項について十分に理解し、今日の学校で生じているさまざまな問題について、教育制度の視点から自分の意見を述べることができる。 ○予習及び復習事項 予習事項:これまでの授業で理解が不十分な箇所をまとめ、質問できるようにしておく。 復習事項：授業で配付されたすべてのレジュメおよび資料を見直す。

令　和　2　年　度　教　育　計　画							
科目名	教育心理学(教職)	授業回数	15	単位数	2	担当教員	大賀　恵子
質問受付の方法（e-mail,オフィスアワー等）：e-mail: ohga@owc.ac.jp　　OH:土曜２限							

教育目標と学生の学習成果

教育目標

教育心理学とは、学ぶ存在としての人を心理学の視点から理解し支援するための科学と言える。学習指導するだけでなく、児童・生徒の精神的な発達や人間としての成長を育み、促すことも教師の重要な役割となる。本授業では、日々の教育活動の基礎となる心理学的知識を身につけることを目的とする。具体的には、受講学生は以下の諸点に関する基礎的な研究知見および能力を習得することである。

①日々の教育活動の基礎となる心理学的知識を身につける。例えば、学びを支えるための心的過程（記憶、学習、動機など）について学ぶ

②心理学的な観点から、児童・生徒への理解を深める。例えば、パーソナリティや知能とは何か、学校現場に見られる児童生徒の不適応行動について学ぶ。

③教育活動において、正しい教育評価について理解する。

④自立した社会人としての責務を果たすために必要な思考力、特に、論理的思考力や批判的思考力を身につける。

学生の学習成果：
専門的学習成果として、教育目標に掲げる①、②、③の項目に関する研究知見を習得する。また、汎用的学習成果として、教育目標に掲げる④の項目に関する能力を身につける。

教育方法

授業の進め方	(講義・演習・実験・実習・実技) 講義形式によって行い、テキストに添って板書した内容を中心とし、補足プリントを配布する。また、受講者の理解を促進し、学習成果を確認するために授業中に論述課題を実施する。
予習・復習	各回の授業では予習復習が大切。予習に関しては、毎授業回前に「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。復習に関しては、基本的には授業で使用した資料・板書内容・プリントの見直しや整理、また、各回の授業で復習内容のポイントを示す場合がある。
テキスト	・鎌原雅彦・竹綱誠一郎共著『やさしい教育心理学第４版』有斐閣、2015 年。

学習評価の方法	評価配分に関して 専門的学習成果と汎用的学習成果について、それぞれの学習成果の習得度合いを量的（数値的）に変換し、合計 100 点を満点として評価を行う。それぞれの学習成果の量的（数値的）評価配分および評価比重は以下の通りである。 ・専門的学習成果 専門的学習成果の評価配分は 80 点である。評価配分 80 点の中で、以下に示した、それぞれの専門的学習成果には、おおよそ同等の比重をかける。 ①日々の教育活動の基礎となる心理学的知識を身につける。例えば、学びを支えるための心的過程（記憶、学習、動機など）について学ぶ ②心理学的な観点から、児童・生徒への理解を深める。例えば、パーソナリティや知能とは何か、学校現場に見られる児童生徒の不適応行動とは何かを学ぶ。 ③教育活動において、正しい教育評価について理解する。 ・汎用的学習成果 汎用的学習成果の評価配分は 10 点である。 以上の通り、専門的学習成果の評価配分は 80 点、汎用的学習成果の評価配分は 10 点で、合計 90 点である。なお、これらの評価配分に加え、専門的学習成果に関して、授業で学んだ知識の理解度を図るために、理解度合いの量的（数値的）評価を行う。この評価配分は 10 点である。総じて、専門的学習成果 80 点、汎用的学習成果 10 点、理解度確認 10 点で、合計 100 点満点で最終評価を行う。 評価ツールに関して ・専門的学習成果 専門的学習成果の評価配分の合計 80 点は学期末に行う定期試験で測る。 ・汎用的学習成果 汎用的学習成果の評価配分 10 点は課題で測る。具体的には、自立した社会人としての責務を果たすために必要な論理的思考力や批判的思考力を習得するために、授業内容に応じた論述課題を課す。 ・授業内容の理解度 理解度確認の評価配分 10 点は授業 15 回のうちの 10 回で実施する論述課題で測る。課題は前回の授業に応じた内容とし、授業終了時に提出する。実施した授業時間以外の提出は認めない。
注意事項	参考図書 授業中に紹介する。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	＜オリエンテーション＞ 　本授業の内容・進め方・成績評価の方法に関する説明 ＜教育心理学とは何か＞ ・授業内容：テキストの内容を確認する。
2 回	＜学びを支えるための基礎知識～効果的な授業に向けて～①＞ ・授業内容：記憶の仕組み(1) ・学習成果：記憶の定義、種類について理解する。 ・予習事項：テキスト第 1 章を読んでおく。 ・復習事項：講義内容を見直し、次回の論述課題に備えてキーワードを確認しておく。
3 回	＜練習課題①＞ ・2 回目の授業内容に関する課題を仕上げる。 ＜学びを支えるための基礎知識～効果的な授業に向けて～②＞ ・授業内容：記憶の仕組み(2) ・学習成果：再生および忘却について理解する。 ・予習事項：テキスト第 2 章をよんでおく。 ・復習事項：講義内容を見直し、次回の論述課題に備えてキーワードを確認しておく。
4 回	＜練習課題②＞ ・3 回目の授業内容に関する課題を仕上げる。 ＜学びを支えるための基礎知識～効果的な授業に向けて～③＞ ・授業内容：知識、問題解決の仕方を学ぶ。 ・学習成果：知識、問題解決について理解する。 ・予習事項：テキスト第 3 章を読んでおく。 ・復習事項：講義内容を見直し、次回の論述課題に備えてキーワードを確認しておく。
5 回	＜練習課題③＞ ・4 回目の授業内容に関する課題を仕上げる。 ＜学びを支えるための基礎知識～効果的な授業に向けて～④＞ ・授業内容：ほめることの大切さ(1)―古典的条件づけ ・学習成果：古典的条件付けと呼ばれる学習の手続きについて理解する。 ・予習事項：心理学で定義されている“学習”とは何かを調べておく。 ・復習事項：講義内容を見直し、次回の論述課題に備えてキーワードを確認しておく。
6 回	＜練習課題④＞ ・5 回目の授業内容に関する課題を仕上げる。 ＜学びを支えるための基礎知識～効果的な授業に向けて～⑤＞ ・授業内容：ほめることの大切さ(2)―道具的条件づけ ・学習成果：道具的条件付けと呼ばれる学習の手続きについて理解する。 ・予習事項：テキスト第 4 章を読んでおく。 ・復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問できるようにしておく。
7 回	＜学びを支えるための基礎知識～効果的な授業に向けて～⑥＞ ・授業内容：「やる気」を考える(1) ・学習成果：動機づけについて理解する。 ・予習事項：テキスト第 4 章の内容で自己の関心ある項目について調べておく。 ・復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問できるようにしておく。
8 回	＜学びを支えるための基礎知識～効果的な授業に向けて～⑦＞ ・授業内容：「やる気」を考える(2) ・学習成果：学習性無力感 ・予習事項：テキスト第 5 章を読んでおく。 ・復習事項：講義内容を見直し、次回の論述課題に備えてキーワードを確認しておく。

9 回	＜練習課題⑤＞ ・6～8 回目の授業内容に関する課題を仕上げる。 ＜児童・生徒への理解を深める①＞ ・授業内容：学級という社会（学級集団）から児童生徒を理解する。 ・学習成果：学校現場における児童生徒の不適応・問題行動について理解する。 ・予習事項：テキスト第 6 章を読み、より良い授業とは何かを考えてくる。 ・復習事項：講義内容を見直し、次回の論述課題に備えてキーワードを確認しておく。
10 回	＜練習課題⑥＞ ・9 回目の授業内容に関する課題を仕上げる。 ＜児童・生徒の理解を深める②＞ ・授業内容：学習指導の様々な形態を学ぶ。 ・学習成果：より効果的な授業の方法を理解する。 ・予習事項：テキスト第 7 章を読んでおく。 ・復習事項：講義内容を見直し、次回の論述課題に備えてキーワードを確認しておく。
11 回	＜練習課題⑦＞ ・10 回目の授業内容に関する課題を仕上げる。 ＜児童・生徒への理解を深める③＞ ・授業内容：教育成果の評価法について学ぶ。 ・学習成果：評価法について理解する。 ・予習事項：テキスト第 8 章を読んでおく。 ・復習事項：講義内容を見直し、次回の論述課題に備えてキーワードを確認しておく。
12 回	＜練習課題⑧＞ ・11 回目の授業内容に関する課題を仕上げる。 ＜児童・生徒への理解を深める④＞ ・授業内容：児童期、思春期青年期の発達的特徴について理解する。 ・学習成果：知能について理解する。 ・予習事項：テキスト第 9 章を読んでおく。 ・復習事項：講義内容を見直し、次回の論述課題に備えてキーワードを確認しておく。
13 回	＜練習課題⑨＞ ・12 回目の授業内容に関する課題を仕上げる。 ＜生徒を正しく理解するために＞ ・授業内容：パーソナリティについて学ぶ。 ・学習成果：ピアジェの発達段階について理解する。 ・予習事項：テキスト第 10 章を読んでおく。 ・復習事項：講義内容を見直し、次回の論述課題に備えてキーワードを確認しておく。
14 回	＜練習課題⑩＞ ・13 回の授業内容に関する課題を仕上げる。 ＜発達段階＞ ・授業内容：フロイト、エリクソンの発達段階について理解する。 ・学習成果：発達段階について理解する。 ・予習事項：テキスト第 11 章を読んでおく。 ・復習事項：提出課題を見直しておく。
15 回	＜まとめ＞ ・これまでの授業内容を振り返り、不足のある部分について補足する。 ・定期試験についての説明 ・予習事項：特になし ・復習事項：提出課題の内容を見直しておく。

令　和　2　年　度　教　育　計　画							
科目名	特別支援の方法と理解	授業回数	15	単位数	1	担当教員	大賀　恵子
質問受付の方法（e-mail,オフィスアワー等）：e-mail: ohga@owc.ac.jp　　OH:土曜２限							

教育目標と学生の学習成果		教育目標 本科目の目的は、栄養教諭免許状取得のための「教職に関する科目」である。本科目では、通常学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとするさまざまな障害等により特別支援を必要とする幼児・児童及び生徒が学習活動に参加し生きる力を身につけていくことができるよう、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を習得することである。 学生の学習成果 専門的学習成果：教育目標に掲げる内容を習得する。 汎用的学習成果：教育目標に関する内容を理解し、対応能力を身につける。
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） 講義形式によって行い、受講者の理解を促進し、学習成果を確認するために授業中に論述課題を実施する。 授業時間外にもレポート課題を課す。
	予習・復習	予習：毎授業回前に「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。 復習：基本的には授業で使用した資料・板書内容・プリントの見直しや整理、また、各回の授業で復習内容のポイントを示す場合がある。
	テキスト	柘植雅義・渡部匡隆・二宮信一・納冨恵子［編］ 改訂版『はじめての特別支援教育』有斐閣アルマ 2016 年
学習評価の方法		評価配分に関して 以下の３つの学習成果について、習得度合いを等分に評価する。 ①特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解する。 ②特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程や支援の方法を理解する。 ③障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上または生活上の困難への対応方法を理解する。 評価ツールに関して ・専門的学習成果：評価配分の合計 80 点は学期末に行う定期試験で測る。 ・汎用的学習成果：評価配分 20 点は課題で測る。授業内容に応じた論述課題を含む。
注意事項		参考図書 授業中に紹介する。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	＜オリエンテーション・特別支援教育の歴史＞ 1. 本時の目標 本科目の全体目標及び授業スケジュールを確認し、支援の必要性を理解する。 2. 本時の活動 ・本科目の内容・進め方・成績評価の方法を確認する。 ・特別支援教育の歴史と支援の必要性を理解する。 3. 本時の学習成果 ・本科目の概要について理解し、特別支援教育の歴史と支援の必要性が説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの目次で学習内容を確認しておく。 ・復習事項：講義内容を振り返り、特別支援教育の歴史と支援の必要性を確認する。
2 回	＜特別支援教育の理念と制度①＞ 1. 本時の目標 インクルーシブ教育システムや合理的配慮を学び、特別支援教育に関する制度の理念、仕組みを理解する。 2. 本時の活動 ・テキスト第 1 章を解説し、理解度を論述課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・インクルーシブ教育と合理的配慮について説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第 1 章を読んでおく。 ・復習事項：特別支援教育の理念に関する課題を仕上げる。
3 回	＜特別支援教育の理念と制度②＞ 1. 本時の目標 特別支援教育の現行制度や通級による指導及び自立活動の教育課程上の内容を理解する。 2. 本時の活動 ・テキスト第 2 章を解説し、理解度を論述課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・特別支援教育の現行制度や通級による指導及び自立活動の教育課程上の内容が説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第 2 章、特別支援教育学校の学習指導要領の内容を確認しておく。 ・復習事項：特別支援教育の仕組みに関する課題を仕上げる。
4 回	＜特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程と支援方法①＞ 1. 本時の目標 支援システムの構築の必要性と法的整備について理解する。 2. 本時の活動 ・テキスト第 3 章を解説し、理解度を論述課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・支援システムの構築の必要性と法的整備について説明することができる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第 3 章を読んでおく。 ・復習事項：本時内容に関する課題を作成する。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
5 回	＜特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程と支援方法②＞ 1. 本時の目標 特別な支援教育におけるコーディネーターの役割と専門性を理解する。 2. 本時の活動 ・テキスト第 4 章を解説し、理解度を論述課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・関係機関との連携し支援体制を構築することの必要性を理解できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第 4 章を読んでおく。 ・復習事項：特別支援教育コーディネーター・関係機関を確認する。
6 回	＜特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程と支援方法③＞ 1. 本時の目標 特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒に関する個別の指導計画及び教育支援計画を作成する意義と方法を理解する。 2. 本時の活動 ・テキスト第 5 章を解説し、理解度を論述課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に関する個別の指導計画及び教育支援計画を作成することができる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第 5 章を読んでおく。 ・復習事項：本時内容に関する課題（計画書）を作成する。
7 回	＜特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程と支援方法①＞ 1. 本時の目標 発達障害や軽度知的障害など特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援方法を確認し、例示することができる。 2. 本時の活動 ・テキスト第 6, 7 章を解説し、理解度を論述課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援方法について、例示することができる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第 6, 7 章を読んでおく。 ・復習事項：支援方法についてまとめる。
8 回	＜特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の心身の発達、心理的特性②＞ 1. 本時の目標 発達障害や軽度知的障害、情緒障害児・言語障害児の特性を理解する。 2. 本時の活動 ・テキスト第 8, 9 章を解説し、理解度を論述課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・発達障害や軽度知的障害、情緒障害児・言語障害児の特性を理解している。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第 8, 9 章を読んでおく。 ・復習事項：情緒障害児・言語障害児の特性と支援方法をまとめる。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
9 回	＜特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の心身の発達、心理的特性③＞ 1. 本時の目標 視覚障害児・聴覚障害児・肢体不自由児・病弱児の特性を理解する。 2. 本時の活動 ・テキスト第 10, 11 章を解説し、理解度を論述課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・視覚障害児・聴覚障害児・肢体不自由児・病弱児の特性を理解している。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第 10, 11 章を読んでおく。 ・復習事項：視覚障害児・聴覚障害児・肢体不自由児・病弱児の特性をまとめる。
10 回	＜特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援＞ 1. 本時の目標 特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上または生活上の困難や組織的な対応の必要性を理解する。 2. 本時の活動 ・テキスト第 12 章を解説し、理解度を論述課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上または生活上の困難や組織的な対応の必要性を理解できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第 12 章を読んでおく。 ・復習事項：特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上または生活上の困難や組織的な対応の必要性を確認する。
11 回	＜特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握、保護者との連携＞ 1. 本時の目標 保護者の障害受容とストレスなど、保護者の心理状態を把握し、支援の必要性を確認する。 2. 本時の活動 ・テキスト第 13 章を解説し、理解度を論述課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・保護者の障害受容とストレスなどに対する支援の必要性を理解できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第 13 章を読んでおく。 ・復習事項：保護者の障害受容とストレスについて理解し、支援の必要性を確認する。
12 回	＜特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握、専門機関や地域との連携＞ 1. 本時の目標 専門機関や組織的な対応の必要性を理解する。 2. 本時の活動 ・テキスト第 14 章を解説し、理解度を論述課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・専門機関や組織的な対応の必要性を理解できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第 14 章を読んでおく。 ・復習事項：特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上または生活上の困難や組織的な対応の必要性を確認する。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
13 回	＜早期発見、早期支援と連携＞ 1. 本時の目標 特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の家庭支援の実際を確認し、早期発見、早期支援の必要性を理解する。 2. 本時の活動 ・テキスト第 15 章を解説し、理解度を論述課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の進路状況や養育者の心理及び家庭支援の実際を理解する。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：本科目に関する内容からテーマを定め、それに関する資料を準備する。 ・復習事項：養育者の心理及び家庭支援の実際を理解し、早期発見・早期支援の必要性を確認する。
14 回	＜進学支援・就労支援と連携／特別支援の方法と理解＞ 1. 本時の目標 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する進学・就労支援について理解し、特別支援の方法と理解の内容を確認する。 2. 本時の活動 ・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援の方法と理解について確認する。 3. 本時の学習成果 ・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援の方法と理解を深める。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第 16 章を読む。／本科目の内容を復習しておく。 ・復習事項：第 1 回から第 13 回の授業内容を確認する。
15 回	＜まとめ＞ 1. 本時の目標 本科目の内容を振り返り、必要な知識や支援方法の習得度合いを確認する。 2. 本時の活動 次の 3 点に関して習得度合いを確認し、本科目の内容に関するレポートを仕上げる。 ①特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解する。 ②特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程や支援の方法を理解する。 ③障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上または生活上の困難との対応を理解する。 3. 本時の学習成果 ・本科目の目標を達成している。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：特になし。 ・復習事項：第 1 回から第 14 回の授業内容を整理し、期末考査に備える。

令　和　2　年　度　教　育　計　画							
科目名	教育課程論	授業回数	8	単位数	1	担当教員	福野　裕美

質問受付の方法（e-mail,オフィスアワー等）：
yfukuno@owc.ac.jp、OH：木曜日 12:20～13:00、その他在室時は何時でも可（M 棟 410）

教育目標と学生の学習成果

教育目標：学校における授業やその他の諸活動は、すべて計画的に組織されている。日本では学習指導要領を基準として、各学校で教育課程が編成されている。本講では教育課程の意義や編成の方法を理解するとともに、「カリキュラム・マネジメント」の意義や重要性を理解する。

学生の学習成果：
専門的学習成果：下記の事柄について基礎的知識を修得する。
１．教育課程の意義、２．教育課程行政、３．学習指導要領の変遷、
４．教育課程編成の原理と方法、５．教育課程の経営と評価（カリキュラム・マネジメント）

汎用的学習成果：論理的思考力、コミュニケーション能力、栄養学分野の専門的知識を現代の子どもの教育的課題に照らして意味づける力を身につける。

教育方法

授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） ・講義形式で進める。受講生の興味関心に応じて、グループ・ディスカッション等の活動を行う場合もある。 ・テキスト以外の文献からも、栄養教諭に関連するテーマを積極的に取り上げる。 ・講義中に小テストを課し、受講者の理解の促進を図る。 ・授業後にシャトルカードに記入してもらい、双方向的な授業を展開する。
予習・復習	予習事項：毎回の授業のはじめに確認テストを行う。各回の授業で提示する〈キーワード〉について各自予習してくること。 復習事項：テキストおよび授業で配付されたレジュメを読む。各回の〈キーワード〉を中心に、授業で出てきた用語の意味を説明できるようにする。
テキスト	田中耕治・水原克敏・三石初雄・西岡加名恵著『新しい時代の教育課程〔第 4 版〕』有斐閣、2018 年。

成績評価の方法

学習成果：以下の項目について、おおよそ同等の比重をかけて評価する。
・初等中等諸学校における教育課程の意義を理解している。
・わが国の学習指導要領の変遷を理解している。
・教育課程の思想と構造について理解している。
・教育課程編成の基本原理について理解している。
・教育課程評価やカリキュラム・マネジメントの考え方について理解している。
・教育課程編成に関わる改革動向を踏まえ、自己の意見を論理的に展開することができる。

学習評価は、最終試験（70%）、小テスト・課題（30%）によって行う。

注意事項

参考図書等
・小学校学習指導要領、中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領
・柴田義松編『教育課程論　第 2 版』学文社、2008 年。
ほか、随時紹介する。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	〈オリエンテーション〉 ○本時の目標 本時では、本科目の全体目標及び授業スケジュール、成績評価等について理解するとともに、教育課程とは何かを理解する。 ○本時の活動 ・オリエンテーション 本科目の全体目標、授業スケジュール、成績評価等の説明。 ・配付資料を用いて解説する。 ○本時の学習成果 本科目の概要を把握し、教育課程とは何かを理解している。 ○予習及び復習事項 予習事項：テキストの目次を中心に一通り目を通してくる。 復習事項：授業で配付されたレジュメを参照し、本日の授業の要点をまとめる。
2 回	〈教育課程の役割・機能・意義　～近代日本の教育課程の歩み～〉 ○本時の目標 日本の教育課程は、どのような人づくりをめざして編制されてきたのか。明治前期から昭和戦時下の教育課程について理解する。 ○本時の活動 ・テキスト（19-46 頁）及び配付資料で解説する。 ○本時の学習成果 明治前期から昭和戦時下の日本において、教育課程が果たした役割を理解している。 ○予習及び復習事項 予習事項：〈キーワード〉学制、教育勅語、国定教科書 の意味を調べてくる。 復習事項：テキスト 19-46 頁を読み、内容を整理する。
3 回	〈教育課程編成の基本原理　～現代日本の教育課程の歩み～〉 ○本時の目標 日本の教育課程は、どのような人づくりをめざして編制されてきたのか。昭和 22 年から今日の学習指導要領の改訂までを追いながら、その編成原理を理解する。 ○本時の活動 ・テキスト（47-116 頁）及び配付資料で解説する。 ○本時の学習成果 学習指導要領改訂の変遷と主な改訂内容について、社会的な背景と合わせて理解している。 ○予習及び復習事項 予習事項：〈キーワード〉学習指導要領、ミニマム・スタンダード の意味を調べてくる。 復習事項：テキスト 47-116 頁を読み、内容を整理する。
4 回	〈教育課程の思想と構造〉 ○本時の目標 子どもたちの成長と発達に必要な文化とは何か、それはどのように組織されるべきなのか。教育課程の思想と構造について理解する。 ○本時の活動 ・テキスト（141-169 頁）及び配付資料で解説する。 ○本時の学習成果 教育課程における履修原理について理解している。 ○予習及び復習事項 予習事項：〈キーワード〉履修主義、修得主義 の意味を調べてくる。 復習事項：テキスト 141-169 頁を読み、内容を整理する。

5 回	〈教育課程の編成〉 ○本時の目標 教育課程編成の構成要件、教育課程編成論の歴史、教育課程編成の基本原理、教育課程編成の方法について理解する。 ○本時の活動 ・テキスト（171-202 頁）及び配付資料で解説する。 ○本時の学習成果 教育課程編成の基本原理や教育課程編成の方法についての基本的な事項を理解し、児童・生徒や学校・地域の実情に即した教育課程を編成することの重要性を理解している。 ○予習及び復習事項 予習事項：〈キーワード〉到達度評価論、スコープ、シーケンス の意味を調べてくる。 復習事項：テキスト 171-202 頁を読み、内容を整理する。
6 回	〈カリキュラム・マネジメント〉 ○本時の目標 学習指導要領に規定されているカリキュラム・マネジメントとは何かを確認し、カリキュラム・マネジメントの進め方について理解する。 ○本時の活動 ・テキスト（203-233 頁）及び配付資料で解説する。 ○本時の学習成果 カリキュラム・マネジメントの基本的な考え方を理解している。 ○予習及び復習事項 予習事項：〈キーワード〉工学的接近、羅生門的接近 の意味を調べてくる。 復習事項：テキスト 203-233 頁を読み、内容を整理する。
7 回	〈今日的課題への挑戦〉 ○本時の目標 現代の子どもたちが直面する課題に対して、教育課程はどのように応えたらいいのか。理論と具体的実践から考える。 ○本時の活動 ・テキスト（261-292 頁）及び配付資料で解説する。 ○本時の学習成果 現代の子どもたちが直面する課題とそれに対応する教育課程の理論と実践について理解している。 ○予習及び復習事項 予習事項：〈キーワード〉市民性教育、メディア・リテラシー の意味を調べてくる。 復習事項：テキスト 261-292 頁を読み、内容を整理する。
8 回	〈まとめ：これまでの学習内容の総復習〉 ○本時の目標 これまでの学習内容の重要なポイントをもう一度振り返り、現代の子どもたちが直面する課題を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。 ○本時の活動 ・配付資料で解説する。 ○本時の学習成果 現代の子どもたちが直面する課題を理解し、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの重要性を理解している。 ○予習及び復習事項 予習事項：これまでの授業の中で理解が不十分な箇所をまとめ、質問できるようにしてくる。 復習事項：授業で配付されたすべてのレジュメおよび資料を見直す。

令　和　２　年　　度　　教　　育　　計　　画							
科目名	道徳・特別活動・総合的な学習の時間	授業回数	１５	単位数	２	担当教員	尾崎　聡 都田　修兵
質問受付の方法（e-mail, オフィスアワー）:、OH：（尾崎）osaki@owc.ac.jp、　土曜日１限目 （都田）stsuda@owc.ac.jp、土曜日２限目							

教育目標と学生の学習成果		教育目標 本科目は、栄養教諭免許状取得のための「教育課程に関する科目」の一つである。 本科目では、「特別の教科　道徳」、「総合的な学習の時間」及び「特別活動」に関して、それらの教育課程における位置づけや意義、目標や内容について理解する。また、「総合的な学習の時間」に関しては年間指導計画の作成についても理解する。 学生の学習成果 専門的学習成果：教育目標に掲げることを修得すること。 汎用的学習成果：教職として必要となる態度や信念を涵養する。
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） ・主として講義形式による。 ・受講者の理解を促進させるため、授業時間外に取り組むレポートなどの課題を課す。
	予習・復習	・毎授業回前に、「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。 ・毎授業回後に復習を求める。その際、レポートなどとする場合がある。 ※復習でわからないことがあった学生には、OH などを利用しながら、学習成果を高める援助を行う。
	テキスト	①文部科学省『小学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編』廣済堂あかつき、2018。 ②文部科学省『小学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編』東洋館出版社、2018。 ③文部科学省『小学校学習指導要領解説　特別活動編』東洋館出版社、2018。
学習評価の方法		以下の３つの学習成果についてその獲得度合を量的に評価する。 ①「道徳」、「総合的な学習の時間」及び「特別活動」の歴史的変遷を知り、それらの教育課程における位置づけや意義について理解する。 ②「道徳」、「総合的な学習の時間」及び「特別活動」について、それぞれの目標や内容について理解する。 ③現代の学校における諸課題について、「道徳」、「総合的な学習の時間」、「特別活動」と関連させながら自らの考えを深める。 学習評価は、課題（30 点）及び期末試験（70 点）により実施する。受講態度に問題がある者は、将来教育者となるための態度や信念の涵養が十分でないとして、ケースに応じて減点（1～5 点を目安とする）する。
注意事項		参考図書等 渡邉満ほか編著『新教科「道徳」の理論と実践』玉川大学出版部、2017。 山崎英則ほか編著『新しい特別活動の指導原理』ミネルヴァ書房、2017。 文部科学省『今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開（小学校編）』教育出版、2011。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	＜オリエンテーション、現代教育の諸問題と学校教育課程＞ ○本時の目標 本科目の全体目標及び授業スケジュール、成績評価等について理解するとともに、現代教育の抱える諸問題と学校教育課程の全体像について理解する。 ○本時の活動 ・オリエンテーション 授業の進め方、スケジュール、学習評価の方法 ・学校教育課程について学ぶ。 ○本時の学習成果 現代教育の諸問題と学校教育課程の全体像について理解している。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：教職に関する科目の内容を整理してくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、今回の授業内容を整理する。
2 回	＜道徳・道徳教育とは何か　規範と道徳＞ ○本時の目標 人間存在が営む様々な規範と道徳との関係性を学ぶことを通して、道徳の存在意義・道徳教育の必要性について理解する。 ○本時の活動 ・テキスト①の該当箇所などで解説する。 ○本時の学習成果 人間存在が営む様々な規範と道徳との関係性、道徳の存在意義・道徳教育の必要性を理解している。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト①の該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキスト①やノートを見ながら、人間存在が営む様々な規範と道徳との関係性、道徳の存在意義・道徳教育の必要性について整理する。
3 回	＜道徳性の発達段階と道徳教育＞ ○本時の目標 「道徳性の発達段階」に関する諸学説を学ぶことを通して、人間発達における道徳教育の位置づけや意義について理解する。 ○本時の活動 ・テキスト①の該当箇所などで解説する。 ○本時の学習成果 「道徳性の発達段階」に関する諸学説、人間発達における道徳教育の位置づけや意義について理解している。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト①の該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキスト①やノートを見ながら、「道徳性の発達段階」に関する諸学説、人間発達における道徳教育の位置づけや意義について整理する。

4 回	＜道徳教育の歴史的変遷とその課題＞ ○本時の目標 「道徳教育に関する授業」の歴史的変遷を学ぶことを通して、その教育課程における位置づけや意義について理解するとともに、道徳教育の抱えている課題（いじめなど）について理解する。 ○本時の活動 ・テキスト①の該当箇所などで解説する。 ○本時の学習成果 「道徳教育に関する授業」の歴史的変遷を理解し、その教育課程における位置づけや意義と道徳教育の抱えている課題について理解している。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト①の該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキスト①やノートを見ながら、「道徳教育に関する授業」の歴史的変遷、その教育課程における位置づけや意義、課題について整理する。
5 回	＜「特別の教科　道徳」の意義と役割＞ ○本時の目標 「特別の教科　道徳」の学習指導要領を読みながら、現代の教育課程のなかでの意義や役割について理解するとともに、そこで必要となる資質や能力の育成について理解する。 ○本時の活動 ・テキスト①の該当箇所で解説する。 ○本時の学習成果 「特別の教科　道徳」が果たす意義や役割について理解し、そこで必要となる資質や能力の育成について理解している。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト①の該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、「特別の教科　道徳」の現代の教育課程のなかでの意義や役割、そこで必要となる資質や能力の育成について整理する。
6 回	＜「特別の教科　道徳」の目標と内容＞ ○本時の目標 「特別の教科　道徳」の学習指導要領に示された目標と内容について理解するとともに、「特別の教科　道徳」の現場レベルでの留意点について理解する。 ○本時の活動 ・テキスト①の該当箇所で解説する。 ○本時の学習成果 「特別の教科　道徳」の目標や内容、現場レベルでの留意点について理解している。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト①の該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、「特別の教科　道徳」の目標や内容、現場レベルでの留意点について整理する。

7 回	＜他教科および教育活動全体と道徳教育の連携＞ ○本時の目標 道徳教育は他教科および教育活動全体と連携することによって、より生き生きとしたものになっていくということを理解する。 ○本時の活動 ・テキスト①の該当箇所で解説する。 ○本時の学習成果 道徳教育は他教科および教育活動全体と連携することによって、より生き生きとしたものになっていくということを理解している。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト①の該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキスト①やノートを見ながら、道徳教育と他教科および教育活動全体との連携、生き生きとした道徳教育のあり方について整理する。 ・課　　題：「特別の教科　道徳」の内容に関するプリント。
8 回	＜「総合的な学習の時間」の歴史的変遷＞ ○本時の目標 「総合的な学習の時間」の歴史的変遷を学ぶことを通して、その教育課程における位置づけや意義について理解する。 ○本時の活動 ・テキスト②の該当箇所で解説する。 ○本時の学習成果 「総合的な学習の時間」の歴史的変遷を理解し、その教育課程における位置づけや意義について理解している。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト②の該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキスト②やノートを見ながら、「総合的な学習の時間」の歴史的変遷から、その教育課程における位置づけや意義について整理する。
9 回	＜「総合的な学習の時間」の意義と役割＞ ○本時の目標 「総合的な学習の時間」の学習指導要領を読みながら、現代の教育課程のなかでの意義や役割について理解するとともに、そこで必要となる資質や能力の育成について理解する。 ○本時の活動 ・テキスト②の該当箇所で解説する。 ○本時の学習成果 「総合的な学習の時間」が果たす意義や役割について理解し、そこで必要となる資質や能力の育成について理解している。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト②の該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、「総合的な学習の時間」の現代の教育課程のなかでの意義や役割、そこで必要となる資質や能力の育成について理解している。

10 回	＜「総合的な学習の時間」の目標と内容、年間指導計画＞ ○本時の目標 「総合的な学習の時間」の学習指導要領に示された目標と内容について理解するとともに、「総合的な学習の時間」の年間指導計画の作成など、現場レベルでの留意点について理解する。 ○本時の活動 ・テキスト②の該当箇所で解説する。 ○本時の学習成果 「総合的な学習の時間」目標や内容、現場レベルでの留意点について理解している。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト②の該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、「総合的な学習の時間」目標や内容、現場レベルでの留意点について整理する。 ・課　　題：「総合的な学習の時間」の内容に関するプリント。
11 回	＜「特別活動」の歴史的変遷＞ ○本時の目標 「特別活動」の歴史的変遷を学ぶことを通して、その教育課程における位置づけや意義について理解する。 ○本時の活動 ・テキスト③の該当箇所で解説する。 ○本時の学習成果 「特別活動」の歴史的変遷を理解し、その教育課程における位置づけや意義について理解している。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト③の該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキスト③やノートを見ながら、「特別活動」の歴史的変遷から、その教育課程における位置づけや意義について整理する。
12 回	＜「特別活動」の目標と内容＞ ○本時の目標 「特別活動」の学習指導要領を読みながら、現代の教育課程のなかでの目標や内容について理解する。 ○本時の活動 ・テキスト③の該当箇所で解説する。 ○本時の学習成果 「特別活動」の目標や内容について理解している。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト③の該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、「特別活動」の目標や内容について整理する。

13 回	＜学級活動・ホームルーム活動＞ ○本時の目標 「特別活動」のなかでもとくに、学級活動とホームルーム活動について学習指導要領をもとにその目標や内容を理解し、その特質について学ぶ。 ○本時の活動 ・テキスト③の該当箇所で解説する。 ○本時の学習成果 学級活動とホームルーム活動について学習指導要領をもとにその目標や内容を理解し、その特質について理解している。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト③の該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、学級活動とホームルーム活動について学習指導要領をもとにその目標や内容、特質について整理する。
14 回	＜児童会・生徒会・クラブ活動・学校行事＞ ○本時の目標 「特別活動」のなかでもとくに、児童会、生徒会、クラブ活動と学校行事について学習指導要領をもとにその目標や内容を理解し、その特質について学ぶ。 ○本時の活動 ・テキスト③の該当箇所で解説する。 ○本時の学習成果 児童会、生徒会、クラブ活動と学校行事について、学習指導要領をもとにその目標や内容を理解し、その特質について理解している。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト③の該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、児童会、生徒会、クラブ活動と学校行事について学習指導要領をもとにその目標や内容、特質について整理する。 ・課　　題：「特別活動」の内容に関するプリント。
15 回	＜「特別活動」と他の各教科等との関連、総括＞ ○本時の目標 「特別活動」と他の各教科等との関連について、いくつかの具体的事例をもとに理解するとともに、本科目の総括をする。 ○本時の活動 ・テキスト③の該当箇所で解説する。 ・期末試験に向けた授業内容の振り返りを行う。 ○本時の学習成果 「特別活動」と他の各教科等との関連について理解している。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト③の該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、本時の内容を整理するとともに、これまでの授業内容の整理を行いながら、期末試験に備える。

<table>
<tr><td colspan="8">令　和　２　年　度　教　育　計　画</td></tr>
<tr><td>科目名</td><td>教育の方法及び技術</td><td>授業回数</td><td>15</td><td>単位数</td><td>2</td><td>担当教員</td><td>原田博史・都田修兵
原田俊孝・井上恵子</td></tr>
<tr><td colspan="8">質問受付の方法　（e-mail、オフィスアワー）：stsuda@owc.ac.jp、金曜日５限目（都田）</td></tr>
<tr><td>教育目標と学生の学習成果</td><td colspan="7">＜教育目標＞
本科目は、栄養教諭１種免許状取得のための必修科目であり、これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識や技能について、とくに栄養教諭という観点に基づいて身につけることを全体目標とする。
本科目において、具体的に取り扱う内容と担当教員は次の通りである。
（１）教育の方法論（都田・原田博史）
・教育方法の基礎的理論と実践の理解
・これからの教育方法のあり方の理解
・授業の構成要件の理解
・学習評価の基礎的考え方
（２）教育の技術（井上）
・授業を行ううえでの基礎的技術
・指導案の作成
（３）情報機器及び教材の活用（原田俊孝）
・情報機器を活用した教材等の作成と提示
・情報活用能力（情報モラルを含む）育成のための指導法

＜学生の学習成果＞
●専門的学習成果
教育目標に掲げる内容を習得する。
●汎用的学習成果
価値観の多様性を理解し、自分なりの意見を持つ姿勢を獲得する。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">教育方法</td><td>授業の進め方</td><td colspan="6">（講義・演習・実験・実習・実技）
・本科目は、主として「講義形式」による１５回の授業である。
・授業時間内外に取り組む課題（指導案）を課す。</td></tr>
<tr><td>予習・復習</td><td colspan="6">＜予習事項＞
毎授業回前に、「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。
＜復習事項＞
毎授業回後に復習を求める。その際、レポートとする場合がある。

※復習でわからないことがあった学生には、OH などを利用しながら、学習成果を高める援助を行う。</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="6">柴田義松・山崎準二編『教育の方法と技術〈第三版〉』学文社、2019（初版 2001）。
※テキストの内容とあわせて、各教員が必要に応じてプリント等配布することにより内容を補う。
※参考文献については、適宜授業内で示す。</td></tr>
</table>

学習評価の方法	＜学習評価の観点＞ 学習評価の観点は下記の通りである。 ●「専門的学習成果」については「教育目標」でも示した以下の（１）から（５）の観点に基づき行う。 （１）教育の方法論 （２）教育の技術 （３）情報機器及び教材の活用 ●「汎用的学習成果」については「教育目標」でも示した「態度・信念」の獲得の状況に基づき行う。 ＜学習評価の方法＞ 学習評価は以下の方法により実施することとする。 ●専門的学習成果 （１）定期試験（50 点） 「専門的学習成果」の学習評価の方法は、学習評価の観点（１）及び（３）にかかる内容についての定期試験（60 点分）を実施する。なお、出題は「選択問題」「簡単な記述問題」「論述問題」等から構成することとする。 なお、得点の配分については、（１）の内容で 40 点、（３）の内容で 10 点とする。 （２）課題（指導案）（40 点） 授業中に課される課題（指導案）への取り組み、提出等により 40 点満点で評価する。 ●汎用的学習成果 （３）読書レポート（10 点×1 回＝10 点） 教育に関する書籍を読み、読書レポートを提出する。 （４）その他 ただし、学習評価の方法（１）及び（２）、（３）以外に受講態度に問題があった者は、教育者としての倫理観が十分でないとして、 以下のケースに応じて減点することとする。 ・「過度の居眠り」及び「不必要な私語」（１点） ・「無許可による携帯電話の使用（SNS 等）」（２点）
注意事項	●定期試験 ・「学則施行細則」第７条により、本科目について３分の２以上出席をしなければ試験を受けることはできない（受験資格なし）。 ・「学則施行細則」第７条により、学習評価は 100 点法をもって採点し、80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可、60 点未満を不可とする。 ●再試験 ・「学則施行細則」第７条により、定期試験が不可の者に対して再試験の機会を与え、願により再試験を受けることができる。ただし、講義及び演習の授業科目の再試験は 100 点法による筆記試験とし、その他の評価点（本科目については、学習評価の方法における（２）（３））は含めず、再試験による 60 点以上の得点者はすべて 60 点の学習評価とする。 ●追試験 ・「学則施行細則」第７条により、定期試験の際、病気その他止むを得ない事情により受験不能であった者に対しては、その理由が正当であると認められた場合に限り、願により追試験を受けることができるが、追試験による 80 点以上の得点者はすべて 80 点の学習評価とする。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	＜オリエンテーション、教育技術とは何か＞（都田） ○本時の目標 本時では、本科目の全体目標及び授業スケジュール、成績評価等について理解するとともに、本科目が「教育実践の様式と技術を原理的に探求する」ものであることを理解するとともに、「教育技術」がどのような技術かを理解する。 ○本時の活動 ・オリエンテーション 本科目の全体目標、授業スケジュール、成績評価等の説明。 ・テキスト（pp. 105-135）で解説する。 ○本時の学習成果 本科目の概要について理解し、「教育技術」がどのような技術かを理解している。 ○予習及び復習事項 予習事項：テキストの該当箇所を読む。 復習事項：再度テキストの該当箇所及び自身のノートを見ながら、本時の内容をおさえる。
2 回	＜教育方法の基礎的理論と実践①＞（都田） ○本時の目標 本時では、教育方法について歴史的視点、とくにはソクラテス法（産婆術）とコメニウスの教授法、ルソーの教育、ペスタロッチーの開発教授法を中心としながら、その基礎的理論と実践を理解する。 ○本時の活動 ・テキスト（pp. 5-13）で解説する。。 ○本時の学習成果 ソクラテス法（産婆術）とコメニウスの教授法、ルソーの教育までの教育方法の理論と実践を理解しているとともに、現代の教育方法との関連についても説明できる。 ○予習及び復習事項 予習事項：テキストの該当箇所を読む。 自身の経験を振り返って、どのような授業があったかを考える。 復習事項：テキスト及び自身のノートを読み返しながら、教育方法の理論と実践を歴史的に整理する。
3 回	＜教育方法の基礎的理論と実践②＞（都田） ○本時の目標 本時では、教育方法について歴史的視点、ルソーの教育、ペスタロッチーの開発教授法を中心としながら、その基礎的理論と実践を理解する。 ○本時の活動 ・テキスト（pp. 5-13）で解説する。。 ○本時の学習成果 ルソーの教育までの教育方法の理論と実践を理解しているとともに、現代の教育方法との関連についても説明できる。 ○予習及び復習事項 予習事項：テキストの該当箇所を読む。 自身の経験を振り返って、どのような授業があったかを考える。 復習事項：テキスト及び自身のノートを読み返しながら、教育方法の理論と実践を歴史的に整理する。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
4 回	＜教育方法の基礎的理解と実践③＞（都田） ○本時の目標 ヘルバルト及びヘルバルト学派の教授法を理解しながら、学級や子ども、教員や教材などの現代の教育あるいは保育を構成する基礎的要件についての理解を深める。 ○本時の活動 ・テキスト（pp. 14-29）で解説する。 ○本時の学習成果 前回の内容と関連させながら、ヘルバルト及びヘルバルト学派の教授法から学級や子ども、教員や教材などの教育あるいは保育を構成する基礎的要件について説明することができる。 ○予習及び復習事項 予習事項：テキストの該当箇所を読む。 テキストを読んで、理解することが難しいところなどを考えておく。 復習事項：前回とあわせて、現代における教育方法の在り方について整理する。
5 回	＜教育方法の基礎的理解と実践④＞（都田） ○本時の目標 世界新教育運動までの多様な教育改革実践を理解しながら、学級や子ども、教員や教材などの現代の教育あるいは保育を構成する基礎的要件についての理解を深める。 ○本時の活動 ・テキスト（pp. 14-29）で解説する。 ○本時の学習成果 前回の内容と関連させながら、世界新教育運動までの多様な教育改革実践から学級や子ども、教員や教材などの教育あるいは保育を構成する基礎的要件について説明することができる。 ○予習及び復習事項 予習事項：テキストの該当箇所を読む。 テキストを読んで、理解することが難しいところなどを考えておく。 復習事項：前回とあわせて、現代における教育方法の在り方について整理する。
6 回	＜現代に求められる教育方法＞（都田） ○本時の目標 近代日本の学校と教育実践改革を概観しながら、現代の子どもたちに求められている資質・能力と関連づけつつ、今日の日本の教育方法の在り方について理解する。 ○本時の活動 ・テキスト（pp. 105-114）で解説する。 ○課題：読書レポート ○本時の学習成果 今日の日本の教育方法の在り方について理解している。 ○予習及び復習事項 予習事項：テキストの該当箇所を読む。 復習事項:自身が受けてきた教育と比較しながら、日本の教育方法について考えてみる。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
7 回	＜教育の技術と教材の活用（指導案作成）①＞（井上） ○本時の目標 これまでの学習内容を踏まえつつ、『小学校学習指導要領』等をもとに年・月の授業計画についての理解を深め、それらの目標や内容がどのように設定されるのかについて理解する。 ○本時の活動 ・テキスト（pp. 81-108）及び授業で配付する資料をもとに解説する。 ○本時の学習成果 『小学校学習指導要領』等をもとに年・月の保育計画についての理解を深め、それらの目標や内容がどのように設定されるのかについて説明できる。 ○予習及び復習事項 予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 復習事項：授業で配布された資料などをもとに、本時の内容を整理し、理解を深める。
8 回	＜教育の技術と教材の活用（指導案作成）②＞（井上） ○本時の目標 前回の内容をふり返りつつ、週・日案がどのように作成されるのかについて、それぞれの目標や内容、玩具などの教材や教具についての理解と具体的な授業展開をもとに理解し、実際に指導案を作成する。 ○本時の活動 ・テキスト（pp. 68-104）及び授業で配布する資料をもとに解説する。 ・課題（指導案作成）：指導案を作成する。 ○本時の学習成果 週・日案がどのように作成されるのかについて、それぞれの目標や内容、玩具などの教材や教具についての理解と具体的な授業展開をもとに説明でき、それらをもとに、実際に指導案を作成している。 ○予習及び復習事項 予習事項：「指導案」について自分なりに調べてくる。 復習事項：授業で配布された資料などももとに、本時の内容を整理し、理解を深める。
9 回	＜教育の技術と教材の活用（指導案作成）③＞（井上） ○本時の目標 日案の作成についてふり返りつつ、目標や内容、教材や教具についての理解をさらに深め、具体的な授業展開の構造を理解するとともに、実際の学校現場において行わている「発問」などから、授業を行ううえでの基礎的な技術を獲得する。さらに、それらを実際の保育指導案作成に活用する。 ○本時の活動 ・テキスト（pp. 68-104）及び授業で配布する資料をもとに解説する。 ・課題（指導案作成）：指導案を作成する。 ○本時の学習成果 指導案についての理解を深めているとともに、授業を行う基礎的な技術を身に付けている。 ○予習及び復習事項 予習事項：前回の授業内容について復習してくる。 復習事項：「指導案」の構造について整理し、さらなる理解につなげる。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
10 回	＜教育の技術と教材の活用（指導案作成）④＞（井上） ○本時の目標 具体的な指導案作成を行いながら、目標や内容などの視点、さらには授業を行ううえでの基礎的な技術を身に付けながら、教育の目的に適した指導技術についての理解を深め、それら指導技術の獲得を目指す。 ○本時の活動 ・テキスト（pp. 68-104）及び授業で配布する資料をもとに解説する。 ・課題（指導案作成）：指導案を作成する。 ○本時の学習成果 教育の目的に適した指導技術についての理解を深め、その指導技術を身に付けようと努力している。 ○予習及び復習事項 予習事項：前回の授業内容について復習してくる。 復習事項：指導案作成を通して、具体的な教育の技術や教材の活用について整理する。
11 回	＜情報機器とその活用①＞（原田俊孝） ○本時の目標 ICT の環境整備とその利用を取り上げ情報機器の活用についての実態を把握する。さらに、子どもたちの興味・関心を高めたり学習内容をふりかえったりするために、幼児の体験との関連を考慮しながら情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示することを学ぶ。 ○本時の活動 ・テキスト（pp.115-123）及び授業で配布する資料をもとに解説する。 ○本時の学習成果 情報活用能力及び ICT について理解し、情報機器を活用した効果的な授業や適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に付ける。 ○予習及び復習事項 予習事項：テキストの該当箇所を読む。 復習事項：授業で配付された資料を読む。とくに、「情報活用能力」、「ICT」については自分の言葉で説明できるようにする。
12 回	＜情報機器とその活用②＞（原田俊孝） ○本時の目標 子どもたちの情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための指導法を理解し、保育者に必要な情報活用能力、とくに、保育者に必要な情報モラルもあわせて理解する。 ○本時の活動 ・テキスト（pp.115-123）及び授業で配布する資料をもとに解説する。 ○本時の学習成果 現在の情報モラル指導モデルカリキュラムを理解し、情報機器の活用をする前の子供たちに情報モラルと情報活用能力の原点を身に付ける能力について理解する。 ○予習及び復習事項 予習事項：テキストの該当箇所を読む。 復習事項：授業で配付された資料を読む。とくに、子供たちに情報モラルを含んだ情報活用能力を身に付けるためにどうすればいいか考える。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
13回	＜指導案と学習評価の基礎理論＞（都田、原田博史） ○本時の目標 「観点別学習状況の評価」や「目標に準拠した評価」あるいは「診断的評価」や「形成的評価」、「総括的評価」などの具体的な評価をもとに、学習評価そのものの基礎的な考え方を理解するとともに、実際の指導案における評価について考える。 ○本時の活動 ・テキスト（pp. 136-152）で解説する。 ○本時の目標 学習評価そのものの基礎的な考え方を理解しているとともに、実際の保育指導案における評価について考えている。 ○予習及び復習事項 予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 復習事項：学習評価についてまとめながら、学校現場における教育評価について自分なりに考えてみる。
14回	＜教育の質保証＞（原田博史） ○本時の目標 子どもたちに授業を行う学校側は、自らのカリキュラムや授業内容を常に省察し、教育の質を保障することは求められている。ここでは内部質保証や外部評価、そしてPDCAサイクルなどの方法を用いた教育の質保証のあり方について考える。 ○本時の活動 ・配布資料で解説する。 ○本時の目標 内部質保証や外部評価による教育の質保証について考える。 ○予習及び復習事項 予習事項：教育の評価について考えてくる。 復習事項：学習評価についてまとめながら、学校現場における教育評価について自分なりに考えてみる。
15回	＜学校における教育評価、総括＞（都田、原田博史、原田俊孝、井上） ○本時の目標 学校における教育評価について、指導案によって、具体的レベルで教育評価について考え、全体的視点で教育の方法と技術について総括する。 ○本時の活動 ・テキスト（pp. 136-152）で解説する。 ・期末試験に向けた授業内容の振り返りを行う。 ○本時の目標 学校における教育評価について理解し、作成した指導案によって、具体的レベルで教育評価について考える。 ○予習及び復習事項 予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 復習事項：テキストやノートを見ながら、本時の内容を整理するとともに、これまでの授業内容の整理を行いながら、期末試験に備える。

令　和　２　年　度　教　育　計　画							
科目名	生徒指導論	授業回数	15	単位数	2	担当教員	浦上　博文
質問受付：授業終了後Ｂ棟４０４						e-mail：urakami@owc.ac.jp	

教育目標と学生の学習成果		教育目標：栄養教諭の中心的業務は、学校における食に関する指導と学校給食の管理を一体的に担うことであるが、教員の一員として「生徒指導」にも携わらなければならない。本授業は、「生徒指導の理論的･実践的問題」に関する基礎的な知識と考え方を身に付けることを目指すものであり、具体的には、以下の点を教育目標とする。 ①生徒指導の意義と課題について理解する。 ②生徒指導と教育課程との関連について理解する。 ③生徒指導の組織と計画について理解する。 ④児童・生徒理解について理解する。 ⑤生徒指導の方法（集団指導・個別指導）について理解する。 ⑥問題行動の理解と指導について理解する。 ⑦現代日本の教育（生徒指導）の課題について理解する。 学生の学習成果：教育目標に掲げる７点に関する知識と考え方を修得する。また、汎用的学習成果として、態度（社会人、教員としてのマナー・学習態度など）を涵養する。
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） ・第２回の授業は、担当教員が講義を行う。 ・第３回～第 14 回の授業（第５・９・14 回は除く）は、次のように行う。 ①各受講生が担当する章を決め、その章について各受講生が作成したレジュメをもとに発表を行う（第２回の講義資料を参考にして作成する）。 ②発表をもとに、受講生間で質疑応答を行う。 ③担当教員が以上の内容を補う講義を行う。 ・第５・９・14・15 回は、ビデオを視聴する。
	予習・復習	・毎授業回前に、「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。 ・毎授業回後に、「授業回数別教育内容」に記された復習を求める。
	テキスト	テキストに代わる資料を配付する。
成績評価の方法		①各自が担当した章に関する内容を適切に理解し発表できたか。（25 点） ②「生徒指導の意義と課題」「生徒指導と教育課程との関連」「生徒指導の組織と計画」「児童・生徒理解」「生徒指導の方法（集団指導・個別指導）」「問題行動の理解と指導」について理解しているか。（期末試験、50 点） ③現代日本の教育（生徒指導）の課題について理解しているか。（期末試験、10 点） ④授業内容について予習・復習を行っているか。（個人レポート・シャトルカード、15 点） なお、態度（社会人、教員としてのマナー・学習態度など）についての評価は全授業を通して行う。担当教員の指導に従わず改善されない場合、評価点より減ずる（１件２点）。
注意事項		参考図書等

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	○本時の目標 ・シラバス・テキスト等を用いたオリエンテーションにより、本授業の概要を理解する。 ○本時の活動 ・オリエンテーション ・各受講生が担当する章を決定する。 ○本時の学習成果 ・本授業の概要を説明できる。 予習：シラバスを通読する。 復習：シラバスを読み返し、授業概要を確認する。
2 回	○本時の目標 ・Ⅰ．生徒指導の意義と課題（１．生徒指導の概念と目的　２．生徒指導の領域・内容　３．生徒指導の今日的課題）について理解する。 ○本時の活動 ・教員が資料（Ⅰ）をレジュメに沿って解説する。 ・受講生が個人レポート用紙に質問・所見を記入し、発表する。 ・教員が補足の講義を行い、受講生の質問に答える。 ○本時の学習成果 ・生徒指導の意義と課題について要点を説明できる。 予習：資料（Ⅰ）を通読する。 復習：資料とレジュメを読み返し、学習内容を確認する。
3 回	○本時の目標 ・Ⅱ．生徒指導と教育課程との関連（１．生徒指導と教科との関連　２．生徒指導と道徳との関連　３．生徒指導と総合的な学習の時間・特別活動との関連）について理解する。 ○本時の活動 ・担当受講生が資料（Ⅱ）をレジュメに沿って解説する。 ・他の受講生が個人レポート用紙に質問・所見を記入し、発表する。 ・担当受講生が質問に答える・ ・教員が補足の講義を行う。 ○本時の学習成果 ・生徒指導と教育課程との関連について要点を説明できる。 予習：資料（Ⅱ）を通読する。 復習：資料とレジュメを読み返し、学習内容を確認する。
4 回	○本時の目標 ・Ⅲ．生徒指導の組織と計画（１．生徒指導の組織体制　２．生徒指導における外部機関の活用）について理解する。 ○本時の活動 ・担当受講生が資料（Ⅲ）をレジュメに沿って解説する。 ・他の受講生が個人レポート用紙に質問・所見を記入し、発表する。 ・担当受講生が質問に答える・ ・教員が補足の講義を行う。 ○本時の学習成果 ・生徒指導の組織と計画について要点を説明できる。 予習：資料（Ⅲ）を通読する。 復習：資料とレジュメを読み返し、学習内容を確認する。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
5 回	○本時の目標 ・現代日本の生徒指導の課題（増加する非行とその変質）について理解する。 ○本時の活動 ・教員が補助資料を解説する。 ・ビデオを視聴する。 ・受講生が個人レポート用紙に質問・所見を記入し、発表する。 ・教員が質問に答え、所見についてコメントする。 ○本時の学習成果 ・現代日本の生徒指導の課題（増加する非行とその変質）について要点を説明できる。 予習：補助資料を通読する。 復習：ビデオの内容を振り返りつつ補助資料を読み返し、学習内容を確認する。
6 回	○本時の目標 ・Ⅳ．児童・生徒理解（１．児童・生徒理解の意味と機能　２．児童・生徒理解の領域・内容　３．児童・生徒理解のための資料収集の方法）について理解する。 ○本時の活動 ・担当受講生が資料（Ⅳ）をレジュメに沿って解説する。 ・他の受講生が個人レポート用紙に質問・所見を記入し、発表する。 ・担当受講生が質問に答える。 ・教員が補足の講義を行う。 ○本時の学習成果 ・児童・生徒理解について要点を説明できる。 予習：資料（Ⅳ）を通読する。 復習：資料とレジュメを読み返し、学習内容を確認する。
7 回	○本時の目標 ・Ⅴ．生徒指導の方法―集団指導（１．集団指導の意味と意義　２．集団指導の形態）について理解する。 ○本時の活動 ・担当受講生が資料（Ⅴの前半）をレジュメに沿って解説する。 ・他の受講生が個人レポート用紙に質問・所見を記入し、発表する。 ・担当受講生が質問に答える。 ・教員が補足の講義を行う。 ○本時の学習成果 ・生徒指導の方法の内、集団指導（集団指導の意味と意義、集団指導の形態）について要点を説明できる。 予習：資料（Ⅴの前半）を通読する。 復習：資料とレジュメを読み返し、学習内容を確認する。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
8 回	○本時の目標 ・Ⅴ．生徒指導の方法―集団指導（３．集団活動の指導　４．集団の評価と集団指導の観点）について理解する。 ○本時の活動 ・担当受講生が資料（Ⅴの後半）をレジュメに沿って解説する。 ・他の受講生が個人レポート用紙に質問・所見を記入し、発表する。 ・担当受講生が質問に答える。 ・教員が補足の講義を行う。 ○本時の学習成果 ・生徒指導の方法の内、集団指導（集団活動の指導、集団の評価と集団指導の観点）について要点を説明できる。 予習：資料（Ⅴの後半）を通読する。 復習：資料とレジュメを読み返し、学習内容を確認する。
9 回	○本時の目標 ・現代日本の生徒指導の課題（病んでいく学校）について理解する。 ○本時の活動 ・教員が補助資料を解説する。 ・ビデオを視聴する。 ・受講生が個人レポート用紙に質問・所見を記入し、発表する。 ・教員が質問に答え、所見についてコメントする。 ○本時の学習成果 ・現代日本の生徒指導の課題（病んでいく学校）について要点を説明できる。 予習：補助資料を通読する。 復習：ビデオの内容を振り返りつつ補助資料を読み返し、学習内容を確認する。
10 回	○本時の目標 ・Ⅵ．生徒指導の方法―個別指導（１．教育相談の意義と目的　２．教育相談の理論）について理解する。 ○本時の活動 ・担当受講生が資料（Ⅵの前半）をレジュメに沿って解説する。 ・他の受講生が個人レポート用紙に質問・所見を記入し、発表する。 ・担当受講生が質問に答える。 ・教員が補足の講義を行う。 ○本時の学習成果 ・生徒指導の方法の内、個別指導（教育相談の意義と目的、教育相談の理論）について要点を説明できる。 予習：資料（Ⅵの前半）を通読する。 復習：資料とレジュメを読み返し、学習内容を確認する。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
11 回	○本時の目標 ・Ⅵ．生徒指導の方法―個別指導（３．相談担当者の基本的態度　４．教育相談のすすめ方　５．学校教育相談の限界　６．家庭・関係諸機関との連携）について理解する。 ○本時の活動 ・担当受講生が資料（Ⅵの後半）をレジュメに沿って解説する。 ・他の受講生が個人レポート用紙に質問・所見を記入し、発表する。 ・担当受講生が質問に答える。 ・教員が補足の講義を行う。 ○本時の学習成果 ・生徒指導の方法の内、個別指導（相談担当者の基本的態度、教育相談のすすめ方、学校教育相談の限界、家庭・関係諸機関との連携）について要点を説明できる。 予習：資料（Ⅵの後半）を通読する。 復習：資料とレジュメを読み返し、学習内容を確認する。
12 回	○本時の目標 ・Ⅶ．問題行動の理解と指導（１．問題行動の種類　２．問題行動の原因）について理解する。 ○本時の活動 ・担当受講生が資料（Ⅶの前半）をレジュメに沿って解説する。 ・他の受講生が個人レポート用紙に質問・所見を記入し、発表する。 ・担当受講生が質問に答える。 ・教員が補足の講義を行う。 ○本時の学習成果 ・問題行動の理解と指導（問題行動の種類、問題行動の原因）について要点を説明できる。 予習：資料（Ⅶの前半）を通読する。 復習：資料とレジュメを読み返し、学習内容を確認する。
13 回	○本時の目標 ・Ⅶ．問題行動の理解と指導（３．問題行動の早期発見　４．問題行動の処遇）について理解する。 ○本時の活動 ・担当受講生が資料（Ⅶの後半）をレジュメに沿って解説する。 ・他の受講生が個人レポート用紙に質問・所見を記入し、発表する。 ・担当受講生が質問に答える。 ・教員が補足の講義を行う。 ○本時の学習成果 ・問題行動の理解と指導（問題行動の早期発見、問題行動の処遇）について要点を説明できる。 予習：資料（Ⅶの後半）を通読する。 復習：資料とレジュメを読み返し、学習内容を確認する。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
14回	○本時の目標 ・現代日本の生徒指導の課題（学級崩壊）について理解する（その３）。 ○本時の活動 ・教員が補助資料を解説する。 ・ビデオを視聴する。 ・受講生が個人レポート用紙に質問・所見を記入し、発表する。 ・教員が質問に答え、所見についてコメントする。 ○本時の学習成果 ・現代日本の生徒指導の課題（学級崩壊）について要点を説明できる。 予習：補助資料を通読する。 復習：ビデオの内容を振り返りつつ補助資料を読み返し、学習内容を確認する。
15回	○本時の目標 ・これまでの授業を振り返り、生徒指導の要点を確認する。 ○本時の活動 ・ビデオ「生徒指導」を視聴し、本授業の要点を確認する。 ・受講生が個人レポート用紙に質問・所見を記入し、発表する。 ・教員が質問に答え、所見についてコメントする。 ・期末試験に向けた授業内容の振り返りを行う。 ○本時の学習成果 ・これまでの授業を振り返り、生徒指導の要点を説明できる。 予習：シラバス・テキスト・補助資料等によって、これまでの授業内容を振り返る。 復習：生徒指導の要点を確認するとともに、期末試験に向けて復習する。

<table>
<tr><td colspan="8">令和　2　年　　度　　教　　育　　計　　画</td></tr>
<tr><td>科目名</td><td>教育相談</td><td>授業回数</td><td>15</td><td>単位数</td><td>2</td><td>担当教員</td><td>中西美恵子</td></tr>
<tr><td colspan="8">質問受付の方法（e-mail,オフィスアワー等）：　e-mail:　　OH:随時</td></tr>
<tr><td>教育目標と学生の学習成果</td><td colspan="7">教育目標

児童生徒の精神的な発達や人間としての成長を育むために、カウンセリング的な態度を基礎とした教育活動や教育相談について学ぶことを目標とする。具体的には、受講学生は以下の諸点に関する基礎的な知識よびスキルを習得することである。
①児童生徒の精神的な発達や人間としての成長を育むために、カウンセリング的な態度を基礎とした教育活動に関する基礎的知識を習得する。
②学校現場における児童生徒の不適応・問題行動について理解する。
③教育相談を実践するための基本的スキルを習得する。
④自立した社会人としての責務を果たすために必要な思考力、特に、論理的思考力や批判的思考力を身につける。

学生の学習成果

専門的学習成果として、教育目標に掲げる①、②、③の項目に関する知識を習得する。また、汎用的学習成果として、教育目標に掲げる④の項目に関するスキルを身につける。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">教育方法</td><td>授業の進め方</td><td colspan="6">（講義・演習・実験・実習・実技）

主として講義形式で行う。また、教育相談を実践するための基本的なスキルを習得するための演習も実施する。</td></tr>
<tr><td>予習・復習</td><td colspan="6">各回の授業では予習復習が大切。予習に関しては、その内容は授業時に指示する。復習に関しては、基本的には授業で使用した資料・プリントの見直しやノートの整理を行い、各回の授業で不明なところを残さないようにする。</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="6">教科書：石川正一郎・藤井泰編著『エッセンス学校教育相談心理学』北大路書房,2010</td></tr>
</table>

学習評価の方法	評価配分に関して 専門的学習成果と汎用的学習成果について、それぞれの学習成果の習得度合いを量的（数値的）に変換し、合計 100 点を満点として評価を行う。それぞれの学習成果の量的（数値的）評価配分および評価比重は以下の通りである。 ・専門的学習成果 専門的学習成果の評価配分は 80 点である。評価配分 80 点の中で、以下に示した、それぞれの専門的学習成果には、①：②：③＝30：30：20 の比重をかける。 ①児童生徒の精神的な発達や人間としての成長を育むために、カウンセリング的な態度を基礎とした教育活動に関する基礎的知識を身につける。 ②学校現場における児童生徒の不適応・問題行動について理解する。 ③教育相談を実践するための基本的スキルを習得する。 ・汎用的学習成果 汎用的学習成果の評価配分は 20 点である。 以上の通り、専門的学習成果の評価配分は 80 点、汎用的学習成果の評価配分は 20 点で、合計 100 点満点で最終評価を行う。 評価ツールに関して ・専門的学習成果 専門的学習成果の評価配分のうち、①と②の評価配分点は学期末に行う定期試験で測る。また、③の評価配分点は演習で課すレポート及び実技で測る。 ・汎用的学習成果 汎用的学習成果の評価配分 20 点は授業中に行う課題で測る。具体的には、自立した社会人としての責務を果たすために必要な論理的思考力や批判的思考力を習得するために、授業内容に応じた論述課題を課す。
注意事項	適宜、資料やプリントを配布する。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	【オリエンテーション】 ・ 本授業の内容・進め方・成績評価の方法に関する説明
2 回	【学校教育における「教育相談」の位置づけ】 ・教育相談と生徒指導 ・教育相談とカウンセリング →教育相談と生徒指導の関係、教育相談とカウンセリングの関係について理解する 予習事項：配布資料を熟読してくる 復習事項：授業内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問出来るようにしておく
3 回	【教育相談の実際】 ・教師の行う教育相談－誰が？誰に？どこで？いつ？－ ・関係機関との連携・協力 →教育相談が具体的にどのように行われるのか、その実際について理解する 予習事項：栄養教諭に相談したい項目について考えてくる。 復習事項：授業内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問出来るようにしておく
4 回	【カウンセリングから学ぶ教育相談―理論編①】 ・ロジャーズの理論を参考に、カウンセラーの基本的態度について理解する 予習事項：“聴く”ために、大切な態度は何かを考えてくる 復習事項：授業内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問出来るようにしておく
5 回	【カウンセリングから学ぶ教育相談―理論編②】 ・カウンセリングの一般的な過程について理解する 予習事項：カウンセリングの目標とは何かを考えてくる 復習事項：授業内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問出来るようにしておく
6 回	【カウンセリングから学ぶ教育相談―実践編①】 ・演習を通して、相談技術を学び、その技術の意義を理解する―その①― 予習事項：信頼関係を築くために、日常的に工夫していることを考えてくる 復習事項：授業内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問出来るようにしておく
7 回	【カウンセリングから学ぶ教育相談―実践編②】 ・演習を通して、相談技術を学び、その技術の意義を理解する―その②― 予習事項：“まずい”聴き方や話し方は何かを考えてくる 復習事項：授業内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問出来るようにしておく
8 回	【カウンセリングから学ぶ教育相談―実践編③】 ・演習を通して、相談技術を学び、その技術の意義を理解する―その③― 予習事項：“うまい”聴き方や話し方は何かを考えてくる 復習事項：授業内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問出来るようにしておく
9 回	【カウンセリングから学ぶ教育相談―実践編④】 ・演習を通して、相談技術を学び、その技術の意義を理解する―その④― 予習事項：新聞などから、学校における心の課題について考えてくる。 復習事項：授業内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問出来るようにしておく

10回	【論述課題】 ・これまでの演習を通して、発見された自己課題と改善策を考え、まとめる 予習事項：演習について、疑問に思うところを考えてくる。 復習事項：授業内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問出来るようにしておく
11回	【教育相談の実際】 ・教育相談を題材にしたDVDを観賞する 予習事項：栄養教諭に相談したいことについて考えてくる。 復習事項：授業内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問出来るようにしておく
12回	【学校現場における不適応・問題行動①】 ・不登校とは？ ・不登校の現状および特徴 ・不登校の要因と心理メカニズム ・不登校児童生徒への支援 →不登校について、その概念の歴史的変遷、特徴、支援について理解する 予習事項：不登校について調べてくる 復習事項：授業内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問出来るようにしておく
13回	【学校現場における子どもの不適応・問題行動②】 ・知的障害 ・ADHD・LD →発達障害について、その特徴を理解する 予習事項：発達障害について調べてくる 復習事項：授業内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問出来るようにしておく
14回	【学校現場における子どもの不適応・問題行動③】 ・自閉症スペクトラム障害 →配布資料を熟読してくる 予習事項：発達障害について調べてくる 復習事項：授業内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問出来るようにしておく
15回	【まとめ】 ・これまでの授業内容を振り返り、不足のある部分について補足する ・定期試験についての説明 予習事項：これまでの授業の中で疑問に思ったことがあればノートに書いてくる。 復習事項：特になし

<table>
<tr><td colspan="8">令　和　２　年　度　教　育　計　画</td></tr>
<tr><td>科目名</td><td>事前・事後指導</td><td>授業回数</td><td>15</td><td>単位数</td><td>1</td><td>担当教員</td><td>井上　恵子</td></tr>
<tr><td colspan="8">質問受付の方法（e-mail,オフィスアワー等）：A107 毎週月曜日４限　k.t.m.noda.@ezweb.ne.jp</td></tr>
<tr><td>教育目標と学生の学習成果</td><td colspan="7">教育目標：栄養教諭教育実習を実りあるものにするため、以下のことを行う。
・教育実習小学校の選定手続き
・教育実習に必要とされる基礎的知識やマナーの習得
・教育実習前後の諸手続き
・教育実習後の報告会の準備
学生の学習成果
専門的学習成果：
学校における管理栄養士が果たすべき多様な専門領域に関する能力を培い、技能・態度及び考え方の総合的能力を身に付ける。栄養教諭として児童生徒への食に関する指導を行い指導能力を獲得する。また、栄養教諭として必要なチームワーク・リーダーシップ・コミュニケーション能力として倫理的思考力・問題解決力を培う。
汎用的学習成果:
栄養教諭教育実習をより効果的に行うために、さまざまな作法・子どもに指導するための指導法等を身に付ける。教諭としての質の向上を図る。また、社会人としての責任を果たすために必要な倫理観・自己管理能力を高める。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">教育方法</td><td>授業の進め方</td><td colspan="6">（講義・演習・実験・実習・実技）
１　講義形式によるもの
①教育実習に必要とされる基礎的知識とマナー
②『教育実習ノート』記入上の諸注意
③教育実習中の心得
２　学生の作業に関係するもの
①教育実習の小学校の選定と教育委員会に関係する書類
②教育実習事前レポートの作成
③研究授業等の指導案及び教材準備の指導
④教育実習後の報告会の準備
授業終了時に「シャトルカード」に授業内容についての質問、感想等の記入を求める。上記の質問に答え、コメントを記載して次回の授業で返却する。
「シャトルカード」により、学習進行状況を逐次確認し、改善しながら進める。</td></tr>
<tr><td>予習・復習</td><td colspan="6">実習のために研究授業の指導案・細案・媒体・板書計画等を作成する。</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="6">参考書　文部科学省　小学校学習指導要領
栄養教諭養成における実習の手引　田中　信　監修・著者　東山書房</td></tr>
</table>

学習評価の方法	・教育実習に関する基礎的知識とマナーを身につける。 ・教育実習先の小学校、中学校での自らの課題解決に意欲的に取り組む。 ・実習先で児童生徒に食に関する指導ができる知識や技術を習得する。 ・『教育実習ノート』やレポートを書くことができる。 事前課題の準備や課題提出、授業態度を総合的に考慮する。 また、汎用的評価として対実習学校への対応の仕方も評価に加える。 事前課題の準備状況・・・・３０％ 実習学校との事前の対応とその配慮評価・・・２０％ 実習学校との事後の対応とその配慮評価・・・１０％ 報告会成績・・・・２０％ 授業態度・・・・・２０％
注意事項	本科目は栄養教諭の教育実習に向けての事前指導をその中心的内容とし、３年次後期から４年次前期において履修するものとする。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	＜3 年次後期・オリエンテーション＞ ・　授業の進め方 ・　スケジュール ・　単位認定方法 ・　栄養教育実習の基礎的事項
2 回	栄養教諭の活動状況と今後の役割 ・　栄養教育実習の意義と目指す教師像 ・　教師に求められる資質
3 回	教育実習の準備と心得 ・　実習中のマナーや実習に必要な知識など ・　実習期間中の一般的な注意事項 ・　事前準備の確認
4 回	教育実習の形態と関わり方 ・　学校給食を「生きた教材」として活用する食に関する指導 ・　学校給食管理 ・　給食の時間における指導
5 回	食に関する指導の教育理論と技術 ・　学習指導案について ・　授業展開と工夫 ・　教材教具、資料などの作成
6 回	教育実習の学校の説明 ・　教育実習先の決定 ・　実習内容の説明 ・　実習に必要な知識と技術 ・　実習中の服装など
7 回	教育実習事前準備 小学校、中学校、特別支援学校の小学部および中学部に勤務する栄養教諭の業務と課題 ・　教育実習中の研究課題の準備 ・　栄養教諭の行う食に関する指導（模擬授業） ・　教員採用試験対策方法について
8 回	教育実習事前準備 栄養教諭の業務と課題 ・　教育実習中の研究授業の準備 ・　教育実習での研究課題設定

9 回	＜４年次前期＞ 教育実習事前準備 栄養教諭の業務と課題 ・　教育実習中の研究課題の準備など
10 回	教育実習事前準備 栄養教諭の業務と課題 ・　教育実習中の研究課題の準備など ・ お礼状の書き方と送付する相手等
11 回	教育実習事前準備 教育実習先ごとの研究課題について ・　小学校の状況 ・　レポートの書き方
12 回	外部講師　栄養教諭講義・グループ討議 ・　栄養教諭の役割、職務内容および児童生徒に対する責任等について ・　児童生徒の栄養に関する諸問題及び食に関する指導について
13 回	教育実習報告会の準備 ・ 教育実習の整理および課題 ・ 研究テーマの推敲
14 回	教育実習報告会の準備 ・　教育実習の反省と研究授業について ・　巡回指導教員の感想 ・　教育実習のまとめ
15 回	社会に求められる栄養教諭とは ・　就職活動と心構えについて ・　栄養教諭一種免許申請手続について ・　教員採用試験について

令　和　　２　　年　　度　　教　　育　　計　　画							
科目名	栄養教育実習	授業回数	１週間	単位数	1	担当教員	井上　恵子
質問受付の方法（e-mail,オフィスアワー等）：A107 毎週月曜日４限　k.t.m.noda@.ezweb.ne.jp							

教育目標と学生の学習成果		教育目標：　学校栄養指導論Ⅰ、Ⅱを履修した後、学校教育という現場で教育実習を行う。学校での児童生徒との対応の仕方、学校給食やその他の教科での「食に関する指導」の方法を学び、実際に教材としての研究授業および特別活動としての学級活動に位置付けられている給食時間での「食に関する指導」を行うことによって教諭としての質を高めることを目的とする。また、社会人としての責任を果たすために必要な倫理観や自己管理能力を養う。 学生の学習成果 専門的学習成果： 栄養教諭は栄養に関する専門性と教育に関する専門性を併せ持つことが求められるため、学校における管理栄養士が果たすべき多様な専門領域に関する能力を培い、さらに教育に生かす技能・態度及び考え方の総合的能力を身に付ける。また、学校における倫理的思考力、問題解決力を培う。 汎用的学習成果： 児童生徒が健全な食生活を実践して健康で豊かな人間性を育んでいけるよう、栄養や食事のとり方について正しい知識に基づいて自己管理能力を育成することができる。教育活動全体を通じて総合的に食に関する指導に取り組むことができる。
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） １　出身義務教育小学校で、４年次前期に５日間（月曜日～金曜日）の実習を行う。 ２　事前事後の授業に出席し、実習の準備をする。 ３　実習施設の担当者・栄養教諭等と実習内容の確認をする。 ４　研究課題を決定し、実習の目的とする。 ５　教育実習後は、実習したことをまとめ、報告会で発表する。
	予習・復習	教育実習に際しては、事前事後の準備を必要とする。
	テキスト	参考書　文部科学省　小学校学習指導要領 栄養教諭養成における実習の手引き　田中　信　監修・著者　東山書房
学習評価の方法		①　教育実習の目的が理解でき意欲的に取り組んでいること。 ②　学習指導案が理解でき、指導案が書け、実際に授業ができること。 ③　研究課題をもって臨むことができること。 教育実習先の評価・・・５０点 研究課題・・・・・・・２０点 実習ノート・・・・・・１０点 実習報告会の評価・・・２０点 これらの合計で評価する。
注意事項		参考図書等 子どもの心と体を育む　食教育の進め方　川戸喜美枝　編著 季刊誌「栄養教諭」

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
教育実習前	教育実習事前訪問 オリエンテーション 研究課題の設定 事前指導
1日目	教育実習オリエンテーション 教育施設学校教職員への挨拶・紹介 教育実習内容・教育実習目標・諸注意等 研究課題について 研究授業について　　大学へ報告
2日目	教育内容は出身義務教育小学校の教育実習計画によって行う。
3日目	教育内容は出身義務教育小学校の教育実習計画によって行う。
4日目	教育内容は出身義務教育小学校の教育実習計画によって行う。
5日目	教育内容は出身義務教育小学校の教育実習計画によって行う。 終了後大学へ報告

<table>
<tr><td colspan="8">令　和　２年度　教　育　計　画</td></tr>
<tr><td>科目名</td><td>教職実践演習</td><td>授業回数</td><td>15</td><td>単位数</td><td>2</td><td>担当教員</td><td>井上　恵子
福野　裕美
中原　眞由美</td></tr>
<tr><td colspan="8">質問受付の方法(e-mail,オフィスアワー等):Ａ１０７毎週月曜日４限 k.t.m.noda@ezweb.ne.jp</td></tr>
<tr><td>教育目標と学生の学習成果</td><td colspan="7">教育目標：
　これまでの授業や実習等を通じた学びを振り返り、「栄養教諭」になるうえで自身の課題を自覚し、不足している知識・技能を補い定着を図ることによって、教職生活を円滑にスタートできる力を身につけることを目標とする。
　教員として求められる４つの事項、①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項　②社会性や対人関係能力に関する事項　③幼児児童生徒理解や学級経営等に関する事項　④教科等の指導力に関する事項、をテーマとする。
学生の学習成果
専門的学習成果:上記の４つの事項について知識や能力を修得し、教職に就く意識を高める。
汎用的学習成果：課題発見力、チームワーク力、教師としてふさわしい言動や礼儀作法を身につける。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">教育方法</td><td>授業の進め方</td><td colspan="6">（講義・演習・実験・実習・実技）
・教職に関する科目、栄養に係る教育に関する科目担当者が連携し、オムニバス形式で進める。
・教員として求められる４つの事項について、講義やグループ討議・模擬実践・事例研究などを組み合わせて総合的に学ぶ。また、小学校教諭・養護教諭経験者による講演・ディスカッションを実施し、レポートを提出する。</td></tr>
<tr><td>予習・復習</td><td colspan="6">１回の授業に対して予習・復習が義務付けられる。その内容については、毎回の授業で課題を示す。</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="6">参考書　文部科学省　小学校学習指導要領
　　子どもの心と体を育む　食教育の進め方　川戸喜美枝編著</td></tr>
<tr><td>学習評価の方法</td><td colspan="7">学習成果：
①教育者としての使命感や責任感を持ち、常に子どもから学び、共に成長しようとする姿勢を身につけている。
②他の教職員や保護者、地域との関係を構築するための社会性や対人関係力を身につけている。
③児童生徒理解の姿勢を持ち、学級経営の力量の基礎を修得している。
④食に関する指導力の基礎を有し、板書や話し方、表情など、授業を行う上での基礎的な表現力を身につけている。
　学習評価は、レポート（40%）、模擬授業（20%）、討議記録（グループ討議・ロールプレイ等 40%）により実施する。</td></tr>
<tr><td>注意事項</td><td colspan="7">参考図書等
　適宜、授業内容に合わせて紹介・配付する。</td></tr>
</table>

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1回	〈オリエンテーション〉 授業の進め方、学習評価方法の説明 これまでの教職の授業で学んだことを振り返り記述する。（井上）
2回	講義・グループ討論「栄養教諭の役割・職務内容および児童生徒に対する責任等について」（学習成果①）（中原）　【課題】討議記録の作成
3回	グループ討議「社会性、組織の一員としての自覚、保護者・地域関係者との人間関係の構築について」（学習成果②）（福野）　【課題】討議記録の作成
4回	小学校教諭講義・グループ討議「児童生徒理解と学級経営・学級活動・食に関する集会活動について」（学習成果①・②・③）（井上・中原、外部講師） 【課題】講義レポート作成
5回	グループ討議「児童生徒の栄養に関する諸問題及び食に関する指導について」（学習成果①・②・④）（井上・中原、外部講師）　【課題】講義レポート作成
6回	養護教諭経験者講義・グループ討議「養護教諭・他の教科・道徳など教員間の協力について」（学習成果①・②・③）（井上）　【課題】講義レポート作成
7回	外部講師の講話を基に、「めざす栄養教諭像」についてグループ討議し、発表する。（学習成果①・②・③・④）（中原）　【課題】討議記録の作成
8回	事例発表・グループ討議「栄養教育実習で学んだ学校給食管理の事例・比較検討」（学習成果①）（井上）　【課題】討議記録の作成
9回	ロールプレイング・グループ討議「食物アレルギーなど特別な配慮を必要とする児童生徒への指導・家庭との連携・保護者面談について」（学習成果②・③）（中原） 【課題】討議記録の作成
10回	模擬授業（指導）「給食の時間における食に関する指導」（学習成果④）（井上） 【課題】学習指導案作成
11回	グループ討議「模擬授業（指導）の検証」（学習成果④）（福野） 【課題】討議記録の作成
12回	事例研究「学校給食の教材活用の事例研究」（学習成果④）（井上） 【課題】学習指導案の作成
13回	グループ討議「食に関する指導・児童生徒の栄養指導及び管理」（学習成果④）（福野） 【課題】討議記録の作成
14回	発表・グループ討議「栄養教諭としての自己課題・食を通しての児童生徒の心身の発達・成長を支援する栄養教諭となるために」（学習成果①・②・③）（井上） 【課題】討議記録の作成
15回	まとめ「栄養教諭としての資質・能力の確認」（学習成果①・②・③）（井上） 【課題】小論文の作成